佐久市埋蔵文化財調査報告書　第203集

猫田遺跡群　井戸尻遺跡
熊の堂遺跡

長野県佐久市鳴瀬井戸尻・熊の堂遺跡発掘調査報告書

2013.3

佐　久　市
佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書　第203集

猫田遺跡群　井戸尻遺跡
熊の堂遺跡

長野県佐久市鳴瀬井戸尻・熊の堂遺跡発掘調査報告書

2013.3

佐　　久　　市
佐久市教育委員会

例　言

1　本書は佐久市建設部道路建設課による平成22・23・24年度道路改良事業に伴う猫田遺跡群井戸尻遺跡、熊の堂遺跡の発掘調査報告書である。
2　事業主体者　佐久市建設部道路建設課
3　調査主体者　佐久市中込3056　佐久市教育委員会　教育長　土屋　盛夫
4　遺跡名及び発掘調査所在地　　猫田遺跡群井戸尻遺跡（ＮＮＩ）、熊の堂遺跡（ＮＫＤ）
　　佐久市鳴瀬3062番地先から2747-4番地先
5　調査担当者　上原　学
6　本書の編集・執筆は上原が行った。
7　本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

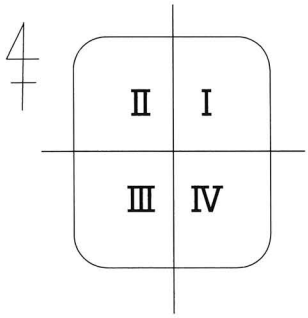
凡　例

1　遺構の略称は以下の通りである。
　Ｈ－竪穴住居址･住居址　　Ｔａ－竪穴状遺構　　Ｄ－土坑　　Ｍ－溝跡　　Ｐ－ピット
2　スクリーントーンの表示は以下の通りである。

　遺構－地山断面　　焼土

　遺物－須恵器断面　　赤色塗彩　　灰釉・緑釉　　石器使用痕

3　挿図の縮尺は以下の通りである。
　遺構－竪穴住居址・住居址・竪穴状遺構・溝跡・土坑・ピット　1/80　1/120　1/160
　遺物－縄文土器・弥生土器・土器・石製品・鉄製品1/4　　古銭　1/1
4　遺物の写真番号と実測図番号は一致する。
5　遺構の標高は各遺構ごとに統一し、水糸高を標高とした。
6　調査グリッドは小グリッド4×4m、大グリッド40×40mである。
7　遺物表中の［　］は推定値、〈　〉は残存値を表す。
8　土層、遺物の色調は「新版・標準土色帖」による。
9　遺物の出土地点は、下図の遺構分割によるものである。



目　次

巻頭カラー

例言・凡例

目次

第Ⅰ章　発掘調査の経緯 …… 1
　第１節　発掘調査の経緯 …… 1
　第２節　調査日誌 …… 2
　第３節　調査体制 …… 2
　第４節　発見された遺構と遺物 …… 3

第Ⅱ章　遺跡の環境 …… 3
　第１節　自然環境 …… 3
　第２節　周辺遺跡 …… 5
　第３節　基本層序 …… 8

第Ⅲ章　猫田遺跡群　井戸尻遺跡 …… 15
　第１節　Ａ区 …… 15
　第２節　Ｂ区 …… 16
　　（１）竪穴状遺構 …… 16
　　（２）溝跡 …… 18
　　（３）土坑 …… 20
　　（４）ピット …… 20
　　（５）出土遺物 …… 25
　　（６）土坑・ピット観察表 …… 27
　第３節　Ｃ区 …… 28
　　（１）竪穴状遺構 …… 28
　　（２）住居址 …… 30
　　（３）溝跡 …… 31
　　（４）土坑 …… 32
　　（５）ピット …… 40
　　（６）出土遺物 …… 50
　　（７）土坑・ピット観察表 …… 51

第Ⅳ章　熊の堂遺跡 …… 56
　第１節　竪穴住居址 …… 56
　第２節　溝跡 …… 74
　第３節　土坑 …… 76

写真図版

抄録

第Ⅰ章　発掘調査の経緯

第１節　発掘調査の経緯

猫田遺跡群井戸尻遺跡は、佐久市の鳴瀬地籍に位置する縄文時代から中世の複合遺跡で、千曲川右岸の河岸段丘上、圃場整備された水田地帯に展開する。標高は633～639mを測る。一方、熊の堂遺跡は、井戸尻遺跡のさらに東方、比高差19mを測る一段上の河岸段丘東端に位置する。東には南北方向の低地が存在することから、細長い微高地を形成している。標高は657m内外を測る。

今回、佐久市建設部道路建設課による道路改良工事が行われることとなり、平成22年２月～３月にかけて、平成22年度工事予定地域に所在する猫田遺跡群の試掘調査を実施した。結果、弥生～古墳時代の土器を含む包含層及び中近世の竪穴状遺構などの遺構が発見されたことから、遺跡が存在する地域の発掘調査を猫田遺跡群井戸尻遺跡として実施した。また、東方上段の河岸段丘上に位置する熊の堂遺跡は平成23年５月に平成23年度以降の工事予定地域で試掘調査を実施した。結果、台地端部に近い微高地上から弥生時代の住居址が発見され、東側の低地からは弥生土器を含む包含層が確認されたことから、遺構及び遺物が発見された地域の発掘調査を実施した。

猫田遺跡群井戸尻遺跡・熊の堂遺跡位置図（1：50,000）

第２節　調査日誌

平成21年度

２月16日～２月24日、３月23日　試掘調査。調査の結果、開発地域の一部から遺構・遺物が発見された。文化財保護協議の結果、遺跡の発見された地域の発掘調査を平成22年度に実施する運びとなった。

平成22年度

４月26日～　重機によるＡ・Ｂ・Ｃ区表土除去作業。駐車場造成･ハウス･トイレ設置。
４月30日　発掘調査機材準備・搬入。
５月６日～12月17日　調査員による発掘調査。包含層・遺構掘り下げ・図面作成・写真撮影。雨天時室内整理作業。
５月13日　Ａ・Ｂ区基準杭設定作業。
５月21日　Ｃ区基準杭設定作業。
５月11日～平成23年３月31日　井戸尻遺跡室内整理作業。遺物洗浄・注記・接合・図面修正・写真整理。

平成23年度

５月16日～５月18日　試掘調査。調査の結果、開発地域の一部から弥生時代の竪穴住居址等が発見された。文化財保護協議の結果、遺跡の発見された地域の発掘調査を実施する運びとなった。
８月１日～　調査区草刈り・機材準備。
８月２日～　重機による表土除去及び表土搬出作業。駐車場造成・ハウス・トイレ設置。
８月４日　機材搬入。
８月８日～９月22日　調査員による発掘調査。遺構掘り下げ・図面作成・写真撮影。雨天時室内整理作業。
５月11日～平成24年３月30日　井戸尻遺跡・熊の堂遺跡室内整理作業。図面修正、写真整理、遺物注記・接合・復元・実測、遺構・遺物トレース、遺構・遺物図版作成、遺物観察表作成、割付作成、原稿作成。

平成24年度

４月23日～　井戸尻遺跡・熊の堂遺跡発掘調査整理作業。遺物実測、遺物写真撮影、遺物トレース、遺構・遺物図版作成、割付作成、原稿作成、印刷製本。
12月　原稿入稿。
12月～　校正・遺物・図面整理。
平成25年３月　報告書刊行。

第３節　調査体制

調査受託者

佐久市教育委員会　教育長　土屋盛夫

事　務　局

社会教育部長　工藤秀康（平成22年度）
伊藤明弘（平成23・24年度）
社会教育部次長　藤牧浩（平成23年度）

文化財課長	森角吉晴（平成22年度）
	吉澤隆（平成23・24年度）
文化財調査係長	三石宗一
文化財調査係専門員	林幸彦（～平成23年度）　須藤隆司　　小林眞寿　　羽毛田卓也
	冨沢一明（平成23年度～）　上原学（平成23年度～）
文化財調査係	並木節子　　冨沢一明（平成22年度）　上原学（平成22年度）
	神津一明（平成23年10月～）　井出泰章（～平成23年９月）
	久保浩一郎（平成24年度）
嘱　託　職　員	林幸彦（平成24年度）
調　査　主　任	佐々木宗昭　　森泉かよ子
調 査 担 当 者	上原学
調　　査　　員	浅沼勝男　安藤孝司　江原富子　小幡弘子　風間敏　狩野小百合
	木内勇　小井戸秀元　小林百合子　堺益子　清水澄生　清水律子
	滝沢三男　田中ひさ子　土屋武士　中嶋フクジ　中條勝良
	比田井久美子　日向昭次　広瀬梨恵子　武者幸彦　柳澤孝子　由井重明
	横尾敏雄　依田三男　渡辺長子　渡辺学

第４節　発見された遺構と遺物

平成22年度　猫田遺跡群　井戸尻遺跡

遺構	Ａ区	遺物包含層	弥生時代～古墳時代前期		
	Ｂ区	住居址	１軒	不明	
		竪穴状遺構	２棟	中世	
		溝跡	６条	中世	
		土坑	６基	中世	
		ピット		中世	
		遺物包含層	縄文時代中期～平安時代		
	Ｃ区	竪穴状遺構	５棟	中世	
		溝跡	２条	中世	
		土坑	95基	中世	
		ピット		中世	

遺物　縄文土器（深鉢）
弥生土器（壺･甕･高坏･器台）
土師器（坏･甕）
須恵器（坏･甕）
陶磁器（擂鉢・皿・碗・内耳土器・瓶子・壷・こね鉢）
銅製品（古銭）
鉄製品
石器・石製品（打製･磨製石斧･敲石･すり石･搗臼･石製円盤･凹石）

平成23年度　熊の堂遺跡

遺構	竪穴住居址	10軒	弥生時代
	土坑	２基	
	溝跡	１条	弥生時代
	遺物包含層	１箇所	弥生時代

遺物　弥生土器（壺･甕･高坏･鉢･甑･蓋）
石器（敲石・すり石）
土製品（紡錘車・土製円盤）

第Ⅱ章　遺跡の環境

第１節　自然環境

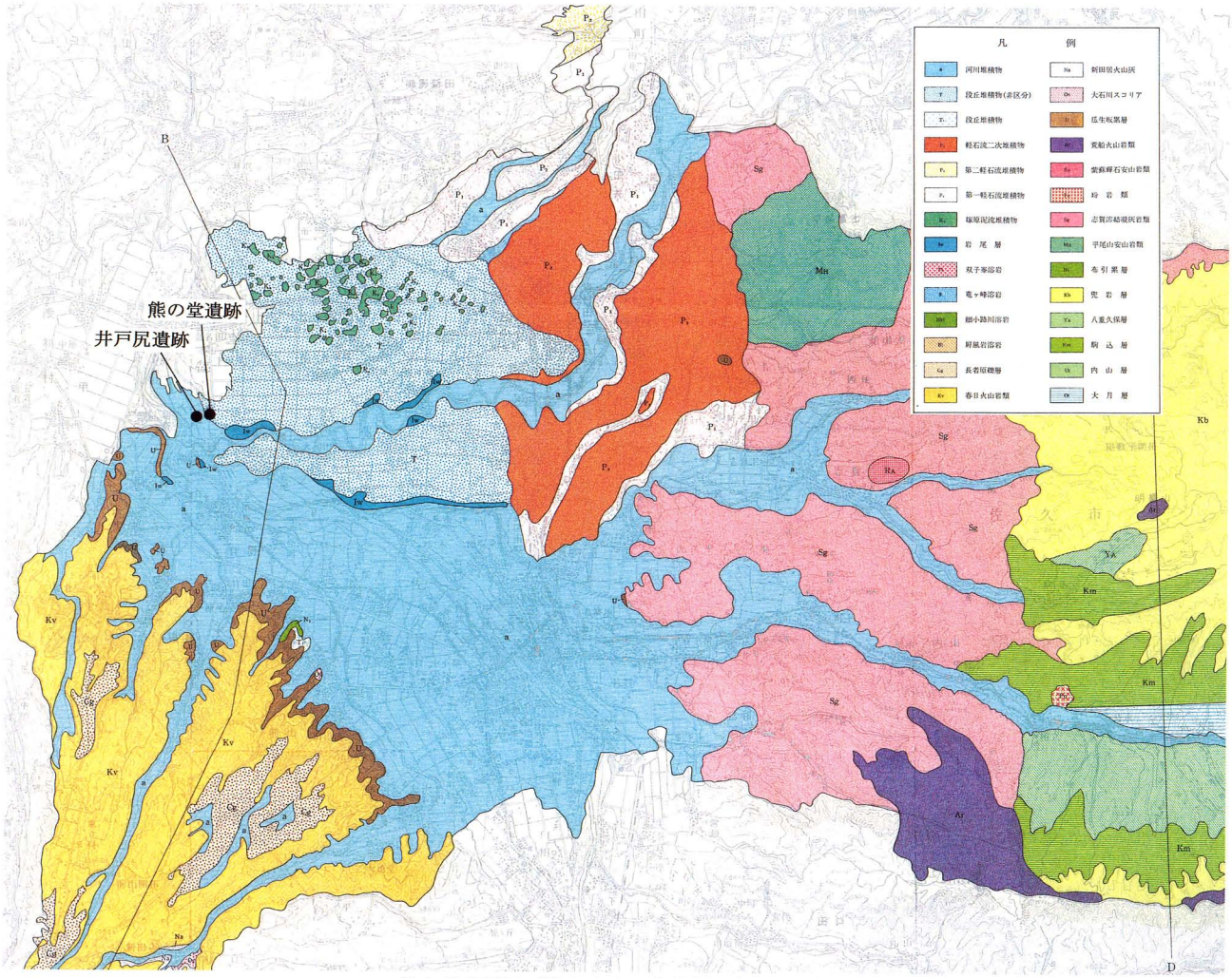
佐久地域は、周辺を山地及び台地に囲まれた盆地状を呈し、一般に佐久平と呼ばれ、北には現在も

時折噴煙を見せる雄大な浅間山、南には蓼科山が存在する。東には群馬県との境を成す北関東山脈の北端が延び、西は御牧原・八重原といった小高い台地が広がり、蓼科山の裾野と接している。佐久地域における水系の代表は、南方の川上谷に源を発す千曲川であり、北流しながら支流を集めつつ水量を増して佐久平に入る。その後野沢付近から流れを北西に変え、蓼科山麓の支流を集めた片貝川、浅間山の麓に源を発す湯川、関東山地からの支流を集めた滑津川といった河川と合流し、蛇行しながら上田、長野方面へと貫流する。

この山地に囲まれ、水にも恵まれた盆地状の佐久平は、地質学的に見ると大きく二分することができ、志賀川と滑津川が合流し、さらに千曲川と川筋を一つにする東西線を境として、河川の北側段丘上と南側では20m前後の比高差が認められる。この北部地域は北方の浅間山麓部の緩やかな台地で、浅間山の噴出物である火砕流軽石流と降下火山灰が厚く堆積している。この堆積物は雨水による浸食に弱く、長い年月の間に深く削り取られ、浅間山の麓から放射状に幾筋もの浸食谷（田切り）を形成している。

これに対し南部地域は千曲川の氾濫源沖積地と滑津川等の谷口扇状地で、河床礫層と沖積粘土層地帯が主となり地下水位も高く、地盤の安定した土地である。このため南部一帯は広く水田として利用されていた。

今回調査を実施した井戸尻遺跡・熊の堂遺跡は、北部地域南西端の千曲川右岸に広がる標高633～657mを測る河岸段丘上に展開し、井戸尻遺跡は低位段丘の河川堆積物上に、熊の堂遺跡は一段高い段丘端部の段丘堆積物上に位置する。



佐久市地質図（佐久市志　自然編　付図から）

第２節　周辺遺跡

猫田遺跡群井戸尻遺跡(2)及び熊の堂遺跡(1)周辺に目を向けると、縄文時代から中世に至る幅広い時期の遺跡が所在する。佐久市が作成した遺跡地図では北に屋敷裏遺跡群･下川原遺跡(7)･山王遺跡(8)、東に尼塚遺跡(11)･狐塚古墳･宮の前遺跡･新城遺跡(10)、南に畳畑遺跡･粕田遺跡(13)･下北古屋遺跡(18)･岩尾城跡(20)、千曲川対岸の西には倉瀬遺跡(29)･神平遺跡･上ノ山古墳(28)などが所在する。

縄文時代

北方の千曲川河岸段丘右岸の海戸田Ａ遺跡(4)の調査では、千曲川に向かって下がる微段丘斜面から縄文時代中期末～後期前半の集落跡が発見され、柄鏡形敷石住居址５軒、配石遺構８基、土坑20基程度が調査された。また、熊の堂遺跡と同一段丘上の北に位置する舟久保地域では敷石住居址１軒と加曽利・掘之内・安行式などの土器が出土している。さらに、北方の千曲川左岸段丘上の御馬寄古城跡(38)では縄文前期から後期の土器・石器が出土し、集落以外の生活領域が発見された。

弥生時代

遺跡の分布は、千曲川及び湯川を望む河岸段丘端部の台地上に形成される傾向が認められる。周辺の状況として、熊の堂遺跡と同一台地上の北方には原遺跡(3)が所在し、弥生時代後期の住居址２軒が発見され、南側の千曲川右岸河岸段丘端部の大ふけ遺跡(12)からは弥生時代後期～古墳時代前期の周溝墓が発見されている。原遺跡は立地及び発見された遺構の時期から熊の堂遺跡と同一の集落である可能性が窺える。また、熊の堂遺跡から見下ろすことのできる千曲川右岸台地端部に存在する大ふけ遺跡は、集落と墓域といった関係があった可能性も推察される。この他、北方の御馬寄古城跡(38)では残存状態は不良であるが、竪穴状遺構３基が発見され、後期箱清水期の土器が出土し、東方の湯川右岸河岸段丘上に位置する川原端遺跡では中期～古墳時代初頭の住居址13軒が調査されている。

古墳時代

古墳時代になると、馬の飼育が開始され、後に千曲川対岸の西方である御牧の台地上では信濃国最大級の牧が形成されて行く。この時代も千曲川及び湯川の河岸段丘上に集落が形成され、遺構が近接あるいは密集して存在する傾向が認められる。

北方の千曲川右岸の段丘上に位置する砂原遺跡(9)では、カマド導入以前である４世紀代の１軒及び７世紀代の４軒の住居址が切り合うように発見され、１ｍ以上の砂層に覆われていた。千曲川による洪水が関係していると思われる。代表的な水害として平安時代の仁和４年（888年）信濃国６郡に被害をもたらした仁和の水害が古文書に見受けられ、砂原遺跡の砂層堆積に影響を及ぼした可能性が考えられている。また、北方の海戸田Ａ遺跡(4)では、千曲川右岸河岸段丘の平坦面から斜面にかけて前期の住居址３軒が近接して発見されている。さらに、東方の川原端遺跡では後期の竪穴住居址40軒以上が湯川河岸段丘上の狭い自然堤防上に密集して集落を形成していた。この時代の集落は河川の河岸段丘上端部に集落を形成する傾向が見受けられる。

近隣地域には点在するように、北方に原古墳(40)、東に狐塚古墳、道見塚古墳、千曲川対岸の河岸段丘端部に上平塚古墳、上ノ山古墳(28)が存在するが、原古墳は現在消滅し、上平塚古墳、上ノ山古墳は半壊状態となっている。調査を実施した古墳としては、距離は離れるが北北東に位置する藤塚古墳群で、平成３・４年に４基の調査が行われている。

奈良・平安時代

古墳時代も終わりに近づくと石附窯跡(37)など佐久地域でも須恵器の生産が開始される。奈良・平安時代になると盛んになり、千曲川対岸の御牧原台地や蓼科山から延びる舌状台地先端付近の斜面上から打越窯跡・前林窯跡・権現山窯跡・柳沢窯跡・須窯窯跡群などの須恵器窯跡が発見されている。

集落では北方の砂原遺跡(39)で奈良・平安時代の住居址1軒が、東方の寺中遺跡(24)では調査面積

は僅かであったが平安時代の住居址１軒が発見されている。また、北方の千曲川右岸河岸段丘上の海戸田Ａ遺跡(4)では９世紀後葉～10世紀前葉の住居址３軒が発見されている。古墳時代のように遺跡が密集する様子は認められず、小規模な集まりが広範囲にわたり存在しているようである。

中世・近世

北方の御馬寄古城跡(38)では竪穴状遺構が発見され、床面から土鍋・土師質土器皿が出土している。南方には1478年大井行親が築城した岩尾城が所在する。現在も、本郭から東に向かう二の郭・三の郭及び三ヶ月掘、台曲輪、控曲輪、堀切等を認めることができ、県指定史跡となっている。

No.	遺　跡　名	遺跡番号	所　在　地	旧	縄	弥	古	歴	中	近	備　　考
1	熊の堂遺跡	78	佐久市鳴瀬字熊の堂			○					2011（H23）調査　佐久市第203集
2	猫田遺跡群井戸尻遺跡	75	佐久市鳴瀬字猫田		○	○	○	○	○		2010（H22）調査　佐久市第203集
3	原遺跡	78	塩名田字入道			○					2000（H12）調査　浅科村第13集
4	海戸田Ａ遺跡	816	塩名田甲		○	○	○	○			1998（H10）調査　浅科村第14集
5	細田遺跡	75	鳴瀬字細田		○	○	○	○			1975（S50）調査　佐久市「細田」
6	屋敷裏遺跡群	816	塩名田字屋敷裏					○			
7	下川原遺跡	815	塩名田字下川原					○			
8	山王遺跡	814	塩名田字山王・初坪					○			
9	砂原遺跡	813	塩名田字砂原				○	○			1991（H3）調査　浅科村第６集
10	新城遺跡	80	塚原字新城他		○	○	○				
11	尼塚遺跡群	79	鳴瀬字尼塚		○	○	○				
12	大ふけ遺跡	75	鳴瀬字大ふけ		○	○	○				1990（H2）調査　佐久市第４集
13	粕田遺跡	202	鳴瀬字粕田					○			
14	畳畑遺跡	203	鳴瀬字畳畑他			○	○				
15	落合神明館跡	237	鳴瀬字神明						○		
16	鳴瀬神明遺跡	224	鳴瀬字神明			○	○	○	○		
17	落合居屋敷遺跡	204	鳴瀬字居屋敷			○	○	○			
18	下北古屋遺跡	207	鳴瀬下北古屋・北田					○	○		
19	鳴瀬宮の前遺跡	205	鳴瀬字宮の前他			○	○	○			
20	岩尾城跡	206	鳴瀬字城跡・宮の前						○		県指定史跡
21	鳴瀬中屋敷遺跡群	229	鳴瀬字中屋敷・殿中・掘越・寺中			○		○	○		
22	立石遺跡	213	根岸字立石				○	○	○		1981（S56）調査　佐久市「小金平・立石」
23	上平遺跡群	228	鳴瀬字上平・十二山・寺中			○	○	○			
24	上平遺跡群寺中遺跡	228	鳴瀬字寺中			○		○			1995（H7）調査　佐久市第51集
25	熊野遺跡	822	御馬寄字熊野					○			
26	上平塚古墳	824	御馬寄字上平				○				
27	神平遺跡	825	御馬寄字神平		○			○			
28	上ノ山古墳	826	御馬寄字上ノ山				○				
29	倉瀬遺跡	209	伴野字倉瀬		○			○			
30	東畑遺跡	210	伴野字東畑					○			
31	馬場平遺跡	214	根岸字馬場平			○		○			
32	火の雨塚古墳	223	伴野字唐松坂216				○				
33	唐松坂遺跡	218	伴野字唐松坂					○			
34	休石遺跡	219	伴野字休石								1978（S53）調査　佐久考古学会報NO4
35	東窪井戸遺跡	222	伴野字東窪井戸			○		○			
36	舞台場遺跡	220	伴野1892-1.2・1897-1他			○	○	○			1981（S56）調査　佐久市「舞台場」
37	石附窯跡群Ⅲ	212	根岸字荻原				○				1981（S56）調査　佐久市第３集
38	御馬寄古城跡	820	御馬寄字田中島		○	○			○		1993（H5）調査　浅科村第９集「御馬寄古城跡」
39	砂原遺跡	813	塩名田字砂原		○		○	○		○	1994（H6）調査長野県埋蔵文化財センター第30集
40	原古墳	817	塩名田字原				○				消滅
41	小金平遺跡	216	根岸字小金平		○	○	○	○	○		1982（S57）調査　佐久市「小金平・立石」

周辺遺跡表

周辺遺跡位置図（1：14,000）

第３節　基本層序

猫田遺跡群井戸尻遺跡と熊の堂遺跡にはおよそ19mの比高差が認められ、立地条件から基本層序にも違いが認められる。低位段丘上に位置する井戸尻遺跡周辺は基本的には河川の氾濫源沖積地であり、砂礫層、沖積粘土層、シルト層等の河川堆積物が交互に厚く堆積している。これに対して一段上の台地端部に位置する熊の堂遺跡付近は、東に低地が存在することによって南北方向に細長い台地を形成しており、板状に剥離する軟質の基盤層直上に黄褐色ロームがおよそ50cmの厚みで堆積し、直上を耕作土が覆うといった状況であった。各遺跡の層序は、以下のとおりである。

猫田遺跡群　井戸尻遺跡

Ⅰ層は厚さ10～20cmを測る褐色土の水田耕作土上層である。

Ⅱ層は厚さ10～15cmを測る褐灰色土の水田耕作土下層である。

Ⅲ層は厚さ10cm内外を測る赤褐色土の水田床土である。

Ⅳ層は厚さ10～20cmを測る明褐色シルトで、Ｂ・Ｃ区の遺構確認面となる。

Ⅴ層は10～90cmを測る黒色土で、縄文時代～古墳時代前期の包含層である。Ａ・Ｂ区の西側・Ｃ区東端に堆積が認められた。

Ⅵ層は明褐色土の砂礫層である。薄い砂層・砂礫層・シルトが交互に厚く堆積している。Ⅳ・Ⅴ層の堆積が認められないＣ区の一部地域ではこの上面が遺構確認面となる。

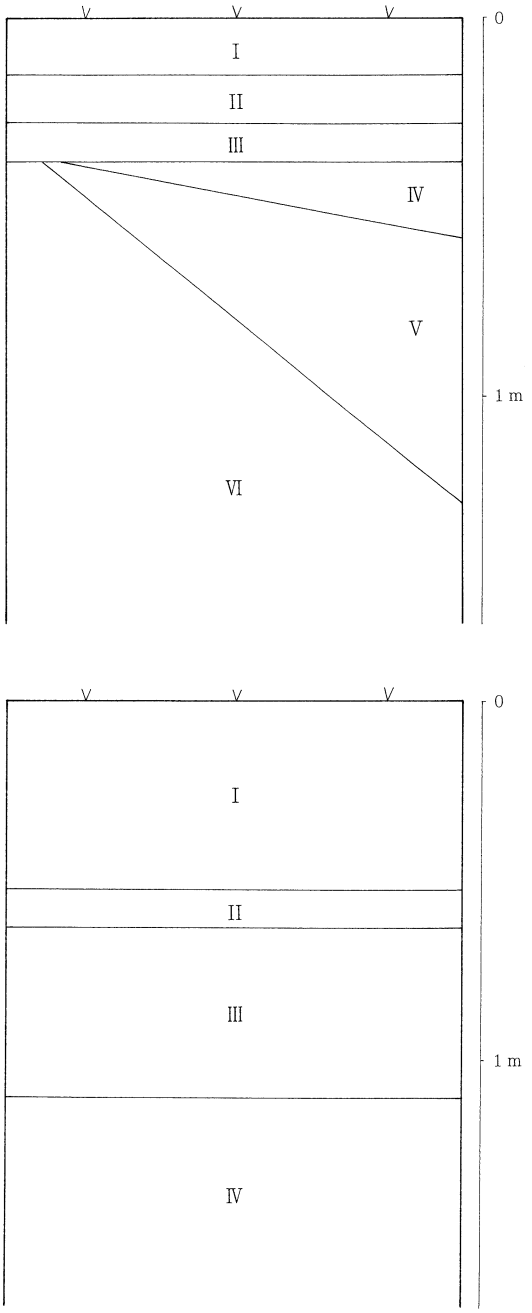
熊の堂遺跡

Ⅰ層は厚さ50cmを測る黒褐色土の耕作土である。

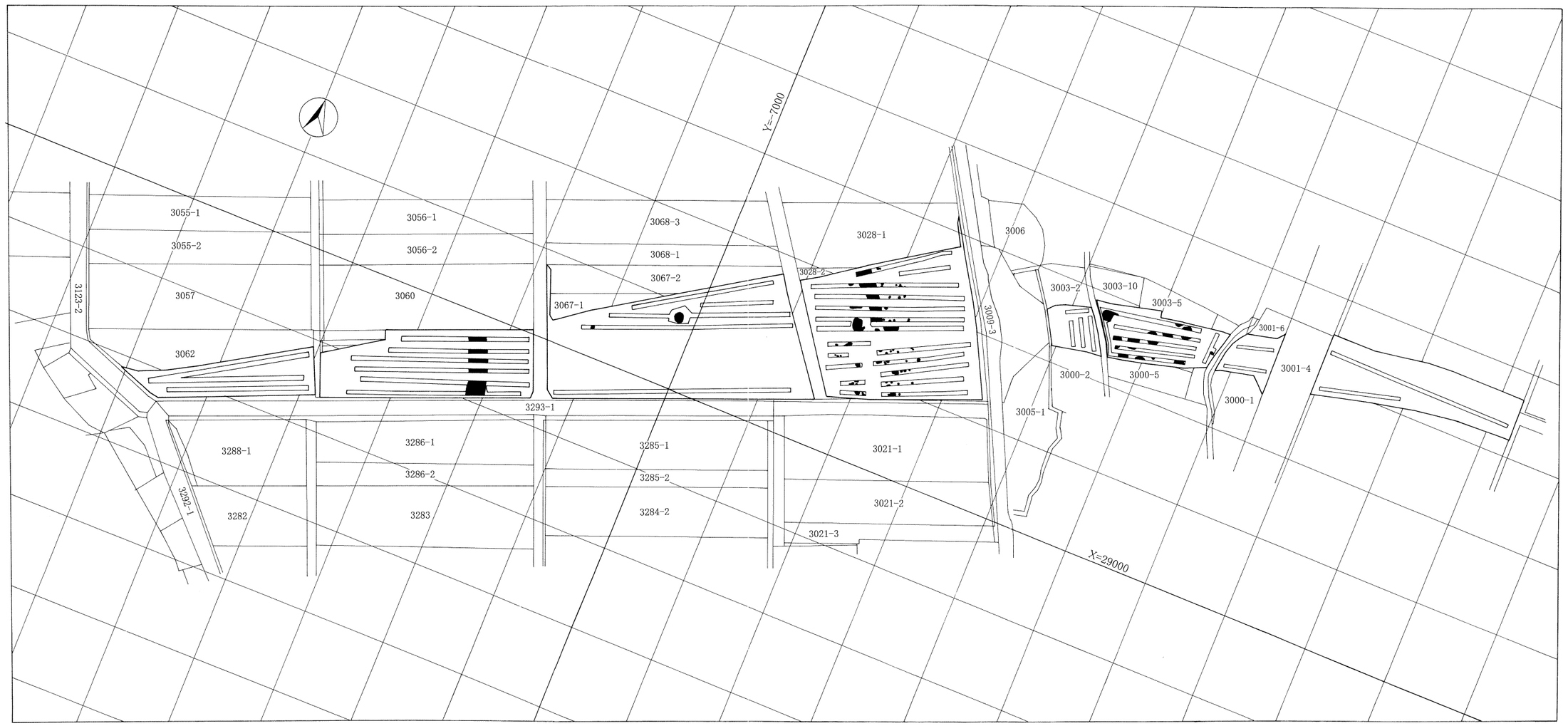
Ⅱ層は耕作土とロームの中間に位置する漸位層である。下層で遺構の存在が僅かに認められるが不明瞭である。

Ⅲ層は層厚40～50cmを測る黄褐色ロームで、この上面で遺構の存在が明確に認められる。今回は、基本的にⅢ層上面で遺構の確認を実施した。

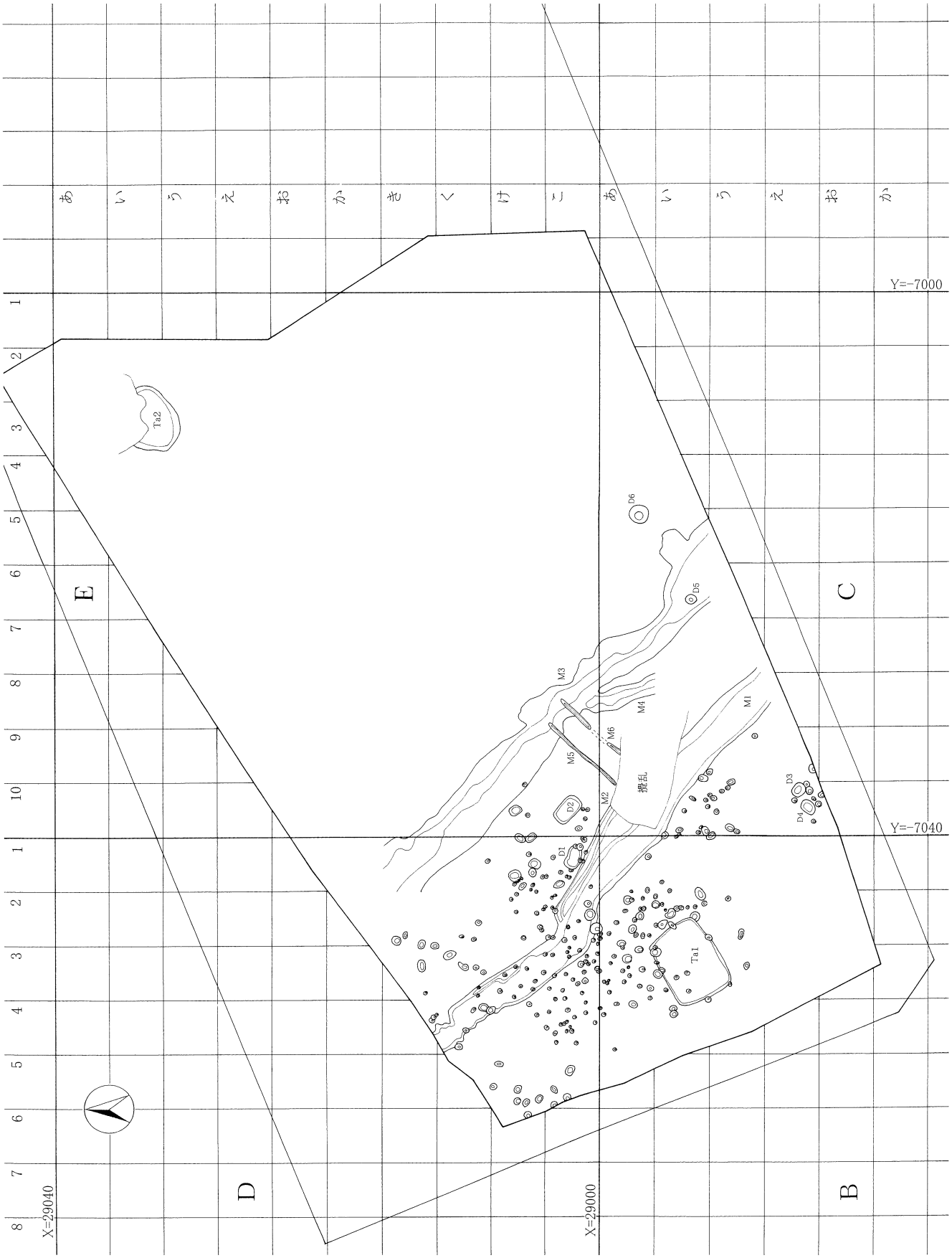
Ⅳ層は薄く板状に剥離する性質を持ったやや軟質の岩盤で、本遺跡周辺の基盤層である。住居址の床面は岩盤層を平らにし、床として利用していた。柱穴は基盤層を掘り込んでいる。



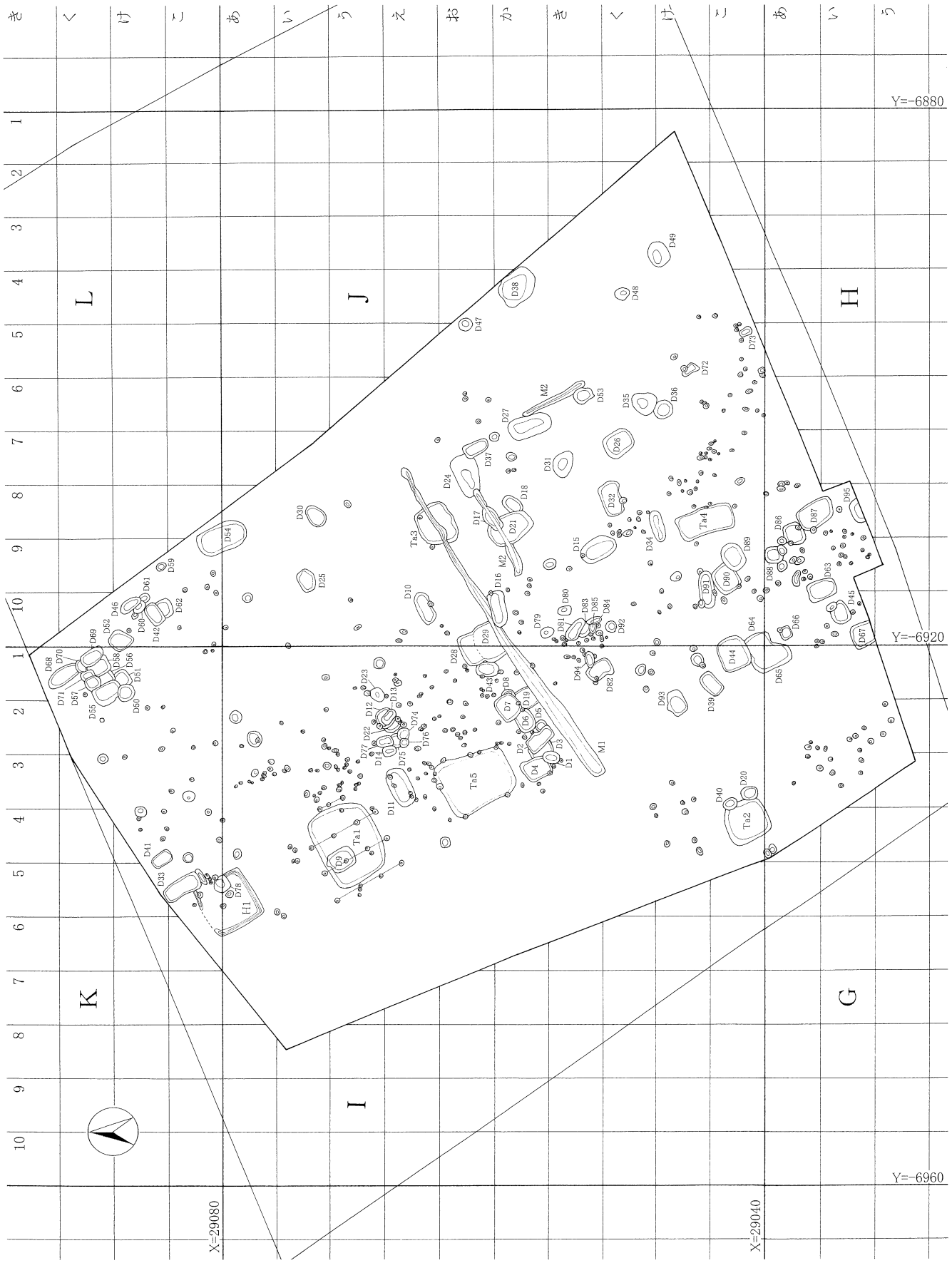
基本層序模式図


Y=-7000
X=29000
3055-1
3055-2
3056-1
3056-2
3068-3
3068-1
3067-2
3067-1
3028-1
3028-2
3006
3003-2
3003-10
3003-5
3003-3
3001-6
3001-4
3000-2
3000-5
3000-1
3005-1
3123-2
3057
3060
3062
3293-1
3288-1
3286-1
3286-2
3285-1
3285-2
3021-1
3021-2
3021-3
3292-1
3282
3283
3284-2

試掘トレンチ配置図



井戸尻遺跡Ｂ区　遺構配置図（1：400）

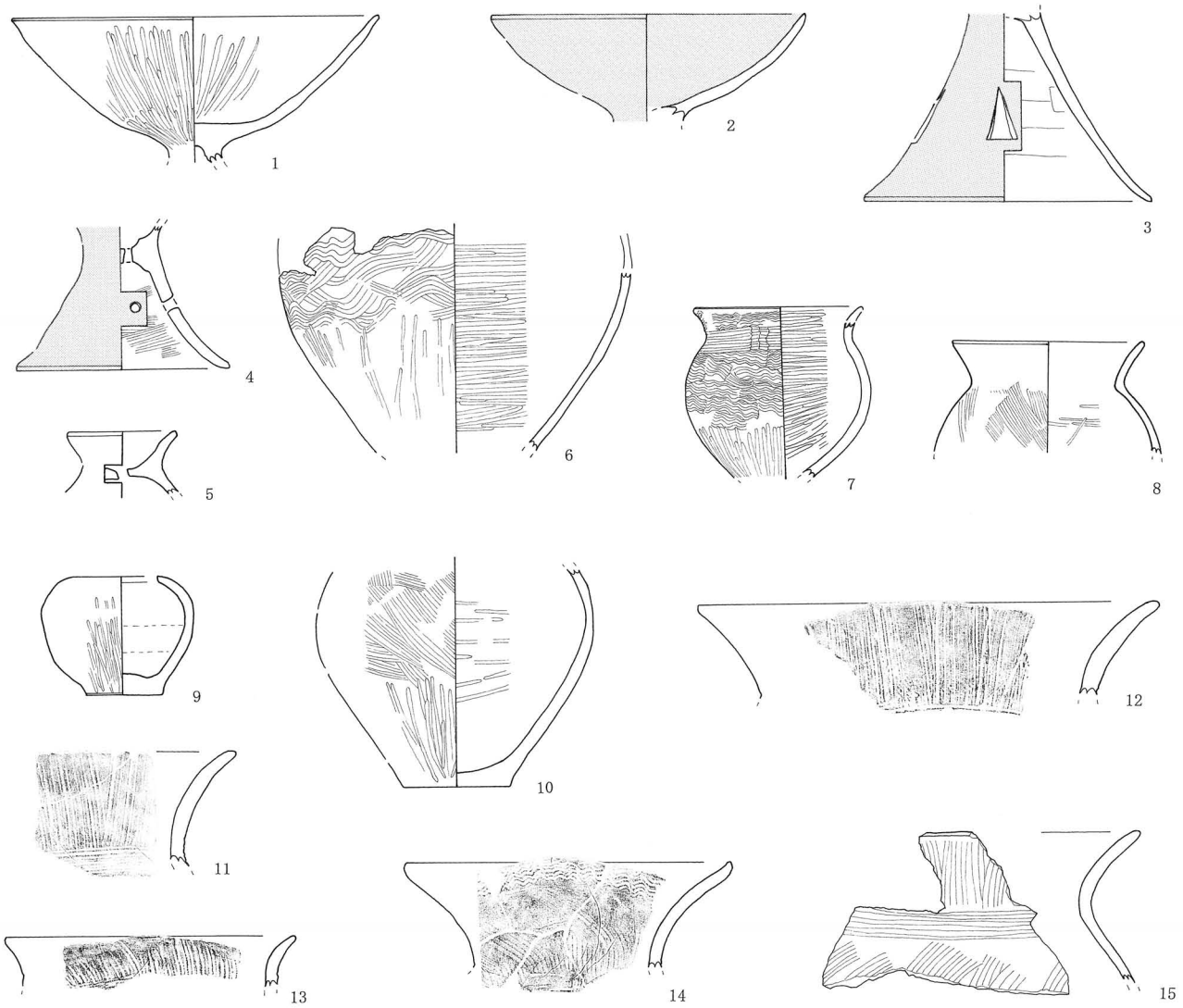


井戸尻遺跡Ｃ区　遺構配置図（1：400）

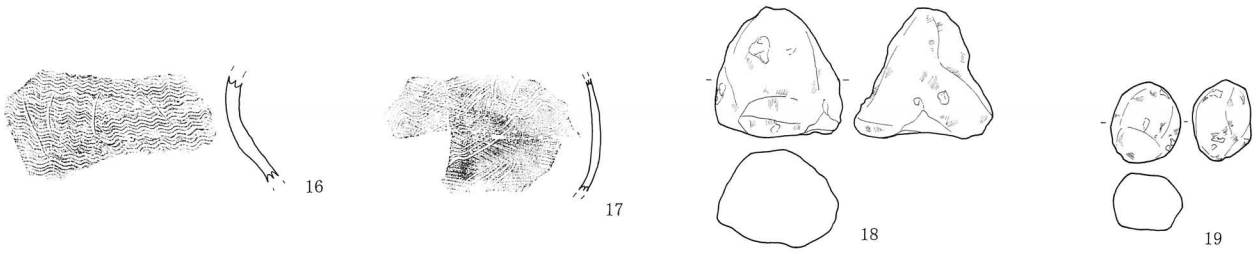
第Ⅲ章　猫田遺跡群　井戸尻遺跡

第１節　Ａ区

試掘調査の結果、千曲川右岸第一段丘周辺の基本層序は水田床土、シルト層、厚い砂礫層であることが確認されたが、一部地域のシルト質堆積土直下から、南北方向の低地帯と思われる土器を含む黒色土が確認されたため、Ａ区として調査を実施した。堆積状況は、上層に層厚10～20cmを測る褐色土の水田耕作土、層厚10～15cmを測る褐灰色、赤褐色の水田床土がほぼ水平に堆積しており直下に明褐色のシルト質土が10～20cmの厚みで堆積している。シルト直下に黒色土の堆積が認められ、調査区東端から始まり、西に向かって徐々に厚みを増し、北壁部のもっとも厚い西端部で約90cmを測る。黒色土直下には砂礫主体の明褐色土が堆積している。黒色土の検出面付近である上層からは古墳時代初頭と思われる土器が、黒色土中・下層からは弥生時代後期と考えられる土器が出土した。いずれも表面が摩耗気味の土器であった。黒色帯南方延長線上付近の段丘端で道路改良に伴い調査が行われた大ふけ遺跡からも、弥生時代後期～古墳時代前期の周溝墓が発見されており関係が窺われる。なお、本黒色帯から遺構と思われる掘り込みは確認されなかった。本黒色帯は東から西方向に緩やかに傾斜する斜面地又は谷状地形に周囲から土砂が流入し形成された遺物包含層と考えられる。



Ａ区遺物実測図(1)



A区遺物実測図(2)

番号	器　種	器　形	口径cm	底径cm	器高cm	調　整・文　様	残存率・部位	備　考
1	弥生土器	高坏	[20.6]	—	〈8.3〉	内外面ヘラミガキ　内面摩耗　脚部欠損	坏部50	外面5YR6/4にぶい橙色 黒色土内出土
2	弥生土器	高坏	17.6	—	〈6.1〉	内外面赤色塗彩　表面やや摩耗　脚部欠損	坏部90	内外面7.5R4/6赤色 黒色土内出土
3	弥生土器	高坏	—	16.1	〈10.8〉	外面赤色塗彩　△透かし４孔あり　内面ハケ目ナデ	脚部90	外面10R4/6にぶい赤橙色 黒色土内出土
4	弥生土器	高坏	—	[12.1]	〈8.2〉	外面赤色塗彩　○透かし４孔あり　内面ハケ目ナデ	脚部80	外面7.5R4/6赤色 黒色土内出土
5	弥生土器	蓋	ツマミ径 6.1	孔径0.6	〈3.4〉	ツマミ部中央穿孔１あり　表面摩耗	ツマミ周辺破片	外面7.5YR7/4にぶい橙色 黒色土内出土
6	弥生土器	甕	—	—	〈12.4〉	外面胴上半部櫛描波状文　下部縦ミガキ　内面ナデ	胴部破片	外面5YR5/2灰褐色 黒色土検出出土
7	弥生土器	甕	9.3	—	〈9.8〉	外面口辺・胴部上半櫛描波状文　頸部櫛描簾状文 内面横ミガキ	底部欠損	外面5YR6/4にぶい橙色他 黒色土内出土
8	土師器？	甕	[10.6]	—	〈6.4〉	外面ハケ目　内面ミガキ	口縁～胴部破片	外面2.5YR5/4にぶい赤褐色他 黒色土検出出土
9	土師器？	壷	4.8	4.3	6.8	外面ナデ・ミガキ	70	外面7.5YR7/3にぶい橙色 黒色土検出出土
10	弥生土器	甕	—	6	〈12.4〉	外面胴上半櫛描斜線文　下部縦ミガキ　表面摩耗気味	40	外面7.5YR6/3にぶい褐色他 黒色土内出土
11	土師器？	甕	—	—	〈6.6〉	口辺外面縦櫛描文　頸部櫛描横線文　内面横ミガキ	口縁破片	外面7.5YR5/4にぶい褐色 黒色土上層検出出土
12	土師器？	甕	[25.8]	—	〈5.3〉	口辺外面縦櫛描文　頸部櫛描横線文　内面横ミガキ	口縁破片	外面7.5YR5/2灰褐色 黒色土上層検出出土
13	土師器？	甕	[16.2]	—	〈2.8〉	口縁外面縦櫛描文　頸部横線文　内面横ミガキ	口縁破片	外面5YR6/6橙色他 黒色土上層検出出土
14	弥生土器	壷	[18.2]	—	〈6〉	外面口縁端部櫛描波状文　口辺縦・斜櫛描文 内面横ナデ・ミガキ	口縁破片	外面7.5YR8/4浅黄橙色 黒色土内出土
15	土師器？	甕	—	—	〈8.7〉	外面口辺縦櫛描文　頸部櫛描横線文　胴部櫛描斜線文	口縁～胴上部破片	外面7.5YR7/6橙色 黒色土検出出土
16	弥生土器	甕	—	—	〈5〉	外面櫛描波状文　内面横ミガキ	頸部破片	外面7.5YR7/2明褐灰色 黒色土内出土
17	弥生土器	甕	—	—	〈5.8〉	外面櫛描波状文　内面ナデ・ミガキ	胴部破片	外面7.5YR6/2灰褐色 黒色土内出土
番号	器　種	器　形	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	調　整・文　様	重量（g）	備　考
18	石器	軽石製すり石	6.9	6.6	7	全体にすり痕	72.37	黒色土内出土
19	石器	軽石製すり石	4.3	3.6	3	全体にすり痕	10.81	黒色土内出土

A区遺物観察表

第２節　Ｂ区

以前は東から千曲川に向かう緩やかな傾斜地であったと思われる、右岸第１段丘上の中央付近に位置する。試掘調査によって土坑・ピット及び土器が発見されたことからＢ区として調査を実施した。遺構の密集する西側の堆積状況は、上層から水田床土、白色粘土層、中世から近世の生活面及び奈良平安時代の包含層と考えられるシルト層、縄文から弥生時代の遺物を含む黒色帯が確認できた。調査は中世と思われる生活面であるシルト層上面から実施した。

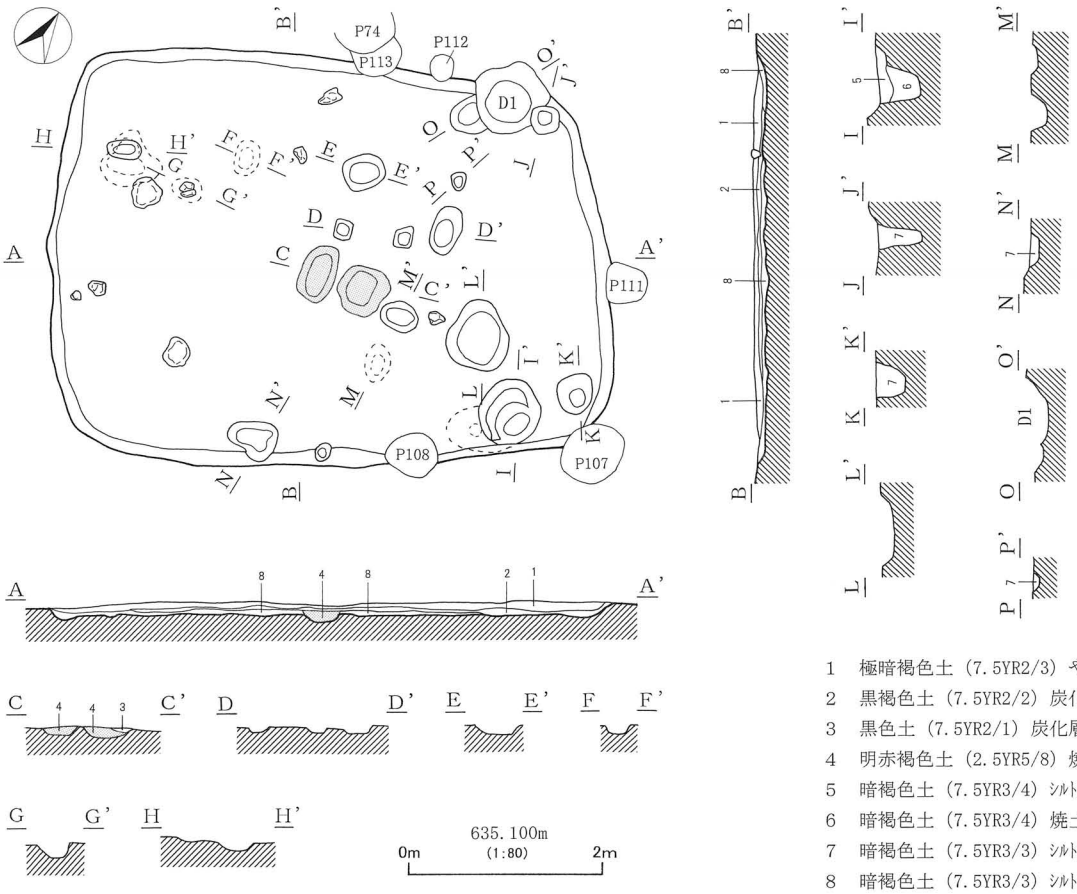
シルト層は薄い砂礫層に覆われた部分も多く、以前からこの段丘一帯は水害に見舞われた地域であったことが窺われた。シルト層上面からは住居と思われる竪穴状遺構、土坑、ピット、南北方向の溝跡（流路）が発見された。中世面調査終了後、シルト及び黒色土を掘り下げた結果、上層シルト内から奈良・平安時代の土師器・須恵器が、直下の黒色土及び溝跡覆土内から弥生土器、さらに下層の黒色土内から縄文時代中期・後期の土器が出土した。それぞれの時代の遺構は確認されなかった。西側のＡ区同様、旧谷状地形に長い年月の間周囲から土砂が流れ込み堆積した遺物包含層と考えられる。また、水田面から砂礫層に至る厚みは調査区東端が40cm、西側は1.2m以上であった。東側は遺構が希薄であることから、斜面上部にあたる東側は、圃場整備によって遺構面が削り取られた可能性が考えられる。

（１）竪穴状遺構

Ｔａ１号竪穴状遺構

遺構はＢ－い－３グリッドに位置する。規模は長軸5.6m、短軸4.2m、検出面から床面までは最大で13cmを測る。平面形態は長方形である。床面には硬質面が存在する。ピットは床面及び壁際から確認できた。主柱穴と断定できるピットは認められなかった。床面中央付近に炉と考えられる焼土が

堆積した窪みが並列して２個存在した。遺構中央に炉が設置されていることから住居としての性格を持つ竪穴状遺構と考えられる。

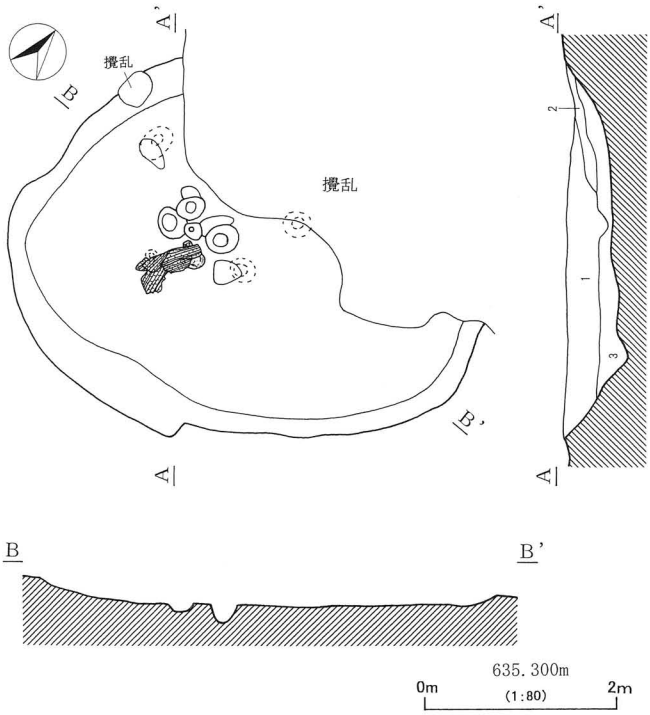


1　極暗褐色土（7.5YR2/3）やや砂質。炭化物含む。
2　黒褐色土（7.5YR2/2）炭化物・焼土多く含む。
3　黒色土（7.5YR2/1）炭化層。
4　明赤褐色土（2.5YR5/8）焼土層。
5　暗褐色土（7.5YR3/4）ｼﾙﾄ質。焼土・炭化物含む。
6　暗褐色土（7.5YR3/4）焼土・炭化物多い。
7　暗褐色土（7.5YR3/3）ｼﾙﾄ質。しまりなし。
8　暗褐色土（7.5YR3/3）ｼﾙﾄ質。炭化物・焼土少量。

B区Ｔａ１号竪穴状遺構実測図

Ｔａ２号竪穴状遺構

遺構はＥ－い－３グリッドに位置し、北側の約半分は近年の攪乱によって破壊されている。調査規模は長軸である東西方向が4.8m、北側を破壊された南北方向である短軸の最大が2.4m、検出面から床面までの深さは最大35cmを測る。平面形態はやや不整の楕円状を呈する。壁面はすり鉢式に緩やかな傾斜で床面に至る。当初は確認面での形態から大型の井戸又は土坑と考えられたが、掘り込みが浅く、底面に平坦な硬質面を持ち、ピット・炭化材が確認されたことから住居としての性格を持つ竪穴状遺構とした。



1　暗褐色土（7.5YR3/3）ｼﾙﾄ質。砂・炭化物含む。
2　黒褐色土（7.5YR2/2）粘土ﾌﾞﾛｯｸ多い。
3　灰褐色土（7.5YR4/2）粘土層（掘方）。

B区Ｔａ２号竪穴状遺構実測図

（２）溝跡（流路）

Ｍ１号溝跡

遺構はＣ－う－８グリッドからＤ－く－４グリッドにかけて存在し、確認面上で多数のピットに切られ、調査区内でM2と合流する。遺構の向きは南北方向からおよそ48°西に振れた方向で調査区内を貫流している。調査規模は長さ34.4m、確認面上での幅1.6m～3.2m、底幅0.9m～3.1mを測る。

遺物は土師器・須恵器の破片が出土した。縄文・弥生土器が含まれる黒色土に形成されていることから弥生時代以降の流路と考えられる。

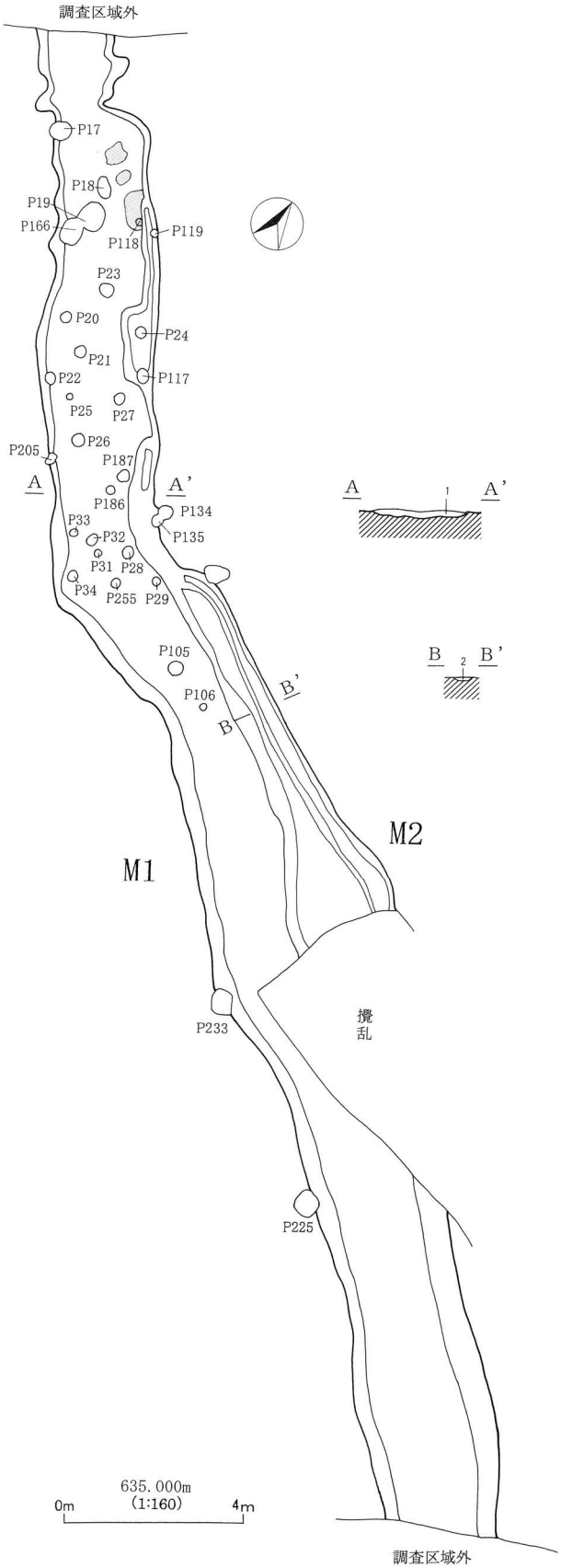
Ｍ２号溝跡

遺構はＣ－あ－10グリッドからＤ－こ－２グリッドにかけて存在する。M1に並走し、途中で合流する。南側は攪乱中で消滅する。規模は長さ9.2m、確認面上での幅32cm～72cm、底幅15cm～40cm、検出面から床面までの深さは10cmを測る。

遺物は出土しなかった。

Ｍ３号溝跡

遺構はＣ－い－５グリッドからＤ－き－１グリッドにかけて存在する。南方向は調査区域外に続くと思われるが、北側はＭ４と途中で合流した後、共に消滅する。遺構の向きは南北方向からおよそ46°西に振れる。調査規模は長さ32.8m、幅は確認面上で2.0m～4.0m、底幅1.0m～3.2m、深さは確認面から最大65cmを測る。遺物は底に堆積した砂礫層内から磨耗した弥生土器が、上層から奈良・平安時代の須恵器片が出土した。時期は下層から弥生土器が、上層から須恵器が出土していることから弥生時代から奈良平安時代には既に存在していた流路と考えられる。



1　黒褐色土（7.5YR3/2）砂質。ｼﾙﾄﾌﾞﾛｯｸ含む。
2　暗褐色土（7.5YR3/3）砂主体。

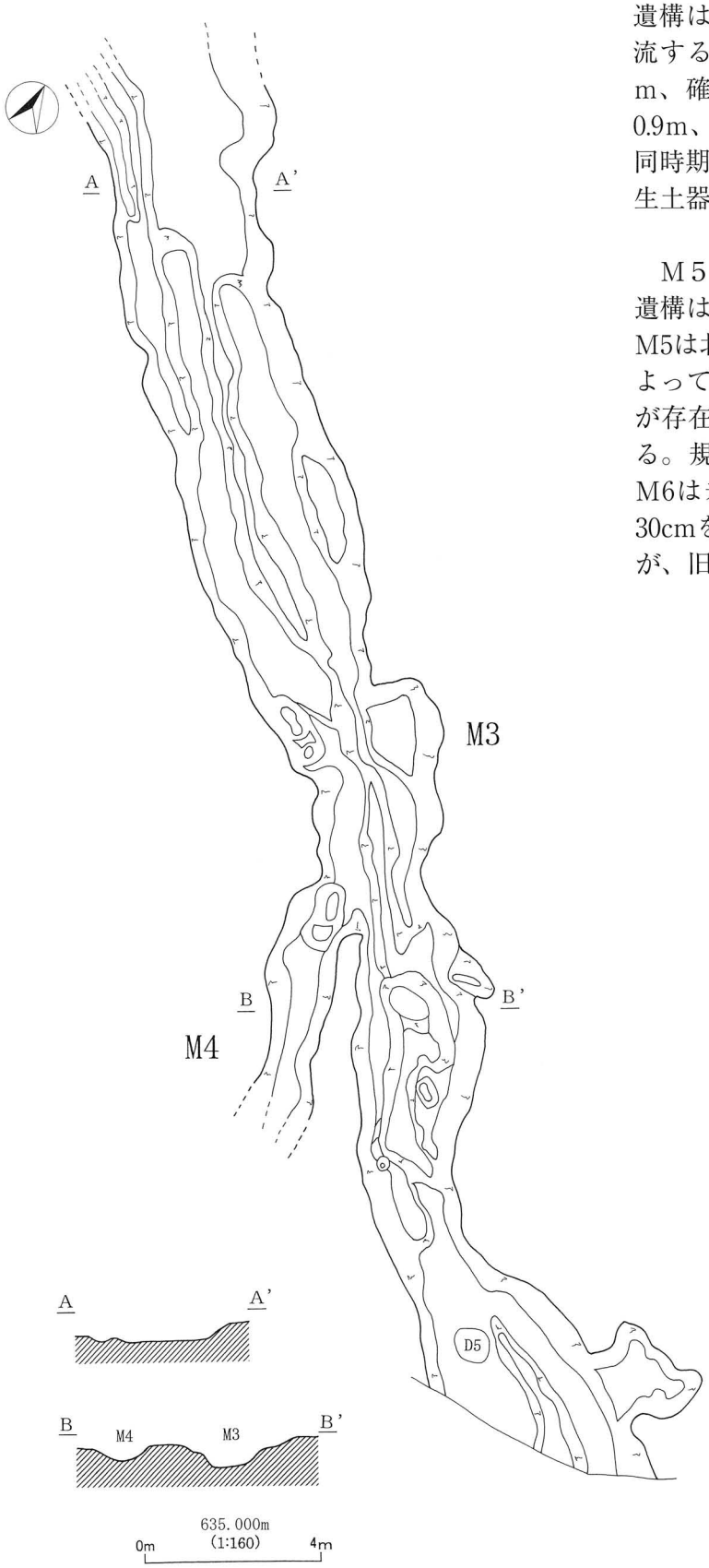
Ｂ区Ｍ１・２号溝跡実測図

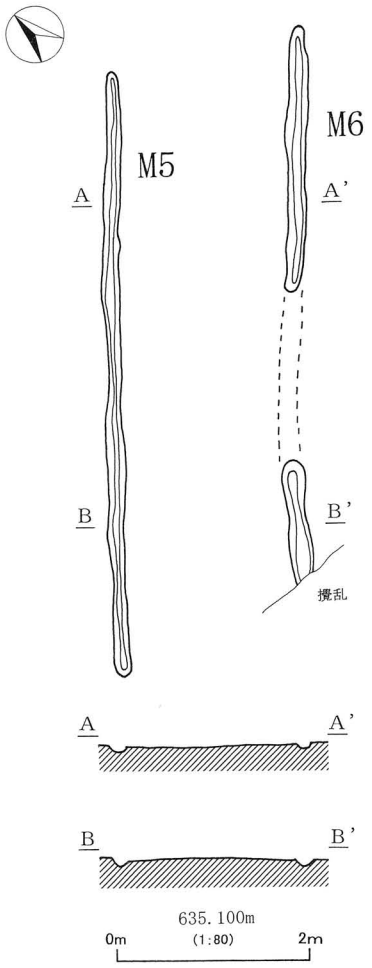
Ｍ４号溝跡

遺構はＣ－あ－８グリッドに存在し、M3に合流する。南側は消滅する。調査規模は長さ4.8m、確認面上での幅0.9m～1.6m、底幅0.4m～0.9m、確認面からの深さは0.4mを測る。M3と同時期に存在した流路と考えられる。遺物は弥生土器片、須恵器が僅かに出土した。

Ｍ５・６号溝跡

遺構はＥ－こ－９グリッドに位置し、並走する。M5は北・南ともに消滅する。M6の南は攪乱によって切られ、北側は消滅し、途中未確認部分が存在する。遺構の向きは北から東に40°振れる。規模はM5が長さ6.4m、幅30cmを測る。M6は未確認部を含めた推定で長さ6.0m、幅30cmを測る。確認状況から、断定はできないが、旧道路跡である可能性も考えられる。

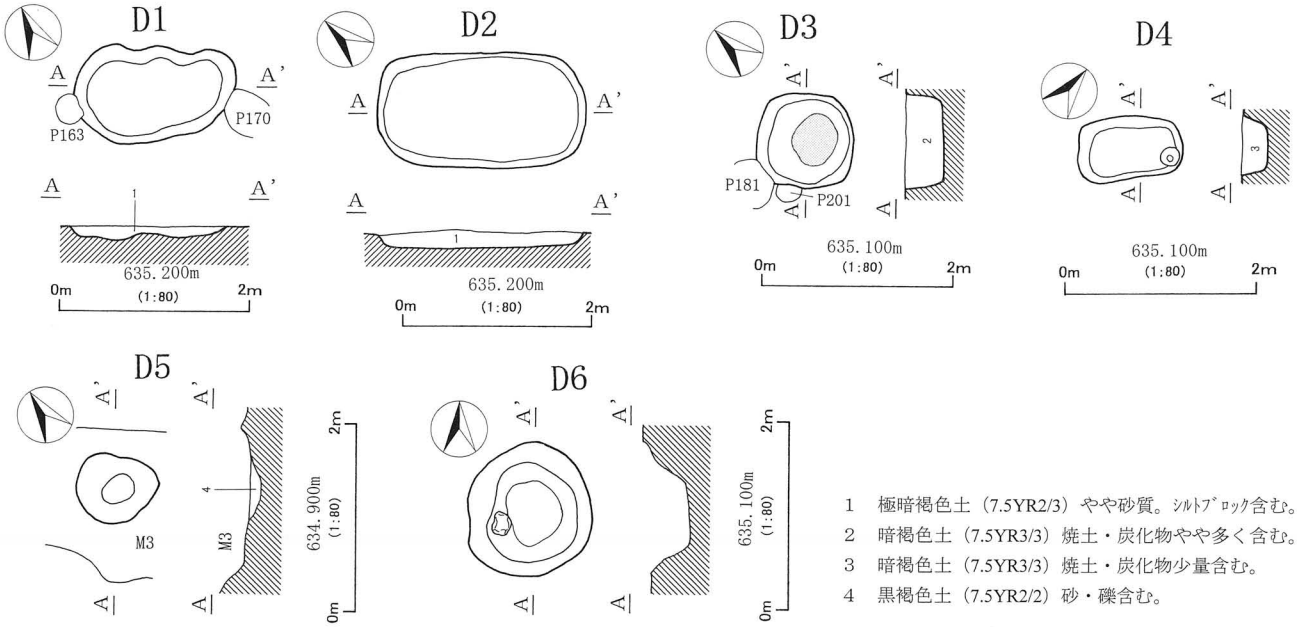




B区Ｍ３・４・５・６号溝跡実測図

（3）土坑

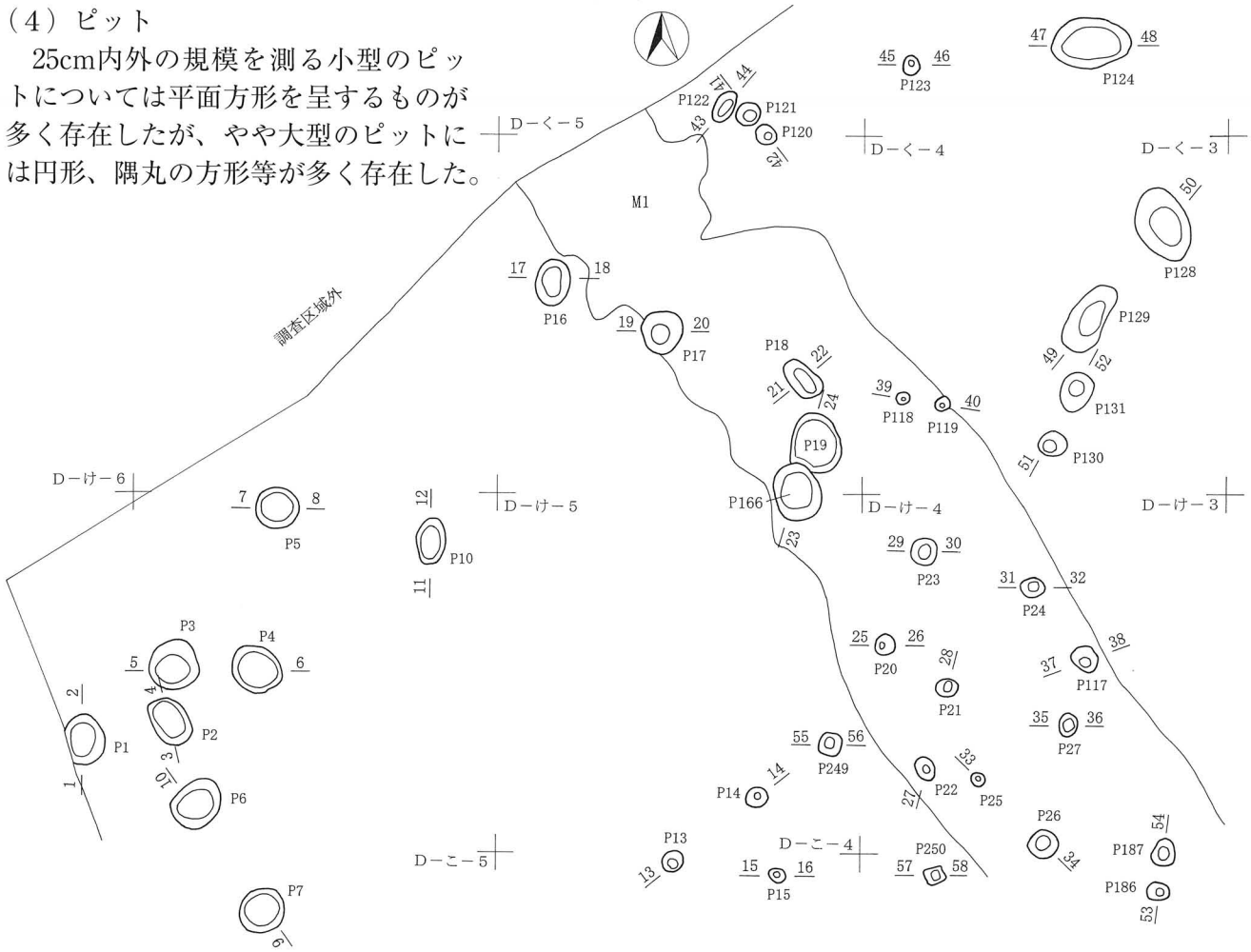
ピットと区別するため、直径80cm以上の掘り込みを土坑として取り扱った。



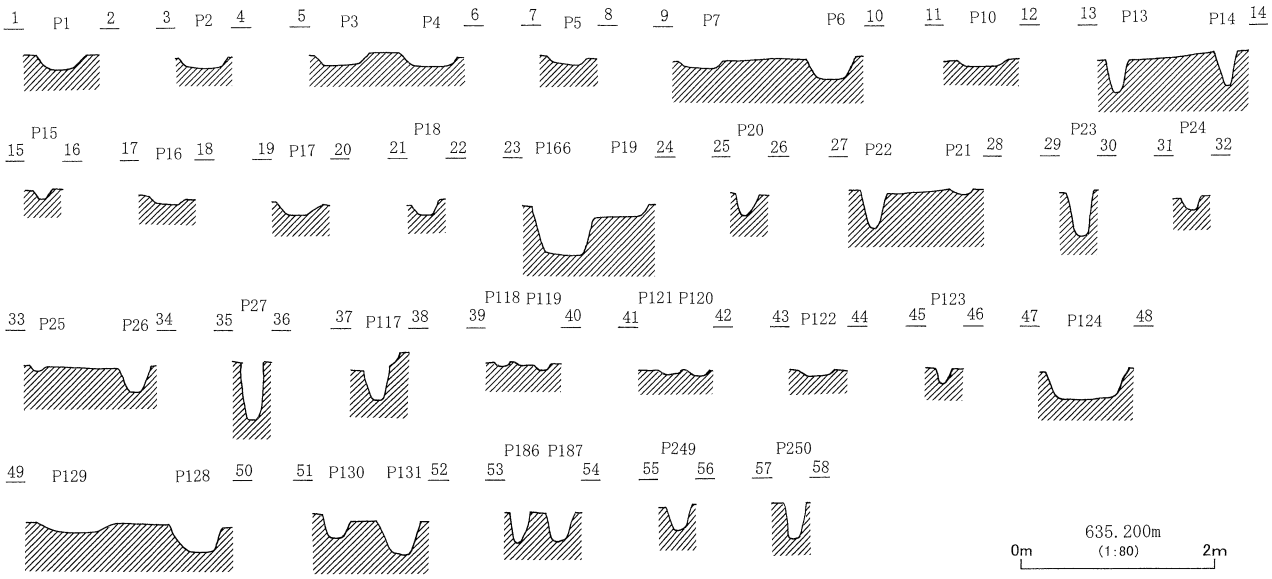
B区土坑実測図

（4）ピット

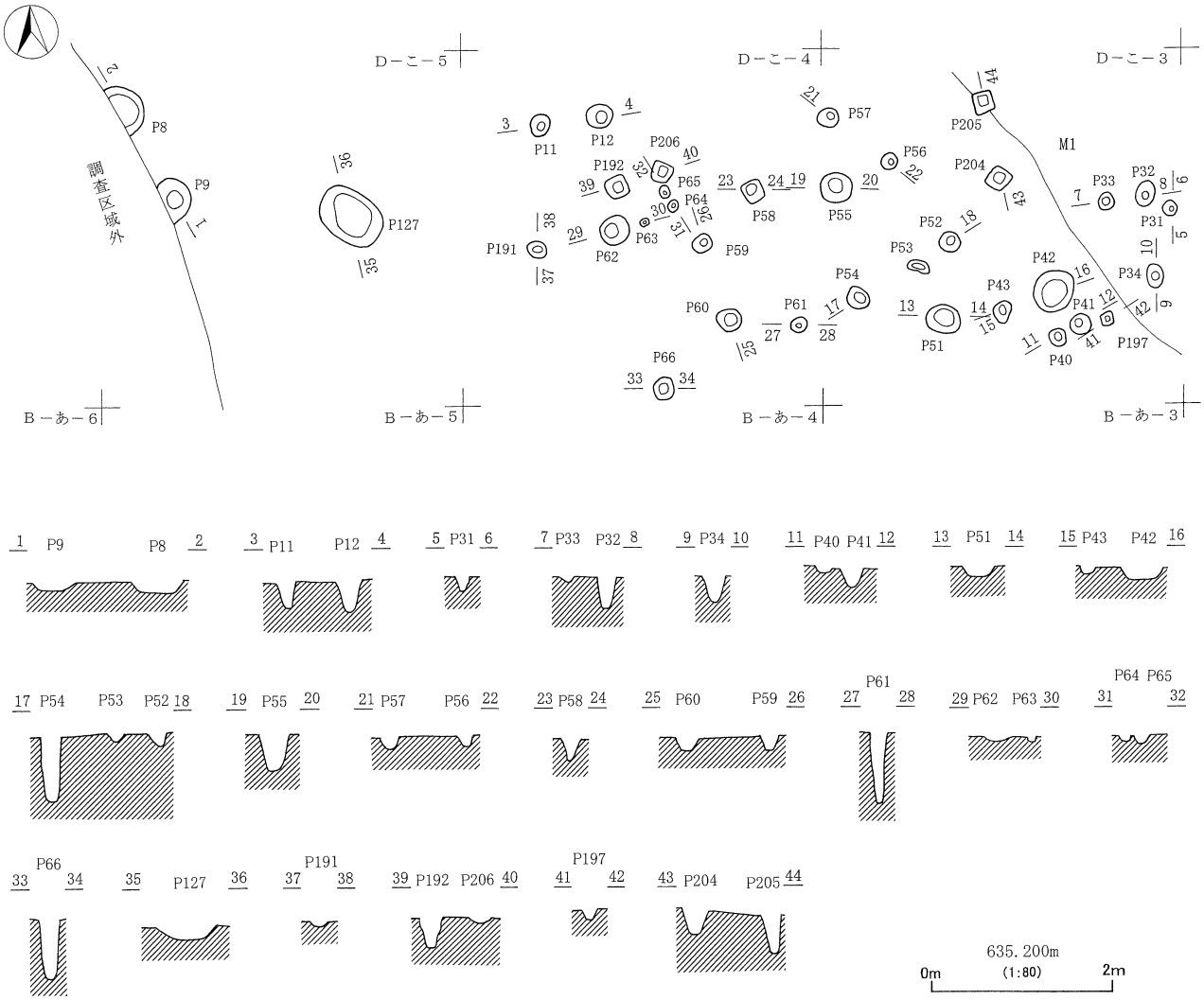
25cm内外の規模を測る小型のピットについては平面方形を呈するものが多く存在したが、やや大型のピットには円形、隅丸の方形等が多く存在した。



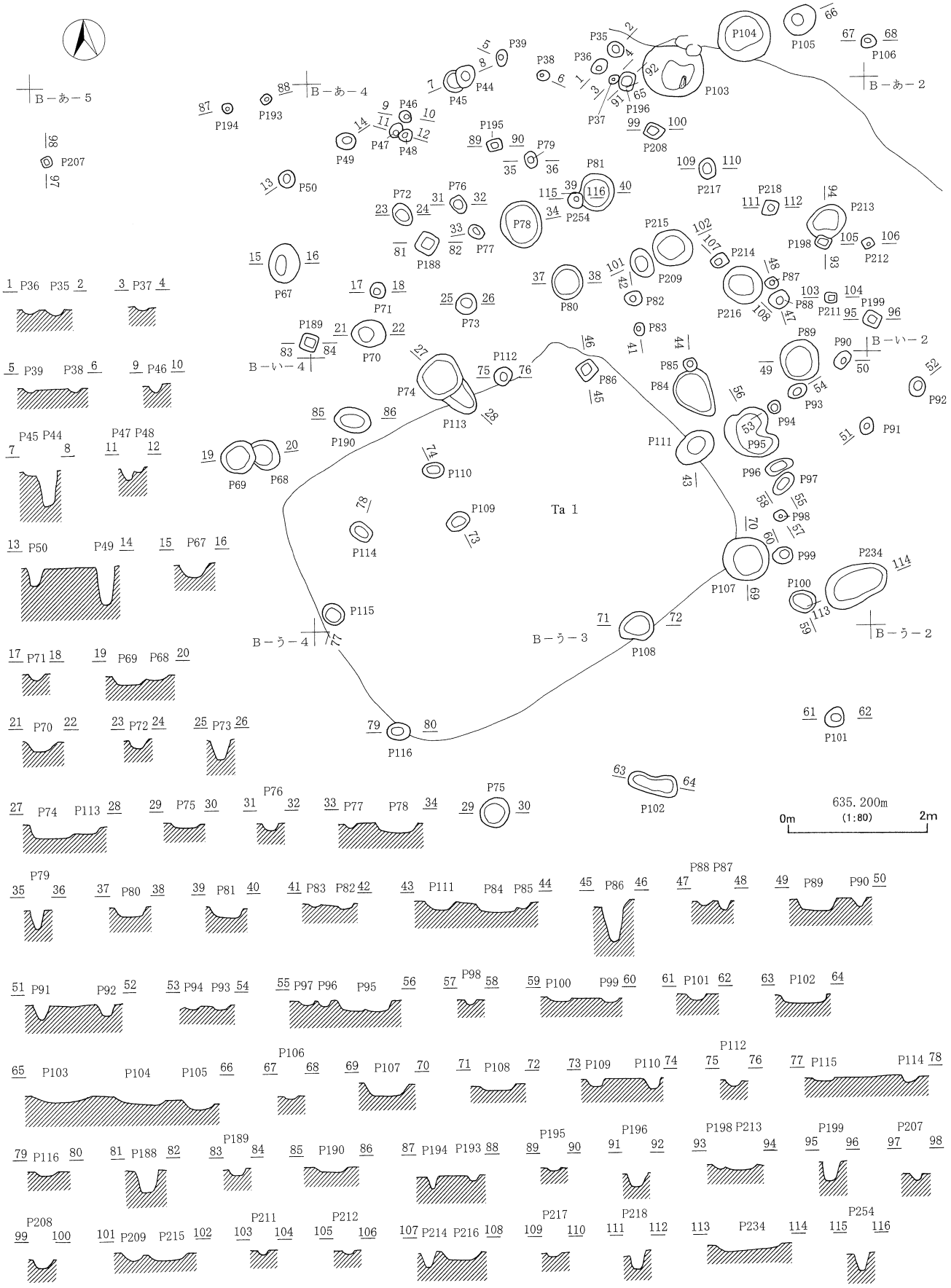
B区ピット実測図（1）



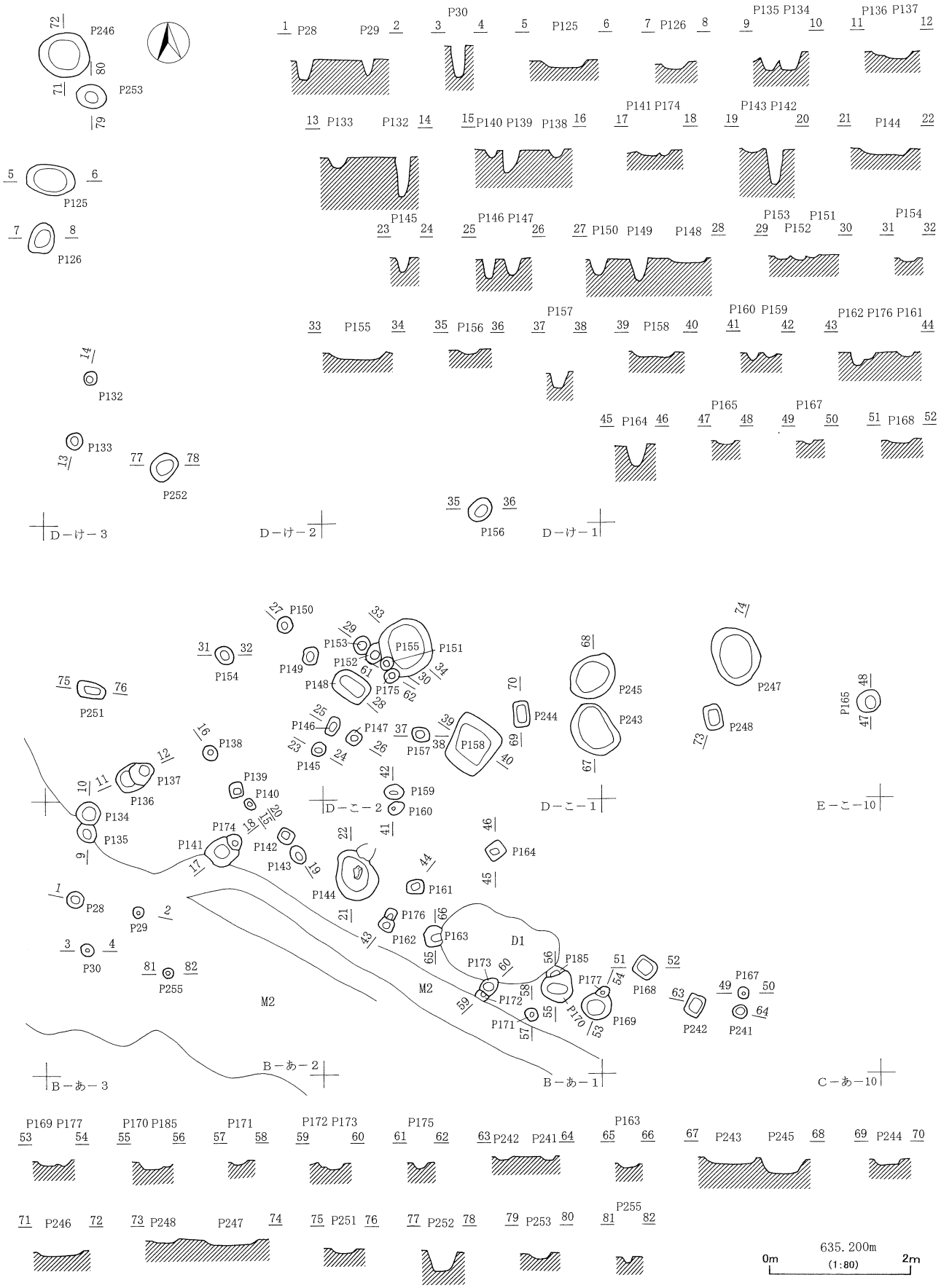
B区ピット実測図（2）



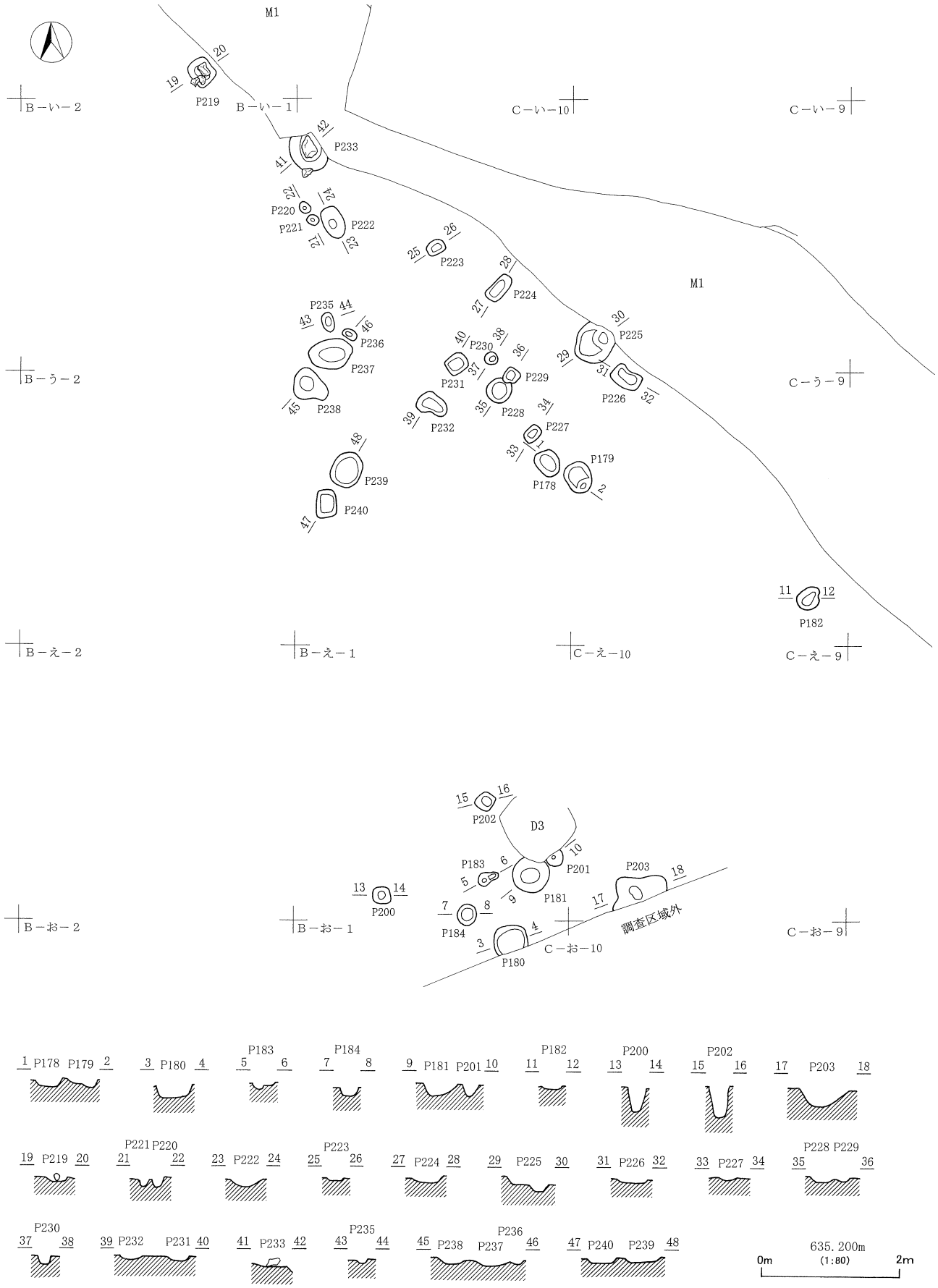
B区ピット実測図（3）



B区ピット実測図（4）

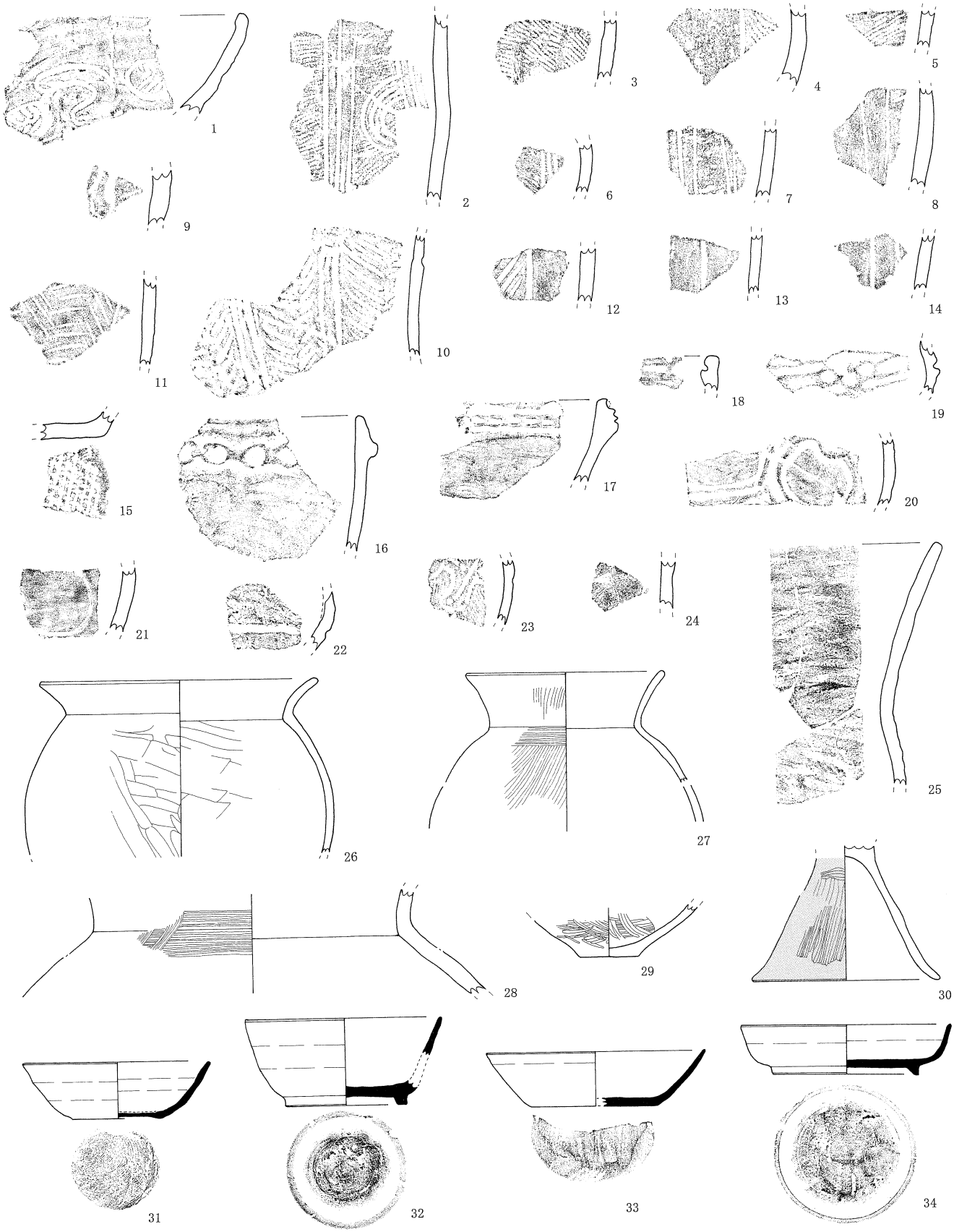

D－け－3
D－け－2
D－け－1
D－こ－2
D－こ－1
E－こ－10
B－あ－3
B－あ－2
B－あ－1
C－あ－10
D1
M2
635.200m
0m
(1:80)
2m

B区ピット実測図（5）

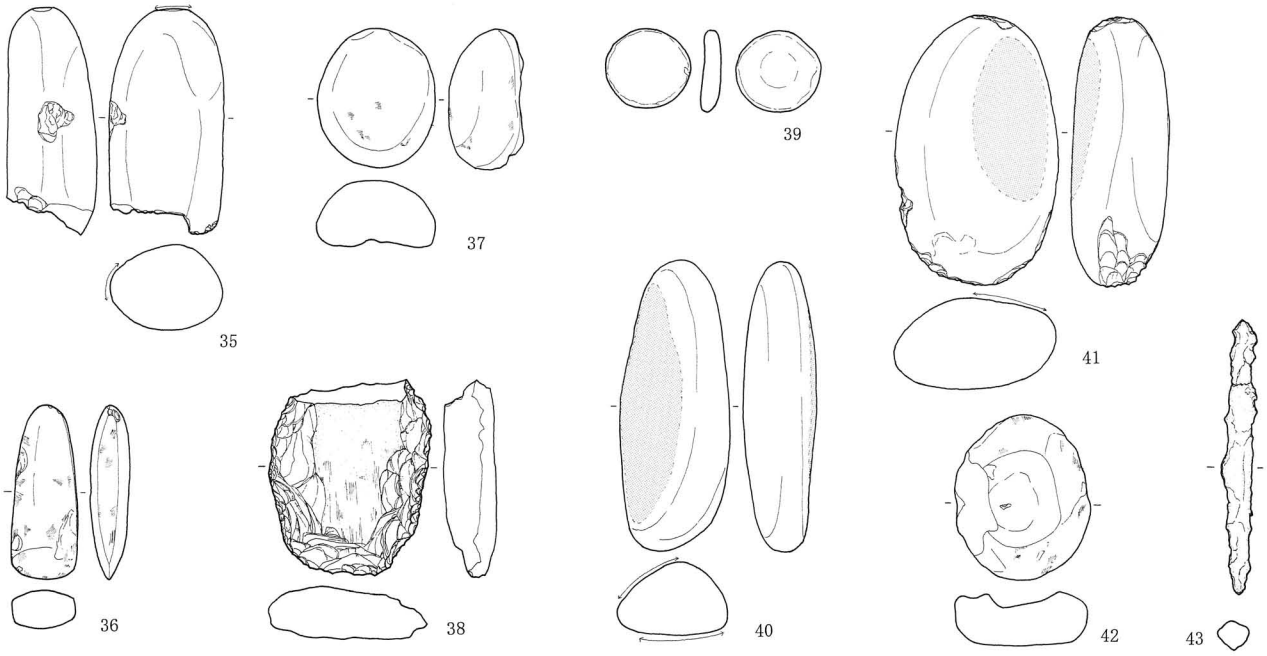

M1
B－い－2
B－い－1
C－い－10
C－い－9
B－う－2
C－う－9
B－え－2
B－え－1
C－え－10
C－え－9
B－お－2
B－お－1
C－お－10
C－お－9
D3
調査区域外
P178 P179
P180
P181 P201
P182
P183
P184
P200
P202
P203
P219
P220 P221
P222
P223
P224
P225
P226
P227
P228 P229
P230
P231
P232
P233
P235
P236 P237
P238
P239
P240
635.200m
0m (1:80) 2m

B区ピット実測図（6）

（5）出土遺物



B区遺物実測図（1）



B区遺物実測図（2）

番号	器　種	器　形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様・産地等 部　位	時　期	色調（外面） 出土地
1	縄文土器	深鉢	－	－	－	口縁ナデ　外面沈線文・楕円形沈線文内羽状沈線・隆帯 口辺部破片	中期	10YR6/4にぶい黄橙色 M3覆土
2	縄文土器	深鉢	－	－	－	外面縄文・３条垂下沈線文・弧状沈線文 胴部破片		10YR6/4にぶい黄橙色 Ｃ－あ－6グリッド黒色土内他
3	縄文土器	深鉢	－	－	－	外面縄文 胴部破片		10YR7/4 Ｃ－あ－6グリッド黒色土内
4	縄文土器	深鉢	－	－	－	外面垂下沈線文・縄文 胴部破片	中期	7.5YR4/6褐色 Ｄ－こ－4グリッド黒色土内
5	縄文土器	深鉢	－	－	－	外面縄文 胴部破片		10YR7/3にぶい黄橙色 Ｃ－い－5グリッド
6	縄文土器	深鉢	－	－	－	外面縄文・３条沈線文　表面やや摩耗 胴部破片		7.5YR5/6明褐色 Ｃ－え－10グリッド黒色土内
7	縄文土器	深鉢	－	－	－	外面垂下沈線文 胴部破片		7.5YR6/6橙色 Ｃ－い－4グリッド
8	縄文土器	深鉢	－	－	－	外面垂下沈線文・斜沈線文　表面やや摩耗 胴部破片	中期	7.5YR5/4にぶい褐色 Ｃ－あ－4グリッド黒色土内
9	縄文土器	深鉢	－	－	－	外面弧状沈線文・縄文　表面やや摩耗 胴部破片	中期	10YR7/3にぶい黄橙色 Ｅ－え－9グリッド
10	縄文土器	深鉢	－	－	－	外面２条平行垂下沈線文間に羽状沈線文 胴部破片	中期	10YR6/4にぶい黄橙色 M3覆土
11	縄文土器	深鉢	－	－	－	外面羽状沈線文 胴部破片	中期	7.5YR7/3にぶい橙色 Ｃ－い－5グリッド黒色土内
12	縄文土器	深鉢	－	－	－	外面垂下沈線文・斜沈線文 胴部破片	中期	5YR5/3にぶい赤褐色 Ｃ－あ－8グリッド黒色土内
13	縄文土器	深鉢	－	－	－	外面垂下沈線文 胴部破片		7.5YR6/4にぶい橙色 Ｃ－い－4グリッド
14	縄文土器	深鉢	－	－	－	外面垂下沈線文 胴部破片		7.5YR6/4にぶい橙色 Ｃ－あ－4グリッド黒色土内
15	縄文土器	深鉢	－	－	－	底部編代痕 底部破片		7.5YR6/4にぶい橙色 Ｅ－え－9グリッド
16	縄文土器	深鉢	－	－	－	外面ナデ・隆帯に指頭押捺痕 口縁破片	後期	10YR7/2にぶい黄橙色 Ｂ－あ－3グリッド黒色土内
17	縄文土器	深鉢	－	－	－	外面横沈線文・棒状工具による刺突文 口縁破片	後期	10YR6/4にぶい黄橙色 Ｄ－き－2グリッド黒色土内
18	縄文土器	深鉢	－	－	－	外面沈線文・棒状工具による刺突文 口縁破片	後期	7.5YR5/4にぶい褐色 Ｃ－う－9グリッド黒色土内
19	縄文土器	深鉢	－	－	－	外面隆帯・円形刺突痕 口辺破片	後期	10YR6/4にぶい橙色 Ｃ－あ－7グリッド黒色土内
20	縄文土器	深鉢	－	－	－	外面沈線文・ナデ 胴部破片	後期	7.5YR4/1褐灰色 Ｃ－き－7グリッド黒色土内
21	縄文土器	深鉢	－	－	－	外面細沈線文・ナデ 胴部破片	後期	10YR5/2灰黄褐色他 Ｅ－こ－9グリッド出土
22	縄文土器	深鉢	－	－	－	外面沈線文 胴部破片		10YR5/4にぶい黄褐色 検出
23	縄文土器	深鉢	－	－	－	外面縄文・沈線文・円形刺突文 胴部破片	後期	10YR6/4にぶい橙色 Ｃ－い－10グリッド黒色土内
24	縄文土器	深鉢	－	－	－	外面細沈線文・ナデ 胴部破片	後期	7.5YR4/4褐色 M3
25	縄文土器	深鉢	－	－	－	外面ナデ 口縁から胴部破片多数	後期	10YR7/3にぶい黄橙色他 Ｃ－い－8グリッド黒色土内他
番号	器　種	器　形	口径cm	底径cm	器高cm	調　整・文　様	残存率・部位	備　考
26	土師器	甕	[20.2]	－	〈12.8〉	外面ヘラケズリ・ナデ　口縁横ナデ　内面ナデ	口縁～胴部破片	10YR3/2黒褐色 Ｅ－こ－7グリッド黒色土内
27	土師器	甕	[14.6]	－	〈11.1〉	外面櫛斜線文　頸部櫛描横線文　内面ナデ	口縁～胴部破片	10YR5/3にぶい黄褐色 Ｃ－あ－9グリッド他
28	弥生土器	壺	－	－	〈7.1〉	外面頸部櫛描横線文・櫛描垂下文　表面やや摩耗	頸部破片	7.5YR6/6橙色 Ｃ－あ－6グリッド黒色土内他
29	土師器？	鉢？	－	4.2	〈3.4〉	内外面ミガキ	底部～胴下部	7.5YR6/4にぶい橙色 Ｃ－い－4グリッド
30	土師器	高坏	－	－	〈8.8〉	脚部外面赤色塗彩　内面横ナデ	脚部40	7.5YR4/6褐色 Ｃ－い－5グリッド黒色土内
31	須恵器	坏	13.6	6.4	4.1	内外面ロクロナデ　底部回転糸切り　みこみ部剥離	50	10YR6/1褐灰色 Ｃ－あ－6グリッド

B区遺物観察表（1）

番号	器　種	器　形	口径cm	底径cm	器高cm	調　整・文　様	残存率・部位	備　考
32	須恵器	高台付坏	[14.2]	8.8	6.4	内外面ロクロナデ　底部回転ヘラケズリ後高台貼付	60	7.5YR3/1オリーブ黒色 C－う－9グリッド黒色土内
33	須恵器	坏	[16]	[9.4]	4.1	内外面ロクロナデ　底部ヘラケズリ	25	10YR7/1灰白色 E－く－10グリッド黒色土内
34	須恵器	高台付坏	15.2	10.7	3.6	内外面ロクロナデ　底部ヘラケズリ後高台貼付	60	5B4/1暗青灰色 C－い－7グリッド　M4
番号	器　種	器　形	最大長(cm) 長径(cm)	最大幅(cm) 短径(cm)	最大厚(cm) 高さ(cm)	調　整・文　様	重量(g)	出土地
35	石器	敲石	11.9	6.1	4.7	下部欠損　先端・側面に敲打痕	506.3	Ta1
36	石器	磨製石斧	9.1	3.5	2.1	全体に滑らか	115.57	M4
37	石器	すり石	7.4	6.1	3.7	全体にすり痕　裏面欠損	206.09	B－い－10グリッド
38	石器	打製石斧	10.3	8.3	2.7	片側欠損　側面に潰れ痕　一部自然面残存　刃部付近摩滅	318.34	C－あ－7グリッド
39	石製品	石製円盤	4.5	4.2	1		25	C－あ－7グリッド
40	石器	すり石	15.3	5.8	3.8	すり面2面あり	484.95	D－お－1グリッド
41	石器	すり石・敲石	14.2	8.4	5	長軸両端・側面に敲打痕　表面すり面	823.96	E－こ－7グリッド
42	軽石製品	凹石	8.7	7.1	3.5	一部欠損　中央に凹　凹径5cm　凹深1.5cm	67.56	E－こ－9グリッド
43	鉄製品	釘？	14.5	1.6	1.6		33	

B区遺物観察表（2）

（6）土坑・ピット観察表

遺構名	平面形態	南北(cm)	東西(cm)	深さ(cm)	検出位置
D1	楕円形	109	169	14	D-こ-1
D2	楕円形	124	221	14	E-こ-10
D3	隅丸方形	101	100	39	C-え-10
D4	長方形	68	109	25	C-え-10
D5	円形	〈80〉	〈84〉	〈14〉	C-い-5
D6	円形	144	130	50	C-あ-5

B区土坑観察表

ピット名	形態	直径(cm)	深さ(cm)	検出位置
1	円形	56	16	D-け-6
2	楕円形	56	12	D-け-5
3	円形	57	13	D-け-5
4	円形	52	14	D-け-5
5	円形	45	10	D-け-5
6	円形	59	24	D-け-5
7	円形	53	8	D-こ-5
8	円形？	〈30〉	14	D-こ-5
9	円形	〈32〉	12	D-こ-5
10	楕円形	52	8	D-け-5
11	円形	25	30	D-こ-4
12	円形	30	36	D-こ-4
13	円形	25	36	D-こ-4
14	円形	22	36	D-け-4
15	円形	18	10	D-こ-4
16	楕円形	51	8	D-く-4
17	円形	48	10	D-く-4
18	楕円形	50	16	D-く-4
19	円形	68	14	D-く-4
20	円形	23	23	D-け-3
21	円形	25	6	D-け-3
22	円形	28	40	D-け-3
23	方形	29	48	D-け-3
24	円形	28	15	D-け-3
25	円形	15	7	D-け-3
26	円形	32	27	D-け-3
27	円形	26	62	D-け-3
28	円形	24	28	D-こ-2
29	円形	17	24	D-こ-2
30	円形	20	47	D-こ-2
31	円形	18	17	D-こ-3
32	楕円形	30	34	D-こ-3
33	円形	20	6	D-こ-3
34	楕円形	27	29	D-こ-3
35	円形	24	8	D-こ-2
36	円形	28	7	D-こ-2
37	円形	16	6	B-あ-2
38	円形	18	6	B-あ-3
39	楕円形	24	6	D-こ-3
40	円形	20	8	D-こ-3
41	円形	23	20	D-こ-3
42	円形	49	14	D-こ-3
43	楕円形	25	9	D-こ-3
44	円形	34	52	B-あ-3
45	円形	〈19〉	〈6〉	B-あ-3
46	円形	18	12	B-あ-3
47	円形	24	16	B-あ-3
48	円形	18	8	B-あ-3
49	円形	28	56	B-あ-3
50	円形	27	26	B-あ-4
51	円形	40	12	D-こ-3
52	円形	22	14	D-こ-3
53	楕円形	25	8	D-こ-3
54	円形	24	72	D-こ-3
55	円形	33	41	D-こ-3
56	円形	18	12	D-こ-3
57	円形	21	14	D-こ-3
58	方形	24	24	D-こ-4
59	隅丸方形	22	16	D-こ-4
60	円形	28	14	D-こ-4
61	円形	18	79	D-こ-4
62	円形	34	5	D-こ-4
63	円形	10	6	D-こ-4
64	円形	14	6	D-こ-4
65	円形	14	10	D-こ-4
66	円形	25	66	D-こ-4
67	楕円形	57	20	B-あ-4
68	円形	44	8	B-い-4
69	円形	50	12	B-い-4
70	円形	48	14	B-あ-3
71	円形	24	10	B-あ-3
72	円形	36	14	B-あ-3
73	円形	30	28	B-あ-3
74	隅丸方形	59	20	B-い-3
75	円形	44	8	B-う-3
76	方形	26	10	B-あ-3
77	楕円形	24	10	B-あ-3
78	円形	68	14	B-あ-3
79	円形	24	27	B-あ-3
80	円形	51	14	B-あ-3
81	円形	56	16	B-あ-2
82	円形	26	8	B-あ-2
83	円形	20	4	B-あ-2
84	楕円形	76	14	B-い-2
85	隅丸方形	19	9	B-い-2
86	方形	28	61	B-い-3
87	円形	19	14	B-あ-2
88	方形	28	6	B-あ-2
89	円形	59	18	B-い-2
90	楕円形	28	13	B-い-2
91	円形	20	22	B-い-2
92	円形	28	16	B-い-1
93	円形	29	7	B-い-2
94	円形	20	5	B-い-2
95	不整形	72	16	B-い-2
96	楕円形	42	8	B-い-2
97	楕円形	38	6	B-い-2
98	円形	20	8	B-い-2
99	円形	30	6	B-い-2
100	円形	37	7	B-い-2
101	円形	32	9	B-う-2
102	楕円形	72	12	B-う-2
103	円形	86	10	B-あ-2
104	円形	74	14	D-こ-2
105	円形	48	14	D-こ-2
106	円形	20	4	D-こ-1
107	円形	62	20	B-い-2
108	円形	50	8	B-う-2
109	楕円形	36	11	B-い-3
110	楕円形	32	15	B-い-3
111	楕円形	60	13	B-い-2
112	円形	28	9	B-い-3
113	楕円形？	〈38〉	9	B-い-3
114	楕円形	34	12	B-い-3
115	円形	32	4	B-い-3
116	楕円形	33	6	B-う-3
117	円形	31	32	D-け-3
118	円形	13	4	D-く-3
119	円形	16	8	D-く-3
120	円形	22	6	D-く-4
121	円形	25	4	D-き-4
122	楕円形	38	7	D-き-4
123	円形	22	16	D-き-3
124	楕円形	88	33	D-き-3
125	楕円形	69	12	D-き-2
126	円形	47	11	D-き-2
127	楕円形	76	16	D-こ-5
128	楕円形	85	32	D-く-3
129	楕円形	82	10	D-く-3
130	円形	32	24	D-く-3
131	円形	45	42	D-く-3
132	円形	21	58	D-く-2
133	円形	25	16	D-く-2
134	円形	33	28	D-こ-2
135	円形	31	27	D-こ-2
136	円形？	〈20〉	〈7〉	D-け-2
137	円形	36	11	D-け-2
138	円形	24	12	D-け-2
139	方形	22	34	D-け-2
140	楕円形	19	12	D-こ-2
141	方形	40	6	D-こ-2
142	方形	21	53	D-こ-2
143	円形	28	6	D-こ-2
144	円形	76	10	D-こ-1

B区ピット観察表（1）

ピット名	形態	直径(cm)	深さ(cm)	検出位置
145	円形	20	21	D-け-2
146	隅丸方形	28	28	D-け-1
147	方形	21	24	D-け-1
148	隅丸方形	54	7	D-け-1
149	方形	28	34	D-け-2
150	円形	24	24	D-け-2
151	円形	19	4	D-け-1
152	楕円形？	〈28〉	7	D-け-1
153	円形	26	5	D-け-1
154	円形	29	6	D-け-2
155	円形	84	11	D-け-1
156	円形	37	7	D-く-1
157	隅丸方形	25	24	D-け-1
158	方形	77	8	D-け-1
159	楕円形	28	7	D-け-1
160	楕円形	24	11	D-こ-1
161	隅丸方形	25	6	D-こ-1
162	隅丸方形	22	19	D-こ-1
163	円形	31	8	D-こ-1
164	方形	26	32	D-こ-1
165	円形	34	5	E-け-10
166	円形	64	52	D-け-4
167	方形	17	5	E-こ-10
168	方形	29	6	E-こ-10
169	円形	44	8	D-こ-1
170	円形	49	11	D-こ-1
171	円形	19	7	D-こ-1
172	円形？	〈12〉	6	D-こ-1
173	円形	21	11	D-こ-1
174	円形	26	8	D-こ-2
175	円形	22	9	D-け-1
176	方形	16	10	D-こ-1
177	円形	22	10	D-こ-1
178	円形	41	12	C-う-10
179	円形	45	11	C-う-10
180	隅丸方形？	49	20	C-お-10
181	円形	54	19	C-え-10

ピット名	形態	直径(cm)	深さ(cm)	検出位置
182	円形	38	4	C-う-9
183	不整形	32	10	C-え-10
184	円形	31	12	C-え-10
185	円形？	〈13〉	4	D-こ-1
186	円形	25	32	D-こ-3
187	円形	31	31	D-こ-3
188	方形	30	32	B-あ-3
189	方形	24	10	B-あ-4
190	楕円形	52	8	B-い-3
191	円形	18	6	D-こ-4
192	方形	24	34	D-こ-4
193	隅丸方形	16	8	B-あ-4
194	円形	16	18	B-あ-4
195	方形	20	4	B-あ-3
196	方形	28	20	B-あ-2
197	方形	14	12	D-こ-3
198	方形	22	7	B-あ-2
199	方形	25	28	B-あ-2
200	方形	24	37	C-え-10
201	円形	〈19〉	36	C-え-10
202	方形	26	46	C-え-10
203	不整形	42	28	C-え-9
204	方形	24	29	D-こ-3
205	方形	24	43	D-こ-3
206	方形	22	5	D-こ-4
207	方形	16	10	B-あ-4
208	方形	65	12	B-あ-2
209	円形	44	12	B-あ-2
210	欠番			
211	方形	18	6	B-あ-2
212	方形	16	5	B-あ-2
213	円形	57	8	B-あ-2
214	方形	24	24	B-あ-2
215	円形	52	10	B-あ-2
216	円形	54	12	B-あ-2
217	円形	32	5	B-あ-2
218	方形	22	27	B-あ-2

ピット名	形態	直径(cm)	深さ(cm)	検出位置
219	方形	40	7	B-あ-1
220	円形	18	16	B-い-1
221	円形	17	11	C-い-10
222	楕円形	48	10	C-い-10
223	方形	28	4	C-い-10
224	方形	45	10	C-い-10
225	円形	55	23	C-い-9
226	方形	44	6	C-う-9
227	方形	28	4	C-う-10
228	円形	37	9	C-う-10
229	方形	24	5	C-う-10
230	円形	18	13	C-い-10
231	方形	32	7	C-う-10
232	不整形	45	6	C-う-10
233	円形？	〈56〉	5	B-い-1
234	楕円形	94	12	B-い-2
235	楕円形	29	6	C-い-10
236	楕円形	21	7	C-い-10
237	楕円形	64	8	C-い-10
238	不整形	46	10	B-う-1
239	円形	52	8	C-う-10
240	方形	42	8	C-う-10
241	円形	20	6	E-こ-10
242	方形	32	5	E-こ-10
243	円形	80	10	D-け-1
244	方形	38	8	D-け-1
245	円形	74	23	D-け-1
246	円形	68	8	D-き-2
247	円形	85	8	E-け-10
248	方形	37	6	E-け-10
249	隅丸方形	25	27	D-け-4
250	方形	22	38	D-こ-3
251	方形	42	8	D-け-2
252	円形	43	30	D-く-2
253	円形	44	9	D-き-2
254	円形	24	26	B-あ-3
255	円形	15	8	D-こ-2

B区ピット観察表（2）

第3節　C区

千曲川右岸第1段丘の東端に位置する。試掘調査によって土坑・ピット及び土師器等の遺物が発見されたことから、遺跡の確認できた地域の調査を実施した。遺構検出面は地域によって異なり、水田床土直下のシルト上面または砂礫層上面となる。東端の比高差19mを測る段丘との境界付近は低地となり、遺構は確認されなかった。検出された遺構は、中世の住居と考えられる竪穴状遺構、土坑、溝跡、ピットである。遺物は中世の陶磁器・土鍋・古銭などが出土した。

(1) 竪穴状遺構

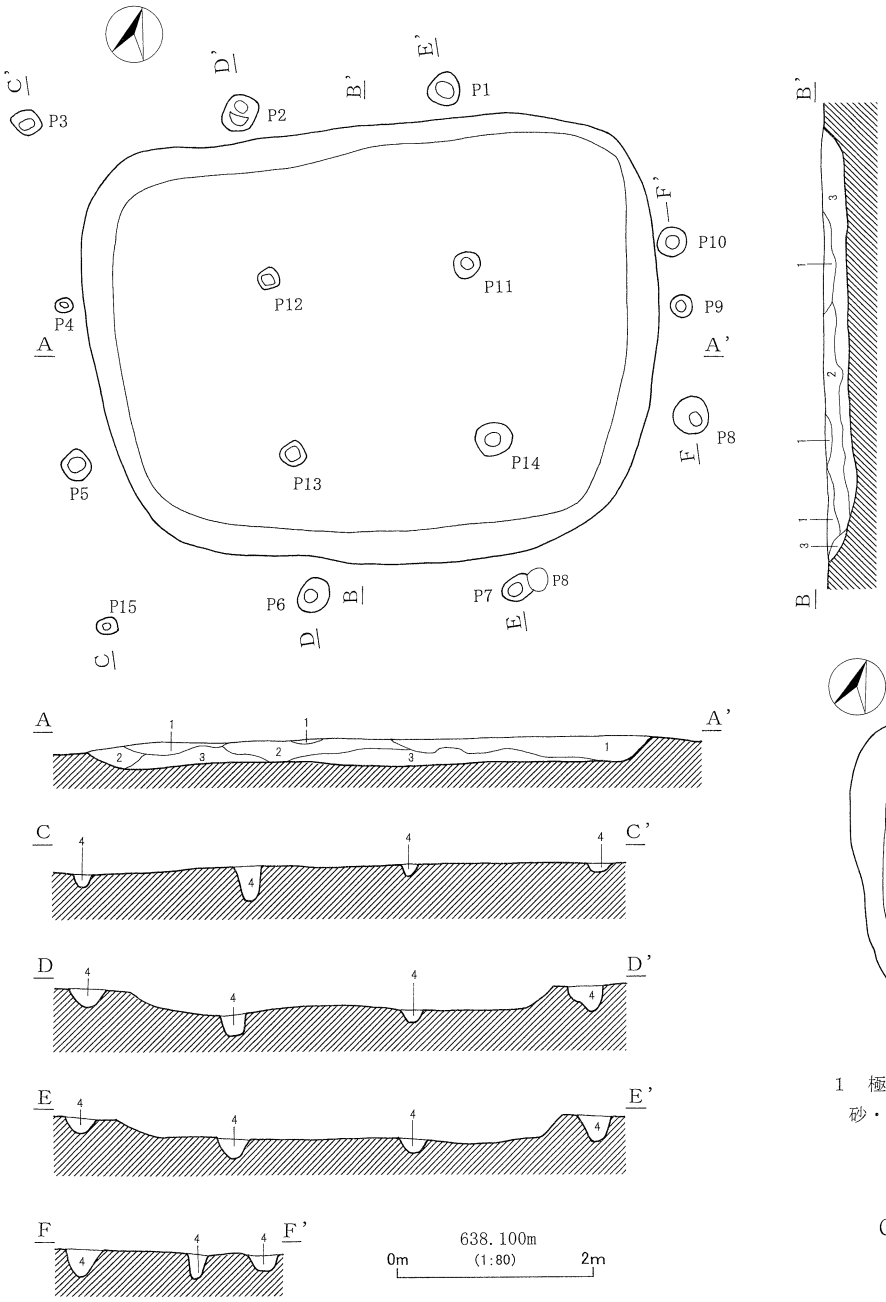
竪穴状遺構は竪穴建物址・竪穴遺構とも呼ばれ、中世以降の遺跡から発見される代表的な遺構の一つである。形態は方形、長方形が中心で規模は2m前後から時には10mを越す大型も確認されている。遺構の内部に柱穴を持ち建物址と考えられるものや使途不明なものが存在するが、基本的に建物址とされ、人々の住居址・兵事の簡易住居・季節的住居・貯蔵庫・作業場・集会場などと考えられている。

本遺跡では多数の掘り込みが確認されているが、今回は土坑と区別するために1辺3mを超す掘り込みを竪穴状遺構として取り扱った。

Ta1号竪穴状遺構

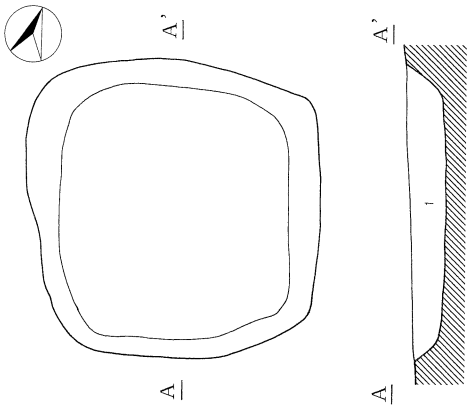
遺構はI－う－4グリッドに位置する。規模は長軸6.0m、短軸4.8m、確認面から床面までの深さは最大28cmを測る。平面形態は東西方向に長軸を持つ隅丸の方形である。主軸は北から西に20°振る。シルト面が床面となり、ほぼ平坦で、やや硬さを持つ。ピットは隅丸方形の遺構内に4個、周辺を囲むように11個確認でき、竪穴状遺構と掘立柱建物址が組み合わされた状況で確認された。遺構内及び周辺で火を使用した痕跡は確認できなかった。床面と考えられる平坦な硬質面を持ち、規則正しいピットの存在から、住居的に使用された竪穴状遺構と考えられる。

時期は、周辺の土坑から出土した古銭や陶磁器類の年代から中世としたい。



C区Ta1号竪穴状遺構実測図

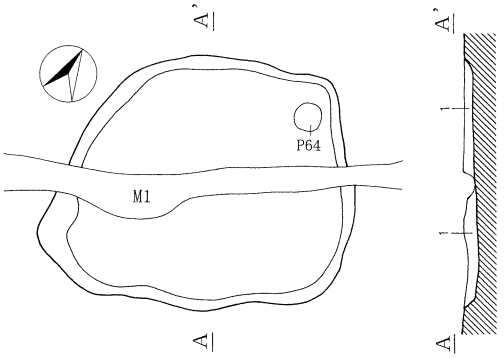
1　褐色土（10YR4/6）ｼﾙﾄ質。
2　暗褐色土（10YR3/4）
褐色ｼﾙﾄﾌﾞﾛｯｸ多い。炭化物含む。
3　黒褐色土（10YR2/3）
褐色ｼﾙﾄ多い。炭化物含む。
4　暗褐色土（7.5YR3/3）
褐色ｼﾙﾄﾌﾞﾛｯｸ・炭化物・砂含む。



1　極暗赤褐色土（5YR2/3）
砂・礫（1~10 cm大）・炭化物含む。やや粘性あり。

638.000m
(1:80)
0m
2m

C区Ta2号竪穴状遺構実測図



1　黒褐色土（10YR2/3）砂・小石・炭化物含む。

638.100m
(1:80)
0m
2m

C区Ta3号竪穴状遺構実測図

Ta2号竪穴状遺構

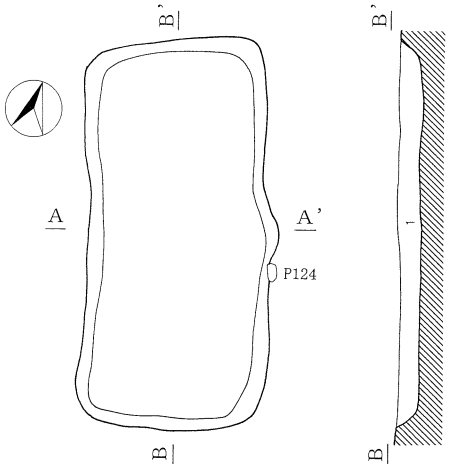
遺構はI－こ－4グリッドに位置する。規模は長軸3.2m、短軸3.1m、確認面から床面までの深さは40cmを測る。平面形態は方形である。

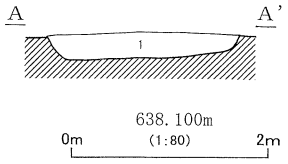
Ta3号竪穴状遺構

遺構はJ－え－8グリッドに位置し、M1に切られる。規模は長軸3.3m、短軸2.6m、確認面から床面までの深さは12cmを測る。平面形態は不整方形である。

Ｔａ４号竪穴状遺構

遺構はＪ－け－８グリッドに位置する。規模は長軸4.2m、短軸1.7m、確認面から床面までの深さは最大30cmを測る。平面形態は南北方向に長軸を持つ長方形で、東壁中央付近に僅かな張り出し部が存在する。





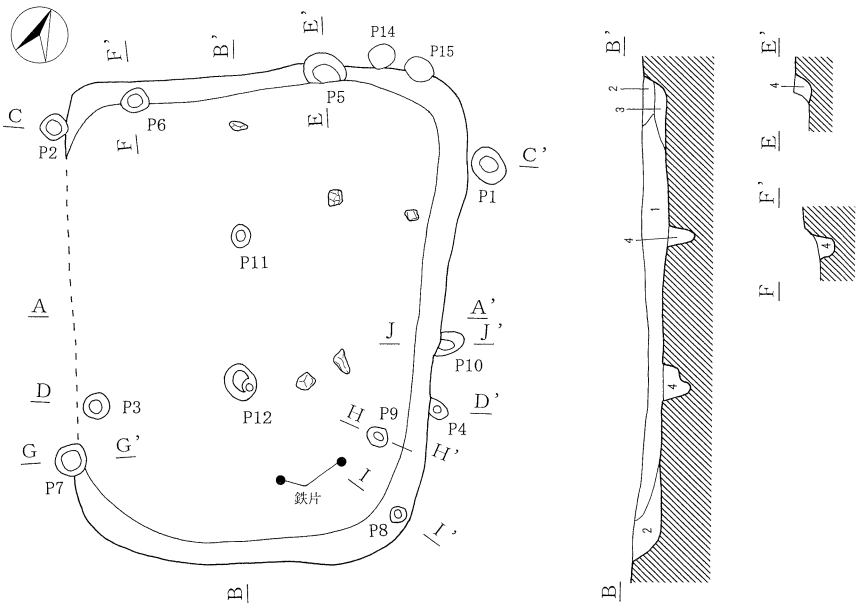
1　黒褐色土（10YR3/2）褐色シルトブロック・砂・炭化物・小石含む。

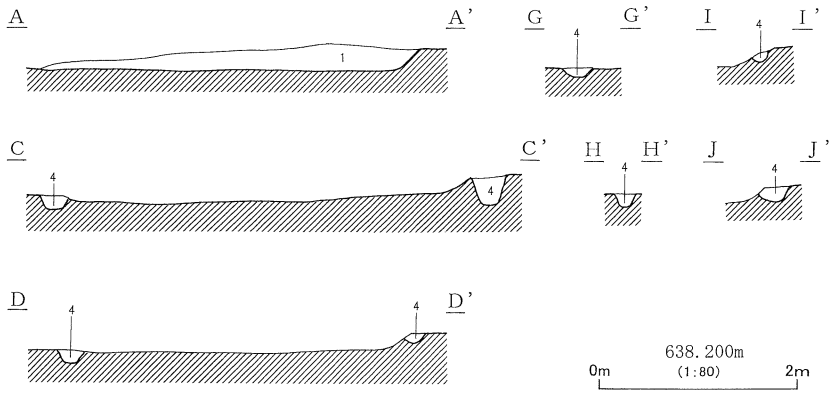
C区Ｔａ４号竪穴状遺構実測図

Ｔａ５号竪穴状遺構

遺構はＩ－お－３グリッドに位置し、規模は長軸5.2m、短軸4.2m、確認面から床面までの深さは最大で25cmを測る。主軸は北から西に24°振る。床面はやや硬さを持つ。ピットは壁面及び中央付近から12個確認できた。Ｐ11・12が主柱穴、壁際のピットは壁柱穴と考えられる。周辺で火を使用した痕跡は確認できなかった。

遺物は南東コーナー付近の床面上から鉄片が出土した。





1　極暗褐色土（7.5YR2/3）
シルト主体。砂・小石・炭化物含む。
2　褐色土（7.5YR4/3）シルト主体。
3　暗褐色土（7.5YR3/3）
シルト主体。褐色シルトブロック・炭化物含む。
4　暗褐色土（7.5YR3/3）
シルト主体。炭化物含む。

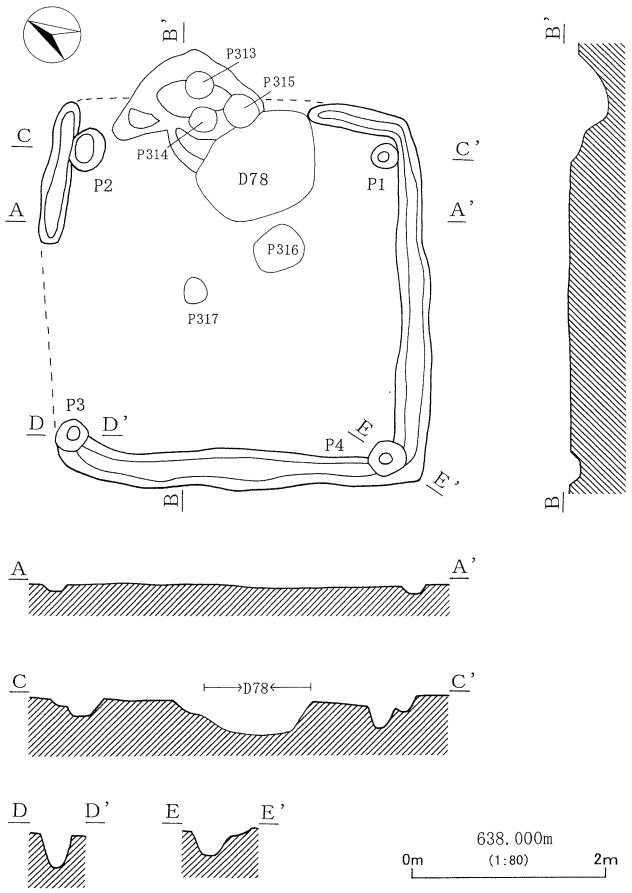
C区Ｔa5号竪穴状遺構実測図

（２）住居址

遺構はＩ－あ－５グリッドに位置する。規模は長軸4.1m、短軸3.9mを測る。平面形態は方形と考えられる。上部は完全に削り取られた状態で竪穴状の掘り込みを有した住居か平地式であるかの判断はできなかった。確認できたのは壁際に掘りこまれたと考えられる部分的な壁溝及びコーナーに掘り

込まれたピットである。

出土遺物が認められないため時期の確定はできなかった。



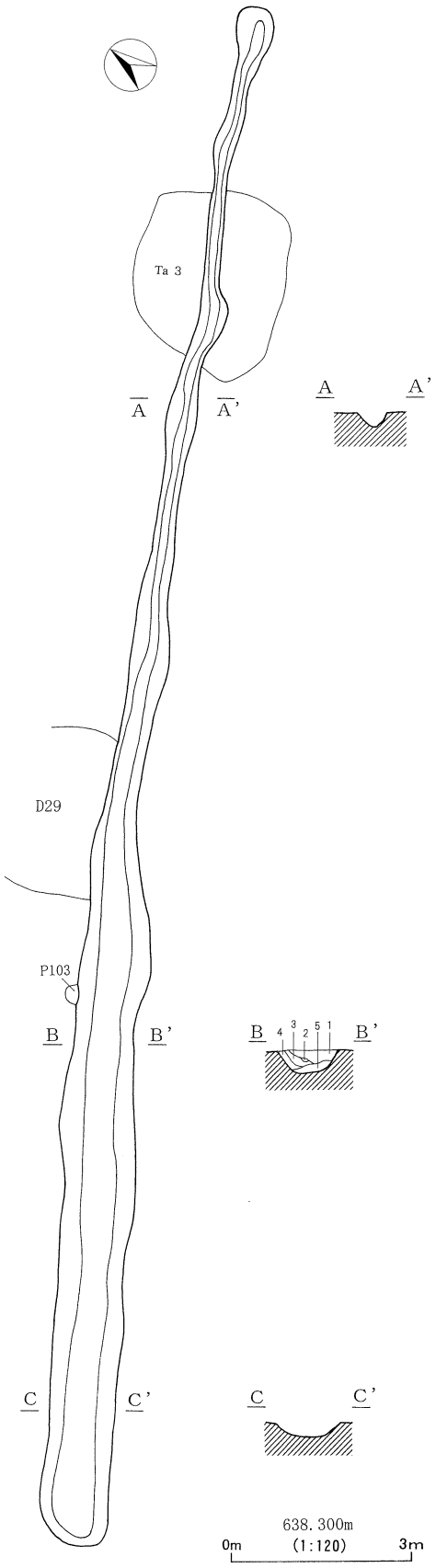
C区H１号住居址実測図

（３）溝跡

Ｍ１号溝跡

遺構はＩ－き－３グリッドからＪ－え－７グリッドにかけて、およそ東西方向に延びる。確認された規模はいずれも最大値で長さ26.4m、確認面での幅1.2m、底幅0.7m、確認面から底面までの深さは0.2mを測る。とぎれているがＭ２号溝状遺構につながる可能性が考えられる。

遺物は、出土しなかった。



1　暗赤灰色土（2.5YR3/1）シルト主体。軽石・炭化物含む。
2　褐色土（7.5YR4/4）シルト主体。
3　黒褐色土（7.5YR3/1）シルト少ない。
4　褐色土（7.5YR4/4）シルト・砂多く含む。
5　灰褐色土（7.5YR4/2）シルト主体。

C区M１号溝跡実測図

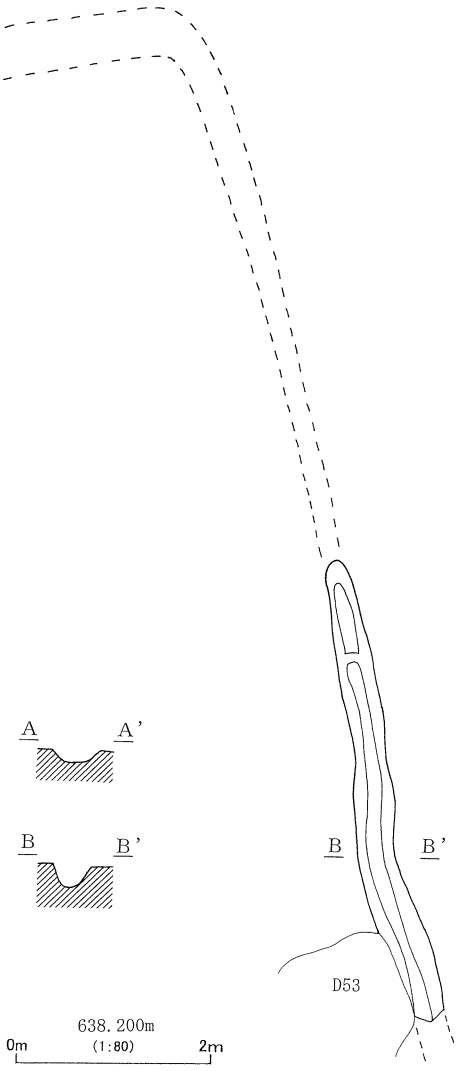
Ｍ２号溝跡

遺構はＪ－か－９グリッドからＪ－き－６グリッドにかけて存在し、途中でほぼ直角に方向を変えるが、この間の掘り込みは検出段階で消滅した。掘り込みが残存する地域は２カ所で、規模はいずれも最大値で長さ7.2m、確認面での幅0.7m、底幅0.4m及び長さ5m、確認面での幅0.4m、底幅0.2mである。とぎれる区域が長いが、Ｍ１号溝跡につながる可能性が考えられる。

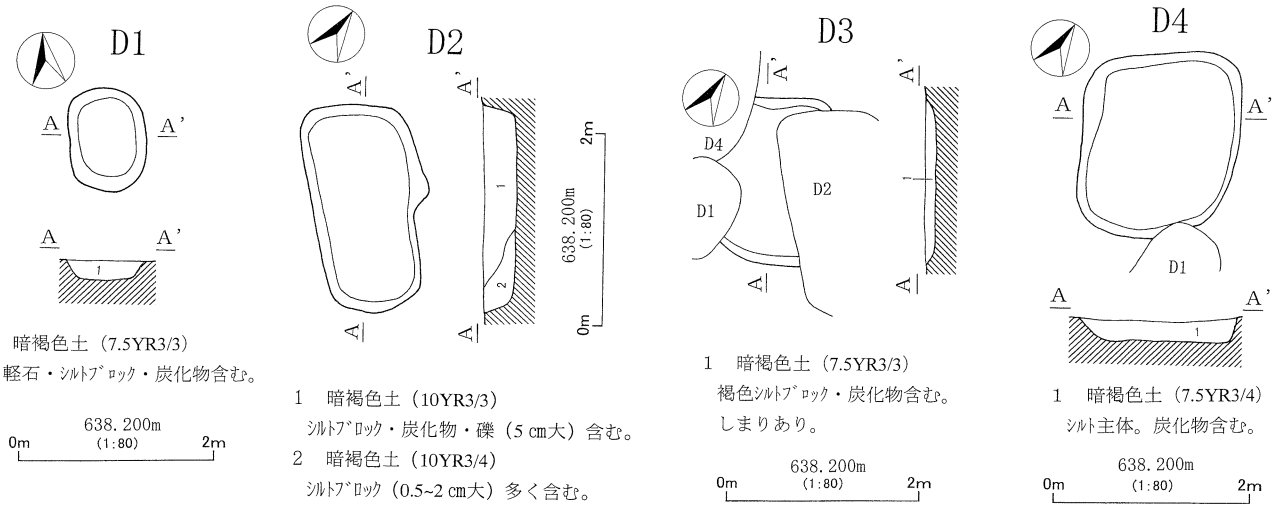
（４）土坑

竪穴状遺構及びピットと区別するため、直径または１辺が30cm以上で３mに満たない掘り込みを土坑として取り扱った。形態は円形・隅丸方形・楕円形等さまざまである。隅丸方形状の土坑には中世の輸入銭が出土する遺構が含まれ、覆土中に骨粉と思われる白色粒が認められることから、土坑墓と考えられた。またやや大型で楕円形の掘り込みの底部には小ピットが数個掘り込まれていることから、落とし穴の可能性が認められる。この他用途不明の掘り込みも多いが、焼土を含む掘り込み、土鍋・中近世の陶磁器が出土する掘り込みなどが存在した。

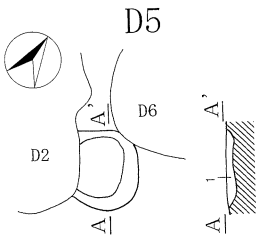
時期は、周辺遺構出土の遺物の特徴から、中世から近世にかけて掘り込まれた遺構と考えられる。



Ｃ区Ｍ２号溝跡実測図

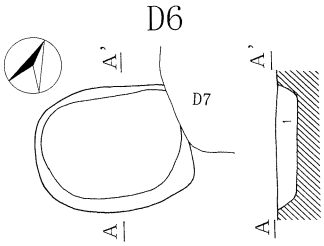


Ｃ区土坑実測図（１）



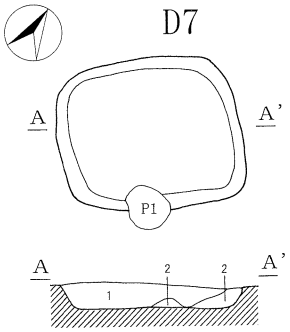
1　暗褐色土（7.5YR3/3）
褐色ｼﾙﾄﾌﾞﾛｯｸ・砂含む。

638.200m
0m (1:80) 2m



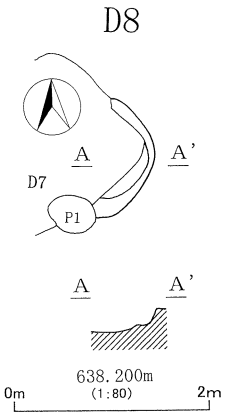
1　黒褐色土（7.5YR3/2）
砂・炭化物含む。

638.200m
0m (1:80) 2m

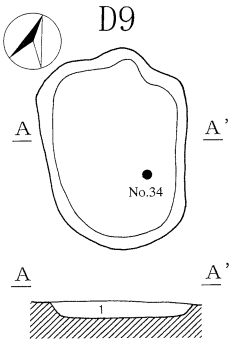


1　暗褐色土（7.5YR3/4）
ｼﾙﾄ主体。炭化物含む。
2　褐色土（7.5YR4/4）
ｼﾙﾄ主体。砂含む。

638.200m
0m (1:80) 2m

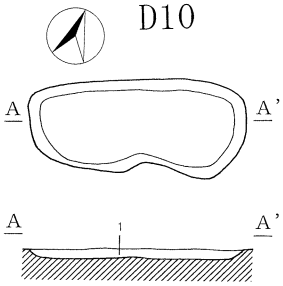


638.200m
0m (1:80) 2m



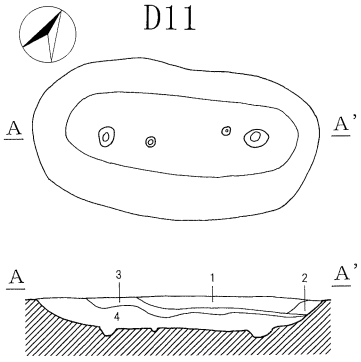
1　暗褐色土（7.5YR3/3）
砂・炭化物含む。

638.200m
0m (1:80) 2m



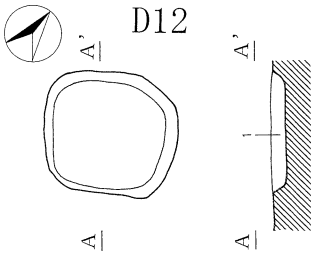
1　黒褐色土（10YR2/3）
砂・礫（1~3 cm大）多く含む。

638.100m
0m (1:80) 2m



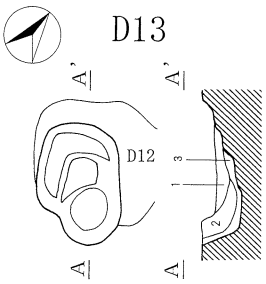
1　黒褐色土（7.5YR2/2）炭化物・砂含む。ｼﾙﾄ質。
2　暗褐色土（7.5YR3/4）ｼﾙﾄ質。
3　黒色土（7.5YR2/1）砂含む。ｼﾙﾄ質。しまりあり。
4　暗褐色土（7.5YR3/3）砂・炭化物含む。ｼﾙﾄ質。

638.200m
0m (1:80) 2m



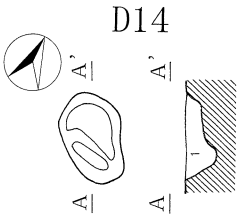
1　黒色土（7.5YR2/1）砂・炭化物含む。

638.200m
0m (1:80) 2m



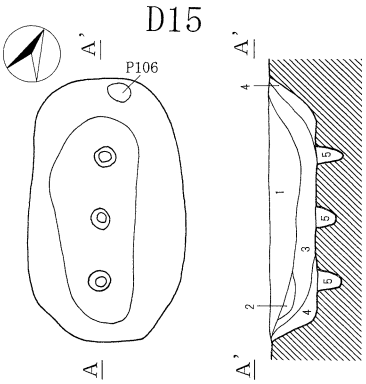
D13
1　褐色土（7.5YR4/4）
暗褐色土ﾌﾞﾛｯｸ・軽石含む。ｼﾙﾄ質。
2　黒色土（7.5YR2/1）
褐色土ﾌﾞﾛｯｸ・砂・炭化物含む。
ｼﾙﾄ質。
3　褐色土（7.5YR4/3）
暗褐色土ﾌﾞﾛｯｸと褐色土の混合。
ｼﾙﾄ質。

638.200m
0m (1:80) 2m



D14
1　極暗褐色土（7.5YR2/3）
砂・炭化物含む。ややしまりあり。

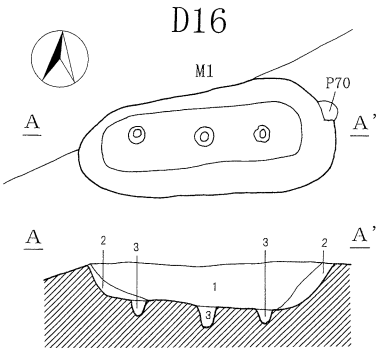
638.200m
0m (1:80) 2m



D15
1　黒色土（7.5YR2/1）ｼﾙﾄ質。軽石・砂含む。
2　黒褐色土（7.5YR2/2）ｼﾙﾄ質。軽石・砂含む。
3　黒褐色土（7.5YR3/2）ｼﾙﾄ質。軽石・砂含む。
4　褐色土（7.5YR4/3）ｼﾙﾄ主体。
5　暗褐色土（7.5YR3/3）しまりなし。ｼﾙﾄ主体。
黒色土含む。

D 16
1　黒褐色土（10YR2/2）ｼﾙﾄ質。軽石・砂含む。
2　暗褐色土（10YR3/3）ｼﾙﾄ質。軽石・砂含む。
3　暗褐色土（10YR3/4）しまりなし。

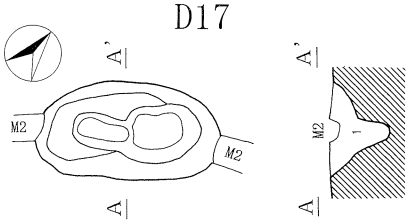
638.200m
0m (1:80) 2m



638.200m
0m (1:80) 2m

C区土坑実測図（2）

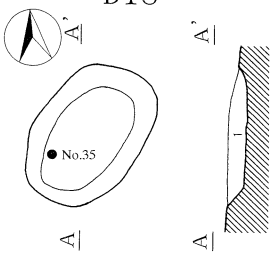
D17



1　極暗褐色土（7.5YR2/3）
砂・礫（5 cm大）やや多く含む。しまりあり。

638.200m
0m (1:80) 2m

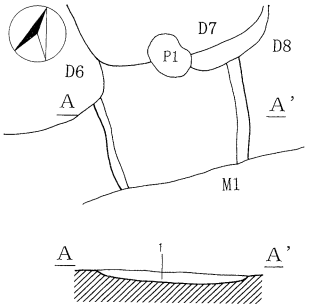
D18



1　黒褐色土（7.5YR2/2）
砂・炭化物含む。ややしまりあり。

638.300m
0m (1:80) 2m

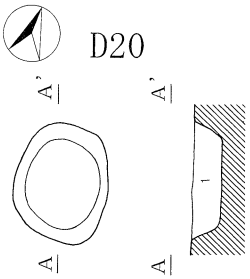
D19



1　極暗褐色土（7.5YR2/3）シルト質。炭化物含む。

638.300m
0m (1:80) 2m

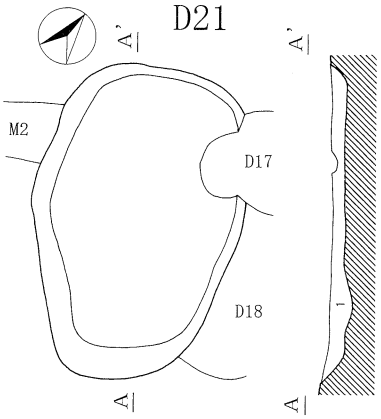
D20



1　黒褐色土（10YR3/2）
砂主体。礫（1~5 cm大）含む。

638.000m
0m (1:80) 2m

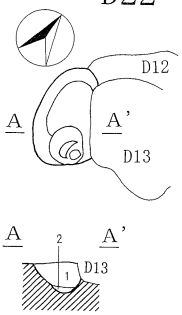
D21



1　黒褐色土（10YR2/3）砂・炭化物・
礫（1~10 cm大）含む。

638.300m
0m (1:80) 2m

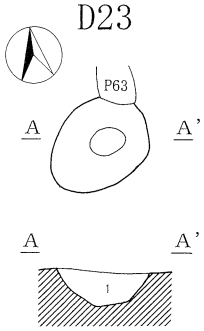
D22



1　黒褐色土（10YR2/3）
シルト主体。炭化物・焼土含む。
2　暗褐色土（10YR3/4）
シルト主体。暗褐色土ブロック含む。

638.200m
0m (1:80) 2m

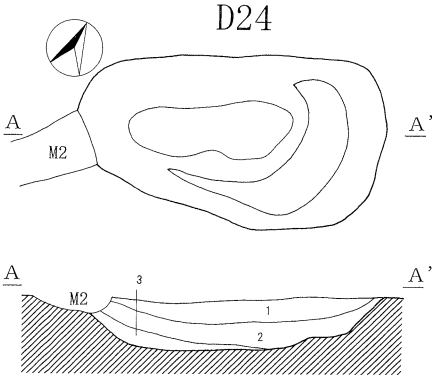
D23



1　黒褐色土（7.5YR2/2）
シルトブロック・軽石・砂・
炭化物含む。

638.200m
0m (1:80) 2m

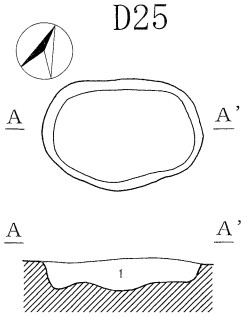
D24



1　極暗褐色土（7.5YR2/3）シルト質。砂・軽石・炭化物含む。
2　黒褐色土（7.5YR2/2）砂・軽石・炭化物・礫（10 cm大）含む。
やや粘性あり。
3　暗褐色土（7.5YR3/3）砂主体。

638.200m
0m (1:80) 2m

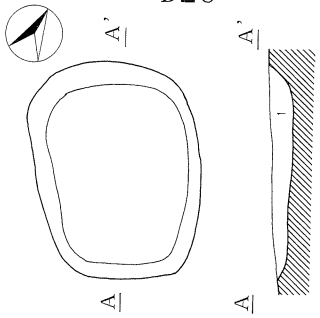
D25



1　黒褐色土（10YR2/2）
砂・礫（1~10 cm大）・炭化物含む。

638.200m
0m (1:80) 2m

D26

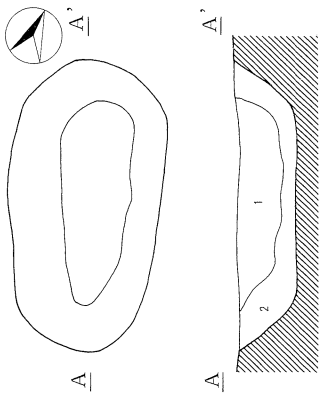


1　黒褐色土（10YR2/3）
砂多い。礫（1~5 cm大）・炭化物含む。

638.200m
0m (1:80) 2m

C区土坑実測図（3）

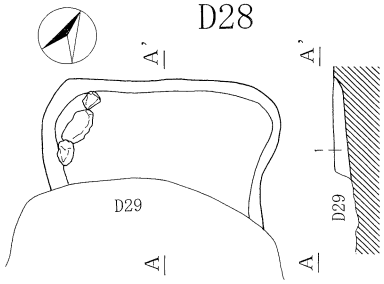
D27



1　黒褐色土（10YR2/2）
シルトブロック・軽石・砂・炭化物含む。
ややしまりあり。
2　暗褐色土（10YR3/3）
砂・礫（5~15 cm大）含む。

638.300m
0m　(1:80)　2m

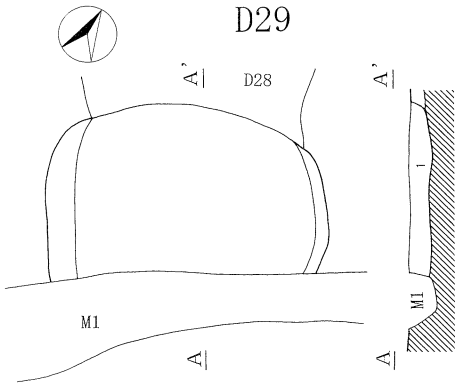
D28



1　黒褐色土（10YR2/3）
炭化物・シルトブロック・軽石含む。

638.200m
0m　(1:80)　2m

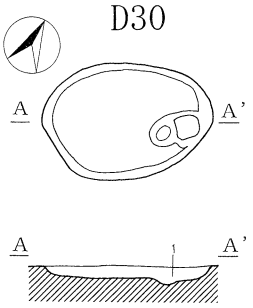
D29



1　黒褐色土（10YR2/2）炭化物・褐色シルトブロック・灰含む。

638.200m
0m　(1:80)　2m

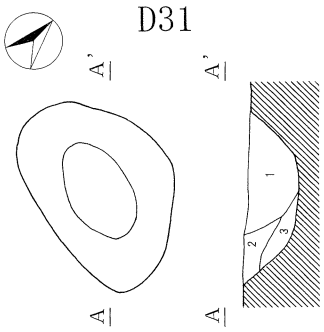
D30



1　黒褐色土（10YR2/3）
砂・礫（1~5 cm大）含む。

638.000m
0m　(1:80)　2m

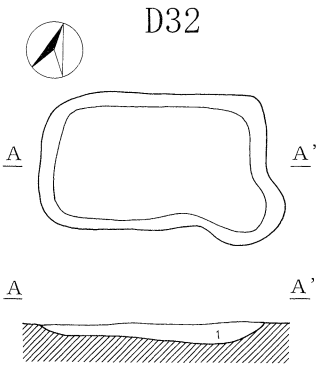
D31



1　黒褐色土（10YR2/2）
砂・小石・炭化物含む。
2　暗褐色土（10YR3/4）
シルト主体。小石・砂含む。
3　暗褐色土（10YR3/4）
シルト主体。小石・砂・礫（5~10 cm大）含む。

638.400m
0m　(1:80)　2m

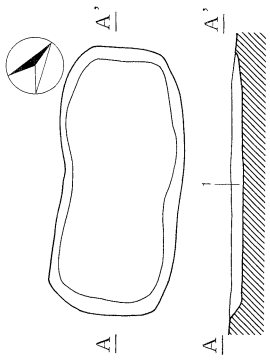
D32



1　極暗褐色土（7.5YR2/3）
砂・小石・炭化物含む。

638.300m
0m　(1:80)　2m

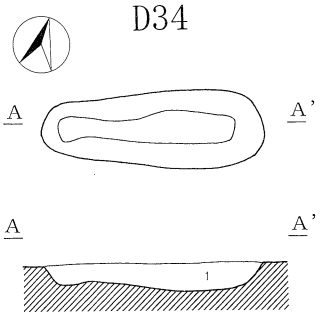
D33



1　黒褐色土（7.5YR3/2）
褐色シルトブロック・砂・
炭化物含む。

638.000m
0m　(1:80)　2m

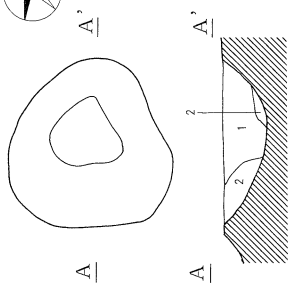
D34



1　極暗褐色土（7.5YR2/3）
褐色シルトブロック多い。炭化物含む。

638.300m
0m　(1:80)　2m

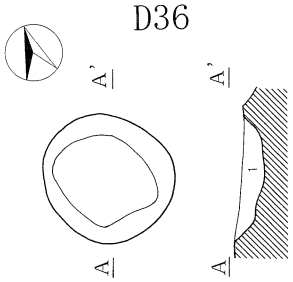
D35



1　黒褐色土（10YR2/3）
褐色シルトブロック・小石含む。
2　暗褐色土（10YR3/4）
シルト主体。砂・小石含む。

638.000m
0m　(1:80)　2m

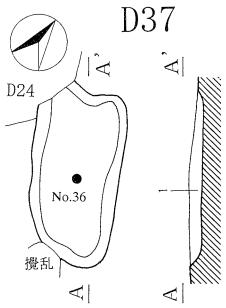
D36



1　黒褐色土（10YR2/3）
砂・シルト・小石含む。

638.000m
0m　(1:80)　2m

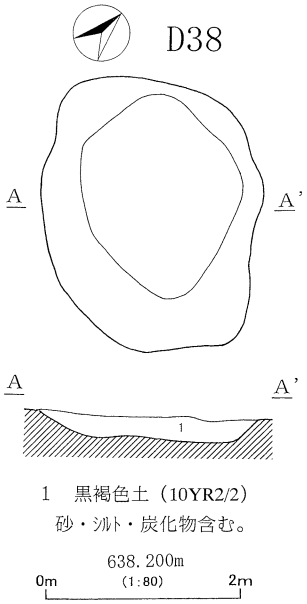
D37



1　暗褐色土（7.5YR3/3）
砂・礫（1~10 cm大）含む。

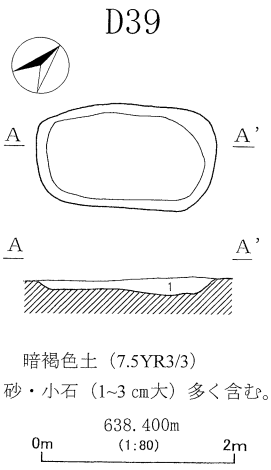
638.200m
0m　(1:80)　2m

C区土坑実測図（4）



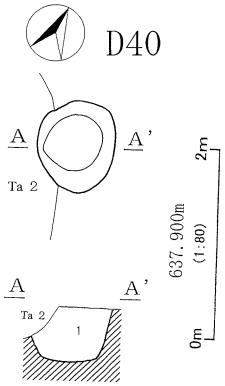
1　黒褐色土（10YR2/2）
砂・ｼﾙﾄ・炭化物含む。

638.200m
0m (1:80) 2m

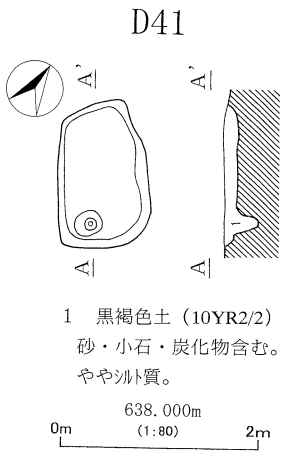


1　暗褐色土（7.5YR3/3）
砂・小石（1~3 cm大）多く含む。

638.400m
0m (1:80) 2m

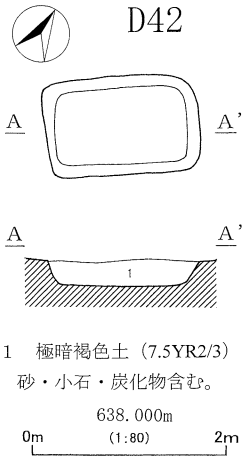


1　黒褐色土（7.5YR3/1）
砂・小石（1~3 cm大）含む。
やや粘性あり。



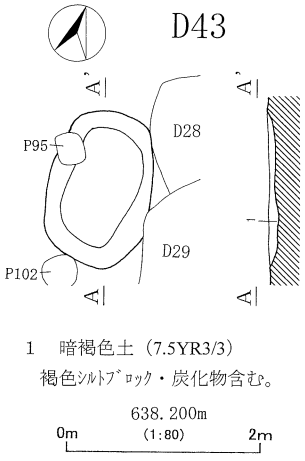
1　黒褐色土（10YR2/2）
砂・小石・炭化物含む。
ややｼﾙﾄ質。

638.000m
0m (1:80) 2m



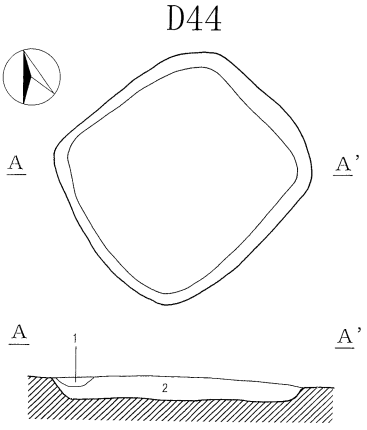
1　極暗褐色土（7.5YR2/3）
砂・小石・炭化物含む。

638.000m
0m (1:80) 2m



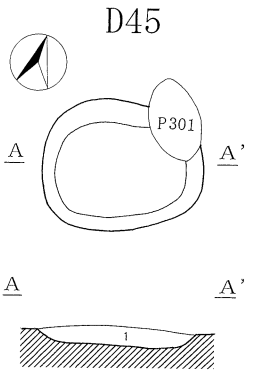
1　暗褐色土（7.5YR3/3）
褐色ｼﾙﾄﾌﾞﾛｯｸ・炭化物含む。

638.200m
0m (1:80) 2m



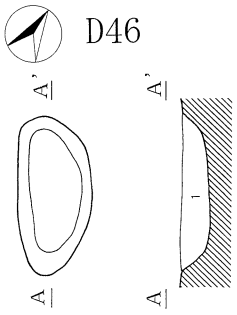
1　黒褐色土（7.5YR3/2）砂・小石含む。
2　暗褐色土（7.5YR3/4）粘土質。炭化物含む。

638.600m
0m (1:80) 2m



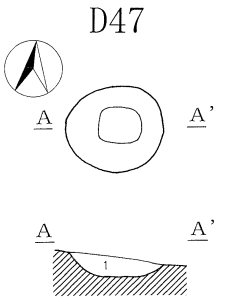
1　暗褐色土（7.5YR3/3）
砂多い。炭化物含む。

638.400m
0m (1:80) 2m



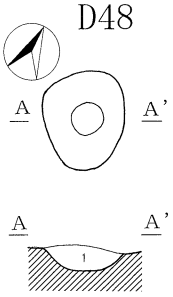
1　暗褐色土（7.5YR3/3）
砂多い。礫（3~10 cm大）
含む。

638.000m
0m (1:80) 2m



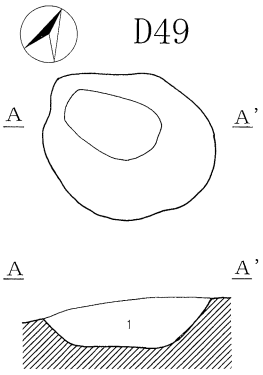
1　黒褐色土（10YR2/2）
砂・礫（3~10 cm大）・
炭化物含む。

638.100m
0m (1:80) 2m



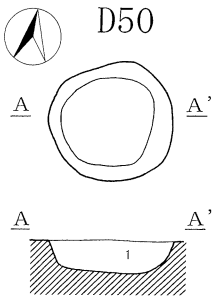
1　黒褐色土（10YR2/3）
砂・炭化物含む。

638.200m
0m (1:80) 2m



1　黒褐色土（10YR2/2）
砂・炭化物・
小石（1~5 cm大）含む。

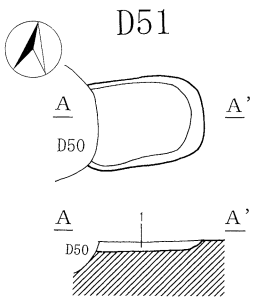
638.300m
0m (1:80) 2m



1　暗褐色土（10YR3/3）
砂・小石・礫（5 cm大）
含む。

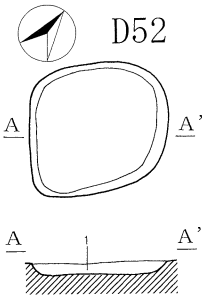
638.000m
0m (1:80) 2m

C区土坑実測図（5）



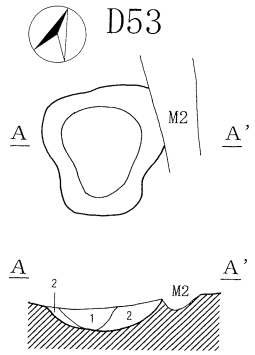
1　暗褐色土（10YR3/3）
小石多く含む。

638.000m
0m (1:80) 2m



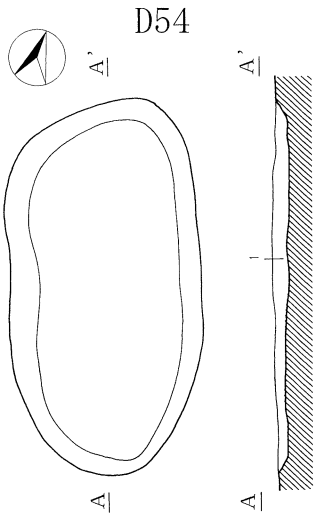
1　暗褐色土（10YR3/3）
砂・小石・礫（5~10 cm大）含む。

638.000m
0m (1:80) 2m



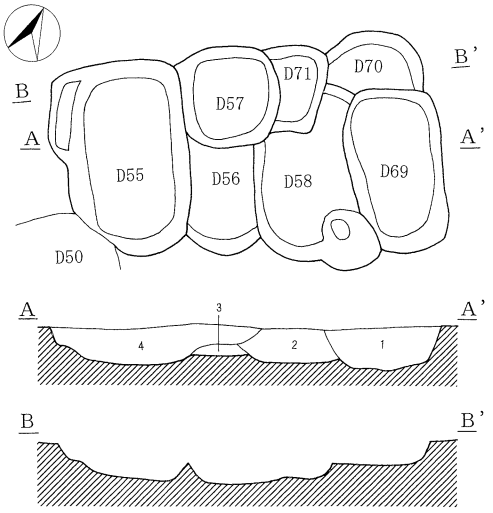
1　極暗褐色土（7.5YR2/3）
褐色ｼﾙﾄﾌﾞﾛｯｸ・炭化物含む。
2　暗褐色土（7.5YR3/3）
砂・炭化物含む。

638.300m
0m (1:80) 2m



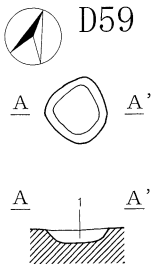
1　黒褐色土（10YR2/2）
砂・小石・礫（5~20 cm大）・炭化物含む。

638.100m
0m (1:80) 2m



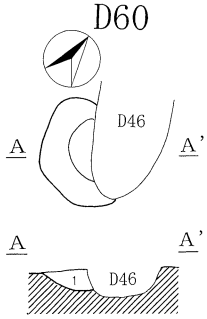
1　黒褐色土（10YR2/3）小石・砂・礫・炭化物含む。
2　黒褐色土（10YR2/3）小石・砂・礫・炭化物多く含む。
3　黒褐色土（10YR3/2）砂多く、小石含む。
4　黒褐色土（10YR2/3）砂・小石・炭化物含む。

638.000m
0m (1:80) 2m



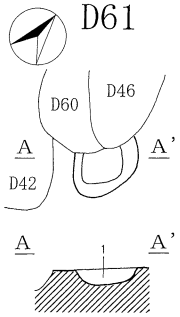
1　黒褐色土（10YR2/3）
砂・礫（4~8 cm大）含む。

638.100m
0m (1:80) 2m



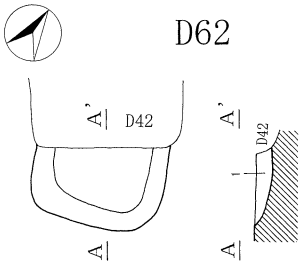
1　黒褐色土（10YR2/2）
砂・軽石含む。

638.000m
0m (1:80) 2m



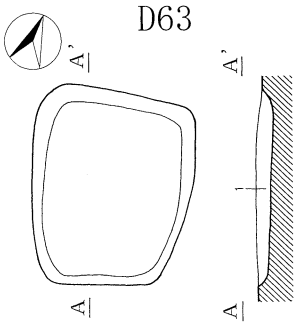
1　黒褐色土（10YR3/2）
小石・砂含む。

638.000m
0m (1:80) 2m



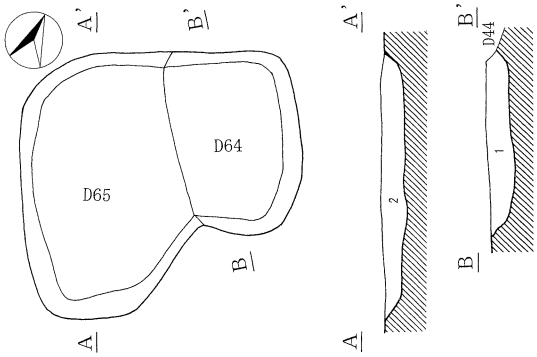
1　黒褐色土（10YR2/3）
褐色土ﾌﾞﾛｯｸ・砂・小石含む。

638.000m
0m (1:80) 2m



1　暗褐色土（7.5YR3/3）
砂・小石・炭化物含む。

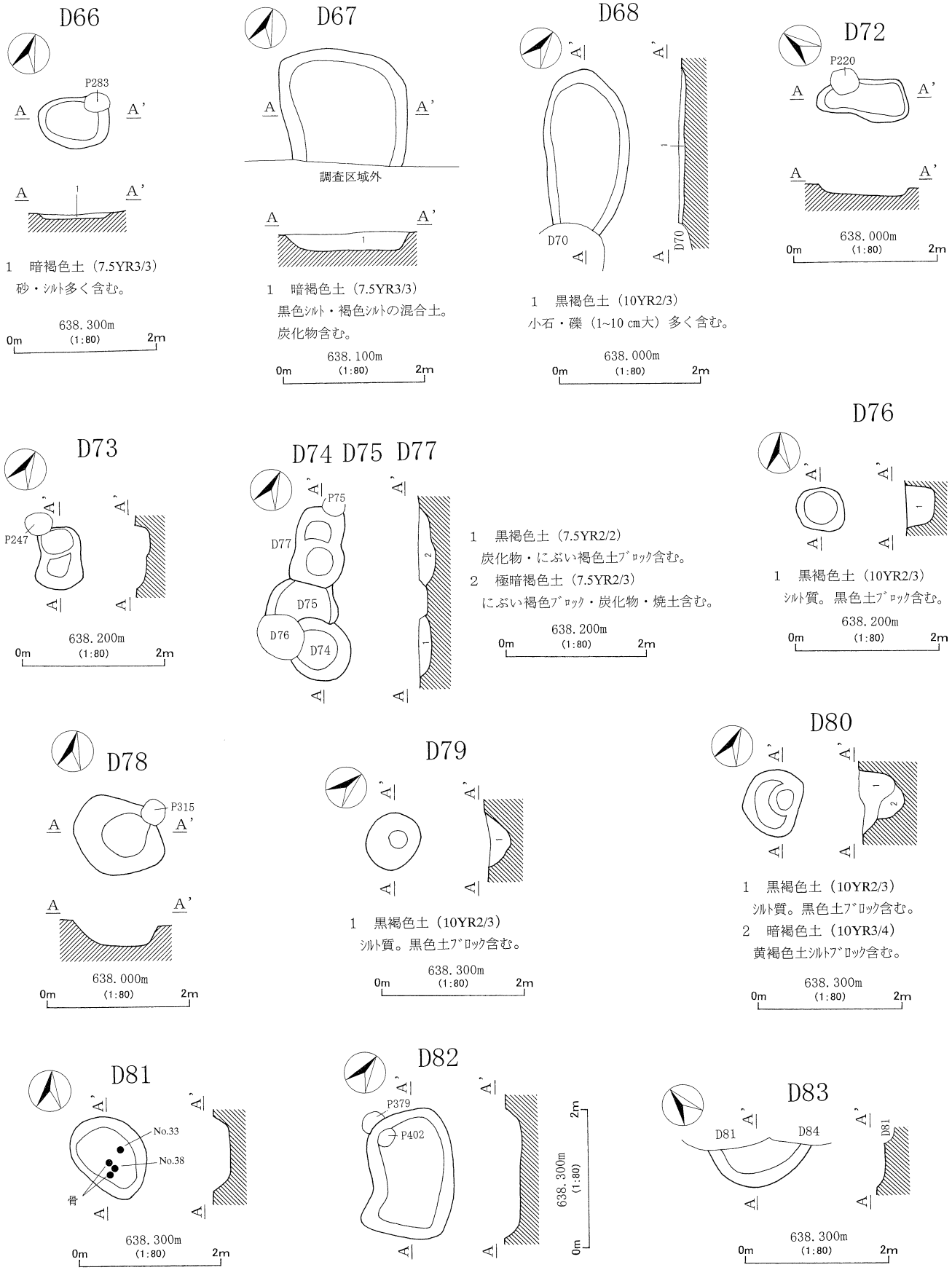
638.200m
0m (1:80) 2m



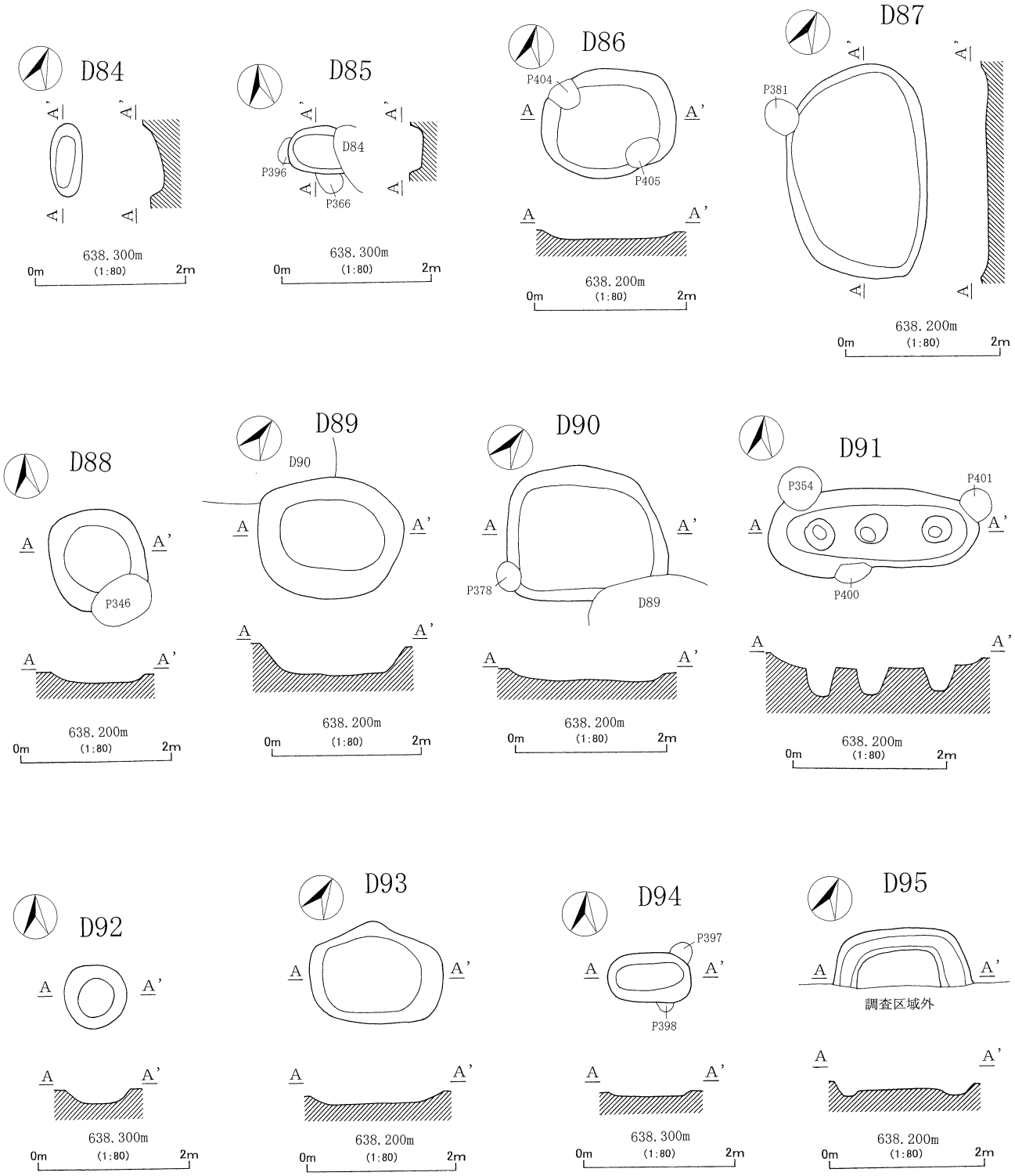
1　黒褐色土（7.5YR2/2）砂・小石・礫（1~10 cm大）・炭化物含む。
2　暗褐色土（7.5YR3/3）砂・小石・礫（1~10 cm大）・炭化物含む。

638.300m
0m (1:80) 2m

C区土坑実測図（6）


D66
P283
A
A'
1
1　暗褐色土（7.5YR3/3）
砂・ｼﾙﾄ多く含む。
638.300m
0m (1:80) 2m
D67
調査区域外
1　暗褐色土（7.5YR3/3）
黒色ｼﾙﾄ・褐色ｼﾙﾄの混合土。
炭化物含む。
638.100m
0m (1:80) 2m
D68
D70
1　黒褐色土（10YR2/3）
小石・礫（1~10 cm大）多く含む。
638.000m
0m (1:80) 2m
D72
P220
638.000m
0m (1:80) 2m
D73
P247
638.200m
0m (1:80) 2m
D74 D75 D77
P75
D77
D75
D76
D74
1　黒褐色土（7.5YR2/2）
炭化物・にぶい褐色土ﾌﾞﾛｯｸ含む。
2　極暗褐色土（7.5YR2/3）
にぶい褐色ﾌﾞﾛｯｸ・炭化物・焼土含む。
638.200m
0m (1:80) 2m
D76
1　黒褐色土（10YR2/3）
ｼﾙﾄ質。黒色土ﾌﾞﾛｯｸ含む。
638.200m
0m (1:80) 2m
D78
P315
638.000m
0m (1:80) 2m
D79
1　黒褐色土（10YR2/3）
ｼﾙﾄ質。黒色土ﾌﾞﾛｯｸ含む。
638.300m
0m (1:80) 2m
D80
1　黒褐色土（10YR2/3）
ｼﾙﾄ質。黒色土ﾌﾞﾛｯｸ含む。
2　暗褐色土（10YR3/4）
黄褐色土ｼﾙﾄﾌﾞﾛｯｸ含む。
638.300m
0m (1:80) 2m
D81
No.33
No.38
骨
638.300m
0m (1:80) 2m
D82
P379
P402
638.300m
(1:80)
2m
0m
D83
D81
D84
638.300m
0m (1:80) 2m

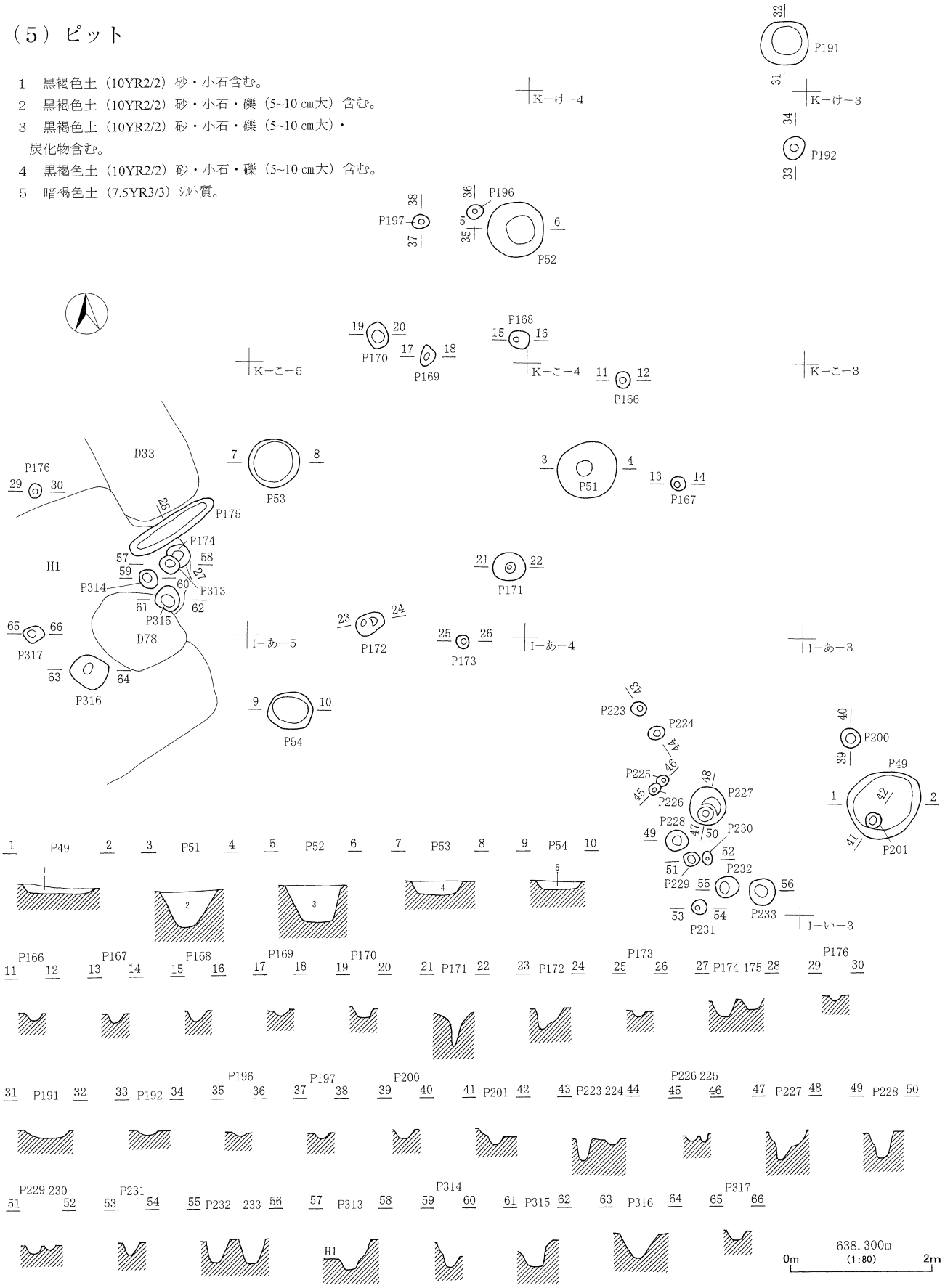
C区土坑実測図（7）


D84
A'
A
638.300m
0m (1:80) 2m
D85
D84
P396
P366
638.300m
0m (1:80) 2m
D86
P404
P405
638.200m
0m (1:80) 2m
D87
P381
638.200m
0m (1:80) 2m
D88
P346
638.200m
0m (1:80) 2m
D89
D90
638.200m
0m (1:80) 2m
D90
P378
D89
638.200m
0m (1:80) 2m
D91
P354
P401
P400
638.200m
0m (1:80) 2m
D92
638.300m
0m (1:80) 2m
D93
638.200m
0m (1:80) 2m
D94
P397
P398
638.300m
0m (1:80) 2m
D95
調査区域外
638.200m
0m (1:80) 2m

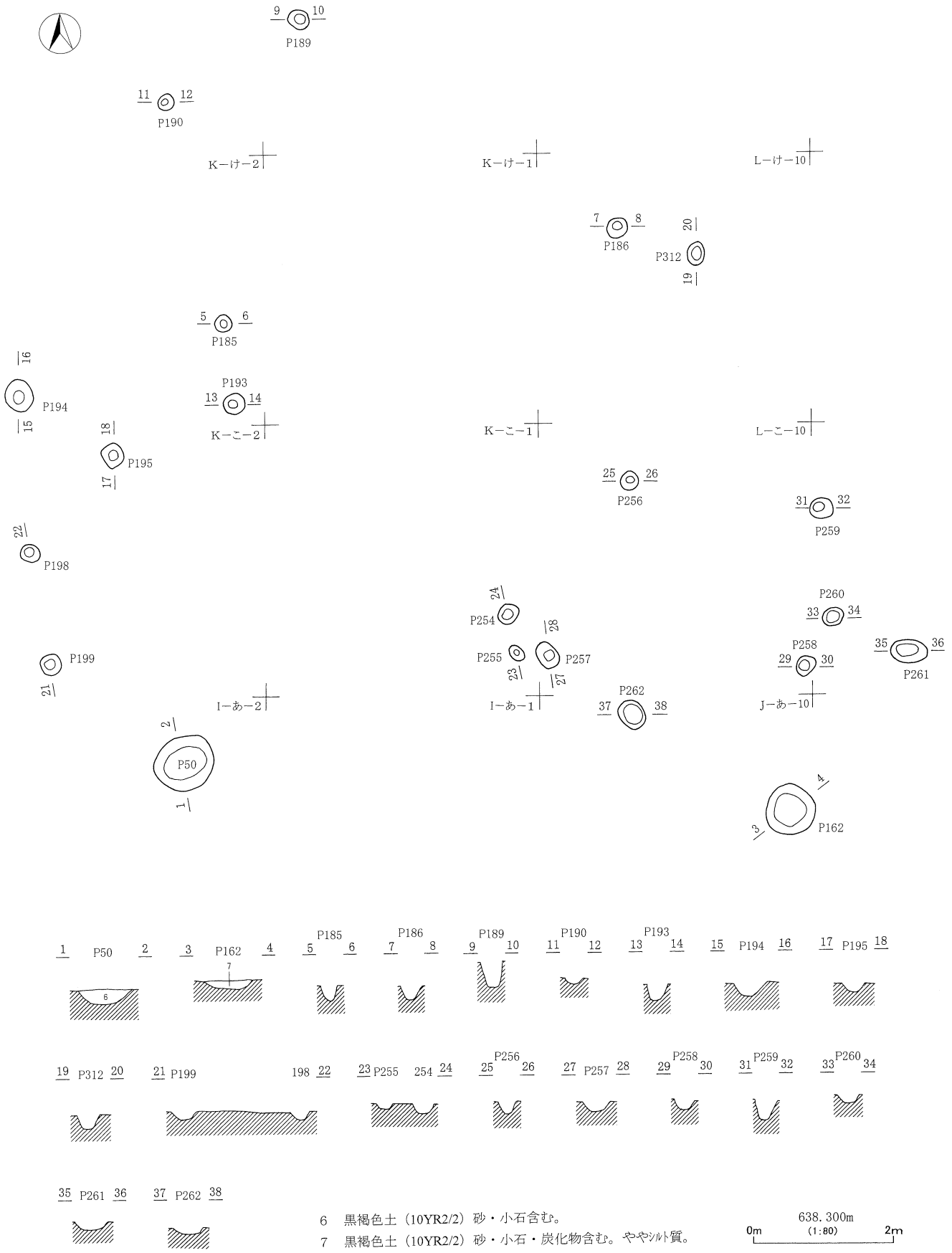
C区土坑実測図（8）

（5）ピット

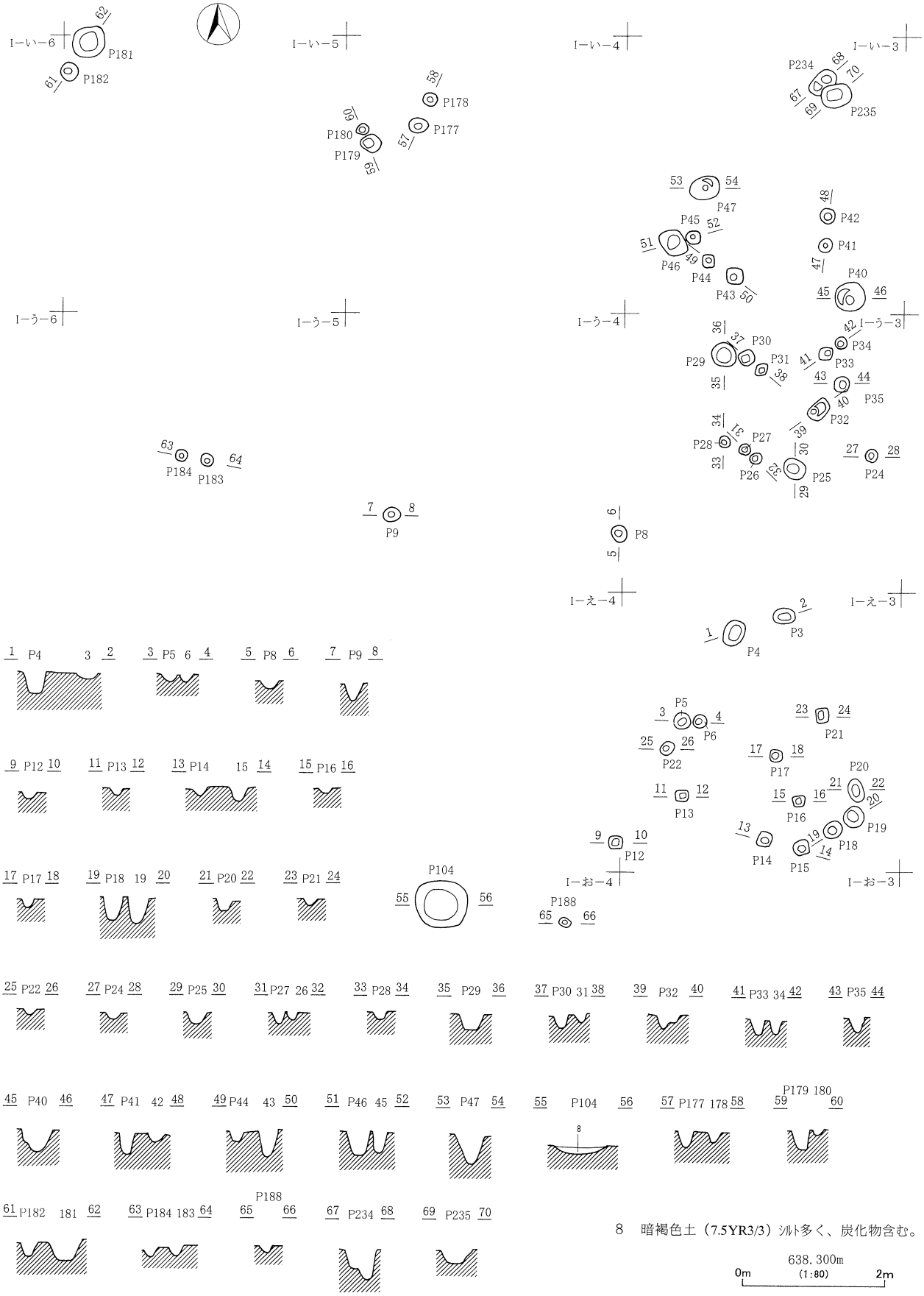
1　黒褐色土（10YR2/2）砂・小石含む。
2　黒褐色土（10YR2/2）砂・小石・礫（5~10 cm大）含む。
3　黒褐色土（10YR2/2）砂・小石・礫（5~10 cm大）・炭化物含む。
4　黒褐色土（10YR2/2）砂・小石・礫（5~10 cm大）含む。
5　暗褐色土（7.5YR3/3）シルト質。



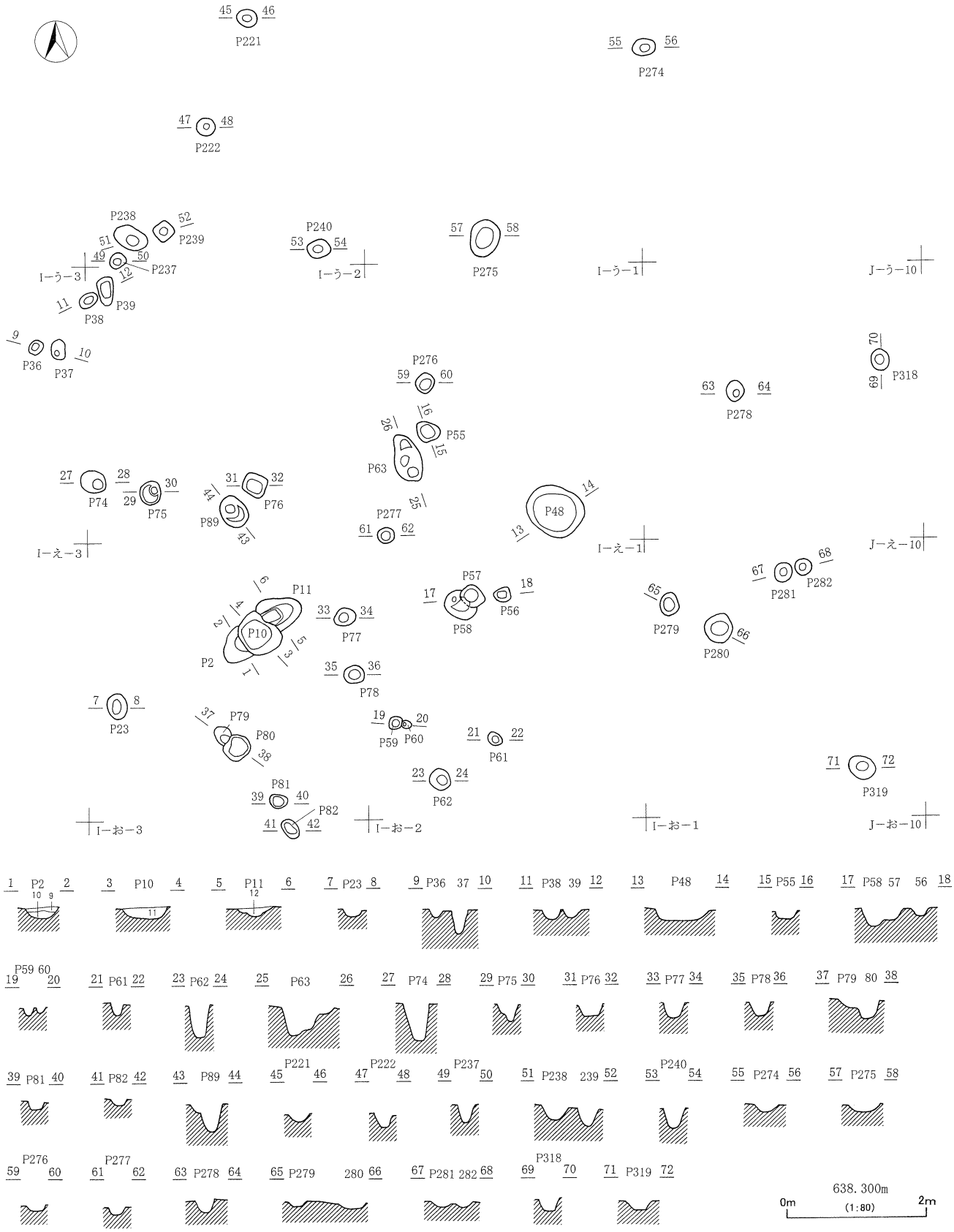
C区ピット実測図（1）


P189
P190
K－け－2
K－け－1
L－け－10
P186
P312
P185
P194
P193
P195
K－こ－2
K－こ－1
L－こ－10
P256
P259
P198
P254
P260
P255
P257
P258
P261
P199
I－あ－2
I－あ－1
P262
J－あ－10
P50
P162
P185
P186
P189
P190
P193
P194
P195
P312
P199
P255
P256
P257
P258
P259
P260
P261
P262
6 黒褐色土（10YR2/2）砂・小石含む。
7 黒褐色土（10YR2/2）砂・小石・炭化物含む。ややシルト質。
638.300m
0m
(1:80)
2m

C区ピット実測図（2）


I－い－6
I－い－5
I－い－4
I－い－3
I－う－6
I－う－5
I－う－4
I－う－3
I－え－4
I－え－3
I－お－4
I－お－3
P181
P182
P178
P177
P180
P179
P234
P235
P47
P45
P46
P44
P43
P42
P41
P40
P30
P29
P31
P34
P33
P35
P32
P28
P27
P26
P25
P24
P184
P183
P9
P8
P4
P3
P5
P6
P22
P21
P17
P20
P13
P16
P19
P18
P14
P15
P12
P188
P104
8　暗褐色土（7.5YR3/3）シルト多く、炭化物含む。
638.300m
0m
(1:80)
2m

C区ピット実測図（3）



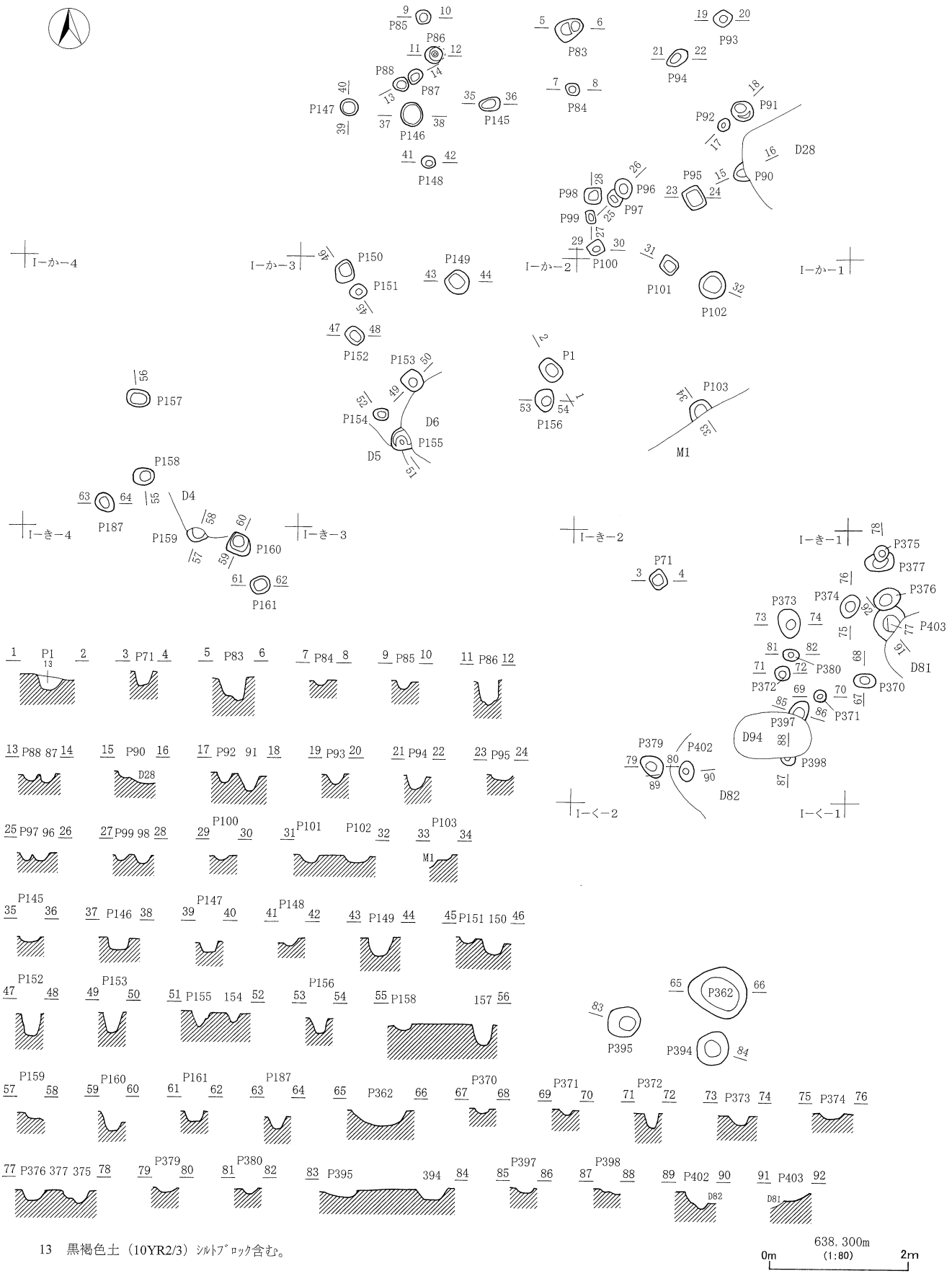
9　暗赤褐色土（2.5YR3/6）焼土ﾌﾞﾛｯｸ多量に含む。

10　黒褐色土（5YR2/2）焼土粒含む。

11　黒褐色土（10YR2/3）褐色ｼﾙﾄﾌﾞﾛｯｸ・焼土・炭化物少量含む。

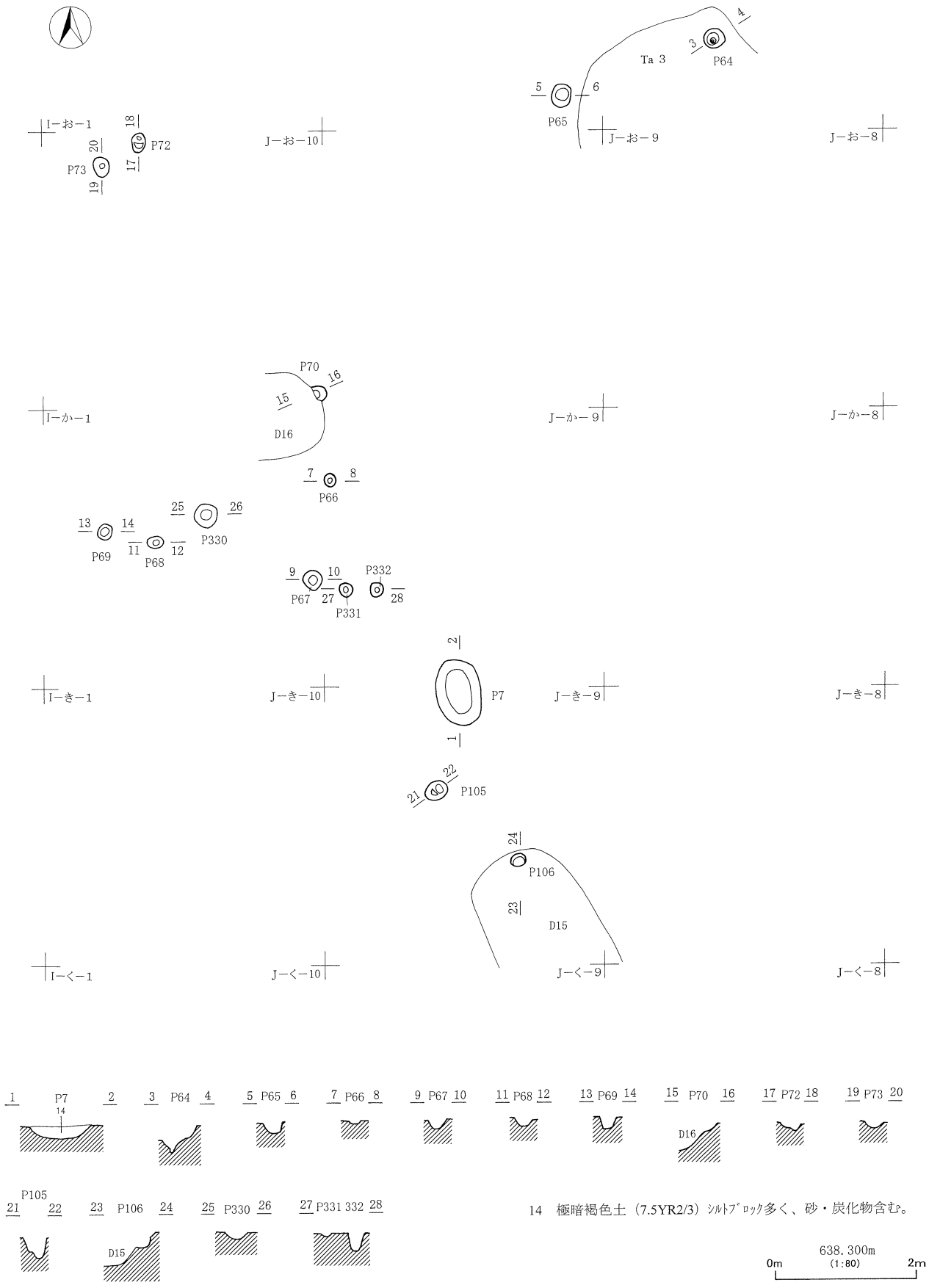
12　黒褐色土（10YR2/3）褐色ｼﾙﾄﾌﾞﾛｯｸ・炭化物少量含む。

C区ピット実測図（4）

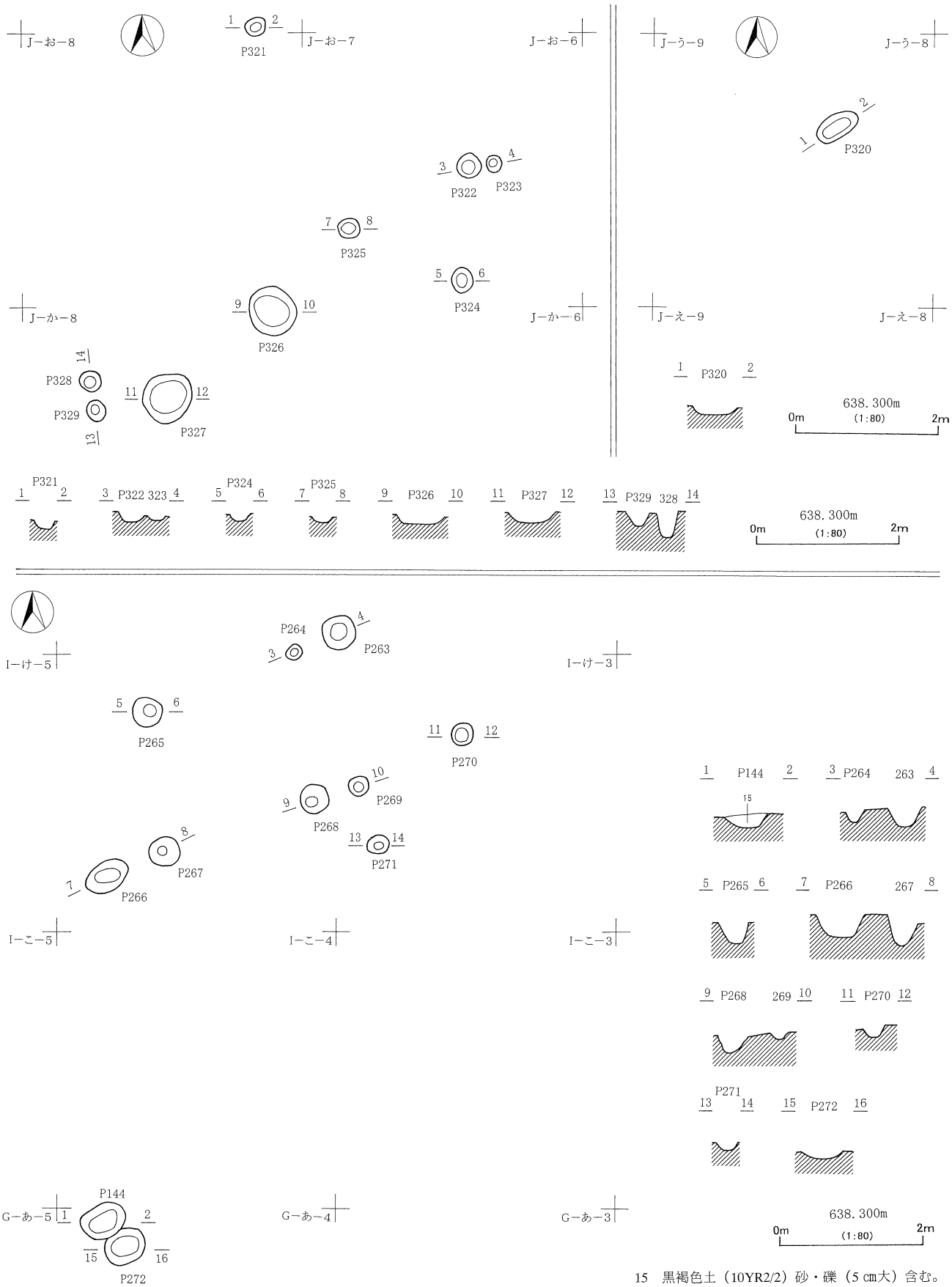


13　黒褐色土（10YR2/3）ｼﾙﾄﾌﾞﾛｯｸ含む。

C区ピット実測図（5）

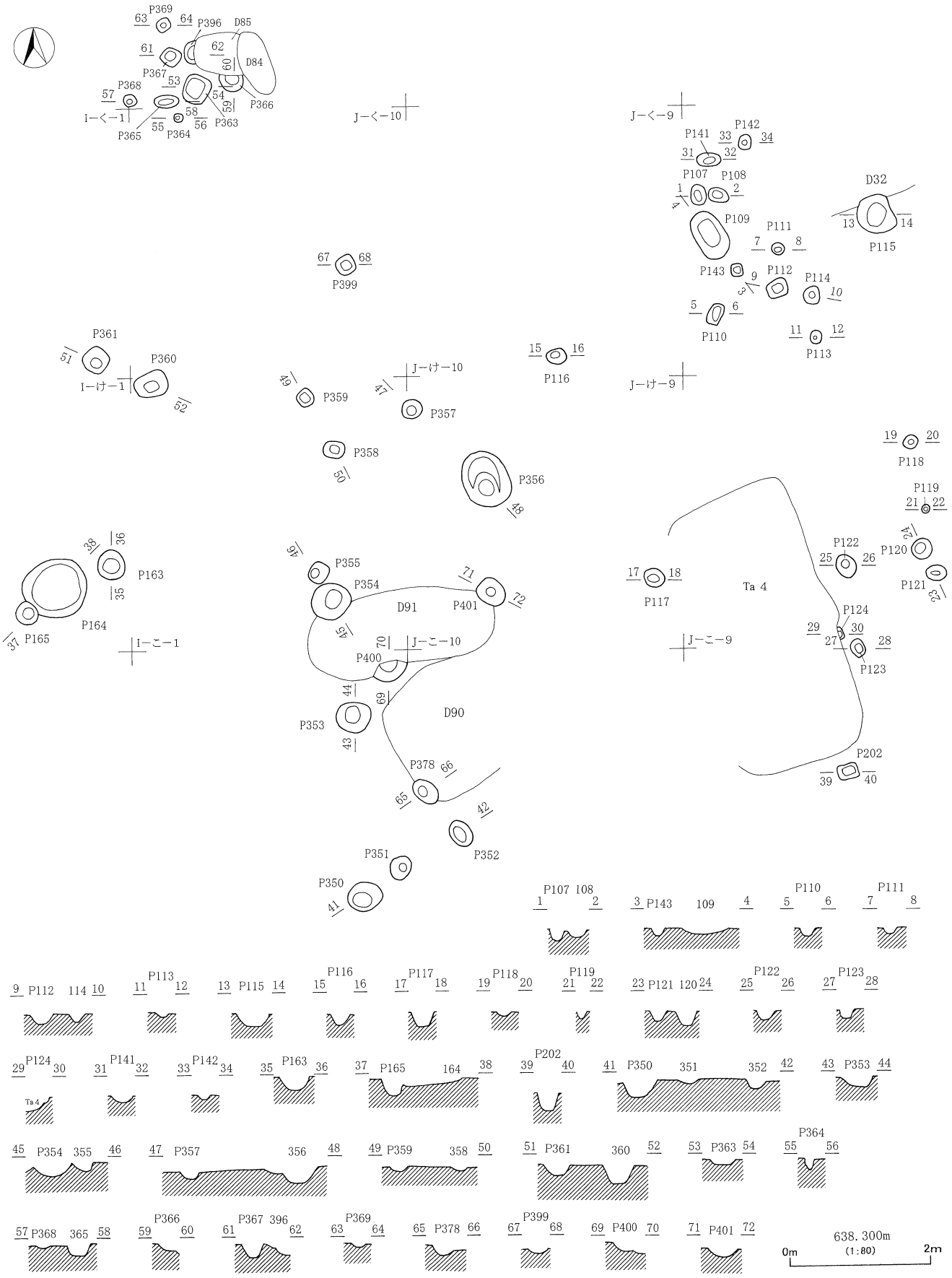

I－お－1
J－お－10
J－お－9
J－お－8
Ta 3
P64
P65
P72
P73
I－か－1
J－か－9
J－か－8
P70
D16
P66
P69
P68
P330
P67
P331
P332
I－き－1
J－き－10
J－き－9
J－き－8
P7
P105
P106
D15
I－く－1
J－く－10
J－く－9
J－く－8
1 P7 2
3 P64 4
5 P65 6
7 P66 8
9 P67 10
11 P68 12
13 P69 14
15 P70 16
17 P72 18
19 P73 20
D16
P105
21 22
23 P106 24
25 P330 26
27 P331 332 28
D15
14 極暗褐色土（7.5YR2/3）ｼﾙﾄﾌﾞﾛｯｸ多く、砂・炭化物含む。
638.300m
0m (1:80) 2m

C区ピット実測図（6）

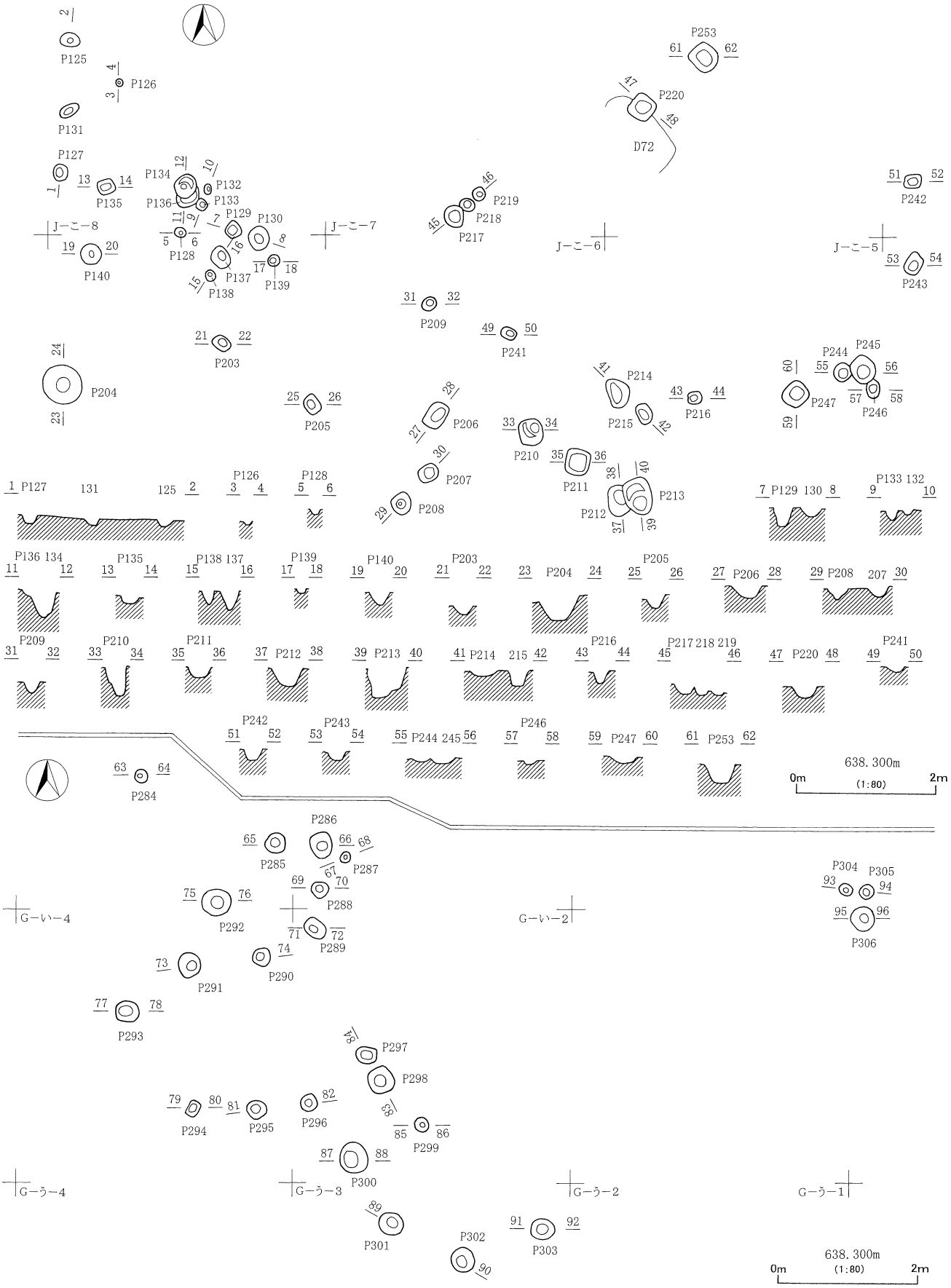


15　黒褐色土（10YR2/2）砂・礫（5㎝大）含む。

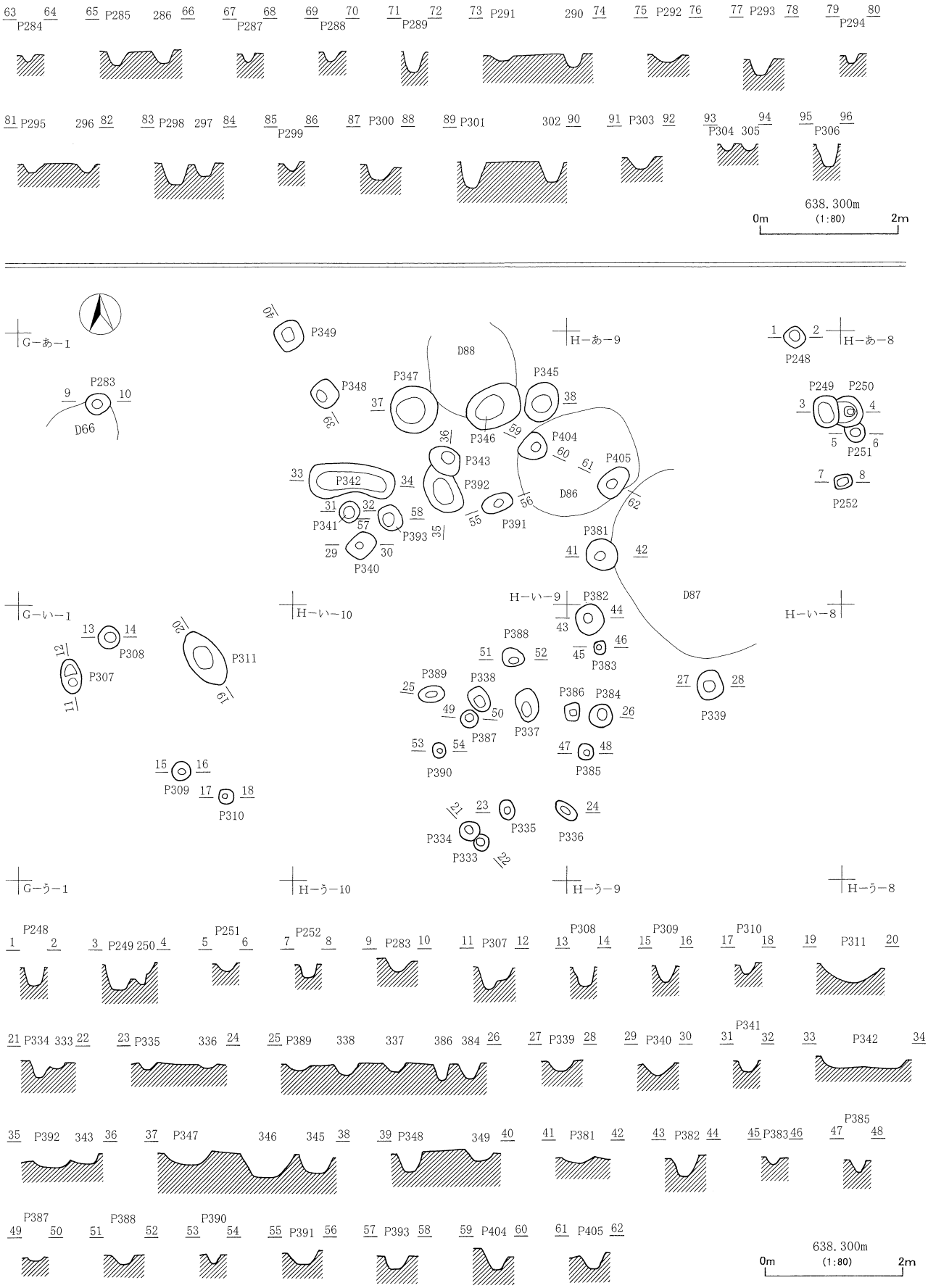
C区ピット実測図（7）


P369
P396
D85
D84
P367
P368
P366
P365
P364
P363
I−く−1
J−く−10
J−く−9
P141
P142
P107
P108
P109
P111
D32
P115
P143
P112
P114
P110
P113
P399
P361
P360
I−け−1
P359
J−け−10
P357
P116
J−け−9
P358
P356
P118
P119
P122
P120
P121
P163
P164
P165
P355
P354
D91
P401
P117
Ta 4
P124
P123
I−こ−1
J−こ−10
P400
J−こ−9
P353
D90
P378
P202
P352
P351
P350
P107 108
P143 109
P110
P111
P112 114
P113
P115
P116
P117
P118
P119
P121 120
P122
P123
P124
P141
P142
P163
P165 164
P202
P350 351 352
P353
Ta 4
P354 355
P357 356
P359 358
P361 360
P363
P364
P368 365
P366
P367 396
P369
P378
P399
P400
P401
638.300m
(1:80)
0m
2m

C区ピット実測図（8）


P125
P126
P131
P127
P134
P132
P133
P136
P135
P129
P130
P128
P137
P138
P139
P140
J－こ－8
J－こ－7
J－こ－6
J－こ－5
P253
P220
D72
P219
P218
P217
P242
P243
P209
P241
P203
P204
P205
P206
P207
P208
P210
P211
P212
P213
P214
P215
P216
P244
P245
P246
P247
638.300m
0m
(1:80)
2m
P284
P285
P286
P287
P288
P289
P290
P291
P292
P293
P294
P295
P296
P297
P298
P299
P300
P301
P302
P303
P304
P305
P306
G－い－4
G－い－2
G－う－4
G－う－3
G－う－2
G－う－1

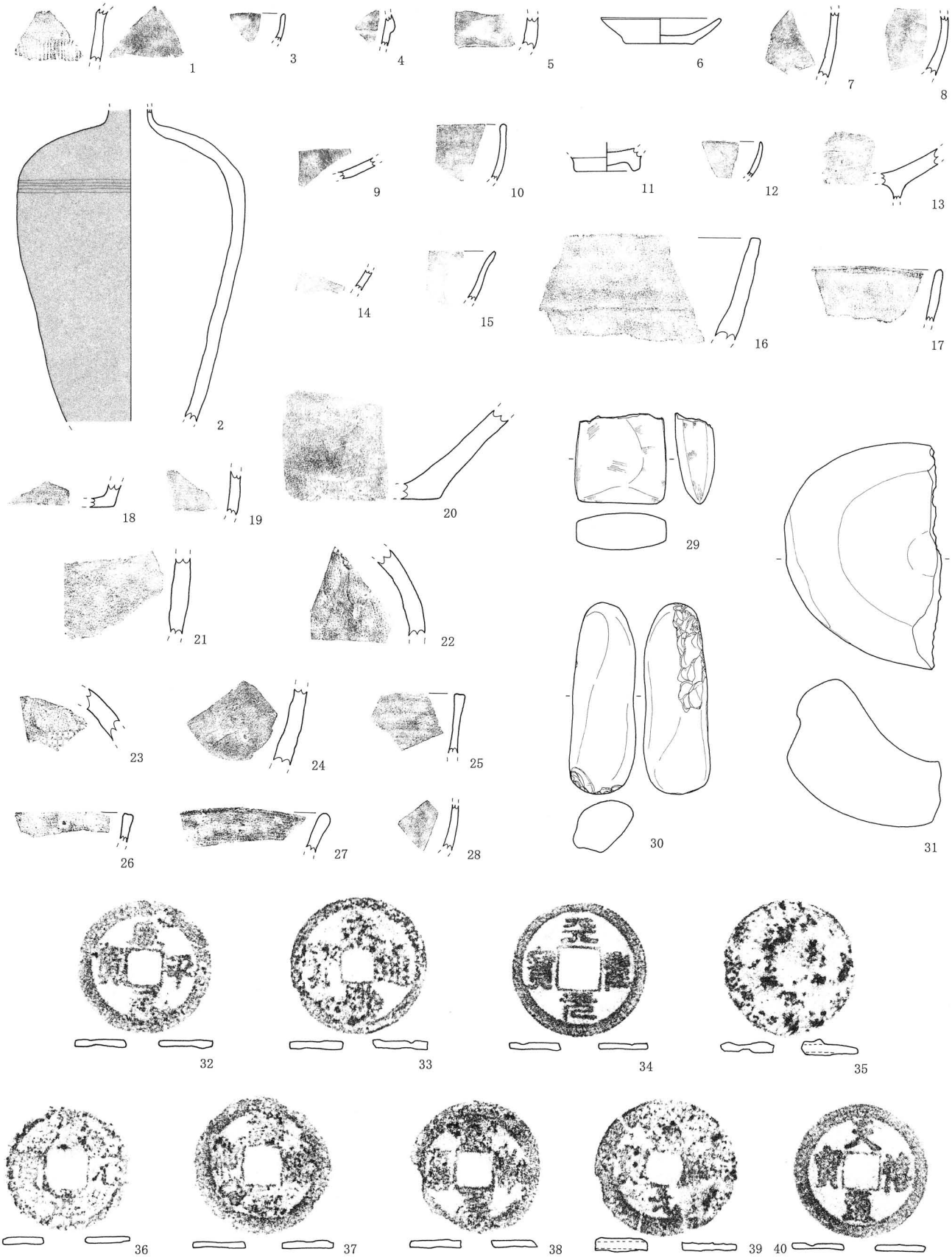
C区ピット実測図（9）



63 64 P284
65 P285 286 66
67 68 P287
69 70 P288
71 72 P289
73 P291 290 74
75 P292 76
77 P293 78
79 80 P294
81 P295 296 82
83 P298 297 84
85 86 P299
87 P300 88
89 P301 302 90
91 P303 92
93 94 P304 305
95 96 P306
638.300m
0m (1:80) 2m
G−あ−1
H−あ−9
H−あ−8
P349
D88
P248
P283
P347
P345
P348
P249 P250
D66
P346
P404
P251
P343
P405
P342
P392
D86
P252
P341
P393
P391
P381
P340
G−い−1
H−い−10
H−い−9
P382
D87
H−い−8
P308
P311
P388
P383
P307
P389
P338
P386 P384
P339
P387
P337
P390
P385
P309
P310
P335
P336
P334
P333
G−う−1
H−う−10
H−う−9
H−う−8
P248
P249 250
P251
P252
P283
P307
P308
P309
P310
P311
P334 333
P335 336
P389 338 337 386 384
P339
P340
P341
P342
P392 343
P347 346 345
P348 349
P381
P382
P383
P385
P387
P388
P390
P391
P393
P404
P405
638.300m
0m (1:80) 2m

C区ピット実測図（10）

（6） 出土遺物



C区遺物実測図

番号	器　種	器　形	口径cm	底径cm	器高cm	調　整・文　様・産地等 部　位	時　期	色調（外面） 出土地
1	さび釉	すり鉢	－	－	－	ロクロナデ　内面かき目 口辺破片	16 c	2.5YR4/2灰赤色 検出
2	古瀬戸	瓶子	－	－	〈22.5〉	外面肩部５単位櫛描横線文　内面ハケ調整 頸部～胴下部破片	13 c 末～14 c 前	7.5Y7/2灰白色 D69
3	青磁	皿	－	－	－	ロクロ横ナデ　施釉 口縁破片	中世	10Y7/1灰白色 Ta2
4	王緑	碗	－	－	－	ロクロナデ　施釉　折り返し 口辺破片	白磁Ⅳ期 11 c 後～12 c	7.5Y8/2灰白色 Ta5
5	青磁	蓮弁文碗	－	－	－	ロクロナデ　施釉 体部下部破片	13 c 末～14 c 前？	10Y6/2オリーブ灰色 D1
6	土師質土器	かわらけ	8.6	4.9	1.8	内外面ロクロナデ　底部回転糸切り 80％残存	11 c	10YR5/3にぶい黄褐色他 D13
7	白磁	碗	－	－	－	ロクロナデ　施釉 体部破片	白磁Ⅳ期 11 c 後～12 c	5Y8/1灰白色 Ta１Ⅲ区
8	青磁	蓮弁文碗	－	－	－	ロクロナデ　施釉　龍泉窯 体部破片	13 c	5Y5/2灰オリーブ色 Ta１Ⅰ区
9	白磁	碗	－	－	－	ロクロナデ　施釉 底部～体部下部破片	白磁Ⅳ期 11 c 後～12 c	5Y7/1灰白色他 D6
10	前山焼	碗	－	－	－	鉄釉施釉 口縁破片	18 c 末～19 c 前	5YR3/4暗赤褐色 検出
11	前山焼	碗	－	－	－	灰釉施釉　底部高台貼付 底部・高台破片	18 c 末～19 c 前	2.5Y4/4オリーブ褐色 グリッド検出
12	白磁	碗	－	－	－	ロクロナデ　灰釉施釉 口縁破片	中世	5Y7/2灰白色 グリッド検出
13	山茶碗	こね鉢	－	－	－	ロクロナデ　高台貼付　中津川 高台・底部・体部下部破片	13 c 後	10Y8/1灰白色 D38
14	白磁	碗	－	－	－	ロクロナデ　施釉 体部破片	白磁Ⅳ期 11 c 後～12 c	5Y8/1灰白色 Ta１Ⅱ区
15	青磁	蓮弁文碗	－	－	－	ロクロナデ　施釉 口縁破片	13 c	5GY6/1オリーブ灰色 Ta１Ⅱ区
16	在地	内耳	－	－	－	口縁横ナデ　体部縦ヘラナデ 口縁破片	15or16 c	7.5YR3/1黒褐色 M１
17	在地	内耳	－	－	－	内外面横ナデ 口縁破片	15 c 中	7.5YR3/1黒褐色 M１
18	在地	内耳	－	－	－	内外面ナデ　底部ヘラケズリ 底部～胴下部破片	中世	7.5YR4/6褐色 M１
19	山茶碗	こね鉢	－	－	－	内面ナデ　外面ヘラナデ　施釉 体部破片	13～14 c 前	10Y8/1灰白色 M１
20	常滑	壷	－	－	－	内外面ナデ 胴下部破片	中世	5YR5/3にぶい赤褐色 D55～58
21	常滑	壷	－	－	－	内外面ナデ 胴部破片　自然釉一部付着	中世	2.5YR5/3にぶい赤褐色 D55～58
22	常滑	壷	－	－	－	内外面ナデ 胴部破片　自然釉一部付着	中世	2.5YR5/3にぶい赤褐色 D55～58
23	常滑	壷or甕	－	－	－	外面自然釉付着　格子叩き痕 胴部下部破片	中世	5Y7/1灰白色 D55～58
24	常滑	壷	－	－	－	内外面ナデ 胴部破片	中世	2.5YR5/3にぶい赤褐色 D55～58
25	山茶碗	こね鉢	－	－	－	外面横ナデ　内面ナデ　口唇部に沈線　中津川　26と同一個体 口縁破片	13 c	5YR7/2明褐灰色 D55～58
26	山茶碗	こね鉢	－	－	－	外面横ナデ　内面ナデ　口唇部に沈線　中津川　25と同一個体 口縁破片	13 c	5YR7/2明褐灰色 D55～58
27	山茶碗	こね鉢	－	－	－	内外面ロクロナデ　尾張 口縁破片	13 c 中	2.5Y6/1黄灰色 D55～58
28	青磁	蓮弁文碗	－	－	－	外面蓮弁文　龍泉窯 体部破片	13 c	5Y5/2灰オリーブ色 D55～58
番号	器　種	器　形	最大長(cm) 長径(cm)	最大幅(cm) 短径(cm)	最大厚(cm) 高さ(cm)	調　整・文　様	重量(g)	色調(外面) 出土地
29	石器	磨製石斧	〈6.4〉	6.6	〈2.8〉	基部欠損	192.29	10YR6/3にぶい黄橙色 D7
30	石器	敲石	13.6	4.8	3.6	長軸両端・側面角部敲打痕	334.5	N3/0暗灰色 M１
31	石製品	搗臼	〈16.3〉	〈11.2〉	〈10.8〉	凹径（11.5）　凹深（6）　半欠損	2110	10YR5/1褐灰色 M１
番号	器　種	器　形	外径(cm)	内径(cm)	最大厚(cm)	調　整・文　様	重量(g)	初鋳年 出土地
32	銅製品	古銭	2.47	0.59	0.16	咸平元寶	2.19	998年　北宋 D6
33	銅製品	古銭	2.51	0.56	0.17	永楽通寶	1.83	1408年　明 D81
34	銅製品	古銭	2.48	0.69	0.15	天聖元寶　篆書	2.44	1023年　北宋 D9
35	銅製品	古銭	2.45	0.53	0.3	文字不明	2.45	D18
36	銅製品	古銭	2.3	0.73	0.13	咸淳元寶	2.24	1265年　南宋 D37
37	銅製品	古銭	2.53	0.69	0.15	元豊通寶　篆書	2.68	1078年　北宋 D55
38	銅製品	古銭	24.6	0.59	0.14	元豊通寶　篆書	2.23	1078年　北宋 D81
39	銅製品	古銭	2.58	0.62	0.27	文字不明	1.94	P109
40	銅製品	古銭	2.45	0.59	0.11	天禧通寶	2.48	1017年　北宋 J―く―8グリッド

C区遺物観察表

（7）土坑・ピット観察表

遺構名	形態	南北(cm)	東西(cm)	深さ(cm)	位置	備　　考
D1	円形	112	80	20	I-き-3	青磁・蓮弁文碗　中世
D2	楕円形	224	126	34	I-か-2	骨片
D3	円形？	178	〈72〉	12	I-か-2	
D4	隅丸方形	200	162	26	I-か-3	
D5	円形？	84	〈76〉	10	I-か-2	
D6	円形	164	172	22	I-か-2	咸平元寶・白磁碗 中世
D7	方形	164	194	26	I-か-2	磨製石斧
D8	円形？	〈122〉	〈20〉	〈18〉	I-か-1	

遺構名	形態	南北(cm)	東西(cm)	深さ(cm)	位置	備　　考
D9	円形	214	158	16	I-う-4	天聖元寶　中世
D10	楕円形	98	225	12	J-え-10	
D11	楕円形	168	300	35	I-え-3	
D12	隅丸方形	130	141	14	I-う-2	
D13	不整形	125	92	40	I-え-2	かわらけ　平安～中世
D14	楕円形	98	66	32	I-え-3	
D15	楕円形	280	164	50	J-く-9	
D16	楕円形	〈110〉	268	48	J-か-10	

C区土坑観察表（1）

遺構名	形態	南北(cm)	東西(cm)	深さ(cm)	位置	備　　考
D17	楕円形	104	194	62	J-か-8	
D18	円形	162	112	20	J-か-8	古銭　中世
D19	楕円形？	〈130〉	154	12	I-か-2	
D20	円形	120	101	29	I-こ-3	
D21	楕円形	339	224	34	J-か-8	
D22	楕円形？	110	〈60〉	30	I-え-2	
D23	円形	92	114	40	I-う-1	
D24	楕円形	184	318	56	J-お-7	
D25	円形	118	168	30	J-い-9	
D26	隅丸方形	230	176	26	J-く-7	
D27	楕円形	314	164	66	J-か-7	
D28	方形？	〈106〉	246	〈20〉	I-お-1	
D29	円形？	〈178〉	293	23	I-か-1	
D30	楕円形	124	180	12	J-い-8	
D31	楕円形	142	208	58	J-き-7	
D32	長方形	160	252	23	J-く-8	
D33	長方形	284	125	14	K-こ-5	
D34	楕円形	84	234	30	J-け-8	
D35	円形	178	170	48	J-く-6	
D36	円形	139	134	34	J-け-6	
D37	長方形	184	98	14	J-お-7	咸淳元寶　中世
D38	不整形	285	216	34	J-か-4	山茶碗・こね鉢　中世
D39	長方形	112	188	16	I-こ-1	
D40	円形	96	84	54	I-こ-4	
D41	長方形	157	98	12	K-こ-5	
D42	長方形	104	162	28	L-け-10	
D43	楕円形	162	〈108〉	10	I-お-1	鉄滓
D44	方形	222	248	20	I-こ-1	
D45	円形	144	168	20	H-い-10	
D46	楕円形	169	78	28	L-け-10	
D47	円形	90	104	26	J-お-5	
D48	円形	106	92	24	J-く-4	
D49	円形	158	240	52	J-け-3	
D50	円形	129	130	34	K-け-2	
D51	長方形？	92	〈112〉	13	K-け-1	
D52	隅丸方形	136	146	12	K-け-1	
D53	不整形	149	128	38	J-き-6	
D54	楕円形	401	202	13	J-あ-9	
D55	楕円形	206	144	36	K-け-2	元豊通寶　中世
D56	？	〈112〉	〈66〉	〈34〉	K-け-1	

遺構名	形態	南北(cm)	東西(cm)	深さ(cm)	位置	備　　考
D57	円形	106	〈104〉	44	K-く-1	
D58	円形？	192	〈100〉	38	K-く-1	
D59	隅丸方形	62	63	16	L-け-9	
D60	円形？	59	〈56〉	〈23〉	L-け-10	
D61	円形？	〈64〉	43	18	L-け-10	
D62	方形？	〈84〉	141	〈19〉	L-け-10	
D63	方形	214	174	14	H-い-10	
D64	方形？	196	〈136〉	24	G-あ-1	
D65	円形？	282	〈168〉	25	G-あ-1	骨片
D66	円形	78	104	9	H-あ-10	
D67	隅丸方形？	〈168〉	186	26	G-う-1	
D68	楕円形	〈229〉	124	6	K-く-1	
D69	長方形	172	100	48	K-く-1	古瀬戸・瓶子破片　中世
D70	円形？	〈60〉	〈99〉	〈24〉	K-く-1	
D71	方形？	92	〈58〉	38	K-く-1	
D72	楕円形	129	61	20	J-け-5	
D73	隅丸方形	91	68	21	J-こ-5	
D74	円形	89	〈72〉	16	I-え-2	
D75	円形？	〈52〉	104	12	I-え-2	
D76	円形	64	68	41	I-え-2	
D77	楕円形	〈108〉	74	22	I-え-2	
D78	円形	112	134	38	I-あ-5	
D79	円形	84	74	37	J-き-10	
D80	円形	96	82	64	J-き-10	
D81	楕円形	96	126	24	J-き-10	元豊通寶、永楽通寶、骨片
D82	不整形	194	122	26	I-く-1	
D83	？	〈64〉	〈96〉	〈12〉	J-き-10	
D84	楕円形	100	44	28	J-き-10	
D85	楕円形	66	〈62〉	17	J-き-10	
D86	円形	148	180	12	H-あ-9	
D87	楕円形	290	188	10	H-あ-8	
D88	隅丸方形	106	128	14	H-あ-9	
D89	円形	166	200	44	J-こ-9	
D90	隅丸方形	184	216	18	J-こ-9	
D91	楕円形	118	276	22	J-こ-9	
D92	円形	84	85	19	J-く-10	
D93	円形	138	184	16	I-け-2	
D94	楕円形	66	112	8	I-き-1	
D95	隅丸方形？	〈76〉	185	20	H-い-8	

C区土坑観察表（2）

ピット名	形態	直径(cm)	深さ(cm)	検出位置
1	隅丸方形	36	24	I-か-2
2	楕円形？	〈32〉	〈16〉	I-え-2
3	円形	32	8	I-え-3
4	円形	38	32	I-え-3
5	円形	24	12	I-え-3
6	円形	20	10	I-え-3
7	楕円形	96	18	J-き-9
8	円形	24	12	I-う-4
9	円形	24	26	I-う-4
10	円形	64	16	I-え-2
11	楕円形？	〈58〉	〈14〉	I-え-2
12	方形	18	10	I-え-4
13	方形	16	10	I-え-3
14	方形	22	12	I-え-3
15	隅丸方形	24	20	I-え-3
16	方形	16	8	I-え-3
17	隅丸方形	18	12	I-え-3
18	円形	28	34	I-え-3
19	円形	30	38	I-え-3
20	楕円形	34	18	I-え-3
21	方形	22	10	I-え-3
22	方形	22	8	I-え-3
23	円形	36	10	I-え-2
24	円形	16	10	I-う-3
25	円形	32	18	I-う-3
26	円形	16	12	I-う-3
27	円形	16	18	I-う-3

ピット名	形態	直径(cm)	深さ(cm)	検出位置
28	円形	16	12	I-う-3
29	円形	34	22	I-う-3
30	隅丸方形	22	20	I-う-3
31	方形	16	14	I-う-3
32	隅丸方形	34	20	I-う-3
33	方形	20	24	I-う-3
34	円形	18	20	I-う-3
35	方形	22	22	I-う-3
36	方形	20	12	I-う-3
37	楕円形	28	34	I-う-3
38	楕円形	28	14	I-う-3
39	楕円形	42	12	I-う-2
40	円形	42	32	I-い-3
41	円形	18	30	I-い-3
42	円形	20	12	I-い-3
43	方形	22	40	I-い-3
44	方形	18	14	I-い-3
45	円形	18	32	I-い-3
46	隅丸方形	38	34	I-い-3
47	円形	44	42	I-い-3
48	円形	84	16	I-う-1
49	円形	108	14	I-あ-2
50	円形	88	22	I-あ-2
51	円形	86	54	K-こ-3
52	円形	80	52	K-け-4
53	円形	74	14	K-こ-4
54	円形	64	12	I-あ-4

ピット名	形態	直径(cm)	深さ(cm)	検出位置
55	円形	34	12	I-う-1
56	隅丸方形	24	12	I-え-1
57	隅丸方形	32	16	I-え-1
58	円形	46	26	I-え-1
59	円形	18	10	I-え-1
60	円形	14	8	I-え-1
61	円形	22	18	I-え-1
62	円形	30	48	I-え-1
63	楕円形	72	40	I-う-1
64	円形	30	40	J-え-8
65	円形	34	16	J-え-9
66	円形	20	4	J-か-9
67	円形	30	14	J-か-10
68	円形	24	12	J-か-10
69	方形	24	18	J-か-10
70	円形？	〈18〉	〈12〉	J-お-10
71	方形	28	22	I-き-1
72	円形	28	12	J-お-10
73	円形	30	8	J-お-10
74	円形	38	54	I-う-2
75	円形	34	24	I-う-2
76	方形	32	18	I-う-2
77	円形	32	22	I-え-2
78	円形	28	20	I-え-2
79	円形？	〈26〉	〈12〉	I-え-2
80	隅丸方形	38	26	I-え-2
81	円形	26	12	I-え-2

C区ピット観察表（1）

ピット名	形態	直径(cm)	深さ(cm)	検出位置
82	楕円形	30	8	I-お-2
83	円形	40	34	I-お-2
84	方形	18	8	I-お-2
85	方形	22	12	I-お-2
86	円形	26	36	I-お-2
87	円形	22	14	I-お-2
88	円形	22	10	I-お-2
89	円形	46	40	I-う-2
90	円形？	〈18〉	〈12〉	I-お-1
91	円形	34	26	I-お-1
92	円形	20	16	I-お-1
93	隅丸方形	24	16	I-お-1
94	円形	34	20	I-お-1
95	方形	34	8	I-お-1
96	円形	30	12	I-お-1
97	円形	26	12	I-お-1
98	方形	24	14	I-お-1
99	方形	20	8	I-お-1
100	方形	22	6	I-お-1
101	方形	26	12	I-か-1
102	円形	40	10	I-か-1
103	円形	34	〈8〉	I-か-1
104	円形	76	12	I-お-4
105	円形	34	30	J-き-9
106	円形	〈24〉	22	J-き-9
107	円形	30	18	J-く-8
108	円形	32	10	J-く-8
109	楕円形	74	10	J-く-8
110	方形	32	12	J-く-8
111	円形	20	10	J-く-8
112	隅丸方形	32	14	J-く-8
113	円形	20	6	J-く-8
114	円形	24	12	J-く-8
115	円形	58	20	J-く-8
116	円形	30	16	J-く-9
117	円形	30	22	J-け-9
118	円形	20	6	J-け-8
119	円形	12	12	J-け-8
120	円形	30	22	J-け-8
121	円形	30	16	J-け-8
122	円形	34	14	J-け-8
123	方形	26	14	J-こ-8
124	隅丸方形？	18	〈8〉	J-け-8
125	円形	28	10	J-け-7
126	円形	10	6	J-け-7
127	円形	26	14	J-け-7
128	円形	16	8	J-け-7
129	方形	24	28	J-け-7
130	円形	30	14	J-こ-7
131	楕円形	30	10	J-け-7
132	円形	16	8	J-け-7
133	隅丸方形	16	14	J-け-7
134	円形	32	36	J-け-7
135	方形	24	12	J-け-7
136	方形？	34	〈10〉	J-け-7
137	隅丸方形	32	28	J-こ-7
138	方形	14	20	J-こ-7
139	円形	18	8	J-こ-7
140	円形	30	18	J-こ-7
141	楕円形	36	10	J-く-8
142	隅丸方形	22	8	J-く-8
143	方形	20	12	J-く-8
144	円形	64	20	G-あ-4
145	楕円形	30	8	I-お-2
146	円形	36	18	I-お-2
147	円形	26	16	I-お-2
148	円形	20	10	I-お-2
149	円形	36	28	I-か-2
150	隅丸方形	32	24	I-か-2
151	円形	26	10	I-か-2
152	隅丸方形	28	32	I-か-2
153	方形	30	30	I-か-2
154	方形	22	14	I-か-2
155	円形	32	24	I-か-2
156	円形	34	22	I-か-2

ピット名	形態	直径(cm)	深さ(cm)	検出位置
157	隅丸方形	34	32	I-か-3
158	円形	30	10	I-か-3
159	円形？	〈22〉	〈10〉	I-き-3
160	隅丸方形	30	30	I-き-3
161	隅丸方形	30	16	I-き-3
162	円形	74	14	J-あ-10
163	円形	44	22	I-け-1
164	円形	94	12	I-け-1
165	円形	32	26	I-け-1
166	円形	24	10	K-こ-3
167	円形	20	14	K-こ-3
168	方形	28	16	K-け-4
169	楕円形	30	10	K-け-4
170	円形	36	80	K-け-4
171	円形	48	48	K-こ-4
172	楕円形	40	30	K-こ-4
173	円形	18	8	I-あ-4
174	円形	34	26	K-こ-5
175	楕円形	140	16	K-こ-5
176	円形	20	8	K-こ-5
177	円形	28	22	I-い-4
178	円形	20	14	I-い-4
179	方形	30	28	I-い-4
180	円形	16	8	I-い-4
181	方形	50	30	I-い-5
182	円形	26	20	I-い-5
183	方形	18	16	I-う-5
184	方形	16	14	I-う-5
185	円形	26	24	K-け-2
186	円形	32	20	L-け-10
187	円形	32	18	I-か-3
188	方形	16	10	I-お-4
189	円形	32	38	K-く-1
190	円形	24	10	K-く-2
191	円形	68	12	K-く-3
192	円形	34	6	K-け-3
193	円形	32	24	K-け-2
194	円形	48	22	K-け-2
195	隅丸方形	32	14	K-こ-2
196	円形	24	6	K-け-4
197	円形	24	8	K-け-4
198	円形	28	12	K-こ-2
199	円形	30	12	K-こ-2
200	円形	28	12	I-あ-2
201	円形	〈22〉	24	I-あ-2
202	方形	30	28	J-こ-8
203	方形	26	12	J-こ-7
204	円形	56	38	J-こ-7
205	方形	28	20	J-こ-7
206	方形	40	18	J-こ-6
207	隅丸方形	30	16	J-こ-6
208	円形	34	16	J-こ-6
209	円形	22	16	J-こ-6
210	隅丸方形	34	44	J-こ-6
211	方形	34	16	J-こ-6
212	円形	46	26	J-こ-5
213	円形	54	44	J-こ-5
214	円形	46	8	J-こ-5
215	方形	30	24	J-こ-5
216	方形	20	20	J-こ-5
217	円形	28	14	J-け-6
218	円形	22	16	J-け-6
219	円形	22	16	J-け-6
220	方形	36	16	J-け-5
221	円形	28	12	I-い-2
222	円形	28	20	I-い-2
223	円形	20	32	I-あ-3
224	円形	24	8	I-あ-3
225	円形	16	12	I-あ-3
226	円形	18	8	I-あ-3
227	円形	58	42	I-あ-3
228	円形	32	38	I-あ-3
229	円形	22	12	I-あ-3
230	楕円形	18	6	I-あ-3
231	円形	20	18	I-あ-3

ピット名	形態	直径(cm)	深さ(cm)	検出位置
232	円形	32	34	I-あ-3
233	円形	38	36	I-あ-3
234	楕円形	44	44	I-い-3
235	円形	44	20	I-い-3
236	欠番			
237	円形	24	26	I-い-2
238	楕円形	50	22	I-い-2
239	方形	26	26	I-い-2
240	隅丸方形	26	30	I-い-2
241	隅丸方形	22	8	J-こ-6
242	方形	24	16	J-け-4
243	隅丸方形	34	14	J-こ-4
244	円形	28	6	J-こ-5
245	円形	42	10	J-こ-5
246	円形	28	6	J-こ-5
247	方形	34	12	J-こ-5
248	隅丸方形	30	26	H-あ-8
249	隅丸方形	48	36	H-あ-8
250	円形	46	32	H-あ-8
251	円形	28	12	H-あ-8
252	方形	26	20	H-あ-8
253	方形	40	26	J-け-5
254	円形	32	16	K-こ-1
255	円形	26	10	K-こ-1
256	円形	28	18	L-こ-10
257	円形	40	16	L-こ-10
258	円形	32	16	L-こ-10
259	円形	34	32	L-こ-10
260	円形	32	12	L-こ-9
261	楕円形	52	12	L-こ-9
262	隅丸方形	44	10	J-あ-10
263	円形	48	28	I-け-4
264	円形	26	18	I-け-4
265	円形	44	30	I-け-4
266	楕円形	66	34	I-け-4
267	円形	44	46	I-け-4
268	円形	40	26	I-け-4
269	円形	30	12	I-け-3
270	円形	32	18	I-け-3
271	円形	32	12	I-け-3
272	円形	60	12	G-あ-4
273	欠番			
274	円形	32	10	I-い-1
275	円形	54	12	I-い-1
276	方形	30	8	I-う-1
277	円形	24	10	I-う-1
278	円形	28	18	J-う-10
279	円形	32	8	J-え-10
280	円形	42	8	J-え-10
281	円形	26	8	J-え-10
282	円形	24	8	J-え-10
283	円形	36	22	H-あ-10
284	円形	20	12	G-あ-3
285	円形	30	22	G-あ-3
286	隅丸方形	32	20	G-あ-2
287	円形	16	14	G-あ-2
288	円形	26	16	G-あ-2
289	隅丸方形	34	30	G-い-2
290	円形	26	20	G-い-3
291	円形	32	8	G-い-3
292	円形	42	12	G-い-3
293	円形	34	24	G-い-3
294	方形	24	16	G-い-3
295	円形	30	12	G-い-3
296	円形	26	12	G-い-2
297	円形	32	20	G-い-2
298	隅丸方形	36	32	G-い-2
299	円形	20	14	G-い-2
300	円形	40	24	G-い-2
301	円形	36	40	G-う-2
302	円形	34	32	G-う-2
303	円形	36	20	G-う-2
304	円形	20	10	G-い-1
305	円形	24	10	H-あ-10
306	円形	36	32	G-い-1

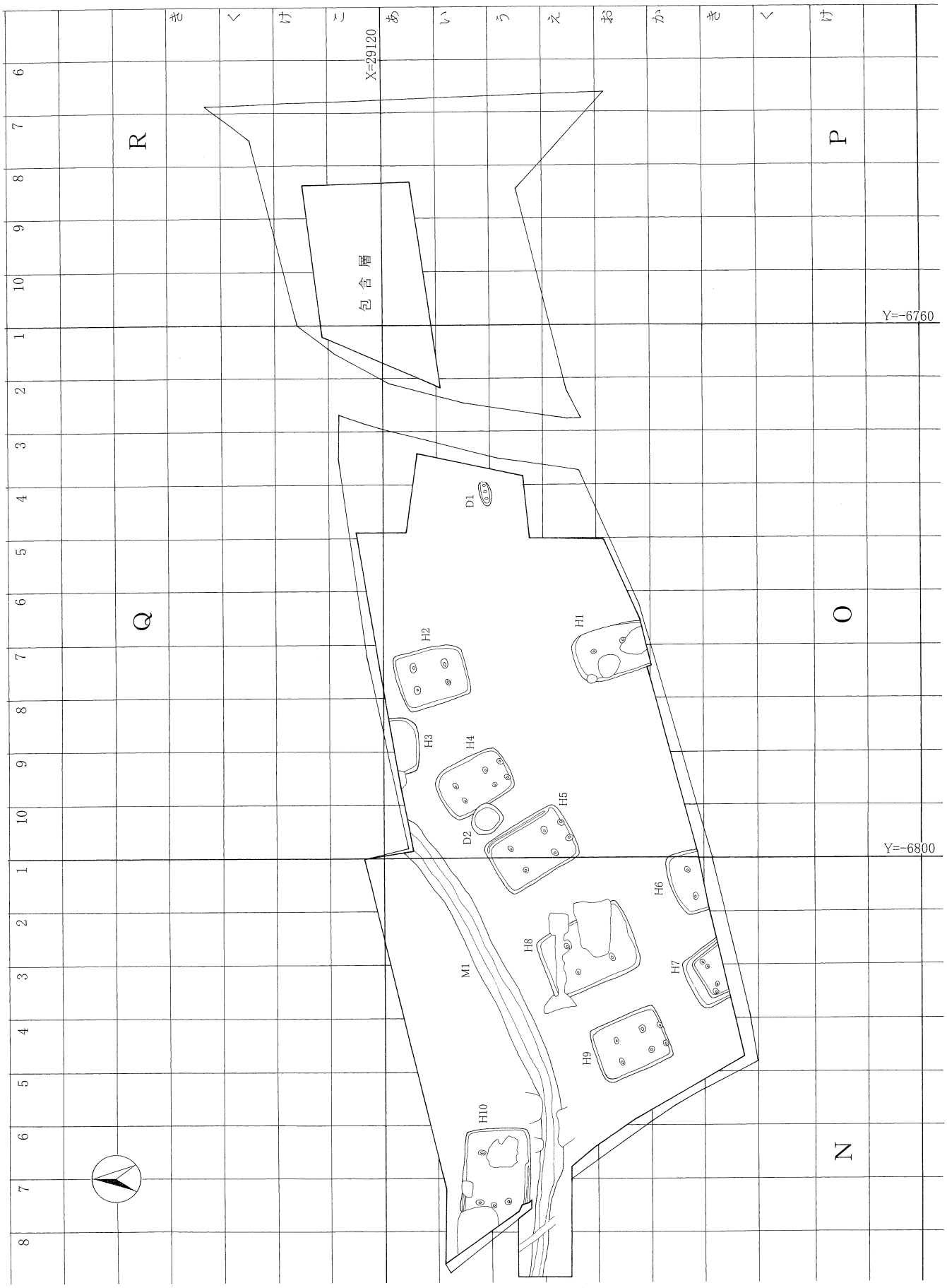
C区ピット観察表（2）

ピット名	形態	直径(cm)	深さ(cm)	検出位置
307	楕円形	52	32	H-い-10
308	円形	32	30	H-い-10
309	円形	28	24	H-い-10
310	隅丸方形	22	14	H-い-10
311	楕円形	88	28	H-い-10
312	円形	34	22	L-け-10
313	円形	28	44	K-こ-5
314	円形	26	36	K-こ-5
315	円形	36	38	K-こ-5
316	隅丸方形	50	36	I-あ-5
317	方形	22	14	I-あ-5
318	円形	30	20	J-う-10
319	円形	40	12	J-え-10
320	楕円形	62	12	J-う-8
321	円形	28	14	J-お-7
322	円形	34	16	J-お-6
323	円形	26	8	J-お-6
324	円形	38	12	J-お-6
325	円形	32	8	J-お-6
326	円形	72	14	J-か-7
327	円形	72	16	J-か-7
328	円形	32	38	J-か-7
329	円形	32	22	J-か-7
330	円形	34	10	J-か-10
331	円形	20	4	J-か-9
332	円形	20	26	J-か-9
333	円形	24	8	H-い-9
334	円形	26	24	H-い-9
335	円形	29	10	H-い-9
336	楕円形	36	6	H-い-9
337	楕円形	48	14	H-い-9
338	隅丸方形	37	18	H-い-9
339	方形	44	16	H-い-8

ピット名	形態	直径(cm)	深さ(cm)	検出位置
340	方形	42	16	H-あ-9
341	円形	30	16	H-あ-9
342	楕円形	126	14	H-あ-9
343	円形	50	14	H-あ-9
344	欠番			
345	円形	58	28	H-あ-9
346	円形	84	36	H-あ-9
347	円形	70	20	H-あ-9
348	隅丸方形	36	30	H-あ-9
349	隅丸方形	40	18	H-あ-10
350	円形	52	26	J-こ-10
351	円形	34	6	J-こ-10
352	円形	42	14	J-こ-9
353	円形	52	16	J-こ-10
354	円形	54	22	J-け-10
355	隅丸方形	28	14	J-け-10
356	円形	84	26	J-け-9
357	円形	30	10	J-け-9
358	隅丸方形	32	6	J-け-10
359	方形	24	8	J-け-10
360	楕円形	48	28	I-け-1
361	隅丸方形	36	16	I-く-1
362	円形	86	21	I-く-1
363	方形	42	8	J-き-10
364	方形	12	18	J-く-10
365	楕円形	34	17	J-き-10
366	円形	〈34〉	9	J-き-10
367	方形	25	20	J-き-10
368	隅丸方形	17	4	I-く-1
369	隅丸方形	20	4	J-き-10
370	楕円形	32	8	J-き-10
371	円形	16	8	I-き-1
372	円形	22	20	I-き-1

ピット名	形態	直径(cm)	深さ(cm)	検出位置
373	円形	42	14	I-き-1
374	円形	34	8	I-き-1
375	円形	22	18	J-き-10
376	円形	40	16	J-き-10
377	円形	42	11	J-き-10
378	円形	42	16	J-こ-9
379	円形	36	6	I-き-1
380	円形	22	8	I-き-1
381	円形	50	10	H-あ-8
382	円形	42	32	H-い-8
383	隅丸方形	18	12	H-い-8
384	円形	34	24	H-い-8
385	円形	24	18	H-い-8
386	方形	24	24	H-い-8
387	円形	25	6	H-い-9
388	円形	32	13	H-い-9
389	楕円形	34	9	H-い-9
390	円形	24	14	H-い-9
391	楕円形	46	20	H-あ-9
392	楕円形	76	12	H-あ-9
393	円形	38	20	H-あ-9
394	円形	52	16	I-く-1
395	円形	44	10	I-く-1
396	円形？	〈14〉	〈16〉	J-き-10
397	円形	〈24〉	6	I-き-1
398	円形	〈11〉	5	I-き-1
399	方形	28	8	J-く-10
400	円形？	〈28〉	14	J-こ-10
401	円形	44	14	J-け-9
402	円形	30	26	I-き-1
403	円形	〈48〉	12	J-き-10
404	円形	48	32	H-あ-9
405	楕円形	52	24	H-あ-8

C区ピット観察表（3）



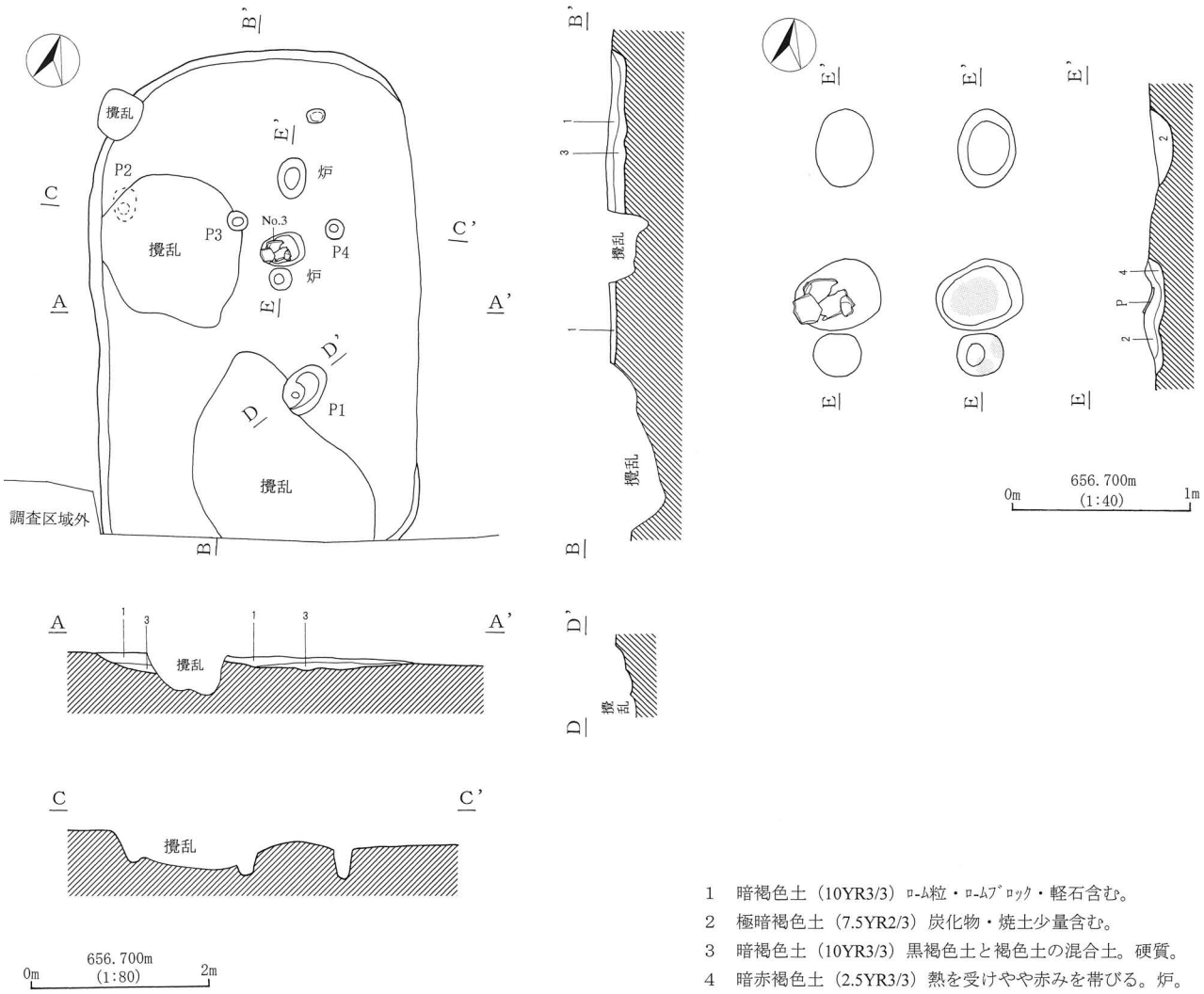
熊の堂遺跡遺構配置図（1：400）

第Ⅳ章　熊の堂遺跡

第１節　竪穴住居址

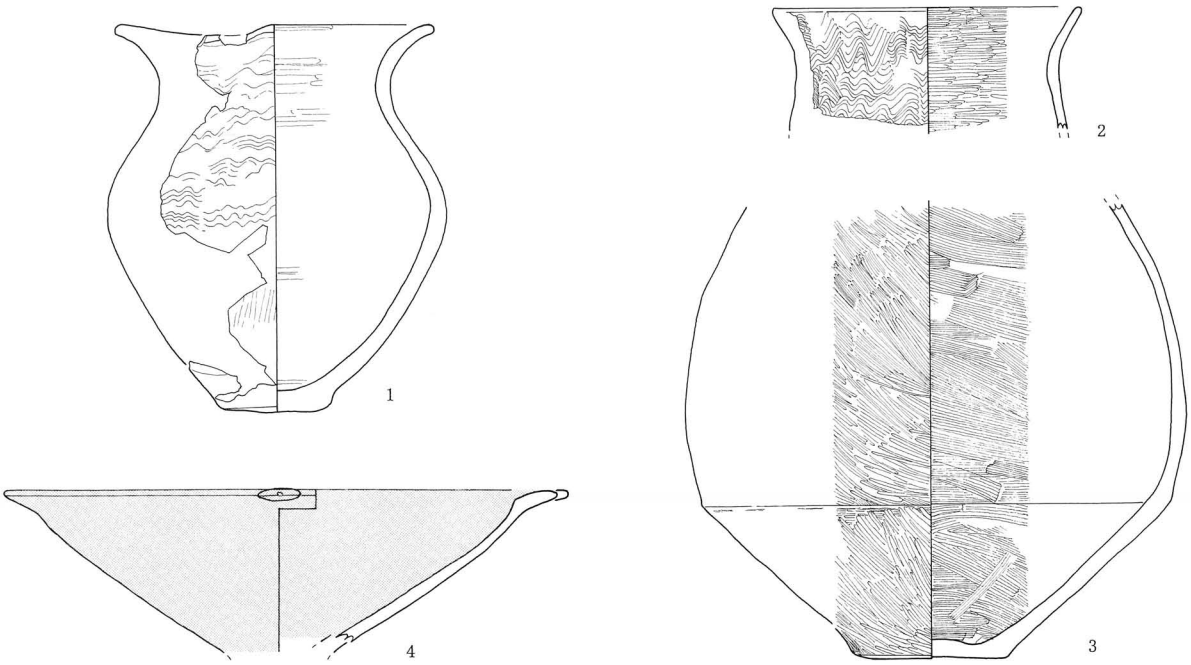
Ｈ１号住居址

遺構は調査区東南のＯ－え－６グリッドに位置し、南側の一部は調査区域外となる。また、東側は床面付近の高さまで削り取られ、住居址内も近年の攪乱に一部破壊されている。調査規模は南北5.4ｍ、東西3.6ｍ、検出面から床面までの深さは最大で12cmを測る。平面形態は調査状況から南北方向に長軸を持つ隅丸の長方形と考えられる。床面には貼床と考えられる、全体に薄い硬質層が存在する。地山を平らにする程度で土間状の床面としていたと考えられる。ピットは床面上で４個確認できた。Ｐ1・3・4が主柱穴と思われる。炉はＰ3・4間に存在し、弥生土器の壷底部が敷き詰められ、底面は熱によって硬質化していた。また、北側１ｍに地床炉と思われる焼土・炭化物を含む極暗褐色土が堆積した円形の窪みが存在した。掘方確認のため、硬質層を除去したが、直下は板状に剥離する軟質な岩盤となり、床面と掘方との間に明確な埋土は認められない。遺物は弥生土器の壷・甕・高坏が出土した。壷は丸みを持った胴部下部に明瞭な稜を持ち、稜下部からは直線的に底部に至る。甕の表面は磨耗気味で外面に櫛描波状文を施す。高坏は坏部の破損品で内外面赤色塗彩を施し、口縁部は大きく外に開く鍔状口縁で突起が認められる。本住居址は、丸みを持つ胴部下半に明瞭な稜を伴う壷及び大きく開く鍔状口縁を持つ高坏から、弥生時代後期後半と考えられ、遺物は箱清水式としたい。



1　暗褐色土（10YR3/3）ﾛｰﾑ粒・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ・軽石含む。
2　極暗褐色土（7.5YR2/3）炭化物・焼土少量含む。
3　暗褐色土（10YR3/3）黒褐色土と褐色土の混合土。硬質。
4　暗赤褐色土（2.5YR3/3）熱を受けやや赤みを帯びる。炉。

Ｈ１号住居址実測図

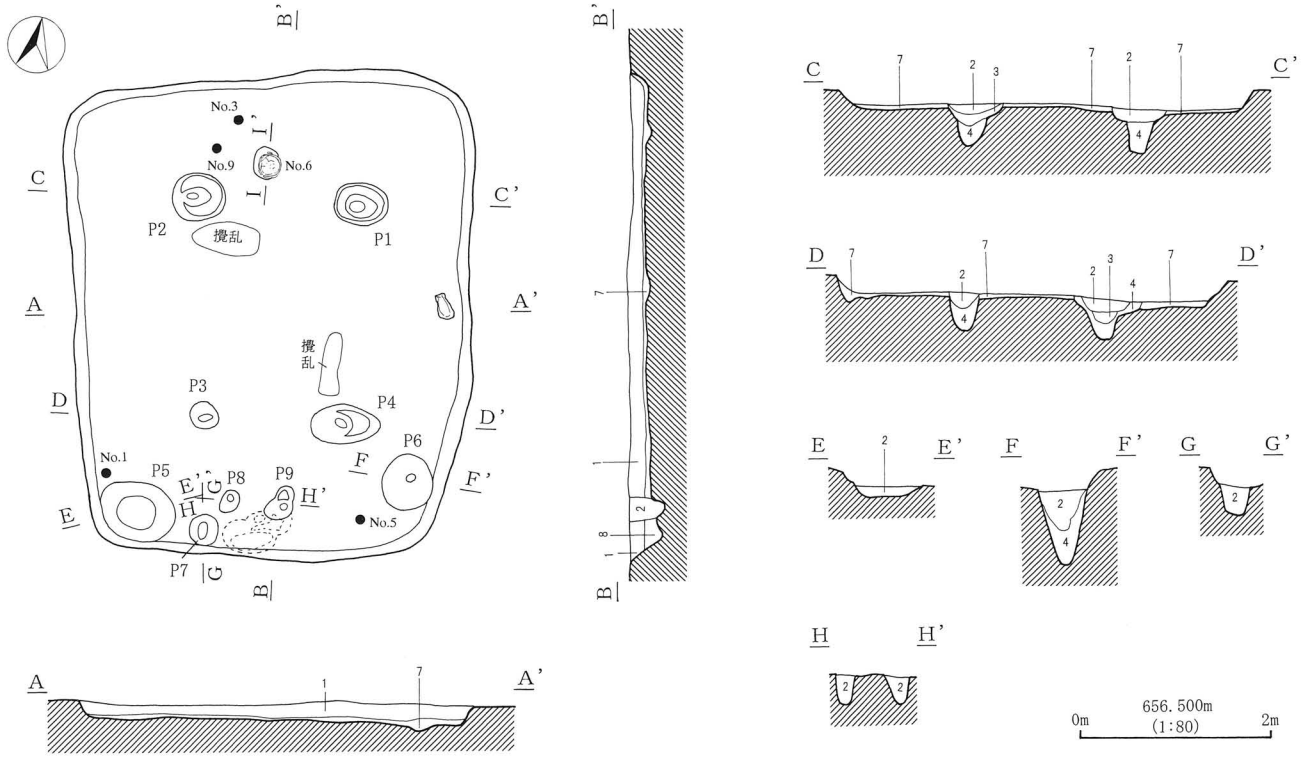


H１号住居址遺物実測図

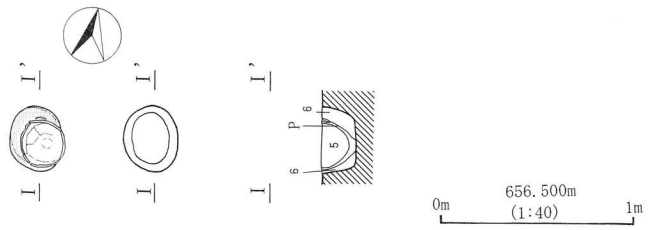
番号	器　種	器　形	口径cm	底径cm	器高cm	調　整・文　様	残存率・部位	備　考
1	弥生土器	甕	[16.7]	5.7	20.7	外面口縁～胴部中央付近櫛描波状文・表面摩耗著しい 内面口縁ナデ・ミガキ	50	外面5YR5/6明赤褐色 Ⅲ区出土
2	弥生土器	甕	[16.2]	—	〈6.6〉	口縁外面櫛描波状文　内面横ミガキ	口縁破片	外面5YR5/2灰褐色 Ⅲ区出土
3	弥生土器	壷	—	7.9	〈24〉	外面ハケ目・ミガキ　内面ハケ目	底部～胴部35	外面5YR7/6橙色 炉出土
4	弥生土器	高坏	[29]	—	〈8.6〉	内外面赤色塗彩　表面ミガキ　顎状口縁　突起あり	坏部40	内外面2.5YR4/6赤褐色 試掘出土

H１号住居址遺物観察表

H２号住居址



H２号住居址実測図（１）

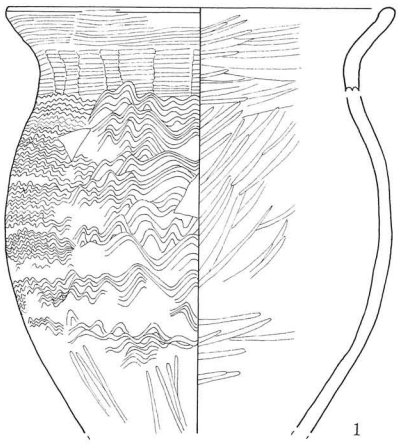


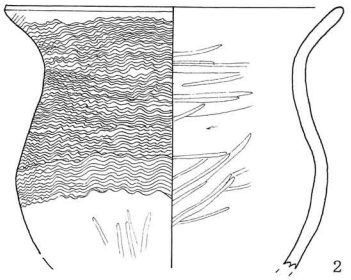
1　黒褐色土（10YR2/3）ﾛｰﾑ粒・炭化物・軽石含む。
2　黒褐色土（10YR2/3）ﾛｰﾑ粒含む。しまりなし。
3　暗褐色土（10YR3/4）ﾛｰﾑ粒含む。しまりなし。
4　にぶい黄褐色土（10YR4/3）やや砂質。しまりなし。
5　暗褐色土（7.5YR3/4）灰・焼土少量含む。しまりなし。
6　暗赤褐色土（2.5YR3/3）熱を受けやや赤みを帯びる。炉。
7　褐色土（10YR4/6）硬質。床。
8　黒褐色土（10YR2/3）硬質。床。

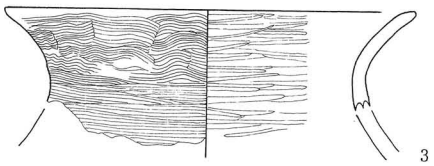
Ｈ２号住居址実測図（２）

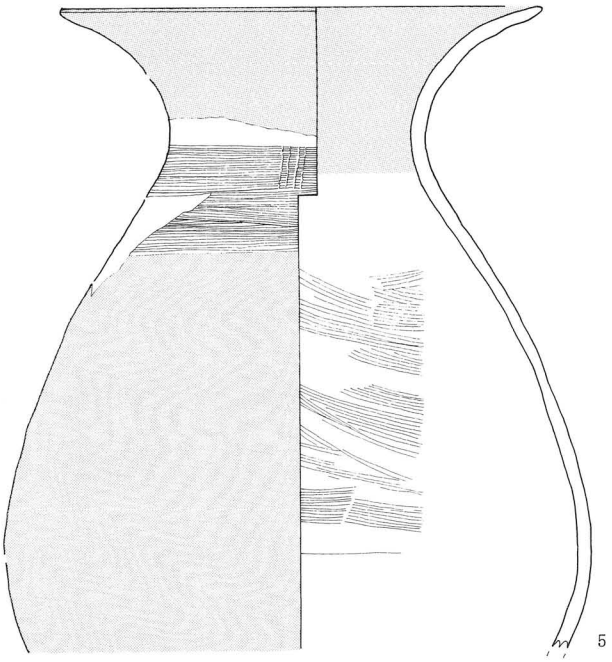
遺構は調査区東のＯ－あ－７グリッドに位置する。規模は南北5.2m、東西4.0m、検出面から床面までの深さは20cmを測る。平面形は南北に長軸を持つ、やや台形状の長方形である。床面は全体的に硬質で、薄い貼り床と思われる硬質層が一面に認められる。ピットは９個確認でき、Ｐ1～4が主柱穴である。平面形態は、確認面上では楕円形または円形だが、10cm程度掘り下げた下部の掘り込み形態は全て東西に長軸を持つ楕円形となる。深さは45cm内外を測る。南壁際のＰ7・8・9の平面形は南北方向に長軸を持つ楕円形で入口に関するピット、Ｐ6の平面形は円形で貯蔵に関するピットと思われる。炉はＰ1・2の中間やや北に位置し、上部が欠損した弥生土器の壷の底部から胴下半付近を埋め込んだ埋設炉である。埋設土器直下と掘方間に堆積した土は熱による焼け込みが認められ、炉の掘方である窪みの壁側面は赤く硬質化していた。住居址の掘方確認のため、硬質層を除去した結果、床面と掘方の間に明確な埋土は認められなかった。掘方を平らにする程度で土間状の床として利用していたと考えられる。

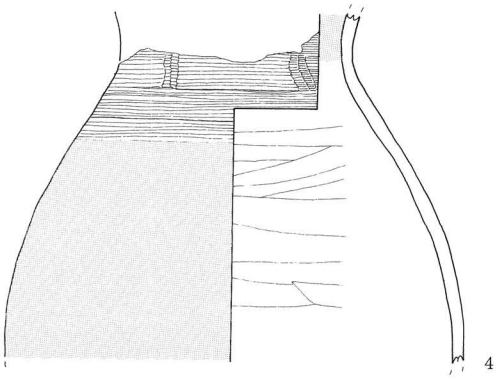
遺物は弥生土器の壷・高坏・甕、すり石、紡錘車が出土した。壷は外面及び口縁内部に赤色塗彩を施し、頸部に櫛描簾状文及び櫛描横線文を施す。炉に埋設されていた胴部下部は明瞭な稜を持ち、やや内湾気味に底部に至る。甕は外面櫛描波状文、または櫛描波状文に頸部櫛描横線文･櫛描簾状文を施すものが存在する。高





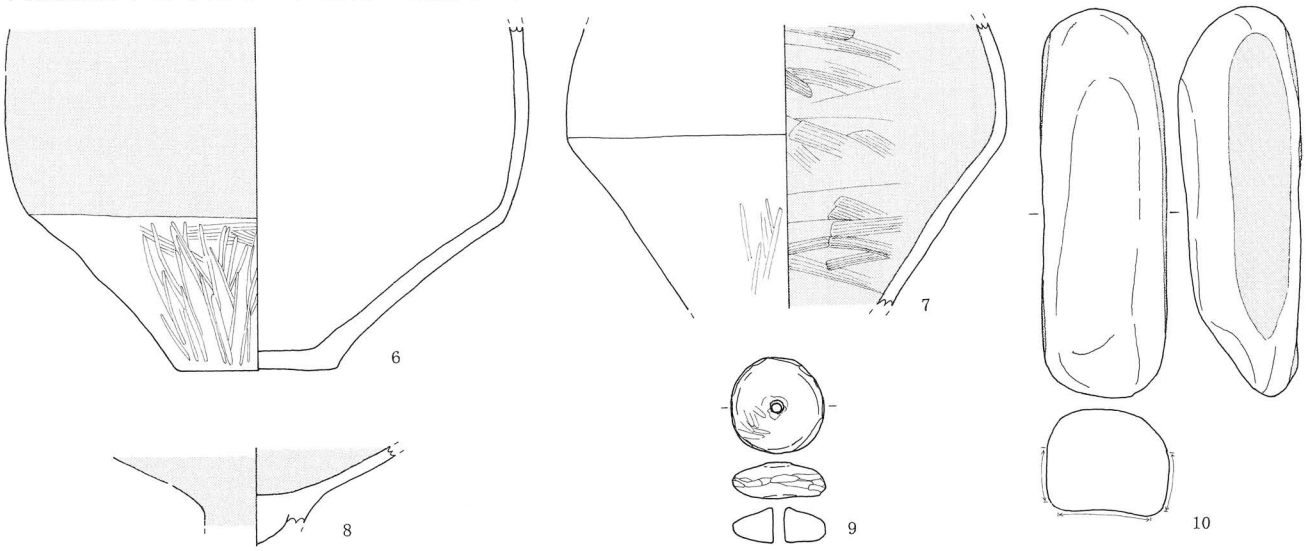






Ｈ２号住居址遺物実測図（１）

坏は坏部の破損品である。壷の胴下部に明瞭な稜を伴い、やや内湾気味に底部に至る形状から弥生時代後期後半と考えられ、遺物は箱清水式としたい。



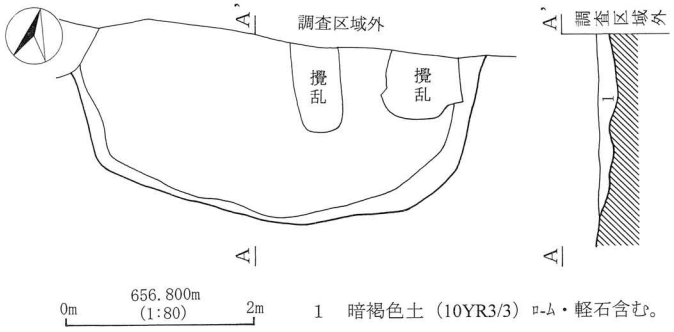
Ｈ２号住居址遺物実測図（２）

番号	器　種	器　形	口径cm	底径cm	器高cm	調　整・文　様	残存率・部位	備　考
1	弥生土器	甕	20.3	—	〈22.6〉	外面口縁・胴部櫛描波状文　頸部櫛描簾状文 胴下部縦ミガキ　内面ミガキ	35	外面7.5YR7/4にぶい橙色 Ⅰ・Ⅲ区出土
2	弥生土器	甕	17.6	—	〈13.9〉	外面口縁～胴中央付近細かい櫛描波状文　内面ミガキ	70	外面7.5YR7/4にぶい橙色 P5出土
3	弥生土器	甕	21.4	—	〈7.9〉	口縁外面櫛描波状文　頸部櫛描簾状文　内面横ミガキ	口縁100	外面7.5YR7/4にぶい橙色
4	弥生土器	壷	—	—	〈18.4〉	外面頸部櫛描簾状文・櫛描横線文　赤色塗彩　内面ヘラナデ	頸部～胴部破片	外面2.5YR5/6明赤褐色 Ⅰ区出土
5	弥生土器	壷	25.3	—	〈34.1〉	外面頸部櫛描簾状文・櫛描横線文　赤色塗彩 内面口縁赤色塗彩　ミガキ　胴部ハケナデ	30	外面2.5YR5/6明赤褐色 Ⅲ・Ⅳ区出土
6	弥生土器	壷	—	8.5	〈18.3〉	外面赤色塗彩　胴下部縦ミガキ　内面剥離	底部～胴下部100	外面2.5YR5/6明赤褐色他 炉埋設
7	弥生土器	壷	—	—	〈15.0〉	外面摩耗著しい　内面赤色塗彩　ハケ目　やや摩耗	胴下部破片	外面5YR6/2灰褐色 Ⅱ区出土
8	弥生土器	高坏	—	—	〈5.0〉	内外面赤色塗彩痕跡　摩耗著しい　裏面接合部突起	坏部接合部破片	外面2.5Y7/2灰黄色 Ⅰ区出土
番号	器　種	器　形	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	調　整・文　様	重量（g）	備　考
9	土製品	紡錘車	5.1	4.9	1.9	中央に穿孔　径0.5～0.6mm　表面ケズリ・ナデ	41.09	
10	石器	すり石	20.8	6.7	6.2	表面なめらか　すり痕か？	1414.45	

Ｈ２号住居址遺物観察表

Ｈ３号住居址

遺構は調査区北のＯ－あ－８グリッドに位置し、北側の多くは調査区域外となる。調査規模は南北2.0m、東西4.0m、検出面から床面までの深さは20cm内外を測る。床面は部分的に硬質面が残るものの近年の耕作によって凹凸感が著しい。ピット・炉などの施設は確認できなかった。



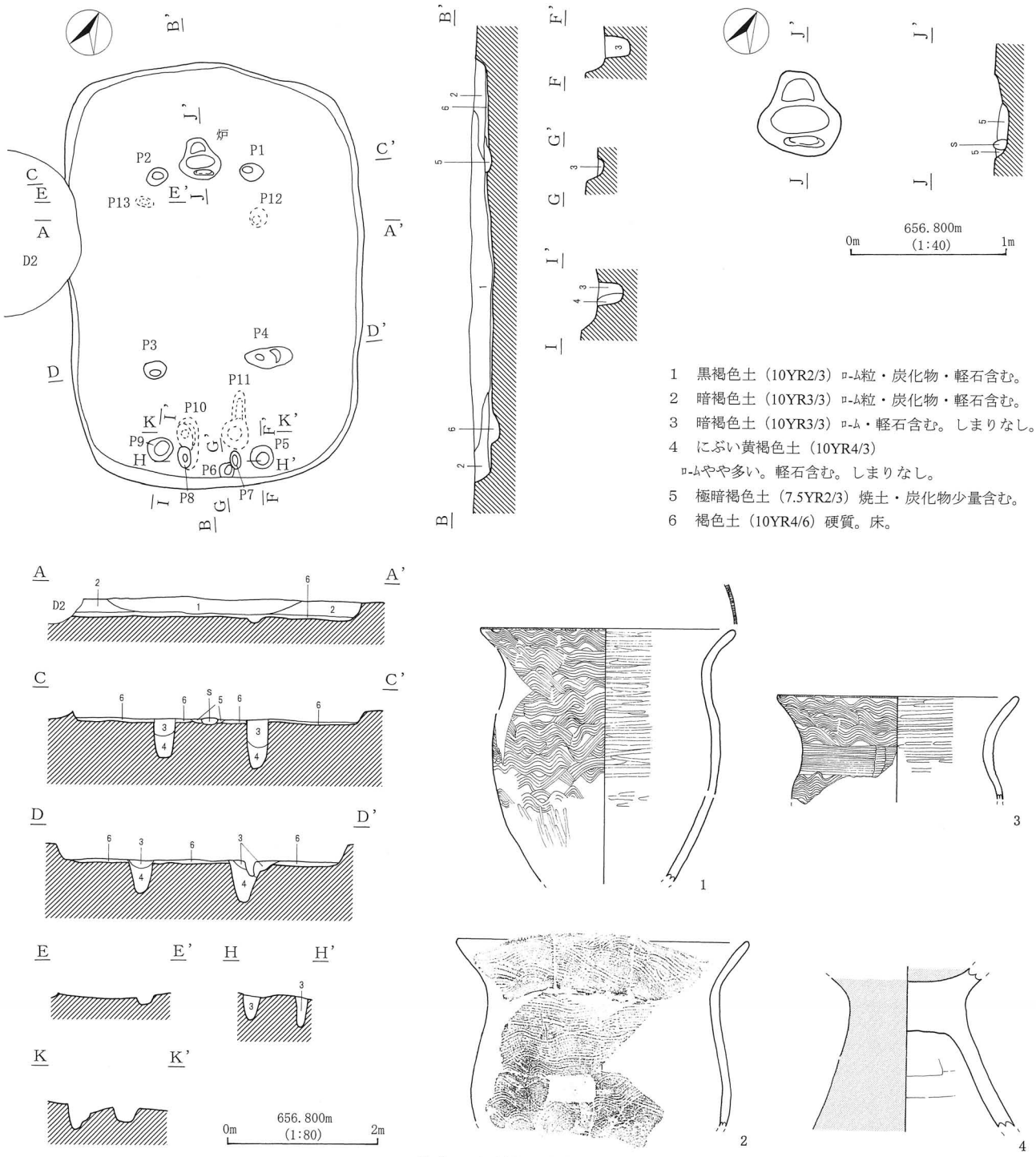
Ｈ３号住居址実測図

Ｈ４号住居址

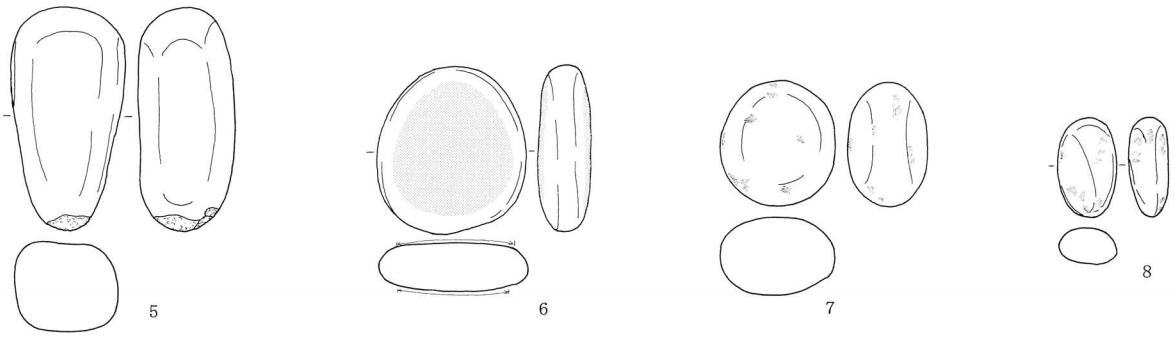
遺構は調査区のＯ－い－９グリッドに位置し、西側の一部をＤ2に破壊される。規模は南北5.5m、東西3.7m、検出面から床面までの深さは最大で30cmを測る。平面形態は隅の丸い南北方向に長軸を持つ長方形である。床面には薄い硬質層が一面に存在し、直下は地山である板状に剥離する軟質の岩盤となる。ピットは床面上で９個確認できた。主柱穴はＰ1～4で、深さは65cm内外を測る。平面形態はやや東西方向に長軸を持つ楕円形である。Ｐ5・9は貯蔵に、Ｐ7・8は入口に関係すると考えられる。これらのピットはいずれも地山の岩盤へ掘り込まれている。炉は北側主柱穴のＰ1・2間に設置され、床面を僅かに掘り窪めた地床炉である。南際には炉縁石が設置され、焼土・炭化物を含む極暗褐

色土が堆積していた。他の住居址に認められる底面への焼け込みは存在しなかった。住居址の掘方確認のため、硬質層を除去したが、床面と掘方の間に明確な埋土は認められなかった。地山を平らにする程度で土間状の床として利用したと考えられる。

遺物は弥生土器の甕・高坏、敲石、すり石が出土した。甕は外面櫛描波状文、または櫛描波状文に頸部櫛描簾状文を施す。口唇部には刻みが施される。高坏は脚部外面・みこみ部に赤色塗彩された脚部破損品で透かし孔の痕跡が認められる。本住居址は脚部に透かし孔の痕跡が認められる高坏の存在から弥生時代後期後半と考えられ、土器は箱清水式としたい。



H４号住居址遺構・遺物実測図

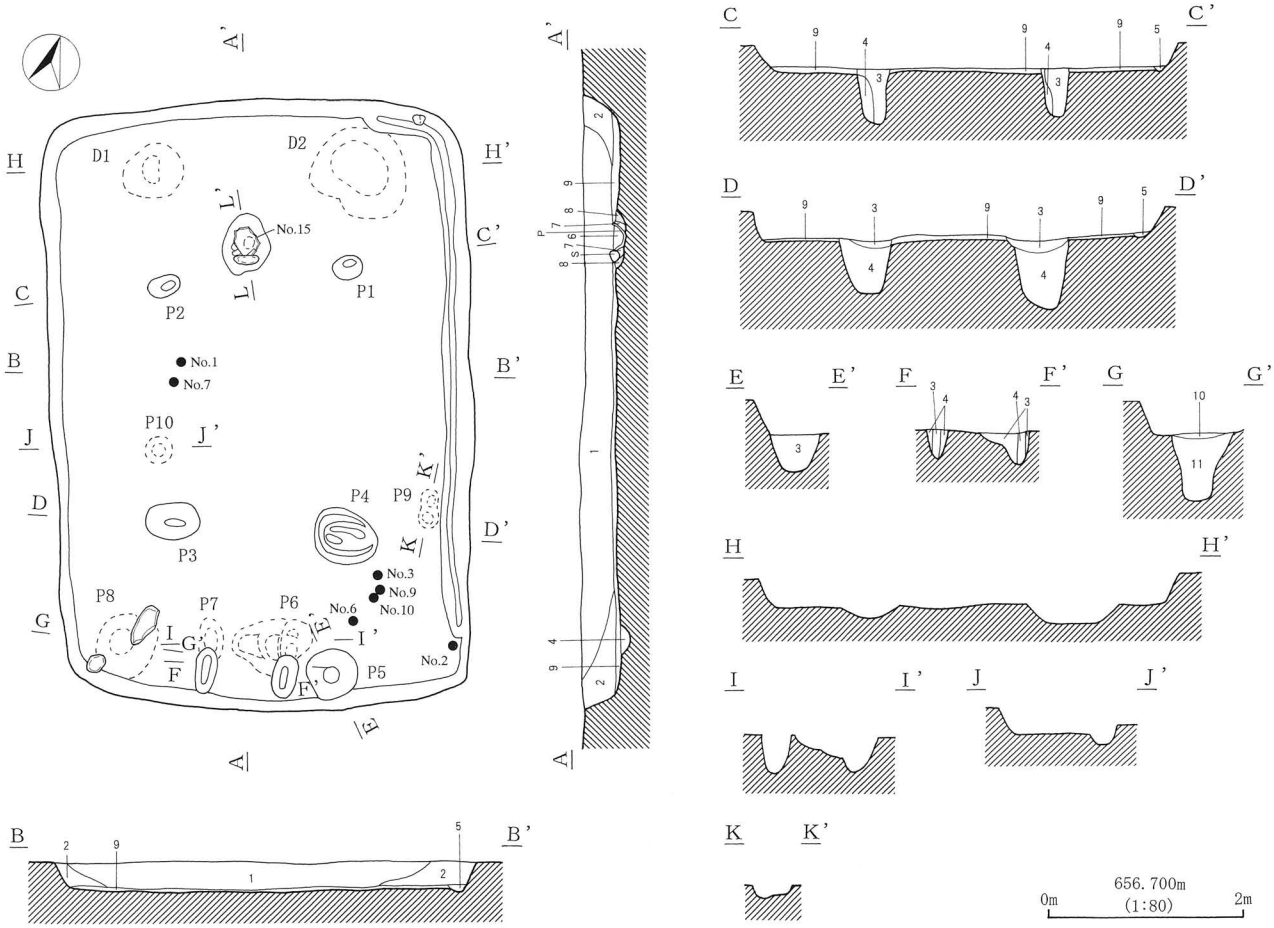


H４号住居址遺物実測図

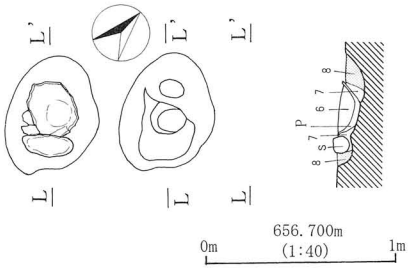
番号	器　種	器　形	口径cm	底径cm	器高cm	調　整・文　様	残存率・部位	備　考
1	弥生土器	甕	[16.7]	—	〈20.7〉	外面口縁から胴上部櫛描波状文・胴下部縦ミガキ 内面横ナデ・ミガキ　口唇部刻目	50	外面7.5YR7/4にぶい橙色 Ⅳ区出土
2	弥生土器	甕	[19.0]	—	〈12.1〉	口唇部刻目　外面口縁～胴部櫛描波状文　頸部櫛描簾状文	口縁～胴部破片	7.5YR4/2灰褐色他 Ⅰ・Ⅲ区出土
3	弥生土器	甕	[16.2]	—	〈6.6〉	口縁外面櫛描波状文　頸部櫛描簾状文　内面ハケナデ・横ミガキ	口縁破片	外面7.5YR6/4にぶい橙色 Ⅲ区出土
4	弥生土器	高坏	—	—	〈10.4〉	脚部外面・坏部みこみ部赤色塗彩・ミガキ　脚部内面ヘラナデ	脚部破片	外面10R4/6暗赤色 Ⅲ・Ⅳ区出土
番号	器　種	器　形	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	調　整・文　様	重量（g）	備　考
5	石器	敲石	11.9	6	4.8	先端に敲打痕　表面一面に窪み	564.31	
6	石器	すり石	8.9	7.9	2.7	表面滑らか	312.19	Ⅲ区出土
7	石器	すり石	6.6	6.1	4.2	表面滑らか	212.19	Ⅳ区出土
8	石器	すり石	5.2	3.1	1.9	表面滑らか	39.76	Ⅳ区出土

H４号住居址遺物観察表

H５号住居址



H５号住居址実測図（１）

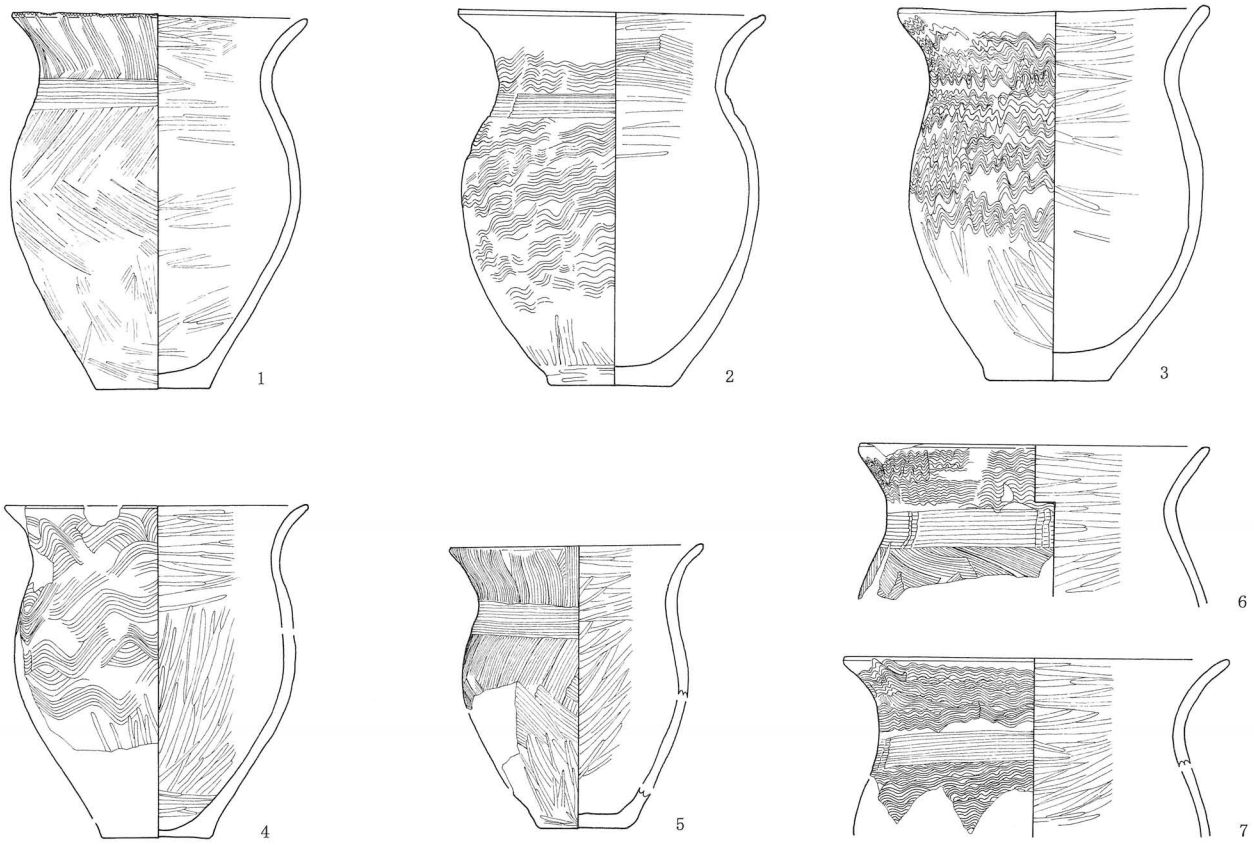


1　暗褐色土（10YR3/3）ﾛｰﾑ・炭化物・軽石含む。
2　暗褐色土（10YR3/4）ﾛｰﾑ・炭化物・軽石含む。
3　暗褐色土（10YR3/4）ﾛｰﾑ・軽石含む。しまりなし。
4　にぶい黄褐色土（10YR4/3）
ﾛｰﾑ・軽石やや多く含む。
5　にぶい黄褐色土（10YR4/3）
やや砂質。しまりなし。
6　暗褐色土（7.5YR3/3）炭化物・灰少量含む。炉。
7　暗赤褐色土（2.5YR3/4）
焼土化。やや砂質。炉。
8　黒褐色土（5YR2/2）焼土含む。硬質。
9　褐色土（10YR4/6）床面。硬質。
10　黒褐色土（10YR2/2）
ﾛｰﾑ・軽石含む。硬質。床。
11　黒褐色土（10YR2/2）
ﾛｰﾑ・軽石含む。しまりなし。

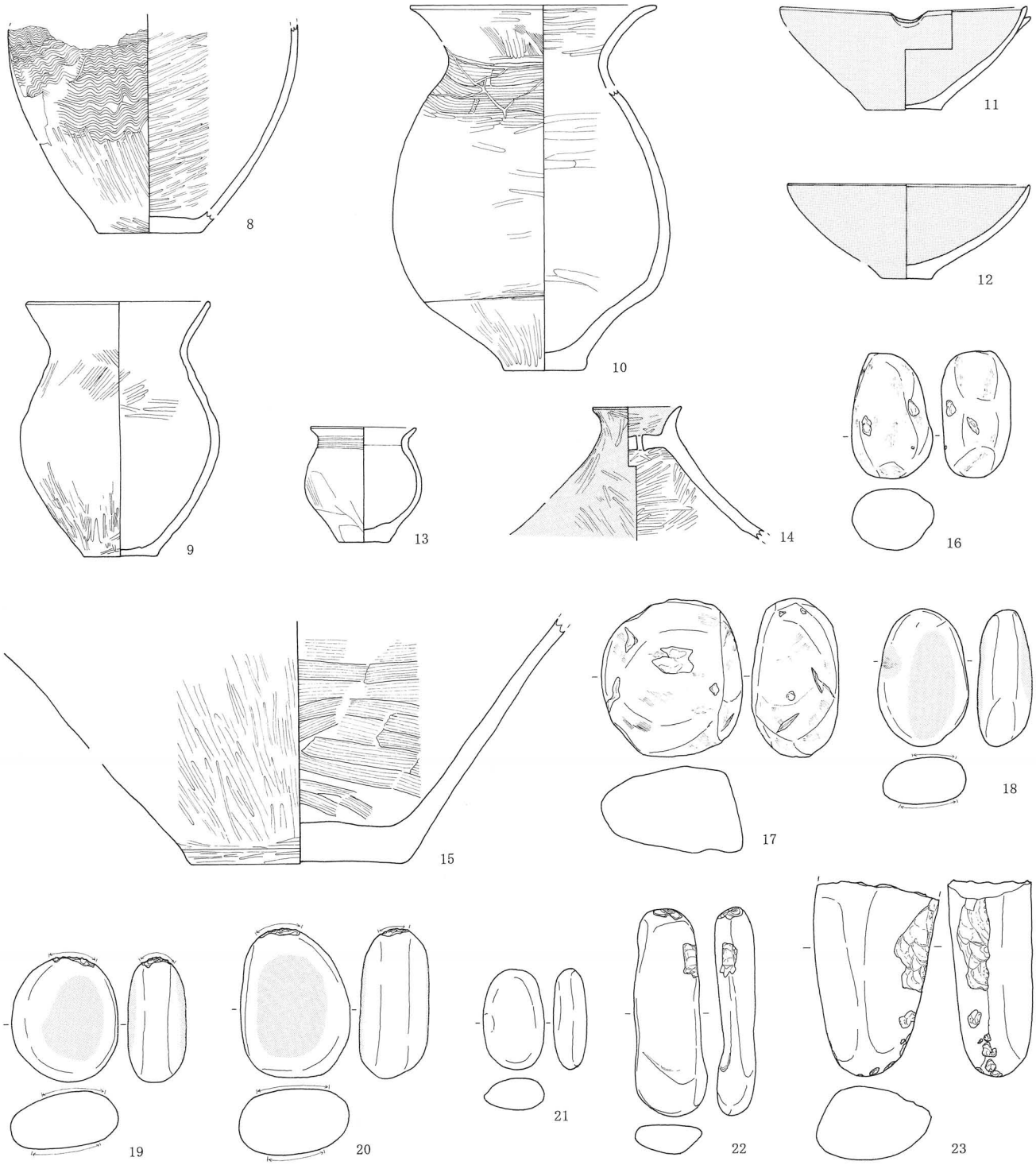
Ｈ５号住居址実測図（２）

遺構は調査区のＯ－う－10グリッドに位置する。規模は南北6.2m、東西4.2m、確認面から床面までの深さは最大40cmを測る。平面形態はやや隅丸の南北方向に長軸を持つ長方形である。床面は全体的に薄い硬質層が存在し、直下は地山の板状に剥離する軟質な岩盤層となる。東壁際には浅い壁溝が掘りこまれている。ピットは硬質層上で７個確認できた。主柱穴はＰ1～4で、確認面での平面形態は楕円形、円形を呈するが掘り込み形態は全て東西に長軸を持つ楕円形である。Ｐ6・7は入口に、Ｐ5は貯蔵に関するピットと考えられる。炉は北側主柱穴Ｐ1・2の中間からやや北に寄った位置で確認された。炉には上部の大半を欠損した大型の壷底部付近を、床に掘り込んだ窪みに埋設し、壷の南脇に炉縁石が設置されている。炉の掘方と壷の間には焼土化した暗赤褐色土が堆積し、掘方である窪みの側面壁は赤く焼土化し、硬質であった。床面全体に薄く存在する硬質層除去後、地山の岩盤上から小ピット２個、南西コーナーから１個のピット及び北壁沿いから窪み状の土坑２基を新たに確認した。住居址の掘方確認のため、硬質層を除去したが、床面と掘方の間に明確な埋土は認められなかった。掘方を平らにする程度で土間状の床として利用したと考えられる。

遺物は、南東コーナー付近の床直上から形状の残る弥生土器の甕等が出土した。本住居址の時期は弥生時代後期と考えられる。



Ｈ５号住居址遺物実測図（１）



H５号住居址遺物実測図（２）

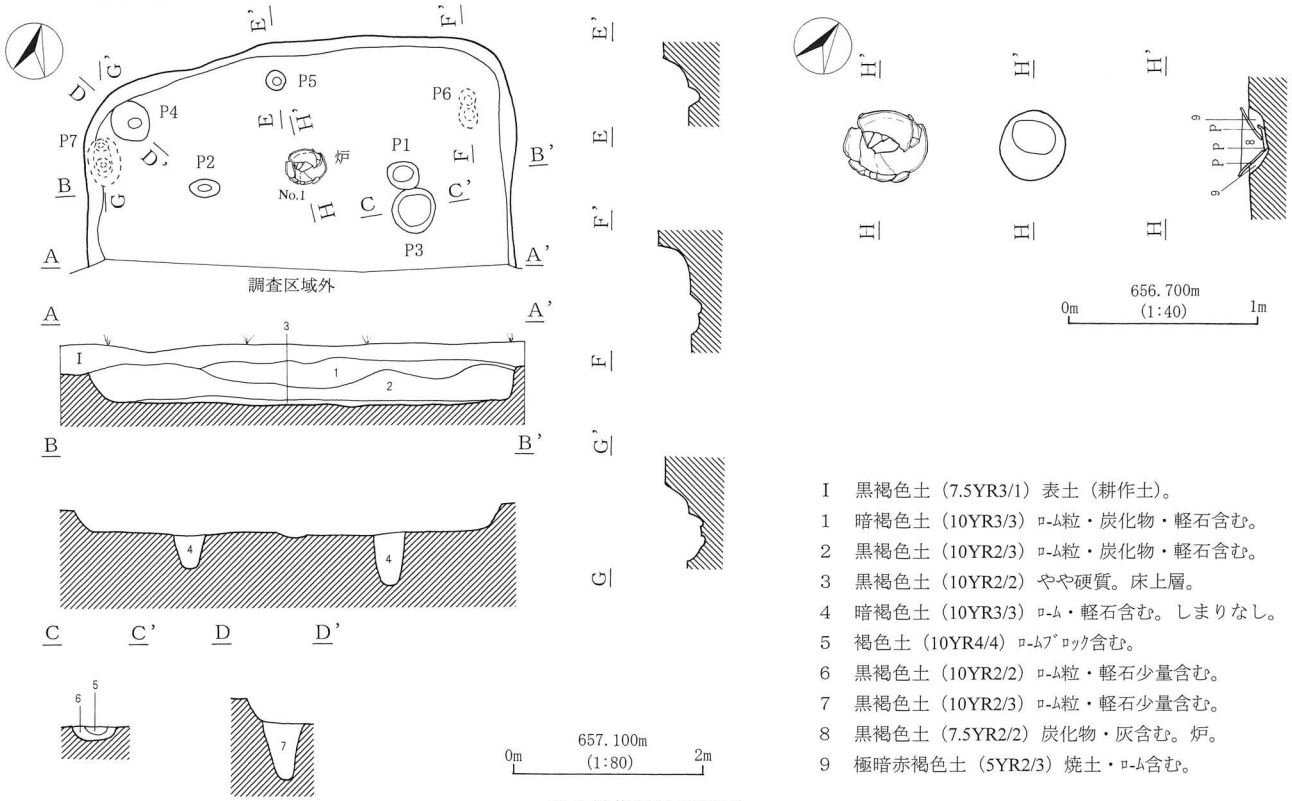
番号	器　種	器　形	口径cm	底径cm	器高cm	調　整・文　様	残存率・部位	備　考
1	弥生土器	甕	15.5	6	20	口唇部刻目　外面口縁～胴部中央櫛描斜線文の組み合わせによる羽状文 頸部櫛描横線文　胴下部縦ミガキ　内面横ミガキ	90	外面10YR7/4にぶい黄橙色
2	弥生土器	甕	16	6.4	20	外面口縁横ナデ　口縁下部から胴部櫛描波状文　胴下部縦ミガキ 内面横ナデ	90	外面5YR7/4にぶい橙色
3	弥生土器	甕	16.3	6.4	19.8	外面口縁～胴部中央櫛描波状文　胴下部縦ミガキ　内面横ミガキ	70	外面5YR5/3にぶい赤褐色他
4	弥生土器	甕	[16]	5.9	17.6	外面口縁～胴中央櫛描波状文　胴下部縦ミガキ　内面ミガキ	40	外面2.5YR5/4にぶい赤褐色
5	弥生土器	甕	13.3	5.1	15	外面櫛描斜線文の組み合わせによる羽状文　頸部櫛描横線文 胴下部縦ミガキ　内面ミガキ	60	外面7.5YR7/4にぶい橙色 Ⅲ・Ⅳ区出土
6	弥生土器	甕	18.3	—	〈8.5〉	外面口縁櫛描波状文　胴部櫛描斜線文　頸部櫛描簾状文 内面横ミガキ	口縁～胴上部	外面7.5YR6/4にぶい橙色

H５号住居址遺物観察表（１）

番号	器　種	器　形	口径cm	底径cm	器高cm	調　整・文　様	残存率・部位	備　考
7	弥生土器	甕	20.2	—	〈10.5〉	外面口縁・胴部櫛描波状文　頸部櫛描簾状文 内面横ミガキ　NO8と同一個体の可能性あり。	口縁～胴上部	外面10YR7/4にぶい黄橙色
8	弥生土器	甕	—	6.8	〈13.9〉	外面胴部櫛描波状文・下部縦ミガキ　内面ミガキ NO7と同一個体の可能性あり	底部～胴部破片	外面10YR7/4にぶい黄橙色
9	弥生土器	甕	12.2	4.8	17	外面櫛描斜線文・胴下部縦ミガキ痕跡あり　摩耗著しい	40	外面5YR4/3にぶい赤褐色
10	弥生土器	壷	[16.2]	5.4	24.3	外面口縁・胴部ミガキ　頸部櫛描簾状文・櫛描横線文 全体に摩耗著しい	口縁70欠損	外面7.5YR7/4にぶい橙色
11	弥生土器	鉢	16	4.8	6.8	内外面赤色塗彩　口縁部一カ所片口あり	85	内外面10R3/6暗赤色 Ⅰ・Ⅱ区出土
12	弥生土器	鉢	15.8	3.1	6.3	内外面赤色塗彩　外面摩耗著しい	30	外面2.5YR5/6明赤褐色他 P5出土
13	弥生土器	小型甕	[7]	3.4	7.6	頸部櫛描横線文　胴部ヘラ調整	30	外面7.5YR7/6橙色 Ⅳ区出土
14	弥生土器	蓋	つまみ 径5.6	—	〈8.9〉	内外面ミガキ　やや摩耗　つまみ部径4mmの穿孔	60	外面2.5YR6/6橙色 Ⅱ区出土
15	弥生土器	壷	—	14.2	〈16.2〉	外面縦ミガキ　内面ハケナデ	底部～胴下部	外面7.5YR8/3浅黄橙色 炉埋設
番号	器　種	器　形	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	調　整・文　様	重量（g）	備　考
16	軽石製品	すり石	8.4	5.3	4.2	全体にすり痕	65.79	2.5Y8/2灰白色 Ⅰ区出土
17	軽石製品	すり石	10.5	9.2	5.8	全体にすり痕	161.23	2.5Y8/2灰白色 Ⅳ区出土
18	石器	すり石	9.1	5.8	3.3	全体にすり痕　側面に窪み条のすり痕　編み物石に使用か？	270.05	5Y6/1灰色 P5出土
19	石器	すり石・敲石	8.3	7.2	3.8	長軸先端部に敲打痕　正面・裏面にすり痕	306.05	2.5Y6/1黄灰色 Ⅳ区出土
20	石器	すり石・敲石	9.9	7.3	4.6	長軸先端部に敲打痕　正面・裏面にすり痕	519.18	5Y7/1灰白色 P２出土
21	石器	すり・磨石	6.7	4	2.2	全体に滑らか	87.17	10Y5/1灰色 Ⅱ区出土
22	石器	敲石	13.8	4.9	2.6	長軸先端部に敲打痕　側面一部剥離	245.57	N5/1オリーブ灰色 Ⅱ区出土
23	石器	敲石	〈13〉	8.2	5.5	片側欠損　長軸先端から片側側面にかけて敲打痕	796.65	10YR7/2にぶい黄橙色 Ⅳ区出土

Ｈ５号住居址遺物観察表（２）

Ｈ６号住居址



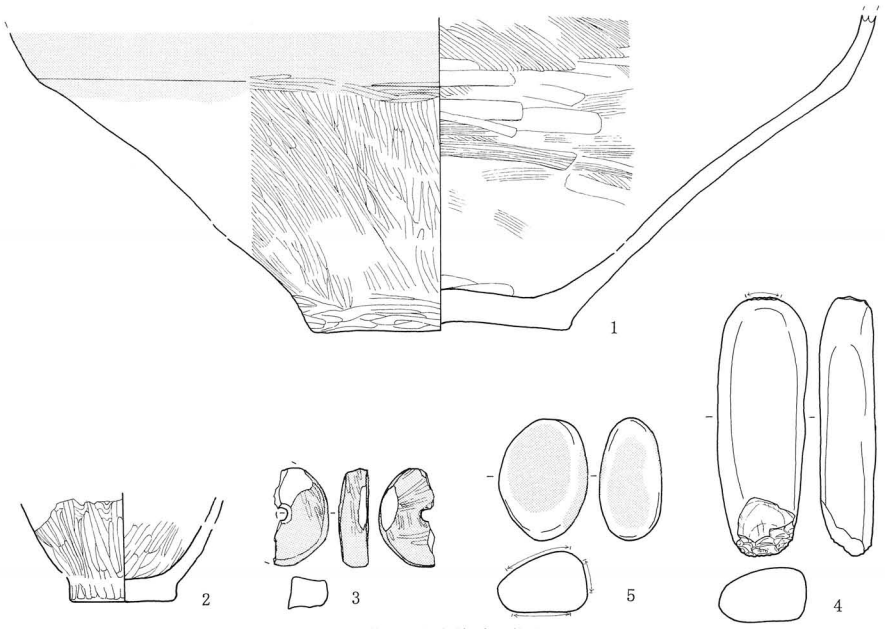
I　黒褐色土（7.5YR3/1）表土（耕作土）。
1　暗褐色土（10YR3/3）ﾛｰﾑ粒・炭化物・軽石含む。
2　黒褐色土（10YR2/3）ﾛｰﾑ粒・炭化物・軽石含む。
3　黒褐色土（10YR2/2）やや硬質。床上層。
4　暗褐色土（10YR3/3）ﾛｰﾑ・軽石含む。しまりなし。
5　褐色土（10YR4/4）ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
6　黒褐色土（10YR2/2）ﾛｰﾑ粒・軽石少量含む。
7　黒褐色土（10YR2/3）ﾛｰﾑ粒・軽石少量含む。
8　黒褐色土（7.5YR2/2）炭化物・灰含む。炉。
9　極暗赤褐色土（5YR2/3）焼土・ﾛｰﾑ含む。

Ｈ６号住居址実測図

遺構は調査区南のＮ－か－１グリッドに位置し、南側は調査区域外となる。調査規模は南北2.4m、東西4.2m、確認面からの床面までの深さは40cm、表土から床面までの深さは60cmを測る。平面形態は調査範囲から、やや隅丸の方形又は長方形と考えられる。床面には薄い貼り床と思われる硬質層が一面に存在し、直下は板状に剥離する軟質な岩盤となる。ピットは床面と思われる硬質層上面で５個確認できた。Ｐ1・2が主柱穴である。平面形態は確認面上で楕円又は円形を呈するが、掘り込み形態は全て東西方向に長軸を持つ楕円形となる。Ｐ5は位置的に棟持柱の可能性が考えられる。ピットは

いずれも軟質な岩盤層に掘り込まれている。炉はP1・2の中間から僅かに北に寄った位置で確認された。炉には上部の大半を欠損した大型壷の底部周辺を、床面に掘り込んだ窪みに埋設していた。炉と窪みの僅かな隙間には焼土化した極暗赤褐色土が堆積し、炉の掘方である窪み側面壁の一部は熱により焼土化し、硬質であった。住居址の掘方確認のため薄い硬質層を除去した結果、床面と掘方の間に明確な埋土は認められなかった。掘方を平らにする程度で土間状の床として利用していたと考えられる。また、壁際に小ピット２個が確認できた。

遺物は弥生土器の壷・甕紡錘車、敲石、すり石が出土したが、炉に使用された壷底部以外は小破片が大半を占める。壷底部は大型で残存部の最大径は45cmを超える。胴下部には明瞭な稜を持ち、稜から底部に向かってやや内湾気味である。本住居址の時期は、胴下部に明瞭な稜を持つ壷から弥生時代後期後半と考えられ、土器は箱清水式としたい。



H６号住居址遺物実測図

番号	器　種	器　形	口径cm	底径cm	器高cm	調　整・文　様	残存率・部位	備　考
1	弥生土器	壷	—	13.4	〈16.6〉	外面胴部赤色塗彩　胴下部ミガキ　内面ハケ目・ナデ	底部～胴下部	外面5YR7/4にぶい橙色 炉埋設
2	弥生土器	甕	—	5.4	〈5.4〉	外面胴部櫛描波状文　胴下部縦ミガキ　内面ミガキ	底部～胴下部	外面5YR7/4にぶい橙色
番号	器　種	器　形	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	調　整・文　様	重量（g）	備　考
3	土製品	紡錘車	〈5.2〉	〈2.9〉	1.5	中央に径0.6cmの穿孔　外面赤色塗彩	〈20.91〉	1/2欠損
4	石器	敲石	13.7	4.8	3	上下端に敲打痕　表面滑らか	340.65	先端部一方敲打による欠損か？
5	石器	すり石	6.4	4.6	3.3	表面滑らか	139.55	

H６号住居址遺物観察表

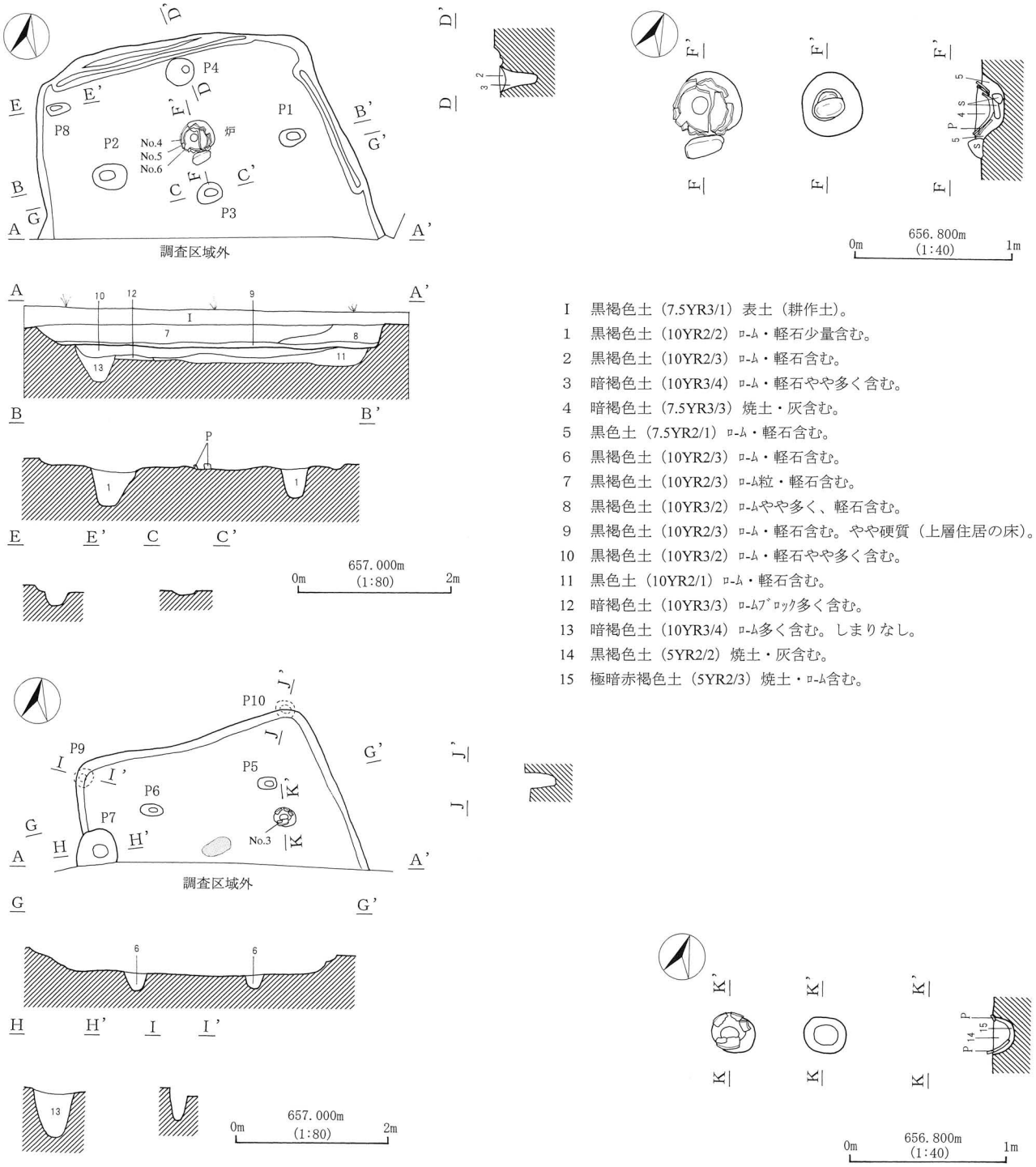
H７号住居址

遺構は調査区南西のN－か－３グリッドに位置し、南側は調査区域外となる。調査規模は南北3.0m、東西3.9m、検出面から床面までの深さ20cm、表土からの深さ44cmを測る。平面形態は調査範囲から、やや角のとれた方形又は長方形と考えられる。床面には硬質面が存在し、ピット５個が確認でき、北・東壁の一部に浅い壁溝が掘り込まれている。主柱穴はP1・2で、平面形態は東西に長軸を持つ楕円形を呈している。P4は位置的に棟持柱の可能性が考えられる。炉はP1・2の間で確認できた。炉には上部の大半を欠損した大型の壷周辺の破片を、床面に掘り込んだ窪みに重ねるように埋設し、直下に扁平楕円形の河原石２個が重ねられ、壷南側には炉縁石が据え置かれていた。壷内部の覆土には焼土・灰を含む暗褐色土が堆積していた。

床面上での調査終了後、床面の除去作業を実施した結果、本住居址直下に、一回り小型の住居址床面及び付随するピット・炉が確認できた。調査規模は壁高5cm内外の段差から南北2.0m、東西3.2mが計測できた。ピットは３個確認でき、P5・6が主柱穴である。上層住居址のやや内側に掘り込まれ、平面形態は東西方向に長軸を持つ楕円形を呈する。炉はP5の南側50cmに設置され、掘り込まれた径30cm、深さ12cmの窪み周囲に土器片が貼り付けられていた。また、P5・6の中間のやや南側床面上に焼け込みによる焼土が確認できた。

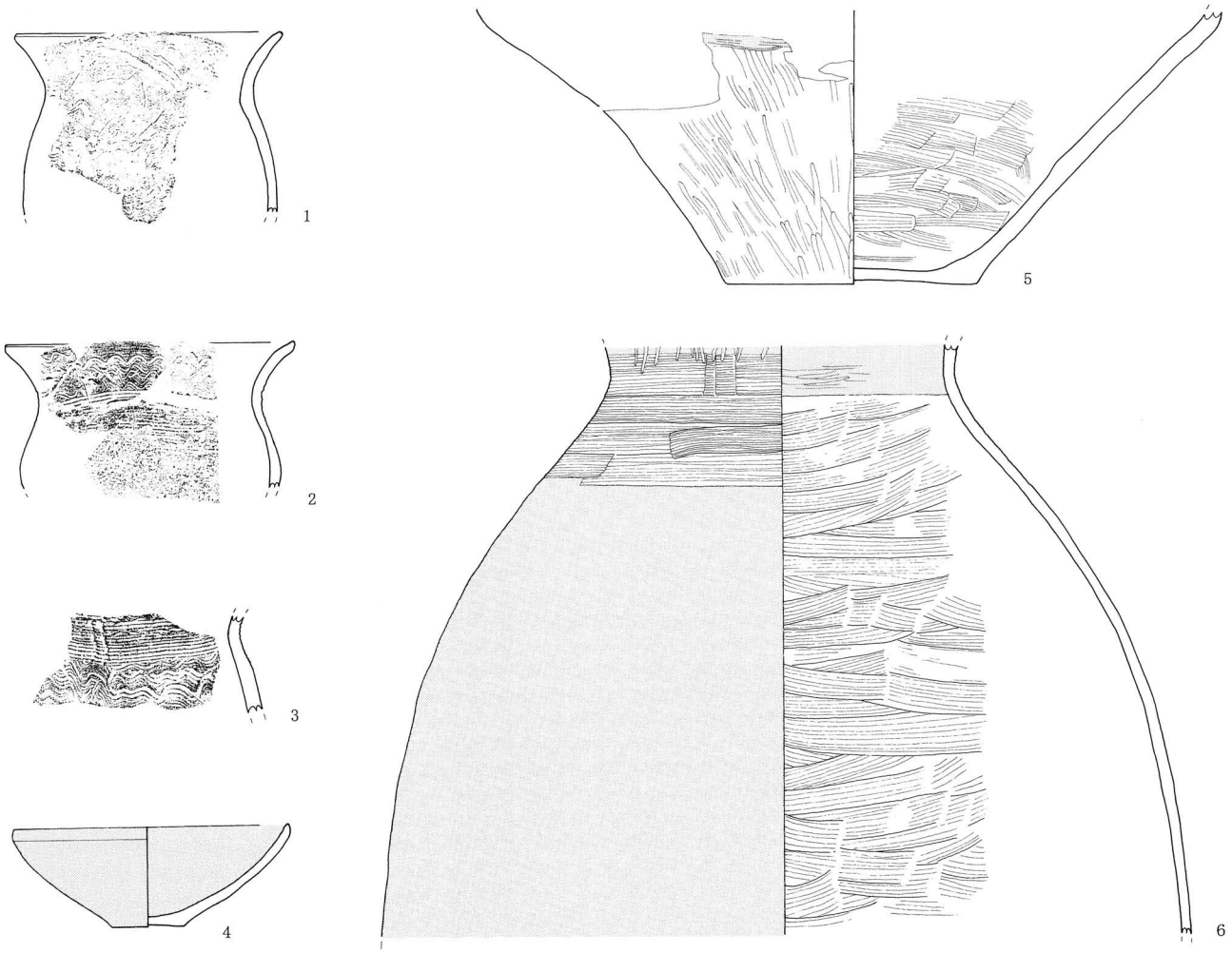
本住居址は下層で発見された住居址と同一個所に、規模を拡大した住居址が拡張または新たに建築されたと考えられる。

遺物は上層住居址から弥生土器の甕・壷・鉢、下層住居址から甕が出土した。甕は外面櫛描波状文、または外面櫛描波状文に頸部櫛描簾状文を施す。鉢は上層炉跡からの出土で内外面赤色塗彩され、口縁端部が僅かに内湾する。上層炉に使用された壷はやや大型で胴下部に明瞭な稜を持ち、稜から底部に向かって直線的に至る。稜から上の外面には赤色塗彩が施される。下層の住居址からは上層とほぼ同様の特徴を持つ甕の破片が出土している。本住居址は、胴下部に明瞭な稜を伴う壷の存在から弥生時代後期後半と考えられ、土器は箱清水式としたい。



I　黒褐色土（7.5YR3/1）表土（耕作土）。
1　黒褐色土（10YR2/2）ﾛｰﾑ・軽石少量含む。
2　黒褐色土（10YR2/3）ﾛｰﾑ・軽石含む。
3　暗褐色土（10YR3/4）ﾛｰﾑ・軽石やや多く含む。
4　暗褐色土（7.5YR3/3）焼土・灰含む。
5　黒色土（7.5YR2/1）ﾛｰﾑ・軽石含む。
6　黒褐色土（10YR2/3）ﾛｰﾑ・軽石含む。
7　黒褐色土（10YR2/3）ﾛｰﾑ粒・軽石含む。
8　黒褐色土（10YR3/2）ﾛｰﾑやや多く、軽石含む。
9　黒褐色土（10YR2/3）ﾛｰﾑ・軽石含む。やや硬質（上層住居の床）。
10　黒褐色土（10YR3/2）ﾛｰﾑ・軽石やや多く含む。
11　黒色土（10YR2/1）ﾛｰﾑ・軽石含む。
12　暗褐色土（10YR3/3）ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ多く含む。
13　暗褐色土（10YR3/4）ﾛｰﾑ多く含む。しまりなし。
14　黒褐色土（5YR2/2）焼土・灰含む。
15　極暗赤褐色土（5YR2/3）焼土・ﾛｰﾑ含む。

H７号住居址実測図



Ｈ７号住居址遺物実測図

番号	器　種	器　形	口径cm	底径cm	器高cm	調　整・文　様	残存率・部位	備　考
1	弥生土器	甕	[14.6]	—	〈10.1〉	外面櫛描波状文　内面口縁横ミガキ　胴部縦ミガキ	口縁～胴部破片	外面2.5YR5/6明赤褐色 P3出土
2	弥生土器	甕	[16]	—	〈8.2〉	外面口縁櫛描波状文　頸部櫛描簾状文　胴部剥離内面横ナデ・ミガキ	口縁～胴部破片	外面5YR6/4にぶい橙色 P3出土他
3	弥生土器	甕	—	—	〈5.1〉	外面櫛描波状文　頸部櫛描簾状文　内面ナデ	頸部破片	外面5YR5/2灰褐色 下層住居炉出土
4	弥生土器	鉢	15.2	4	5.6	内外面赤色塗彩	65	外面10R3/6暗赤色 炉出土
5	弥生土器	壷	—	13.8	〈15.4〉	外面ミガキ　内面ハケ目	底部～胴部	外面7.5YR6/6橙色 炉出土
6	弥生土器	壷	—	—	〈32.9〉	外面赤色塗彩　頸部櫛描簾状文・櫛描横線文　内面ハケ目	頸部～胴部	外面2.5YR5/6明赤褐色 炉出土

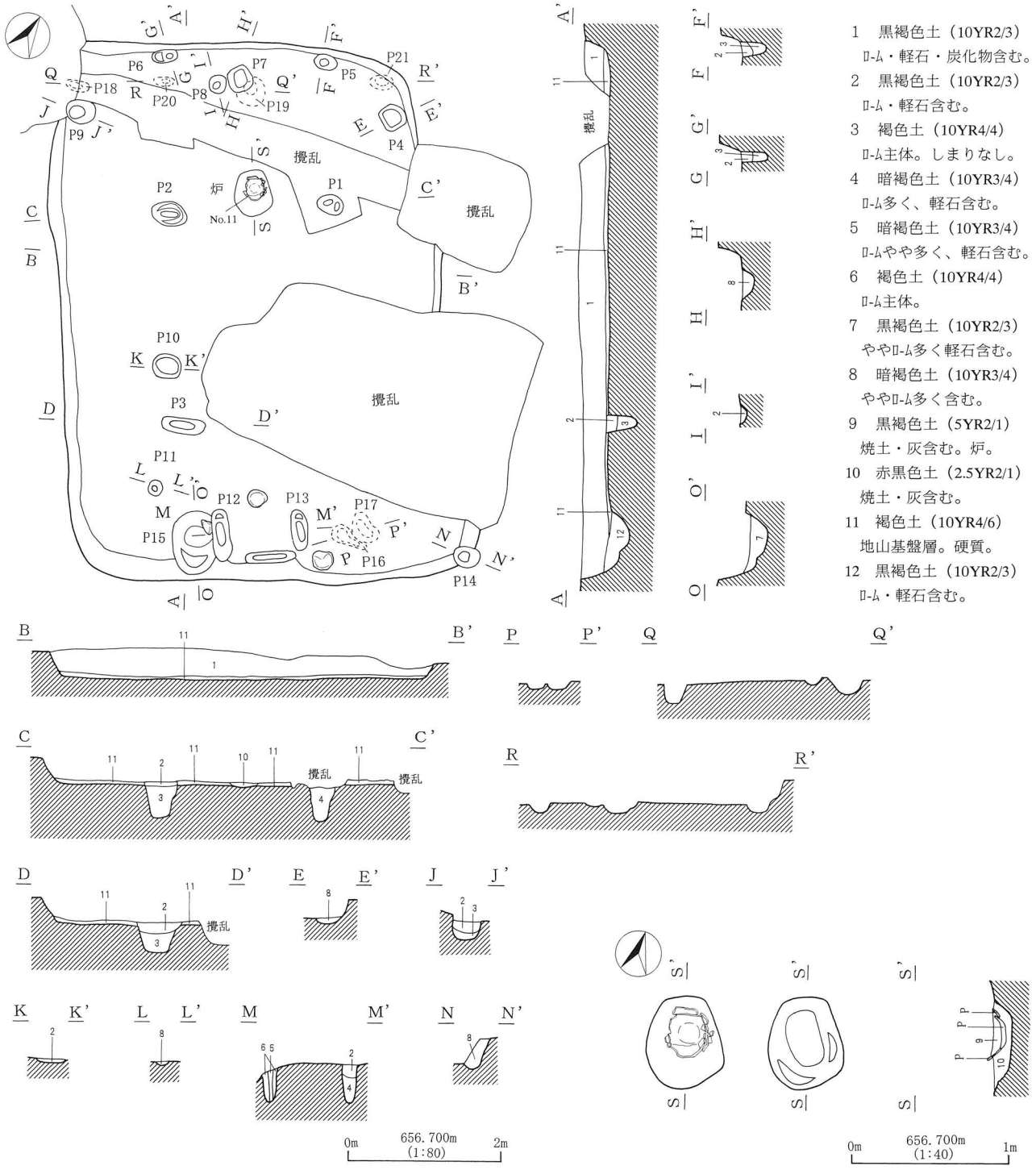
Ｈ７号住居址遺物観察表

Ｈ８号住居址

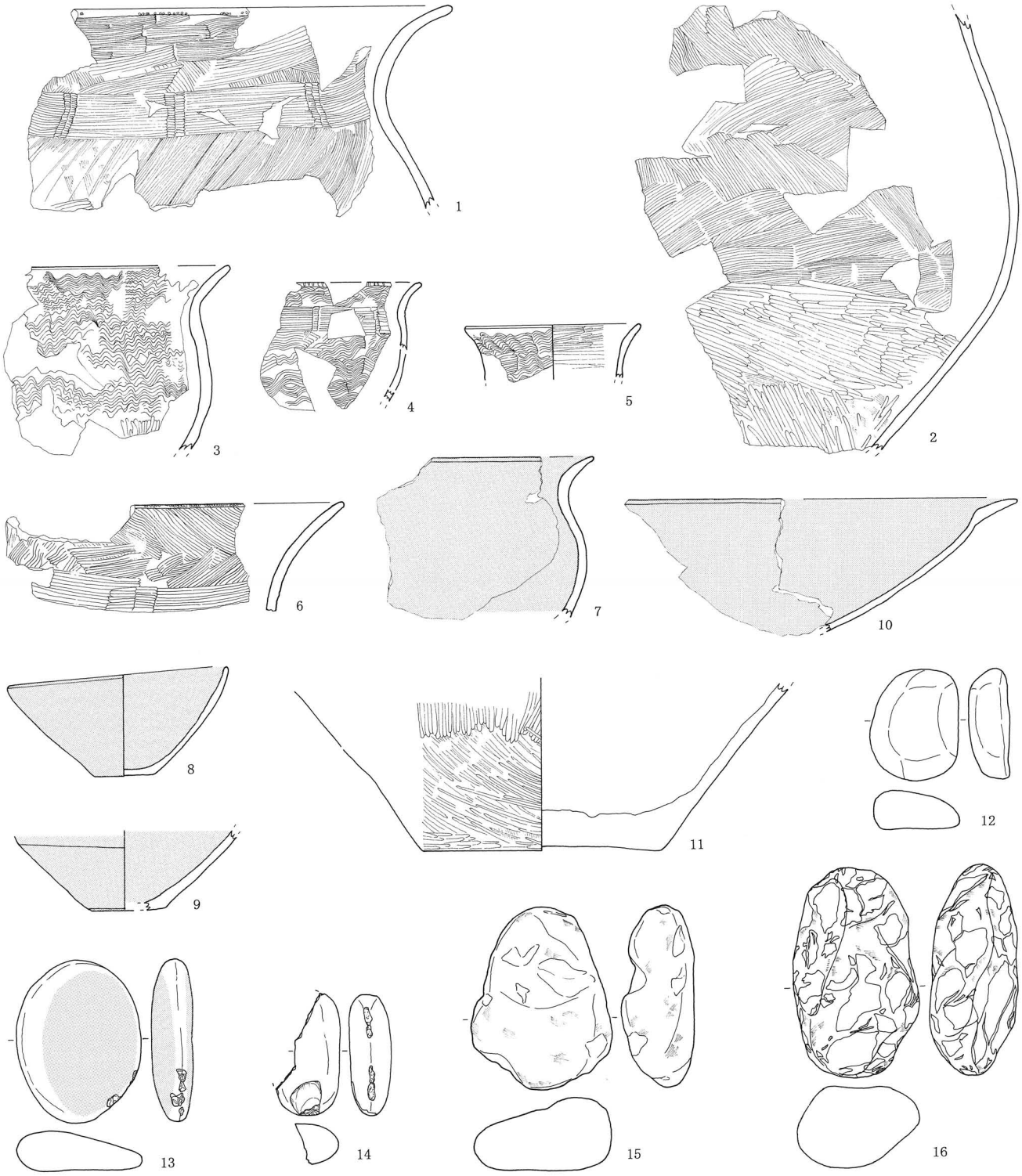
遺構は調査区Ｎ－え－２グリッドに位置し、部分的に大きく近年の攪乱に破壊されている。規模は南北6.8m、東西4.8m、確認面から床面までの深さは最大36cmを測る。平面形態は、南北方向に長軸を持つ、やや隅丸の長方形である。床面には貼床と思われる薄い硬質層が一面に存在し、直下は板状に剥離する軟質岩盤層となる。ピットは床面と思われる硬質層上面で15個確認できた。Ｐ1・2・3が主柱穴で平面形態は東西方向に長軸を持つ楕円形を呈する。平面形態が南北方向に長軸を持つ楕円形を呈する南壁際のＰ12・13は入り口に、Ｐ12脇の円形ピットは貯蔵に関すると考えられる。炉は主柱穴である北側のＰ1・2の中間に位置する。炉には上部の大半を欠損した大型の壷底部を、床に掘り込んだ窪みに埋設していた。壷と窪み底部との隙間には焼土・灰を主体とした赤黒色土が堆積し、炉の掘方である窪み側面壁の一部に焼け込みが認められた。住居址掘方確認のため、薄い硬質層を除去した結果、床面と掘方との間に明確な埋土は認められなかった。掘方を平らにする程度で土間状の床として利用していたと考えられる。

遺物は弥生土器の壷・甕・高坏・鉢、敲石、すり石が出土した。壷は外面赤色塗彩の破片が多数を占め、上部を欠損した底部は埋設炉に転用されている。甕は外面櫛描斜線文を羽状に配し頸部に櫛描簾状文を施すものと、外面櫛描波状文のみを施すもの、外面櫛描波状文及び頸部櫛描簾状文を施す小型品が存在する。高坏は破片資料で、坏部口縁は大きく外に開く鍔状口縁で内外面赤色塗彩を施す。鉢は平らな底部から逆ハの字状に開き口縁付近で僅かに内湾し、内外面赤色塗彩を施す。

本住居址は、赤色塗彩された壷・鉢、外面櫛描波状文と櫛描簾状文を組み合わせた甕の施文方法から弥生時代後期と考えられ、土器は箱清水式としたい。



H８号住居址実測図



H８号住居址遺物実測図

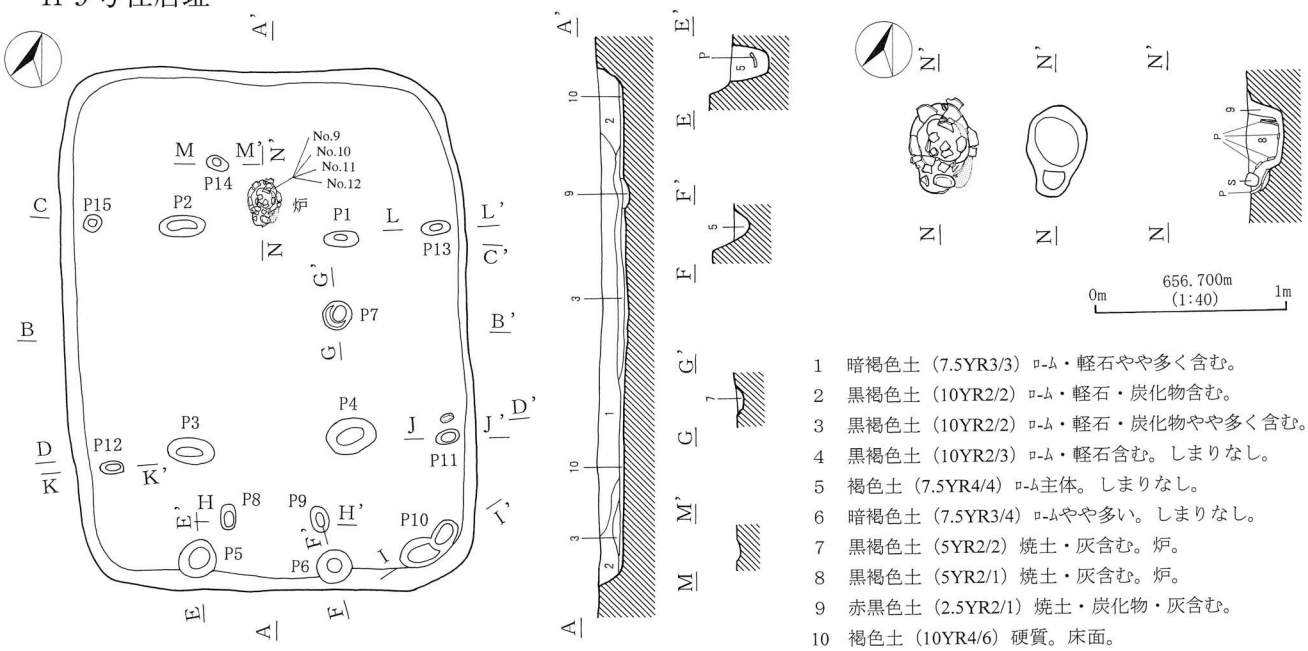
番号	器　種	器　形	口径cm	底径cm	器高cm	調　整・文　様	残存率・部位	備　考
1	弥生土器	甕	—	—	〈13.3〉	口唇部縄目　外面口縁傾斜の緩い櫛描斜線文　胴部櫛描斜線文 頸部櫛描簾状文　　内面口縁横ミガキ　胴部ナデ	口縁～胴部破片	外面7.5YR7/6橙色 Ⅰ区・Ⅳ区出土
2	弥生土器	甕	—	—	〈29.3〉	胴部外面櫛描斜線文による羽状文　胴下部斜め・縦ミガキ 内面ナデ	胴部破片	外面7.5YR6/6橙色 Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ区出土
3	弥生土器	甕	—	—	〈12.5〉	外面櫛描波状文　胴下部縦ミガキ　表面一部剥離摩耗　内面ナデ	口縁～胴部破片	外面5YR7/4にぶい橙色 Ⅰ区出土
4	弥生土器	甕	—	—	—	外面櫛描波状文　頸部櫛描簾状文　内面ナデ・ミガキ	口縁～胴部破片	外面10YR7/4にぶい黄橙色 Ⅳ区出土
5	弥生土器	甕	[11.7]	—	〈3.7〉	外面櫛描波状文　内面横ミガキ	口縁破片	外面7.5YR6/4にぶい橙色 Ⅱ区出土

H８号住居址遺物観察表（１）

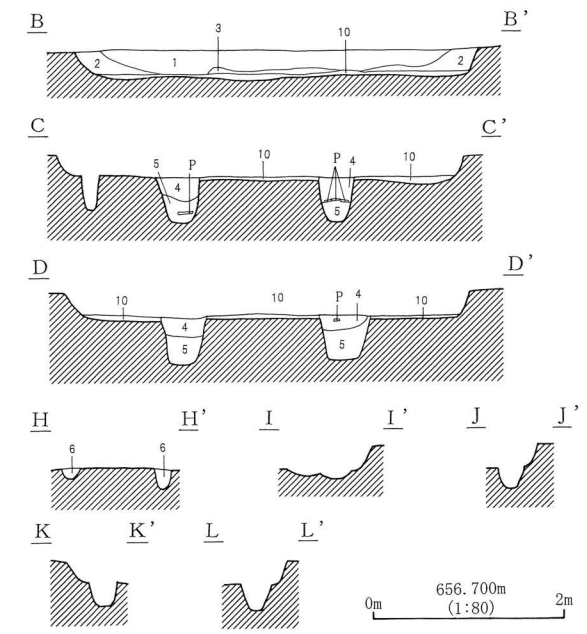
番号	器　種	器　形	口径cm	底径cm	器高cm	調　整・文　様	残存率・部位	備　考
6	弥生土器	甕	—	—	〈7.4〉	口唇刻目　口縁櫛描斜線文　頸部櫛描簾状文　内面ナデ	口縁破片	外面7.5YR6/6橙色 炉・Ⅳ区出土
7	弥生土器	深鉢	—	—	〈11〉	内外面赤色塗彩	口縁～胴部破片	外面2.5YR5/6明赤褐色 Ⅰ区出土
8	弥生土器	鉢	14.8	4.1	9.3	内外面赤色塗彩	80	外面2.5YR4/8赤褐色 Ⅲ区出土
9	弥生土器	鉢	—	5.2	〈7.3〉	内外面赤色塗彩	25	外面2.5YR4/8赤褐色 Ⅱ区出土
10	弥生土器	高坏	—	—	〈9〉	内外面赤色塗彩　鍔状口縁	坏部口縁破片	外面10YR5/8赤色 Ⅲ区出土
11	弥生土器	壷	—	16.2	〈11.1〉	外面縦ミガキやや摩耗　内面剥離著しい	底部～胴下部	外面7.5YR8/4浅黄橙色他 炉埋設
番号	器　種	器　形	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	調　整・文　様	重量（g）	備　考
12	石器	すり石	7.5	5.8	2.7	全体に滑らか	168.06	Ⅳ区出土
13	石器	すり・敲石	11	8.4	2.7	正裏にすり面　側面に敲打痕	342.75	Ⅳ区出土
14	石器	敲石	〈8.2〉	〈4.3〉	〈2.8〉	先端に敲打痕　片側欠損	〈106.19〉	Ⅳ区出土
15	石器	軽石製すり石	12.3	9.4	4.8	全体にすり面あり	178.05	Ⅲ区出土
16	原石	—	14.2	8.4	5.5	暗赤色に白色が霜ふり肉状に混入する原石	896.16	Ⅳ区出土

Ｈ８号住居址遺物観察表（２）

Ｈ９号住居址

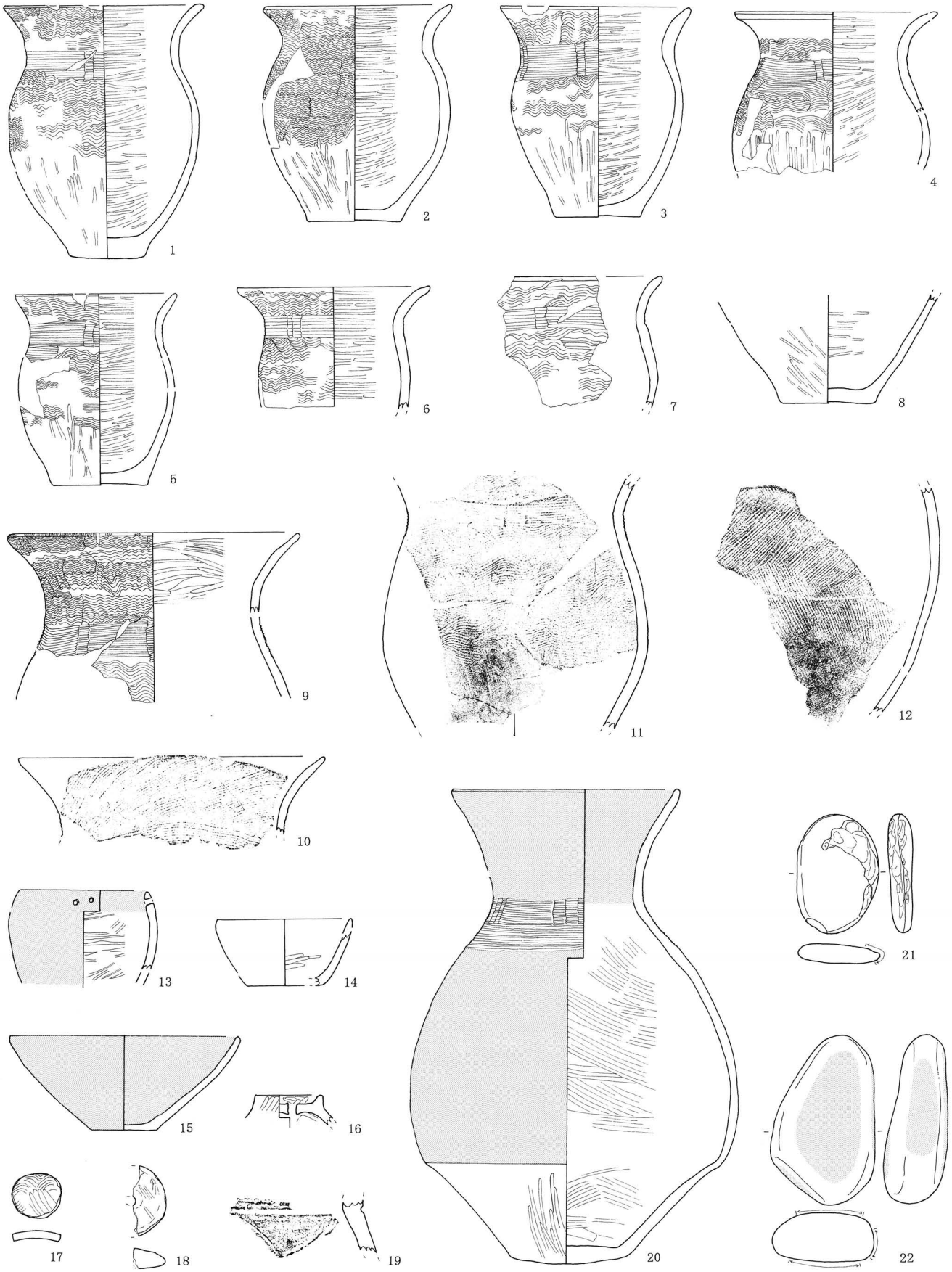


1　暗褐色土（7.5YR3/3）ﾛｰﾑ・軽石やや多く含む。
2　黒褐色土（10YR2/2）ﾛｰﾑ・軽石・炭化物含む。
3　黒褐色土（10YR2/2）ﾛｰﾑ・軽石・炭化物やや多く含む。
4　黒褐色土（10YR2/3）ﾛｰﾑ・軽石含む。しまりなし。
5　褐色土（7.5YR4/4）ﾛｰﾑ主体。しまりなし。
6　暗褐色土（7.5YR3/4）ﾛｰﾑやや多い。しまりなし。
7　黒褐色土（5YR2/2）焼土・灰含む。炉。
8　黒褐色土（5YR2/1）焼土・灰含む。炉。
9　赤黒色土（2.5YR2/1）焼土・炭化物・灰含む。
10　褐色土（10YR4/6）硬質。床面。



Ｈ９号住居址実測図

遺構は調査区西のＮ－お－４グリッドに位置する。規模は南北5.4m、東西4.0m、確認面から床面までの深さは20cmを測る。平面形態は隅丸で南北方向に長軸を持つ長方形である。床面には貼床と思われる薄い硬質層が一面に存在し、直下は板状に剥離する軟質な岩盤となる。ピットは床面上で15個確認できた。主柱穴はＰ1～4である。平面形態は東西方向に長軸を持つ楕円形で、深さはいずれも50cm内外を測る。Ｐ11・12・13・15は壁柱穴、Ｐ8・9は入口に関係するピットと考えられる。ピットは全て岩盤層に掘り込まれている。炉はＰ1・2の中間からやや北に寄った位置で確認された。炉には、床面から掘り込まれた窪みの側面及び底面に土器片が貼りつけられ、炉の南脇に



H９号住居址遺物実測図

小型の炉縁石が据え置かれていた。土器片と窪みの堀方間には焼土・灰主体の赤黒色土が堆積し、窪みの側面壁には赤い焼け込みが認められた。また、P1の南に存在するP7も、床面を掘り窪めた地床炉と考えられた。本住居址は基盤層である軟質な岩盤上に僅かな硬質層が認められるだけで、床面構築に伴う埋土は認められなかった。

遺物は弥生土器の甕・鉢・壷・蓋、土製品、敲石、すり石が出土した。甕は外面櫛描波状文に頸部櫛描簾状文を施した器高18cm内外の小型の甕が多数を占め中型品も認められる他、外面櫛描斜線文を羽状に配し、頸部櫛描簾状文を施すものが存在する。鉢は逆ハの字状で口縁僅かに内湾し内外面赤色塗彩のもの、体部が和太鼓状に立ちあがり口縁部に並んだ穿孔２口を有し、外面と内面上部に赤色塗彩を施すもの、湯のみ状で胎土が粗雑なものが存在する。蓋は上部の破損品で中央に穿孔を有する。

本住居址は外面櫛描波状文と櫛描簾状文を組み合わせた甕が主体であること、内外面赤色塗彩された鉢の存在から弥生時代後期と考えられ、土器は箱清水式としたい。

番号	器　種	器　形	口径cm	底径cm	器高cm	調　整・文　様	残存率・部位	備　考
1	弥生土器	甕	14.3	5.3	18.6	口縁外面櫛描波状文　胴上半櫛描波状文　頸部櫛描簾状文 胴下半縦ミガキ　内面口縁ナデ・ミガキやや摩耗　胴部ナデ・ミガキ	90	外面10YR7/2にぶい黄橙色他 Ⅳ区出土
2	弥生土器	甕	13.4	6.8	15.9	外面上半櫛描波状文　胴下半縦ミガキ　内面横ミガキ	70	外面10YR7/3にぶい黄橙色他 Ⅲ区出土
3	弥生土器	甕	13.3	6	15.4	外面口縁櫛描波状文　胴上半櫛描波状文　頸部櫛描簾状文 胴下半縦ミガキ　表面摩耗　内面口縁横ミガキ　胴ナデ・ミガキ	80	外面10YR7/3にぶい黄橙色他 Ⅲ区出土
4	弥生土器	甕	14.4	—	〈11.8〉	口唇部縄目　外面口辺櫛描波状文　胴上半櫛描波状文 胴下半縦ミガキ　表面やや摩耗　内面口縁横ミガキ　胴部ナデ・ミガキ	60	外面7.5YR6/4にぶい橙色他 Ⅳ区出土
5	弥生土器	甕	11.6	6.8	14	外面口辺櫛描波状文　胴上半櫛描波状文　頸部櫛描簾状文 胴下部縦ミガキ　内面横ミガキ	65	外面7.5YR6/4にぶい橙色他 Ⅳ区出土
6	弥生土器	甕	[13.8]	—	〈8.9〉	外面口辺櫛描波状文　胴上半櫛描波状文　頸部櫛描簾状文 表面やや摩耗　内面横ミガキ	口縁～胴部破片	外面7.5YR5/4にぶい褐色 Ⅲ区出土
7	弥生土器	甕	—	—	〈9.6〉	外面口辺櫛描波状文　胴上半櫛描波状文　頸部櫛描簾状文	口縁～胴部破片	外面7.5YR5/6明褐色 Ⅲ区出土
8	弥生土器	甕	—	6.9	〈8〉	外面斜めミガキ　内面ナデ	底部～ 胴下部破損品	外面7.5YR7/3にぶい橙色他 Ⅱ・Ⅲ区出土
9	弥生土器	甕	21	—	〈12.3〉	口唇部刻み　口辺・胴部上半櫛描波状文　頸部櫛描簾状文 内面口辺横ミガキ	口縁100～胴部	外面7.5YR7/4にぶい橙色 炉出土
10	弥生土器	甕	—	—	〈5.6〉	口唇刻み　外面口辺櫛描斜線文　頸部櫛描簾状文 内面口辺横ミガキ　表面やや摩耗	口辺破片	外面5YR5/4にぶい赤褐色 炉出土
11	弥生土器	甕	—	—	〈18〉	外面口辺・胴上半櫛描波状文　頸部櫛描簾状文　胴下部縦ミガキ 内面ナデ	頸部～胴部破片	外面5YR5/4にぶい赤褐色 炉出土
12	弥生土器	甕	—	—	〈16〉	外面櫛描斜線文による羽状文　内面ナデ	胴部破片	外面7.5YR5/3にぶい褐色他 炉出土
13	弥生土器	鉢	[9.2]	—	〈6.9〉	外面赤色塗彩　内面上部赤色塗彩　口縁に並列する穿孔２口あり	口縁～胴部破片	外面2.5YR3/6明赤褐色 Ⅲ区・グリッド出土
14	弥生土器	鉢	[9.8]	〈4.6〉	〈6.9〉	内外面摩耗著しい	40	外面5YR5/2灰褐色 Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ区出土
15	弥生土器	鉢	[16.6]	4.6	6.9	内外面赤色塗彩	25	外面10R5/8赤色
16	弥生土器	蓋	つまみ径 4.8	穿孔径 0.6	〈2.2〉	つまみ部ヘラ調整	つまみ	外面2.5YR5/4にぶい赤褐色 Ⅱ区出土
17	土製品	土製円盤	径3.4～3.8	—	厚さ0.5	甕胴部破片転用　外面櫛描波状文・ミガキ	胴部破片	外面7.5YR6/4にぶい橙色 Ⅳ区出土
18	土製品	紡錘車	径5.1	穿孔径0.6	厚さ1.4	表面ミガキ　中央部穿孔	40	表面10YR7/4にぶい黄橙色 Ⅰ区出土
19	縄文土器	深鉢	—	—	—	表面沈線文	破片	7.5YR6/6橙色他 Ⅲ区出土　混入遺物
20	弥生土器	壷	[16.3]	8.3	34.8	外面頸部・胴下部をのぞき赤色塗彩　表面摩耗気味 頸部櫛描簾状文1段　櫛描横線文１段	70	2.5YR5/6明赤褐色他 Ⅱ区P5出土
番号	器　種	器　形	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	調　整・文　様	重量（g）	備　考
21	石器	敲石	8.7	5.8	1.7	先端部に敲打痕	122.79	炉出土
22	石器	すり石	12.4	7.5	4.2	正裏にすり面	596.74	Ⅲ区出土

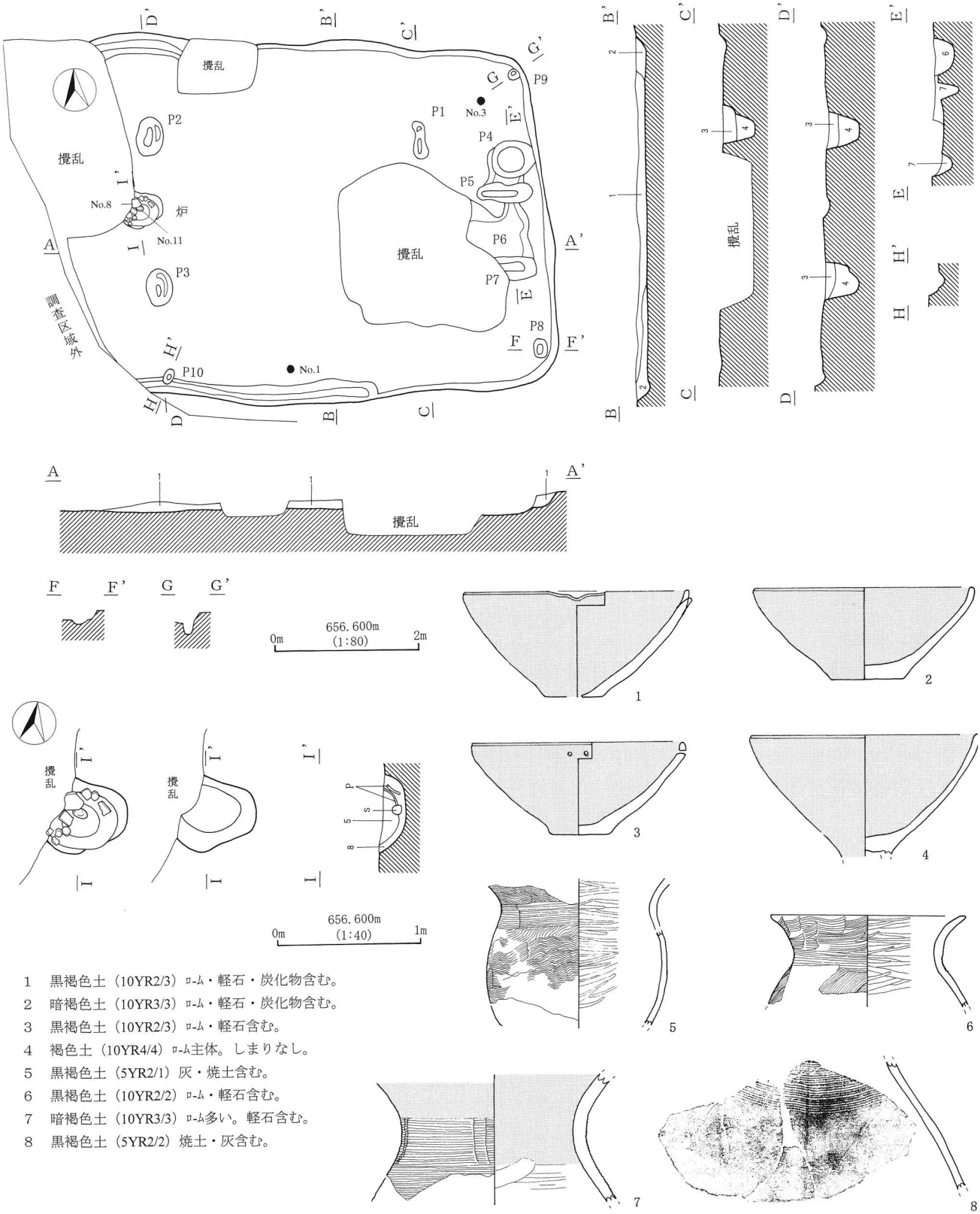
Ｈ９号住居址遺物観察表

H10号住居址

遺構は調査区北西のＮ－う－６グリッドに位置し、西側の一部は道路によって破壊されている。調査規模は、南北4.8m、東西6.8m、確認面から床面までの深さは最大15cmを測る。平面形態は調査状況から、やや隅の丸い東西方向に長軸を持つ長方形と考えられる。本遺跡中、唯一東西方向に長軸を持つ住居址である。床面は硬質面を持つが、攪乱が床面まで達している個所が多く、凹凸感が著しい。南壁及び北壁の一部に浅い壁溝が認められた。ピットは10個確認できＰ1～3が主柱穴である。平面形態は南北方向に長軸を持つ楕円形である。平面形態が楕円を呈するＰ5・7は入口に関係するピット、Ｐ5の北脇の平面形態が円形を呈するＰ4は貯蔵に関係すると考えられる。炉はＰ2と3の中間に設置され、西側の一部は攪乱に破壊されていた。床面を僅かに掘り窪め、底周辺に土器片を敷き詰めた土器敷炉である。

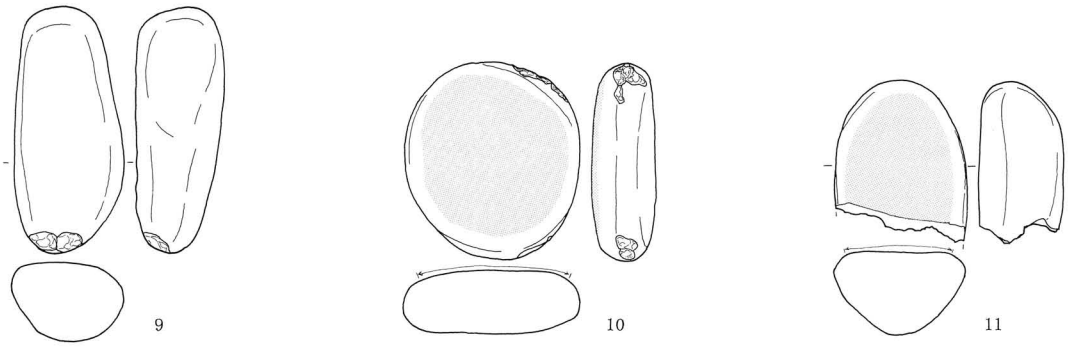
遺物は弥生土器の壷・甕・甑・鉢・高坏、敲石、すり石が出土した。壷は外面赤色塗彩され頸部に櫛描簾状文を施す。甕は小型で外面櫛描波状文と頸部に櫛描簾状文を施すもの、外面櫛描斜線文で頸部に櫛描横線文を施すものが認められる。鉢は底部から逆ハの字状に広めに開き、口縁端部が僅かに

内湾する。内外面には赤色塗彩を施し、口縁部に２個の穿孔を持つものが認められる。甑は口縁に片口を有する鉢に焼成後底部穿孔を施した転用甑と考えられる。高坏は坏部の破損品で、内外面赤色塗彩された深みのある形状で口縁部は内湾気味である。本住居址の時期は開き気味の鉢から弥生時代後期後半と考えられ、遺物は箱清水式としたい。



1　黒褐色土（10YR2/3）ﾛｰﾑ・軽石・炭化物含む。
2　暗褐色土（10YR3/3）ﾛｰﾑ・軽石・炭化物含む。
3　黒褐色土（10YR2/3）ﾛｰﾑ・軽石含む。
4　褐色土（10YR4/4）ﾛｰﾑ主体。しまりなし。
5　黒褐色土（5YR2/1）灰・焼土含む。
6　黒褐色土（10YR2/2）ﾛｰﾑ・軽石含む。
7　暗褐色土（10YR3/3）ﾛｰﾑ多い。軽石含む。
8　黒褐色土（5YR2/2）焼土・灰含む。

H10号住居址遺構・遺物実測図



H10号住居址遺物実測図

番号	器　種	器　形	口径cm	底径cm	器高cm	調　整・文　様	残存率・部位	備　考
1	弥生土器	甑	15.9	4.2	7.4	内外面赤色塗彩　底部中央に径1.1cmの穿孔あり　口縁1箇所片口 鉢から転用の甑か？	90	内外面10R3/4暗赤色
2	弥生土器	鉢	15.4	5	6.4	内外面赤色塗彩　口縁部黒色気味	85	内外面10R4/6赤色 Ⅳ区出土
3	弥生土器	鉢	14.6	4.3	6.5	内外面赤色塗彩・やや摩耗　口縁部に並列する穿孔２口あり	90	内外面5YR5/3にぶい赤褐色他
4	弥生土器	高坏	[16]	—	〈8.6〉	脚部欠損　坏部内外面赤色塗彩	坏部25	内外面10R4/6赤色 Ⅱ区出土
5	弥生土器	甕	—	—	〈10.4〉	外面口辺・胴上部櫛描波状文　頸部櫛描簾状文　　内面横ミガキ	30	外面5YR4/3にぶい赤褐色 Ⅳ区出土
6	弥生土器	甕	13.6	—	〈6.4〉	外面口辺横櫛描文　胴部櫛描斜線文　頸部櫛描横線文　内面横ミガキ	口縁～胴上部破片	外面5YR6/6橙色 Ⅰ・Ⅱ区出土
7	弥生土器	壷	—	—	〈9〉	外面胴部赤色塗彩　表面摩耗著しい　頸部櫛描簾状文 内面口縁から頸部赤色塗彩　表面摩耗著しい	頸部周辺破片	外面5YR7/4にぶい橙色他 P4出土
8	弥生土器	壷	—	—	〈8.3〉	外面赤色塗彩　頸部櫛描簾状文　内面ナデ	頸部～胴部破片	外面2.5YR4/6赤褐色 炉出土
番号	器　種	器　形	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	調　整・文　様	重量（g）	備　考
9	石器	敲石	13	5.9	4.6	先端部に敲打痕	446.88	Ⅱ区出土
10	石器	すり・敲石	10.4	9.3	3.3	正面にすり面　上下端部に敲打痕	523.88	Ⅱ区出土
11	石器	すり石	〈8.5〉	〈7〉	〈4.4〉	片側欠損　すり面１面あり	〈348.86〉	炉出土

H10号住居址遺物観察表

第２節　溝跡

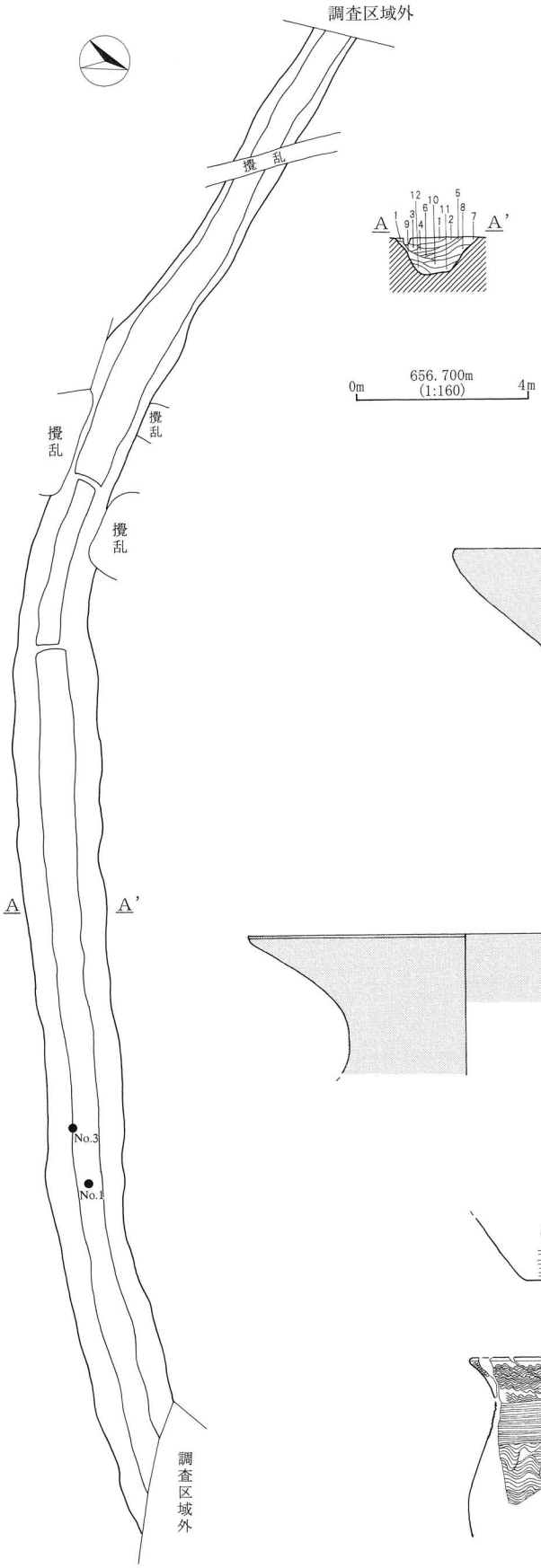
遺構は調査区北のＯ－あ－10からＮ－え－７グリッドにかけて確認された。調査規模は長さ33m、検出面上での幅1.6m～2.2m、底幅40cm～90cmを測る。掘り込み形態はやや角度のついたすり鉢状を呈する。溝の下層付近からは弥生土器が数多く出土した。

遺物は弥生土器の壷・甕・鉢・高坏が出土した。壷は口縁部の内外面が赤色塗彩された単純口縁及び３段の櫛描簾状文を持つ頸部破片が認められた。また、底部から大きく開く皿状の形状となった壷の底部も存在する。壷の破損品を鉢として転用していた可能性も窺える。甕は小型で外面櫛描波状文に頸部櫛描簾状文を施す。鉢は内外面赤色塗彩を施し、口縁内湾気味である。

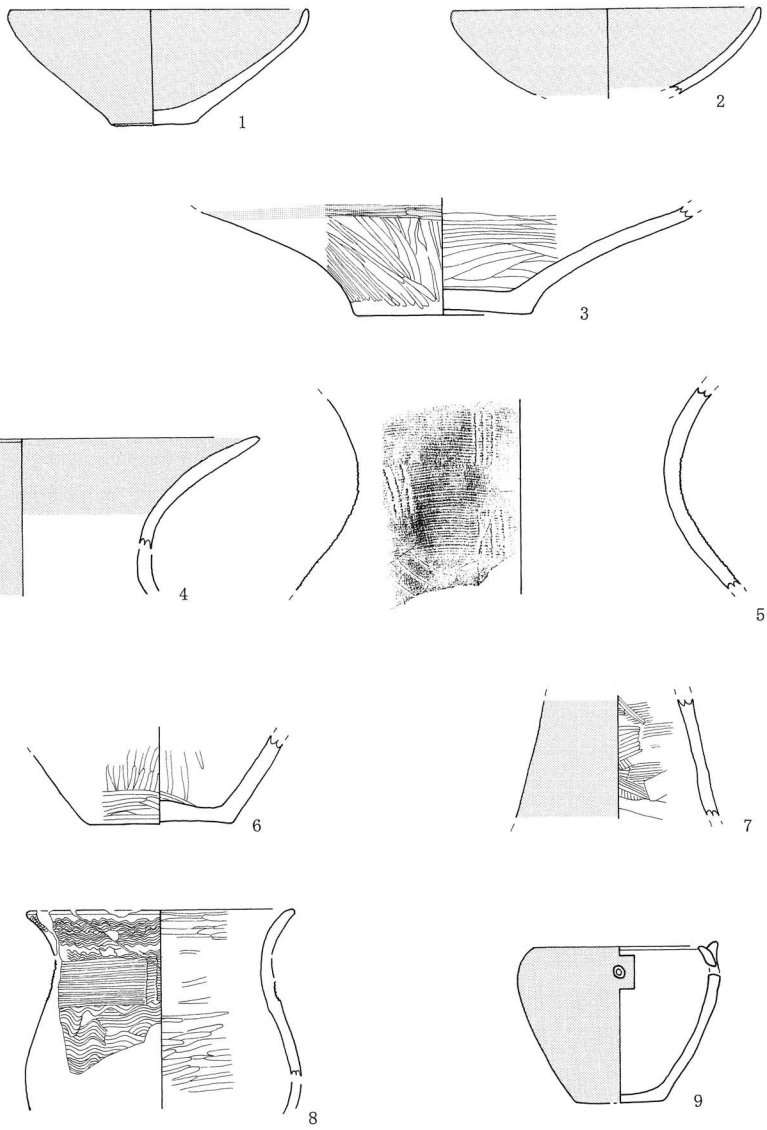
本溝跡は出土した鉢がＨ７号出土の鉢と形状が同一であること及び他の出土遺物の特徴が住居址出土の遺物と同一であることから、周辺に存在する住居址と同時期に存在していたと考えられ、弥生時代後期後半としたい。

番号	器　種	器　形	口径cm	底径cm	器高cm	調　整・文　様	残存率・部位	備　考
1	弥生土器	鉢	15.6	4.6	6.3	内外面赤色塗彩	90	内外面10R5/6赤色
2	弥生土器	鉢	[16]	—	〈4.5〉	内外面赤色塗彩	口縁破片	内外面10R4/8赤色
3	弥生土器	壷	—	9.4	〈5.7〉	外面胴部赤色塗彩　胴下部縦ミガキ　内面ヘラナデ 破損後鉢として使用か？	底部～胴下部	外面7.5YR7/3にぶい橙色
4	弥生土器	壷	[25]	—	〈8.3〉	口辺内外面赤色塗彩　表面摩耗著しい	口縁破片	外面5YR7/4にぶい橙色
5	弥生土器	壷	—	—	〈10.2〉	頸部に三段の櫛描簾状文	頸部破片	外面7.5YR7/3にぶい橙色
6	弥生土器	甕	—	7.8	〈4.1〉	内外面ミガキ	底部～胴下部	外面7.5YR5/3にぶい褐色
7	弥生土器	高坏	—	—	〈6.2〉	外面赤色塗彩	脚部破片	外面2.5YR5/6明赤褐色
8	弥生土器	甕	14.2	—	〈10.7〉	外面口辺・胴上部櫛描波状文　頸部櫛描簾状文　　内面横ミガキ	口縁～胴上部	外面7.5YR6/3にぶい褐色
9	弥生土器	鉢	[10]	4.7	8.5	外面赤色塗彩　口辺部に穿孔１・片口１カ所あり 内面赤色塗彩の痕跡あり	30	外面2.5YR5/6明赤褐色

Ｍ１号溝跡遺物観察表



1　暗褐色土（10YR3/4）ﾛｰﾑと暗褐色土の混合土。軽石含む。
2　にぶい黄褐色土（10YR5/3）ﾛｰﾑと暗褐色土の混合土。
　軽石含む。ﾛｰﾑやや多い。
3　黄褐色土（10YR5/6）ﾛｰﾑ主体。
4　黒褐色土（10YR2/3）ﾛｰﾑ・軽石含む。
5　黄褐色土（2.5Y5/4）ﾛｰﾑ主体。
6　黒褐色土（10YR2/3）ﾛｰﾑ・軽石含む。
7　ｵﾘｰﾌﾞ褐色土（2.5Y4/3）暗褐色土とﾛｰﾑの混合土。軽石含む。
8　暗ｵﾘｰﾌﾞ褐色土（2.5Y3/3）暗褐色土とﾛｰﾑの混合土。軽石含む。
9　黒褐色土（10YR2/3）ﾛｰﾑ・軽石少量含む。
10　黒褐色土（10YR3/1）ﾛｰﾑ・軽石少量含む。
11　黒色土（2.5Y2/1）ﾛｰﾑ・軽石少量含む。
12　暗ｵﾘｰﾌﾞ褐色土（2.5Y3/3）ﾛｰﾑやや多く含む。



M１号溝跡遺構・遺物実測図

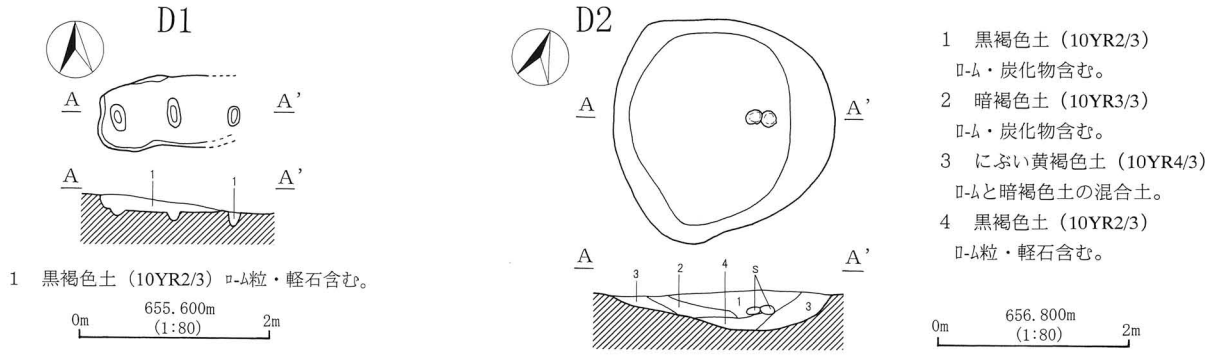
第３節　土坑

Ｄ１号土坑

遺構は調査区東のＯ－う－４グリッド、東方向への緩やかな傾斜地に位置する。東壁周辺部は削り取られている。調査規模は南北70cm、東西1.5m、確認面から底までの深さは最大20cmを測る。平面形態は、やや不整の長方形である。底に楕円形のピットが3個掘り込まれていた。

Ｄ２号土坑

遺構は調査区Ｏ－う－10グリッドに位置し、Ｈ4を切る。規模は直径2.2m内外を測る円形で、深さは最大40cmを測る。性格は不明である。



Ｄ１・２号土坑実測図

まとめ

今回調査を実施した猫田遺跡群井戸尻遺跡及び熊の堂遺跡は千曲川右岸に形成された河岸段丘上の遺跡である。第１段丘に位置する井戸尻遺跡からは縄文時代から中世の遺物及び中世の遺構が発見された。縄文時代では段丘中央付近（Ｂ区）の中近世生活面下層に存在する黒色土の堆積した低地帯から中期・後期の土器片が出土した。調査区北の微高地で調査が行われた海戸田Ａ遺跡から同時期の集落が発見されている。弥生時代は、台地西寄りのおよそ南北方向に堆積した黒色帯中から弥生時代後期から古墳時代初頭と考えられる土器が比較的まとまって出土した。南の台地端部に所在する大ふけ遺跡から同時期の墓跡である周溝墓が発見されており、関連性が窺われる。また、後述するが、東側の第２段丘上で発見された熊の堂遺跡から後期の集落が整然とした配列で発見されているのも興味深い。古墳・奈良・平安時代は中世面直下の低地から土師器・須恵器が出土しているが遺構は確認されなかった。中世以降になると住居と考えられる竪穴状遺構、墓跡と思われる土坑が確認され、集落が形成されていたことが確認できた。周辺からは11～16世紀の陶磁器が出土し、墓跡と思われる土坑からは中世の輸入銭が出土した。

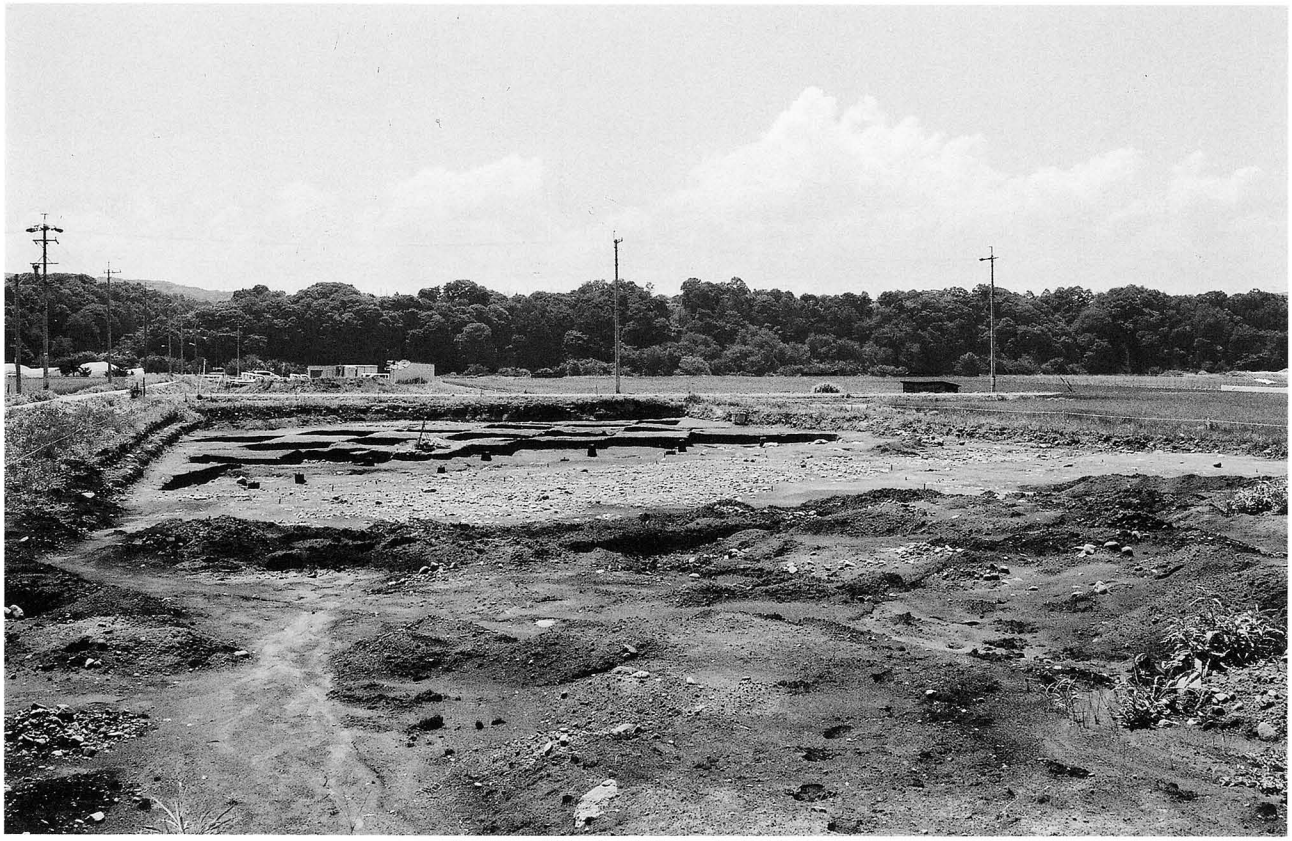
熊の堂遺跡は猫田遺跡群井戸尻遺跡の一段上（比高差19m）の第２河岸段丘端部に形成された南北方向に細長い微高地上に位置し、弥生時代の集落跡が発見された。検出された住居址は10軒、溝跡１条等である。うち南北方向に長軸を持つ住居址は９軒で、溝の南側に整然と並ぶ状態で構築されていた。唯一、東西方向に長軸を持つ住居址Ｈ10は溝の北側から確認された。南側の住居址が同一方向の長軸を持ち、整然と並ぶのに対し、溝の北側に存在する１軒だけ長軸が異なる理由が、地形の制約によるものか、溝を境に異なる集落形態が存在するのか、疑問が生じるところである。現状では調査範囲も僅かで、特に北に隣接する地域では不明な点が多いことから、今後、周辺地域における更なる発掘調査に期待したい。

猫田遺跡群井戸尻遺跡Ａ区全景（西から）

猫田遺跡群井戸尻遺跡Ｂ区全景（南西から）

図版2

猫田遺跡群井戸尻遺跡Ｂ区全景（北西から）



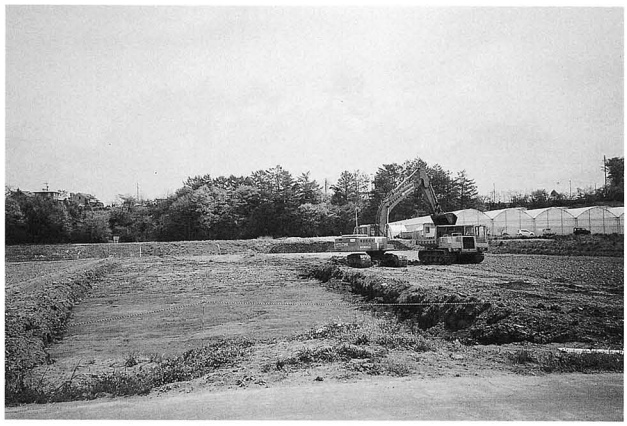
猫田遺跡群井戸尻遺跡Ｂ区全景（東から）

猫田遺跡群井戸尻遺跡Ｃ区全景（西から）

猫田遺跡群井戸尻遺跡Ｃ区全景（北東から）

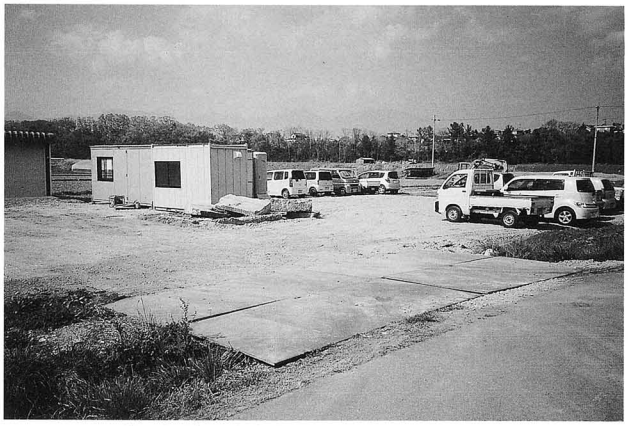
図版4

井戸尻遺跡Ａ区表土除去作業（東から）

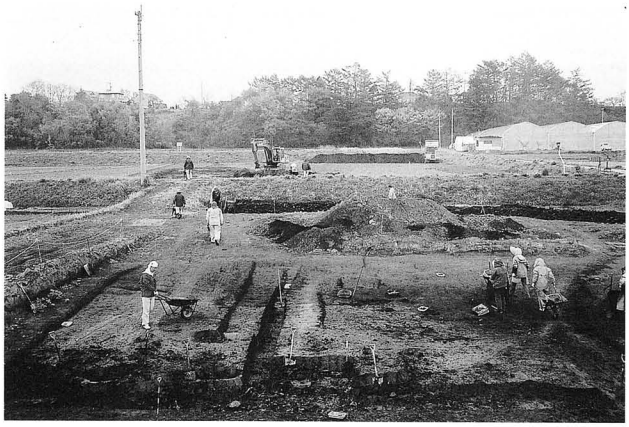


井戸尻遺跡Ｂ区表土除去作業（西から）

井戸尻遺跡Ｃ区表土除去作業（西から）



井戸尻遺跡駐車場造成・ハウス設置状況



井戸尻遺跡Ａ区調査風景（西から）

井戸尻遺跡Ｂ区調査風景（北西から）

井戸尻遺跡Ｂ区調査風景（北西から）

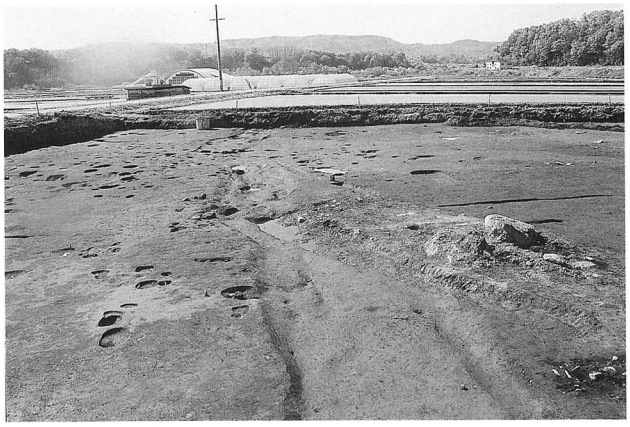
井戸尻遺跡Ｂ区調査風景（北西から）

B区　Ta1号竪穴状遺構全景（西から）

B区　Ta1号竪穴状遺構掘方全景（南から）

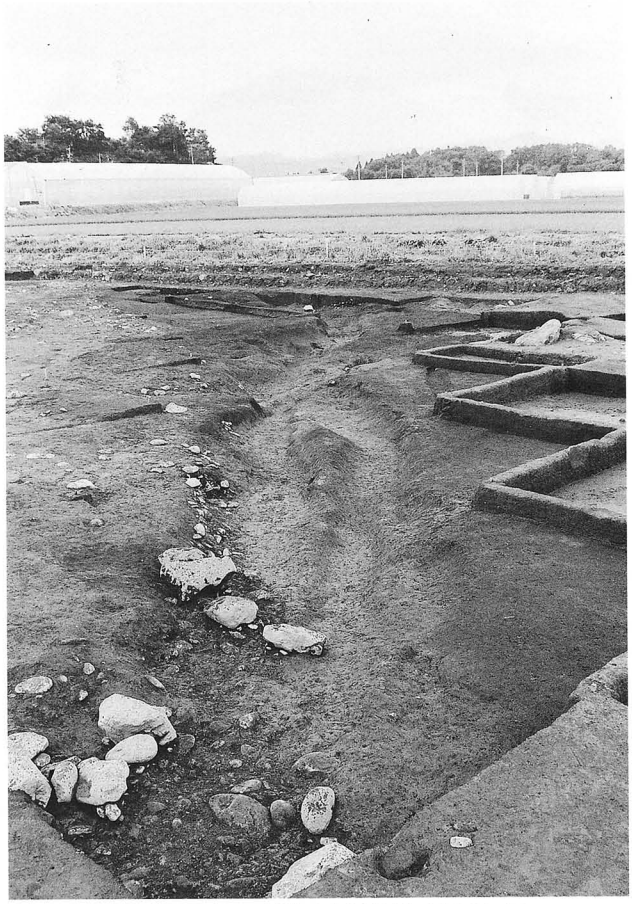
B区　Ta2号竪穴状遺構全景（北から）

B区　Ta2号竪穴状遺構炭化物出土状況



B区　M1・2号溝跡全景（南から）

B区　M3・4号溝跡全景（南東から）

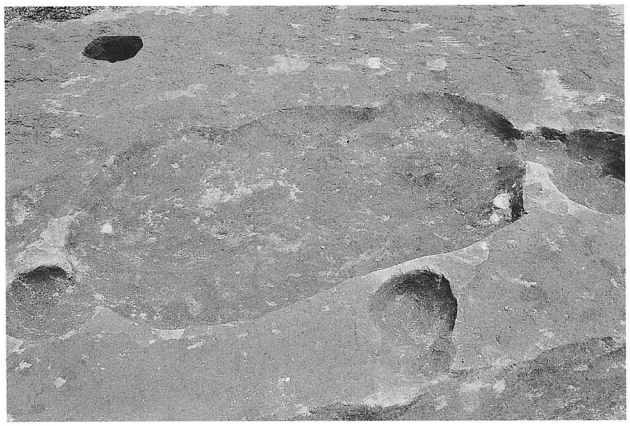


B区　M3・4号溝跡北側状況（北西から）

図版6

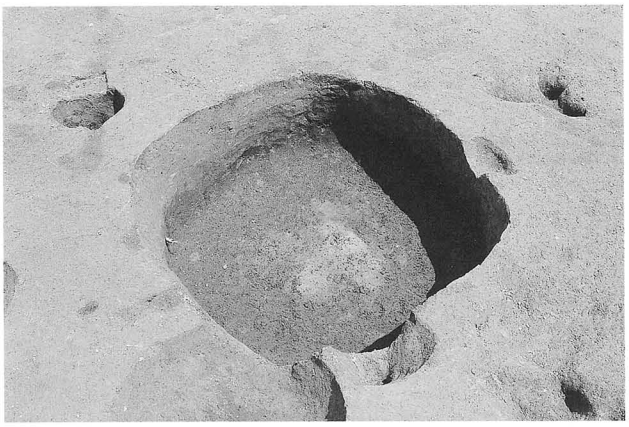
B区　石斧出土状況

B区　黒色土掘り下げ状況



B区　Ｄ１号土坑全景（南西から）

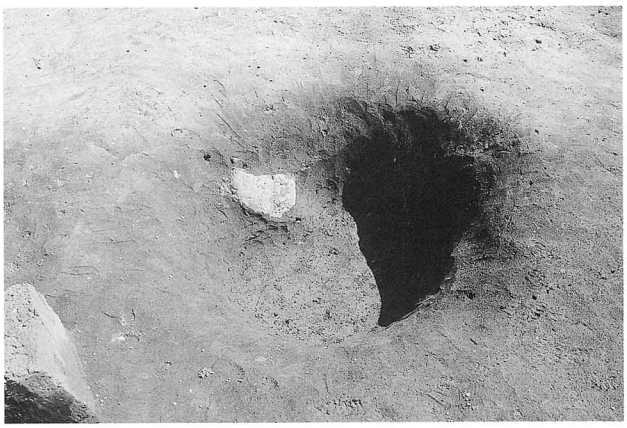
B区　Ｄ２号土坑全景（南西から）



B区　Ｄ３号土坑全景（西から）

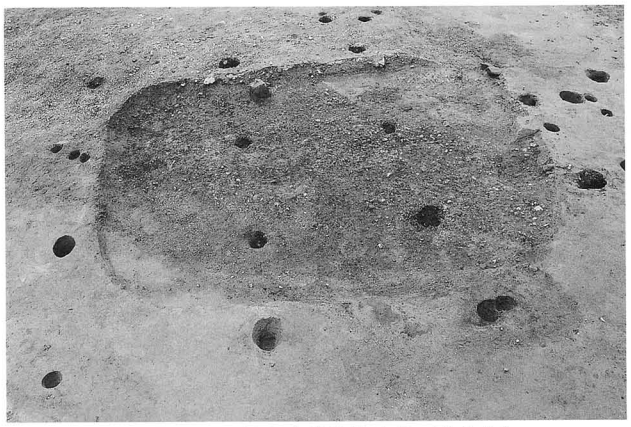
B区　Ｄ４号土坑全景（南から）

B区　Ｄ５号土坑全景（南から）



B区　Ｄ６号土坑全景（東から）

C区　H１号住居址全景（南から）



C区　Ta１号竪穴状遺構全景（南から）

C区　Ta２号竪穴状遺構全景（南から）

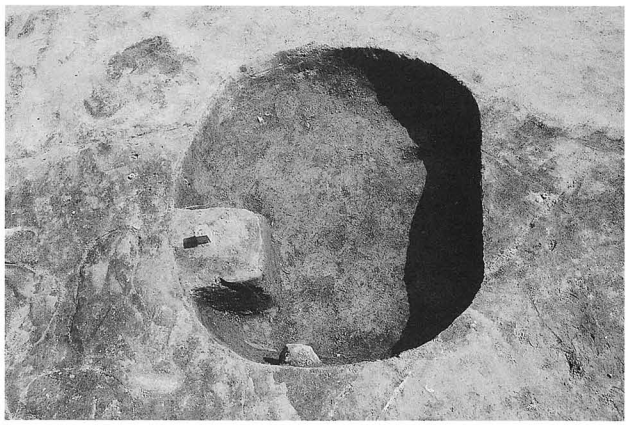
C区 Ta３号竪穴状遺構全景（南から）

C区　Ta４号竪穴状遺構全景（西から）

C区　Ta５号竪穴状遺構全景（南西から）

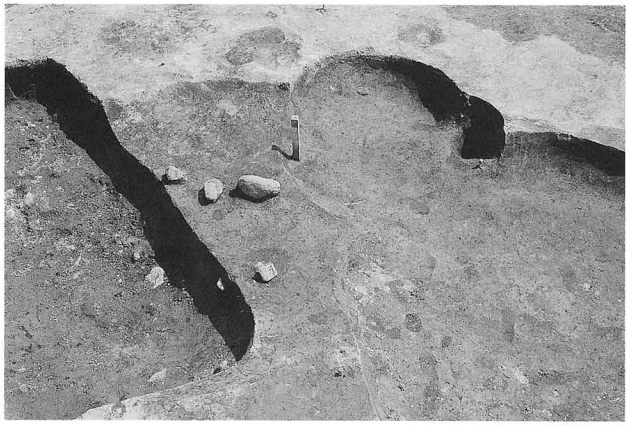
C区　M１号溝跡全景（西から）

C区　M２号溝跡全景（西から）



C区　D１号土坑全景（北から）

C区　D２号土坑全景（西から）



C区　D３号土坑全景（北から）

C区　D４号土坑全景（北から）

C区　D５号土坑全景（北から）

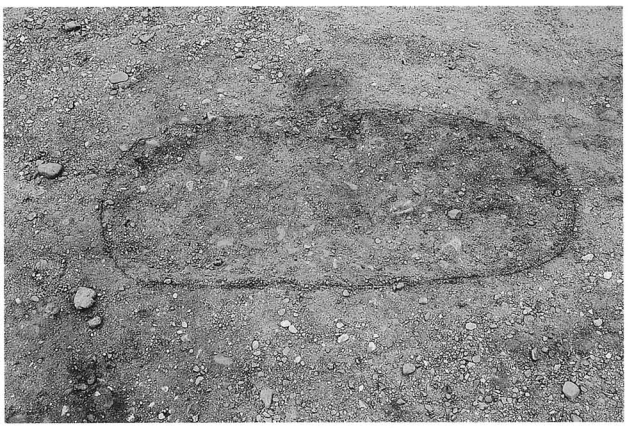
C区　D６号土坑全景（北から）

C区　D７号土坑全景（東から）

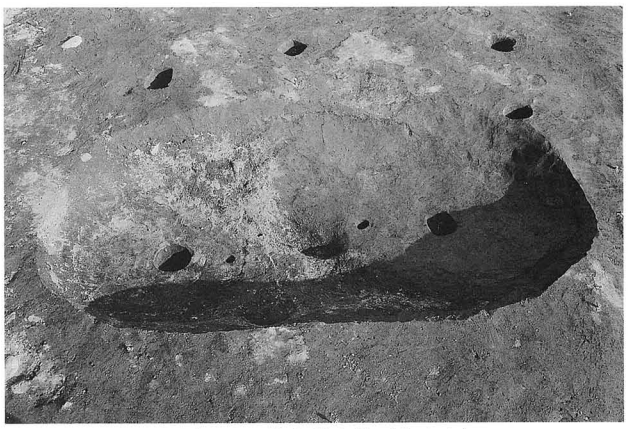
C区　D８号土坑全景（北から）

C区　D９号土坑全景（東から）

C区　D９号古銭出土状況



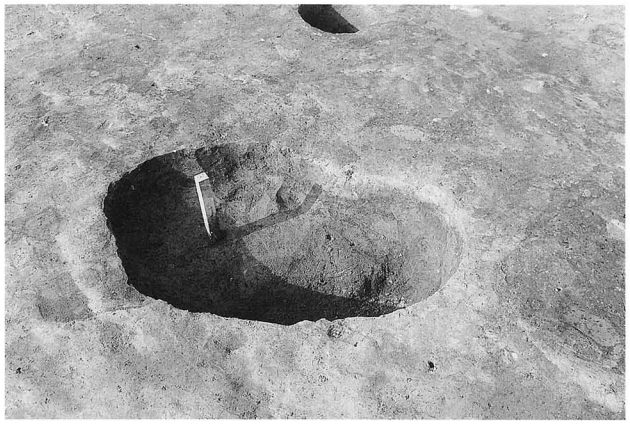
C区　D10号土坑全景（北から）



C区　D11号土坑全景（北から）

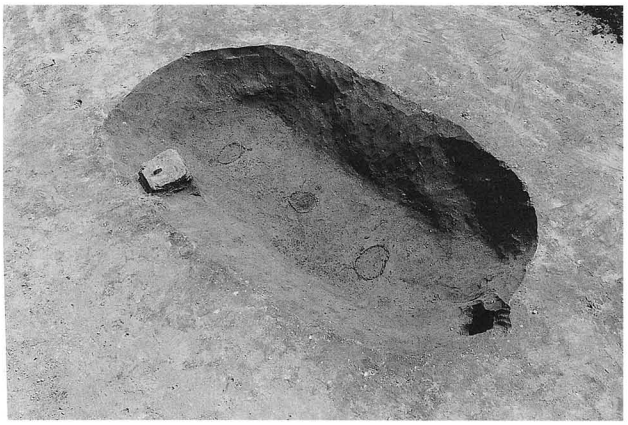
C区　D12号土坑全景（東から）

C区　D13号土坑全景（南東から）



C区　D14号土坑全景（西から）

C区　D15号土坑全景（西から）



C区　D15号土坑底部ピット検出状況

C区　D16号土坑全景（北から）

C区　D16号土坑底部ピット検出状況

C区　D17号土坑全景（北から）

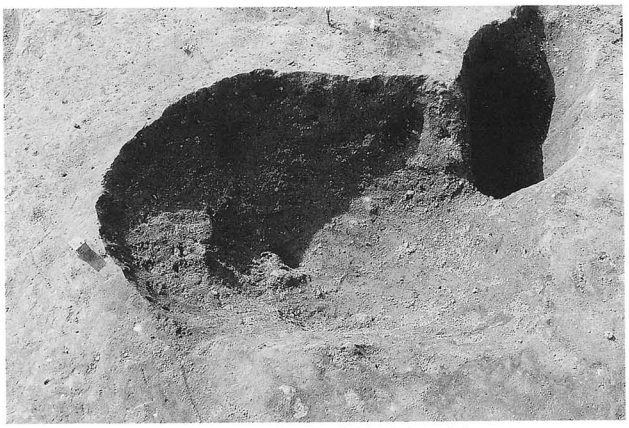
C区　D18号土坑全景（東から）

C区　D19号土坑全景（北から）

C区　D20号土坑全景（南から）

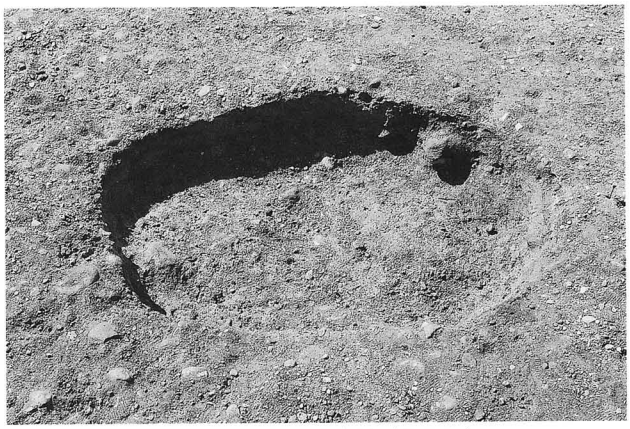
C区　D21号土坑全景（東から）

C区　D22号土坑全景（南から）

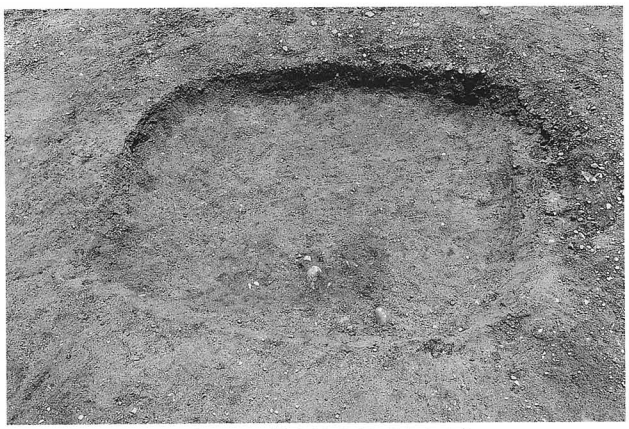


C区　D23号土坑全景（東から）

C区　D24号土坑全景（北から）



C区　D25号土坑全景（北から）



C区　D26号土坑全景（東から）

C区　D27号土坑全景（東から）

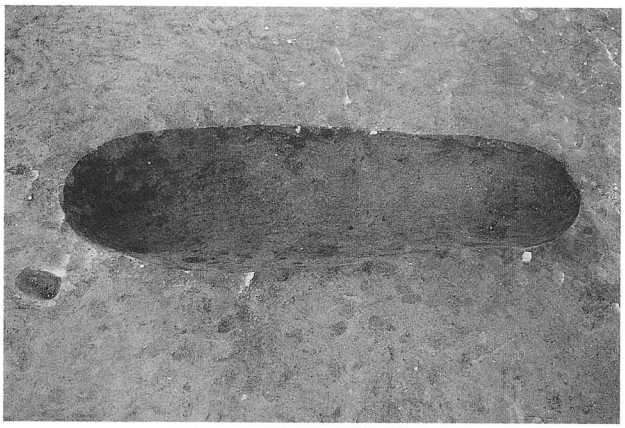
C区　D28･29号土坑全景（北から）

C区　D30号土坑全景（北から）

C区　D31号土坑全景（北から）

C区　D32号土坑全景（北から）

C区　D33号土坑全景（東から）



C区　D34号土坑全景（北から）

C区　D35号土坑全景（北から）

C区　D36号土坑全景（北から）

C区　D37号土坑全景（東から）

C区　D38号土坑全景（西から）

C区　D39号土坑全景（南から）

C区　D40号土坑全景（北から）

C区　D41号土坑全景（東から）

C区　D42号土坑全景（北から）

C区　D43号土坑全景（東から）

C区　D44号土坑全景（南から）

C区　D45号土坑全景（北から）

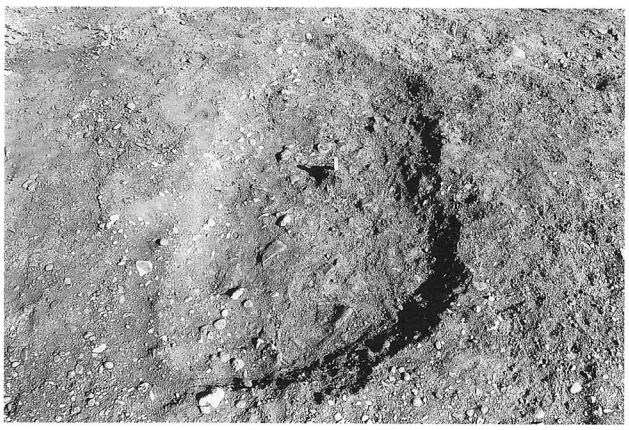
C区　D48号土坑全景（南から）

C区　D49号土坑全景（北から）

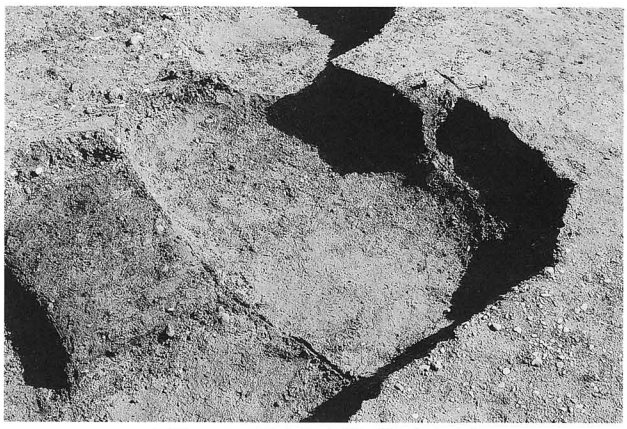
C区　D50・51号土坑全景（南から）

C区　D52号土坑全景（東から）

C区　D53号土坑全景（西から）



C区　D54号土坑全景（北から）

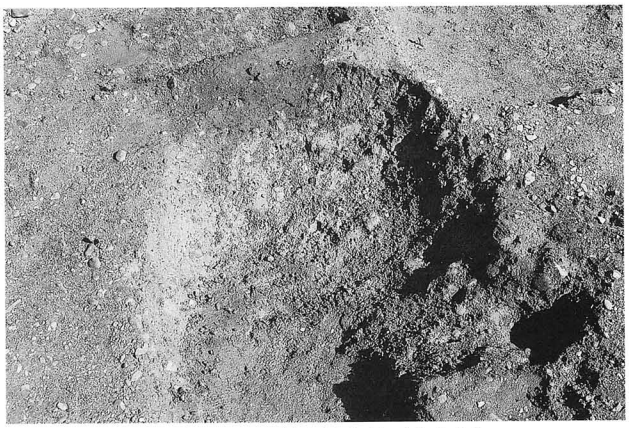


C区　D55号土坑全景（北東から）

C区　D56～58・69～71号土坑全景（北から）

C区　D56号土坑全景（北から）

C区　D59号土坑全景（南から）


C区　D60号土坑全景（南から）

C区　D62号土坑全景（北から）

C区　D63号土坑全景（西から）

C区　D64･65･66号土坑全景（西から）

C区　D67号土坑全景　（北から）

C区　D68号土坑全景（東から）

C区　D69号土坑全景（東から）

C区　D69号土坑遺物出土状況（1）

C区　D69号土坑遺物出土状況（2）

C区　D72号土坑全景（東から）

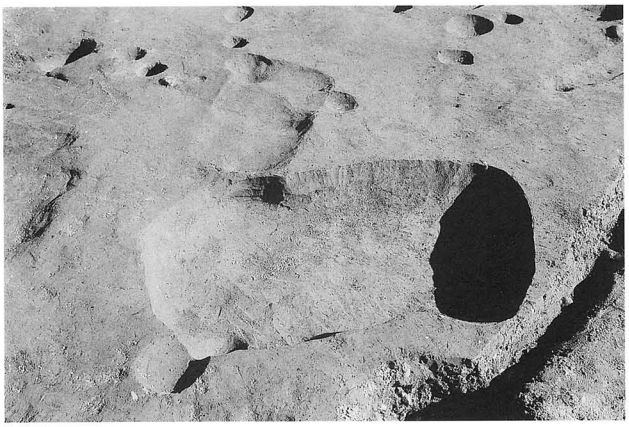
C区　D73号土坑全景（北から）

C区　D74·75·76·77号土坑全景（西から）

C区　D78号土坑全景（南から）

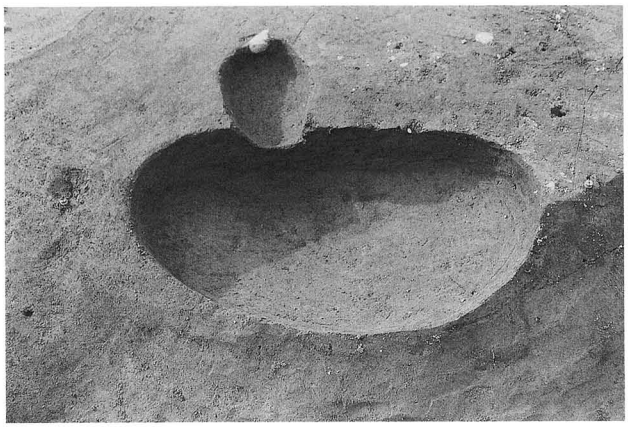
C区　D79号土坑全景（東から）

C区　D81号土坑全景（北東から）



C区　D82号土坑全景（西から）

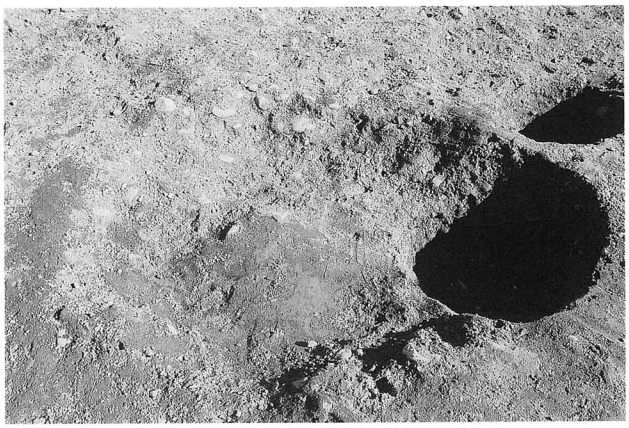
C区　D83号土坑全景（東から）



C区　D84号土坑全景（東から）

C区　D85号土坑全景（東から）

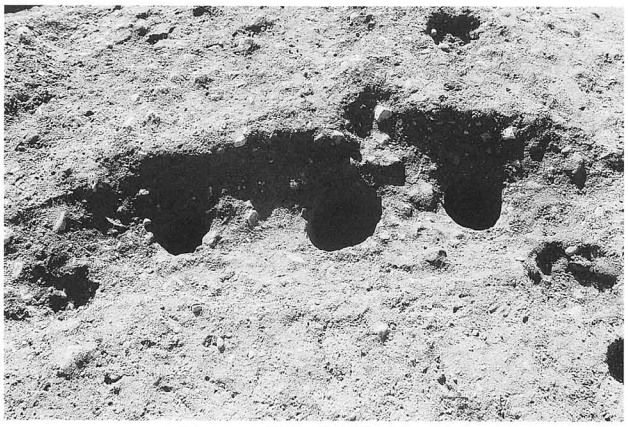
C区　D86･87号土坑全景（西から）



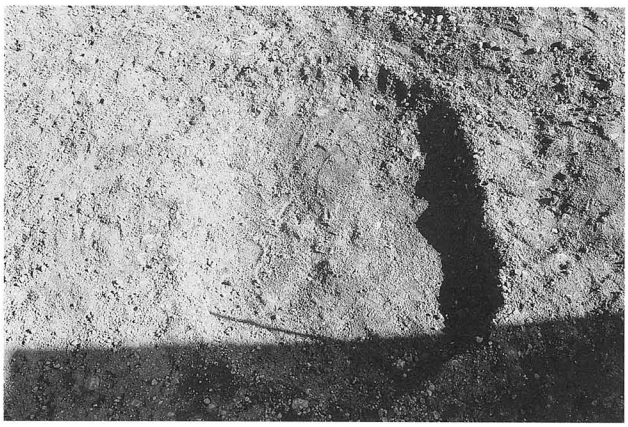
C区　D88号土坑全景（南から）

図版18

C区　D89･90号土坑全景（東から）

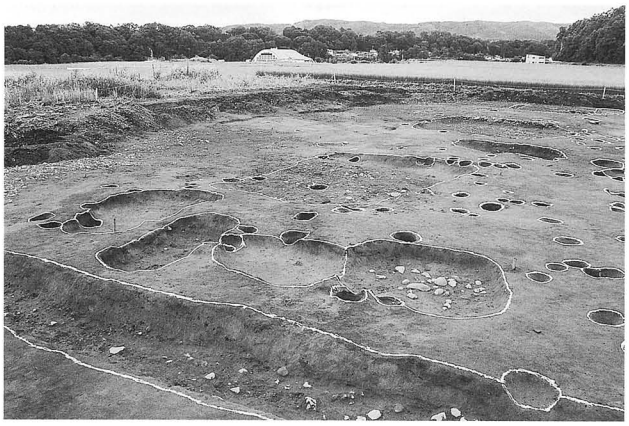


C区　D91号土坑全景（北から）



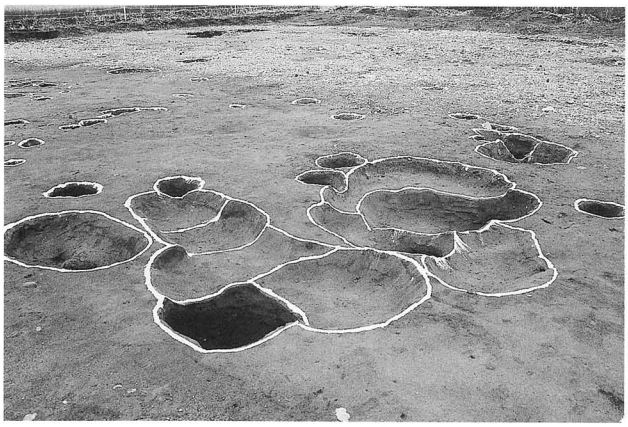
C区　D93号土坑全景（東から）

C区　H１号住居址周辺（西から）

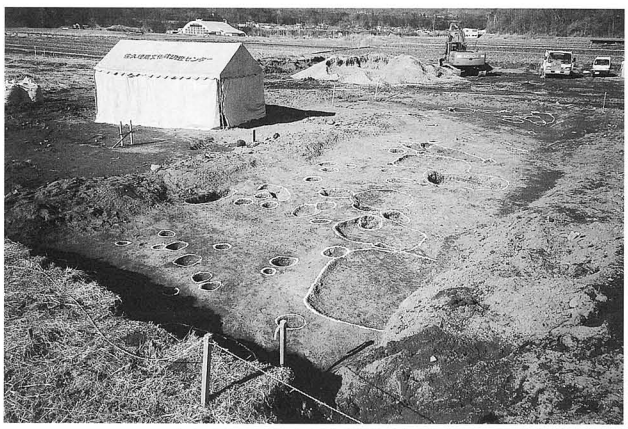


C区　Ta1・5号竪穴状遺構周辺（南東から）

C区　Ta1・5号竪穴状遺構周辺（西から）



C区　D74･76号土坑周辺（南西から）

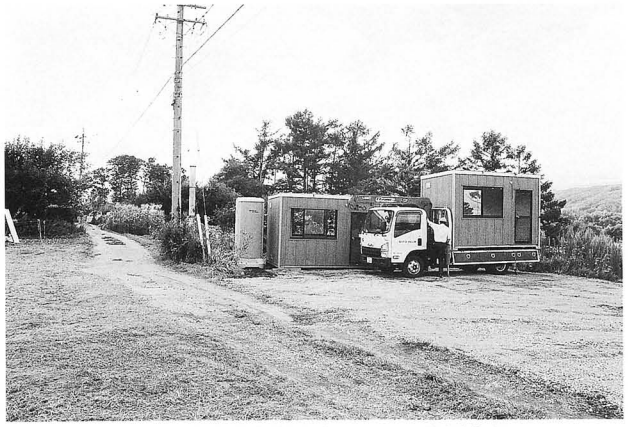


C区　D87号土坑周辺（南から）

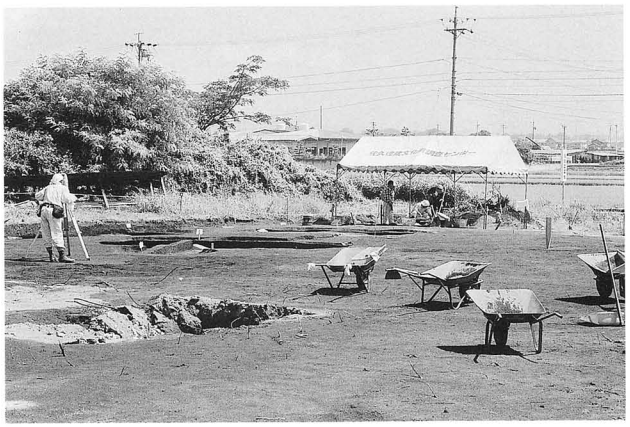
熊の堂遺跡全景（東から）

熊の堂遺跡表土除去作業（東から）

熊の堂遺跡表土除去後（西から）



熊の堂遺跡駐車場造成・ハウス設置状況



熊の堂遺跡基準杭設定作業

熊の堂遺跡調査風景（東から）

熊の堂遺跡東側包含層調査風景（西から）

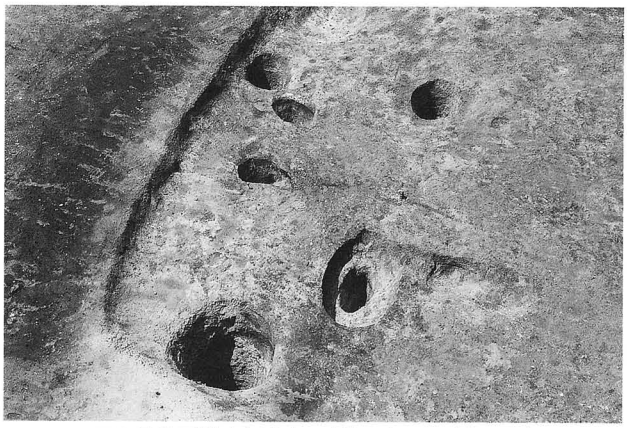
Ｈ１号住居址全景（北から）

Ｈ１号住居址炉跡埋設土器

Ｈ１号住居址炉跡埋設土器除去後

Ｈ１号住居址炉跡掘方

Ｈ２号住居址全景（東から）

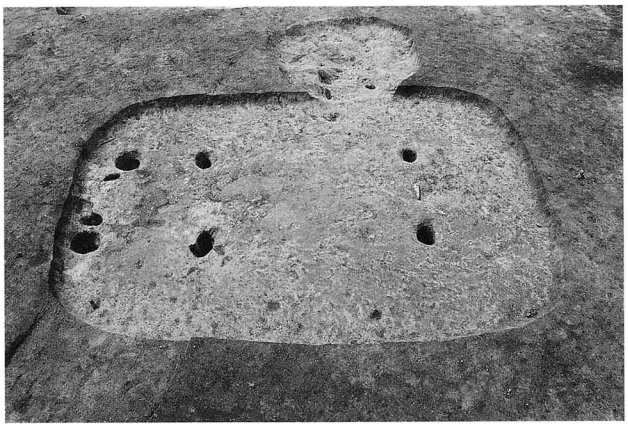


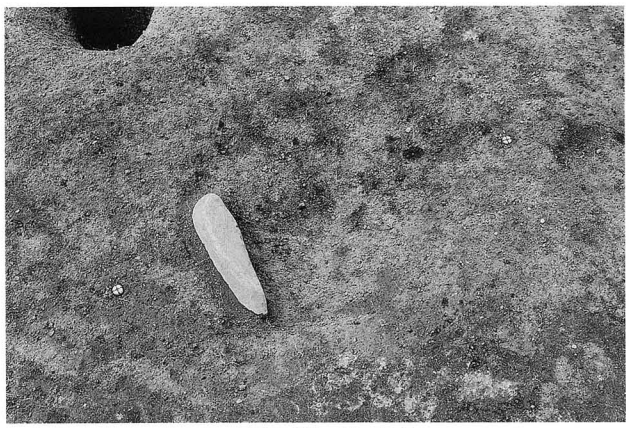
Ｈ２号住居址南側入り口周辺ピット（東から）

Ｈ２号住居址炉跡埋設土器

Ｈ２号住居址炉跡埋設土器除去後掘方

Ｈ３号住居址全景（南から）


Ｈ４号住居址全景（東から）


Ｈ４号住居址炉跡･炉縁石

Ｈ４号住居址南側入り口周辺ピット

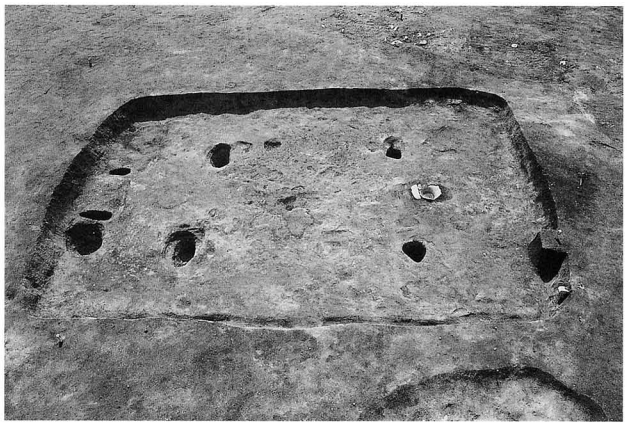
Ｈ４号住居址Ｐ２号主柱穴

Ｈ４号住居址南側入り口周辺掘方

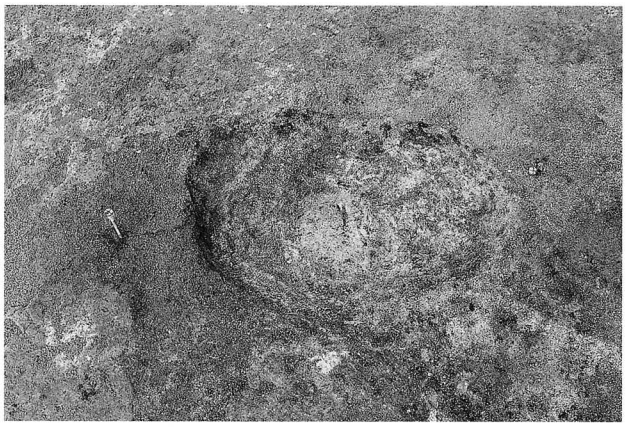
Ｈ５号住居址全景遺物あり（東から）

Ｈ５号住居址遺物出土状況（１）

Ｈ５号住居址遺物出土状況（２）


Ｈ５号住居址全景遺物除去後（東から）

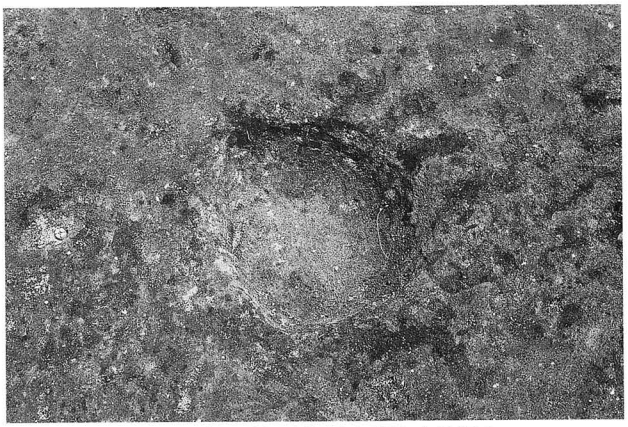
Ｈ５号住居址炉跡埋設土器･炉縁石


Ｈ５号住居址炉跡埋設土器・炉縁石除去後掘方

Ｈ５号住居址南側入り口周辺ピット

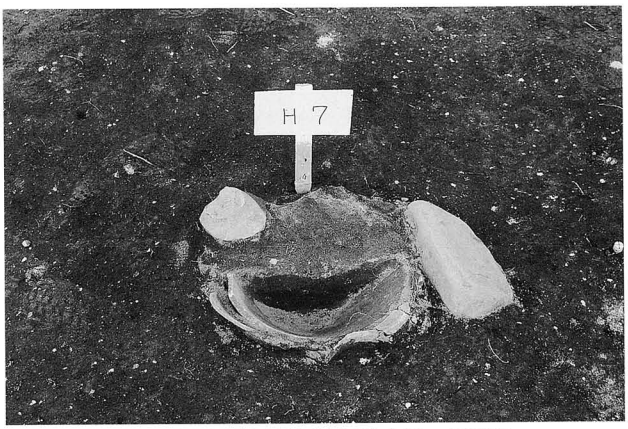
Ｈ６号住居址全景（北から）

Ｈ６号住居址炉跡埋設土器

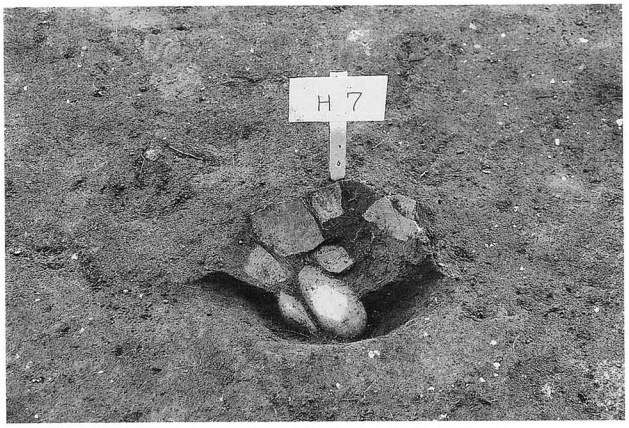


Ｈ６号住居址炉跡埋設土器除去後掘方

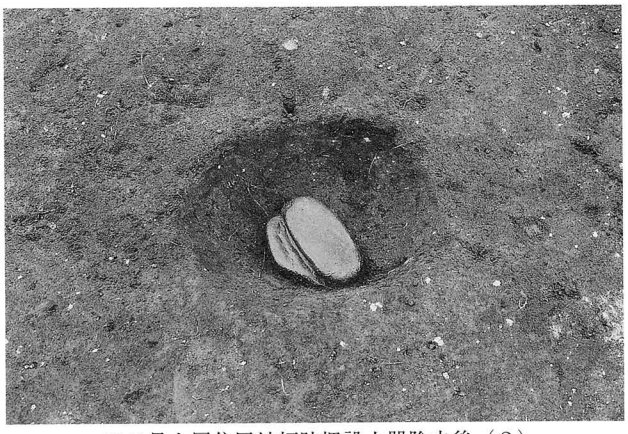
Ｈ６号住居址床面除去状況（北から）



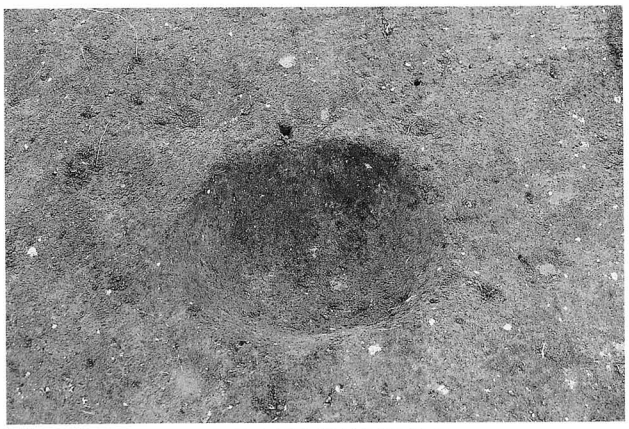
Ｈ７号上層住居址炉跡埋設土器・炉縁石



Ｈ７号上層住居址炉跡埋設土器除去後（１）



Ｈ７号上層住居址炉跡埋設土器除去後（２）

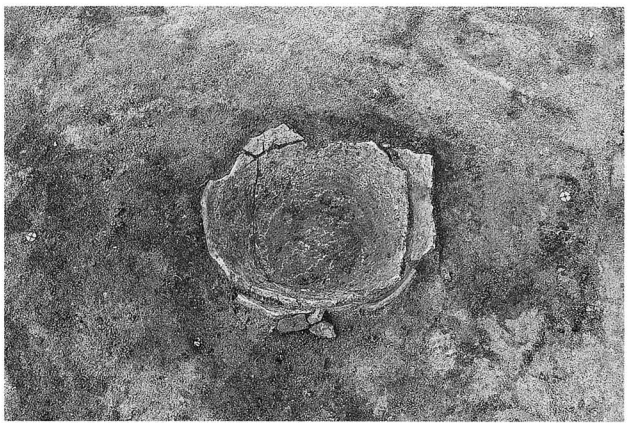


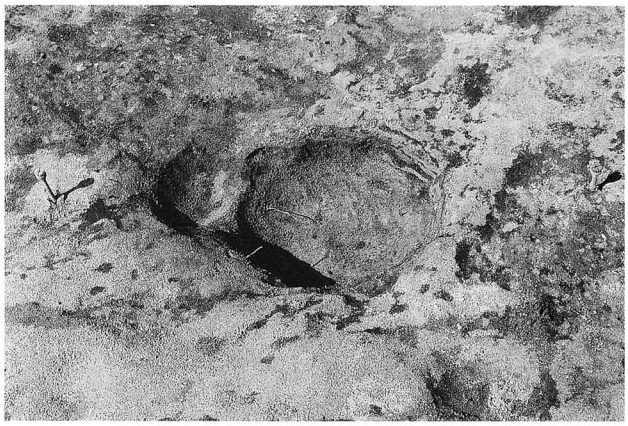
Ｈ７号上層住居址炉跡掘方

Ｈ７号下層住居址全景（北から）

Ｈ７号下層住居址炉跡

Ｈ８号住居址全景（南から）


Ｈ８号住居址炉跡埋設土器


Ｈ８号住居址炉跡埋設土器除去後

Ｈ８号住居址南側入口周辺ピット

Ｈ９号住居址全景（南から）

Ｈ９号住居址炉縁石・土器片埋設状況

Ｈ９号住居址炉跡土器片除去後掘方

Ｈ９号住居址Ｐ２号主柱穴

Ｈ９号住居址Ｐ12号壁柱穴

Ｈ10号住居址全景（東から）

Ｈ10号住居址炉跡土器片埋設状況

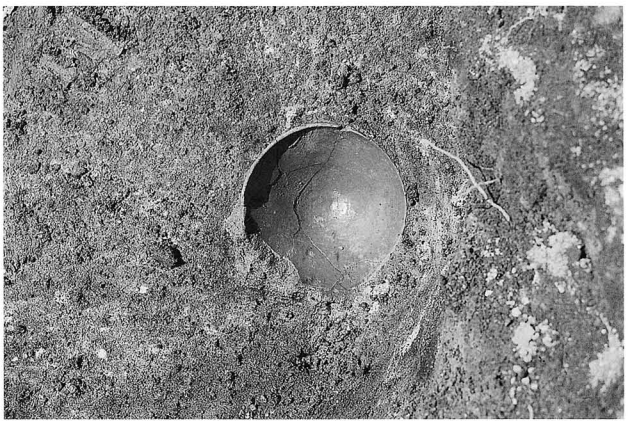
Ｈ10号住居址炉跡土器片除去後掘方

Ｈ10号住居址床面除去状況（南東から）

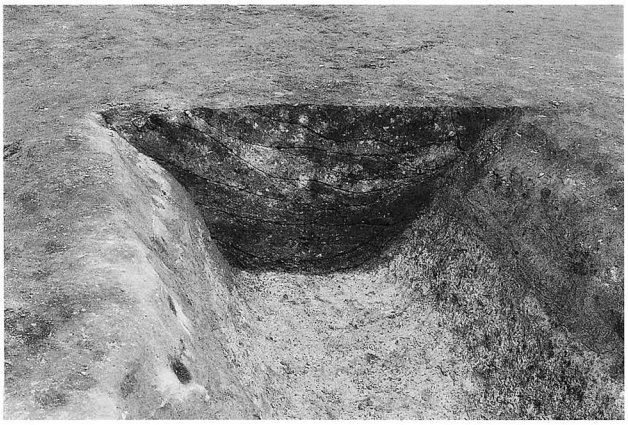
Ｍ１号溝跡全景（東から）

Ｍ１号溝跡全景（西から）

M１号溝跡遺物（弥生土器）出土状況（１）



M１号溝跡遺物（弥生土器）出土状況（２）



M１号溝跡土層断面状況（西から）

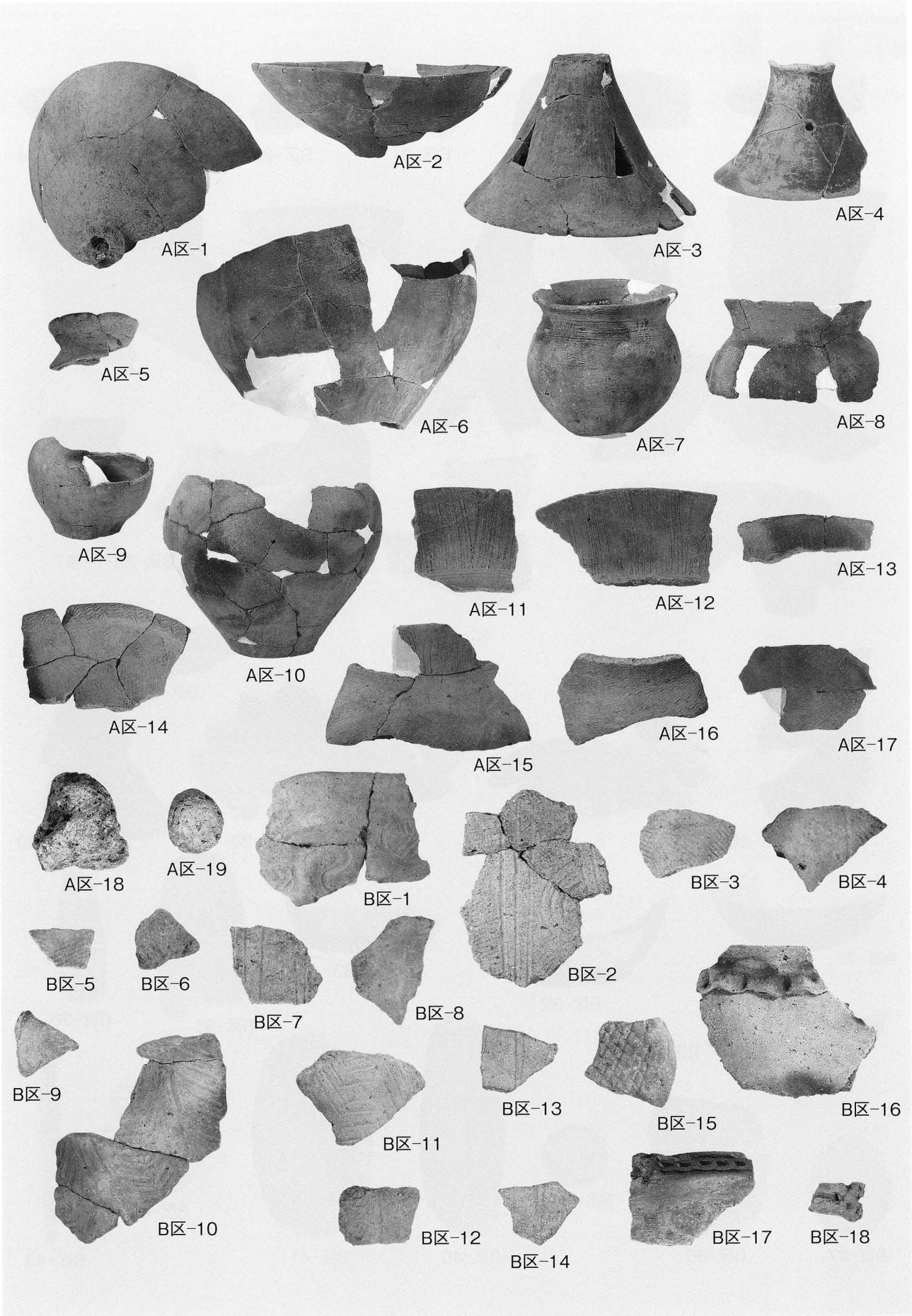
D１号土坑全景（南から）

D２号土坑全景（南から）

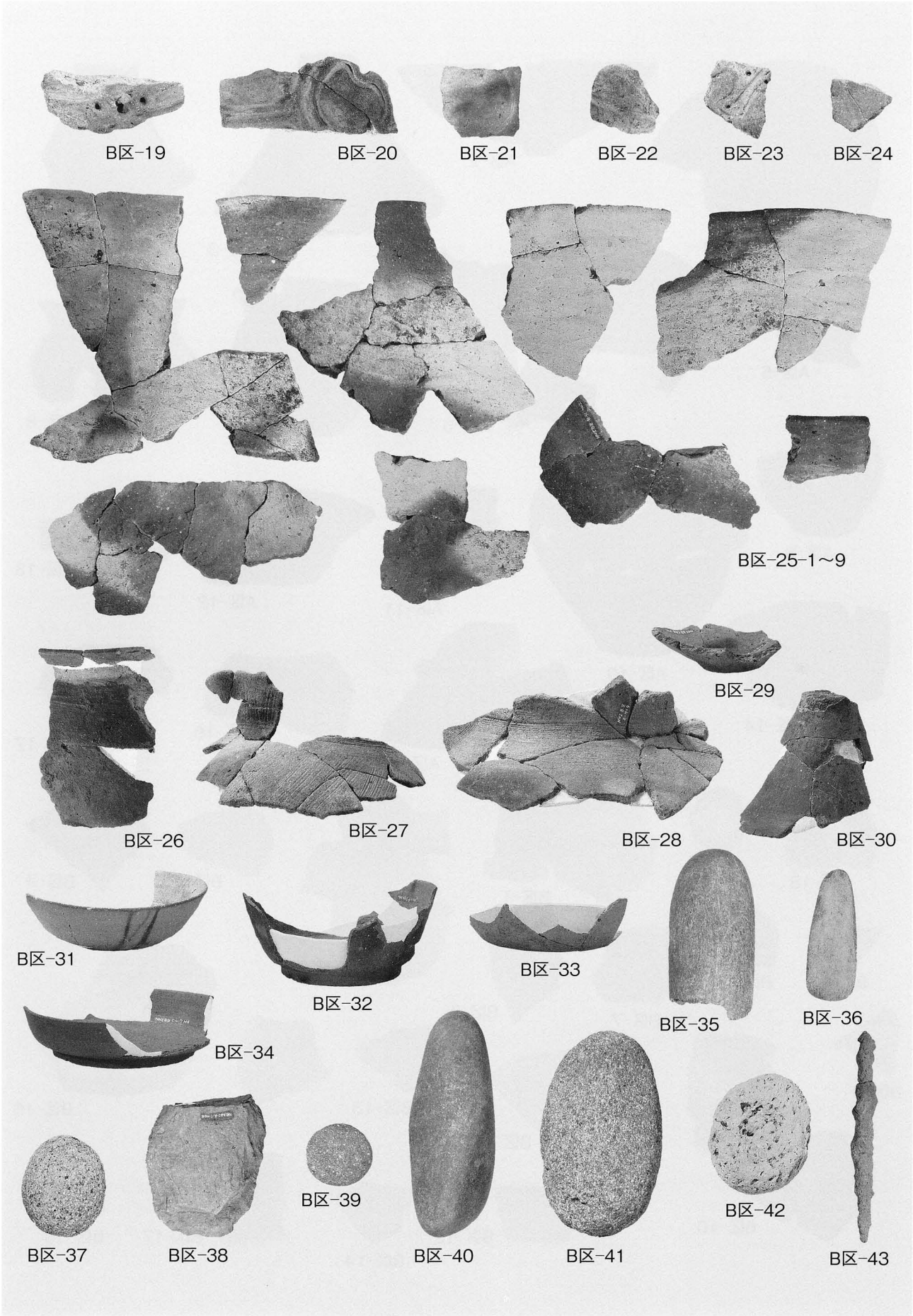
熊の堂遺跡東側包含層掘り下げ状況（西から）

熊の堂遺跡東側調査地域埋め戻し状況（西から）

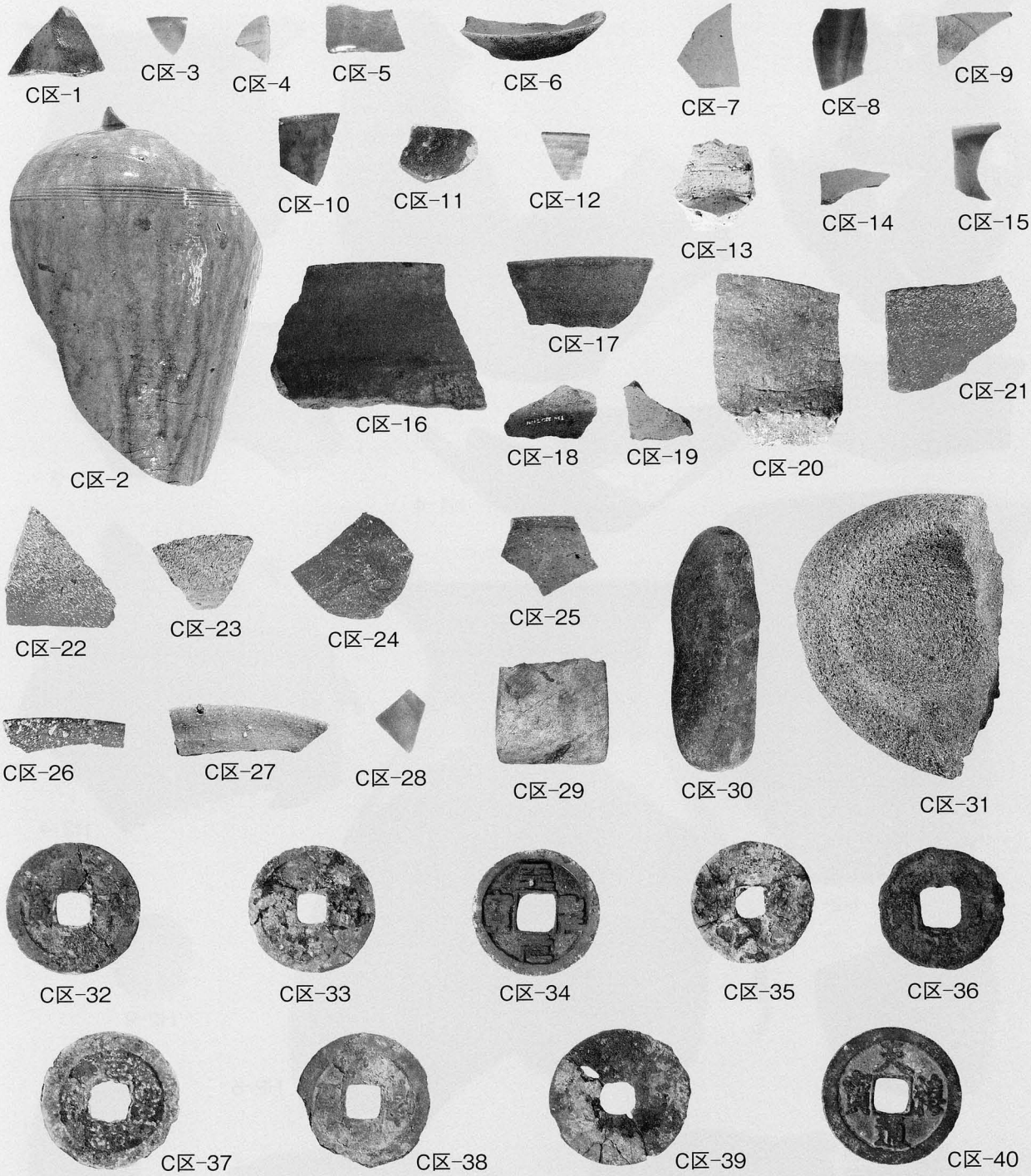
熊の堂遺跡西側調査地域埋め戻し状況（西から）



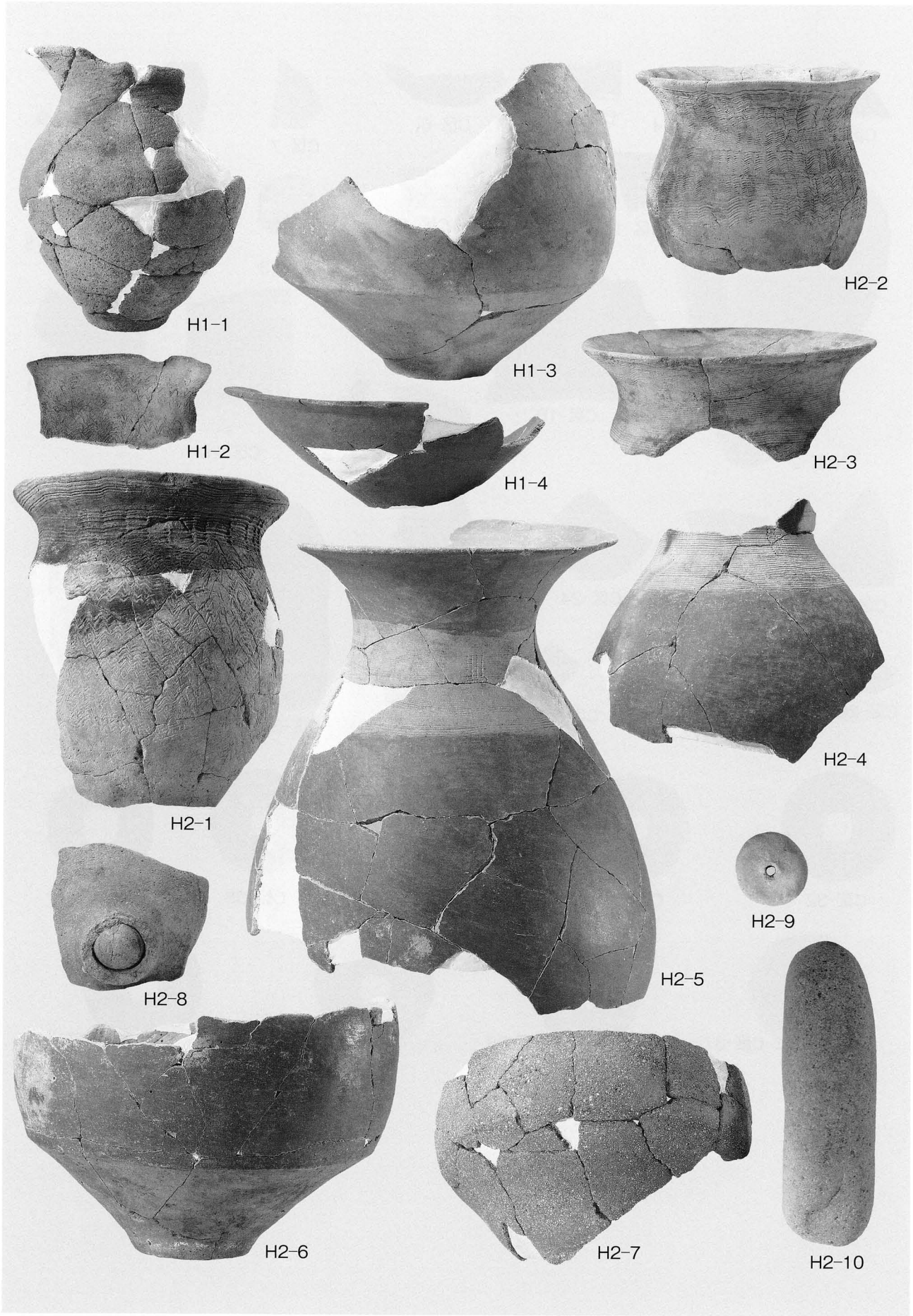
猫田遺跡群　井戸尻遺跡A・B区出土遺物



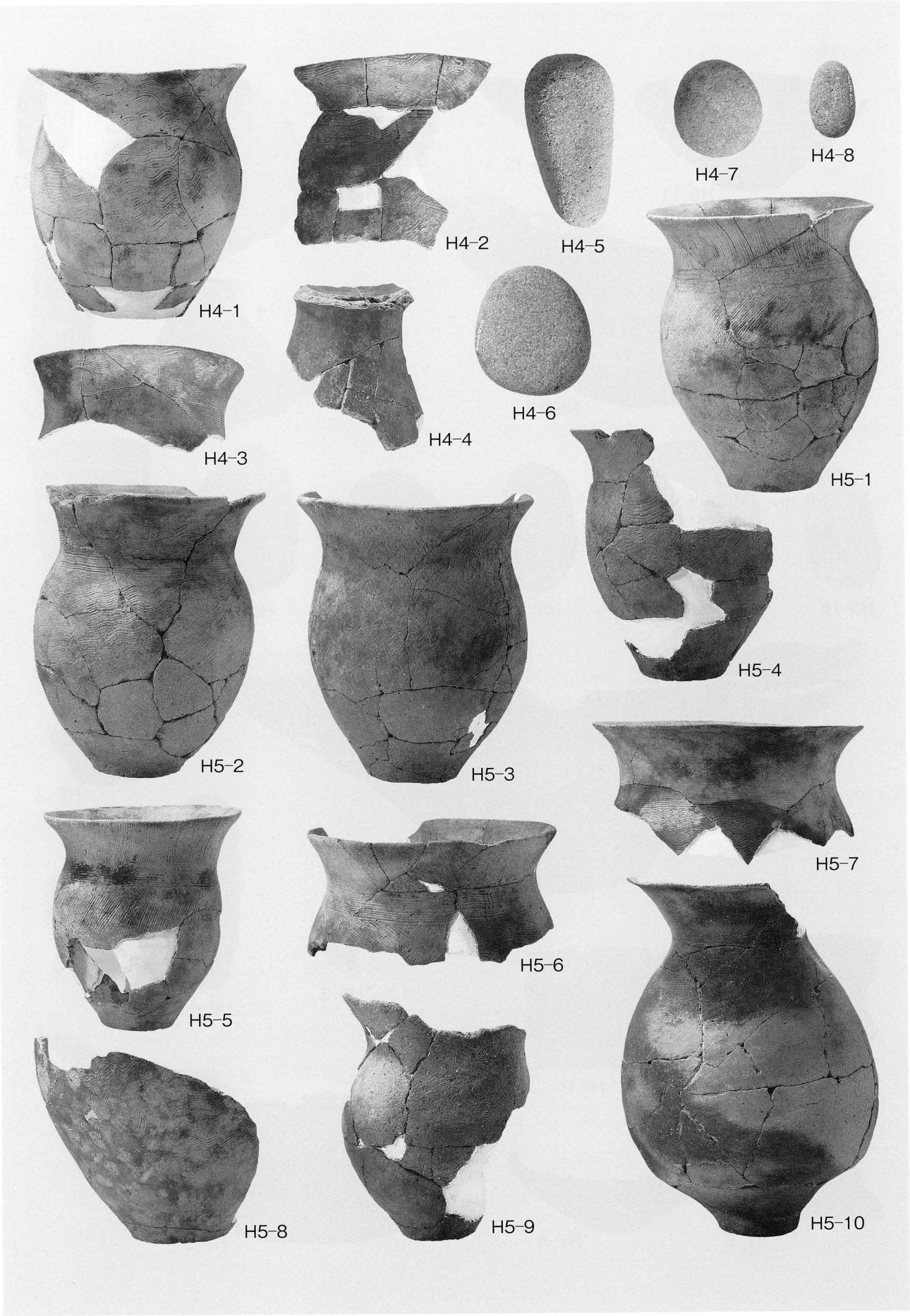
猫田遺跡群　井戸尻遺跡Ｂ区出土遺物



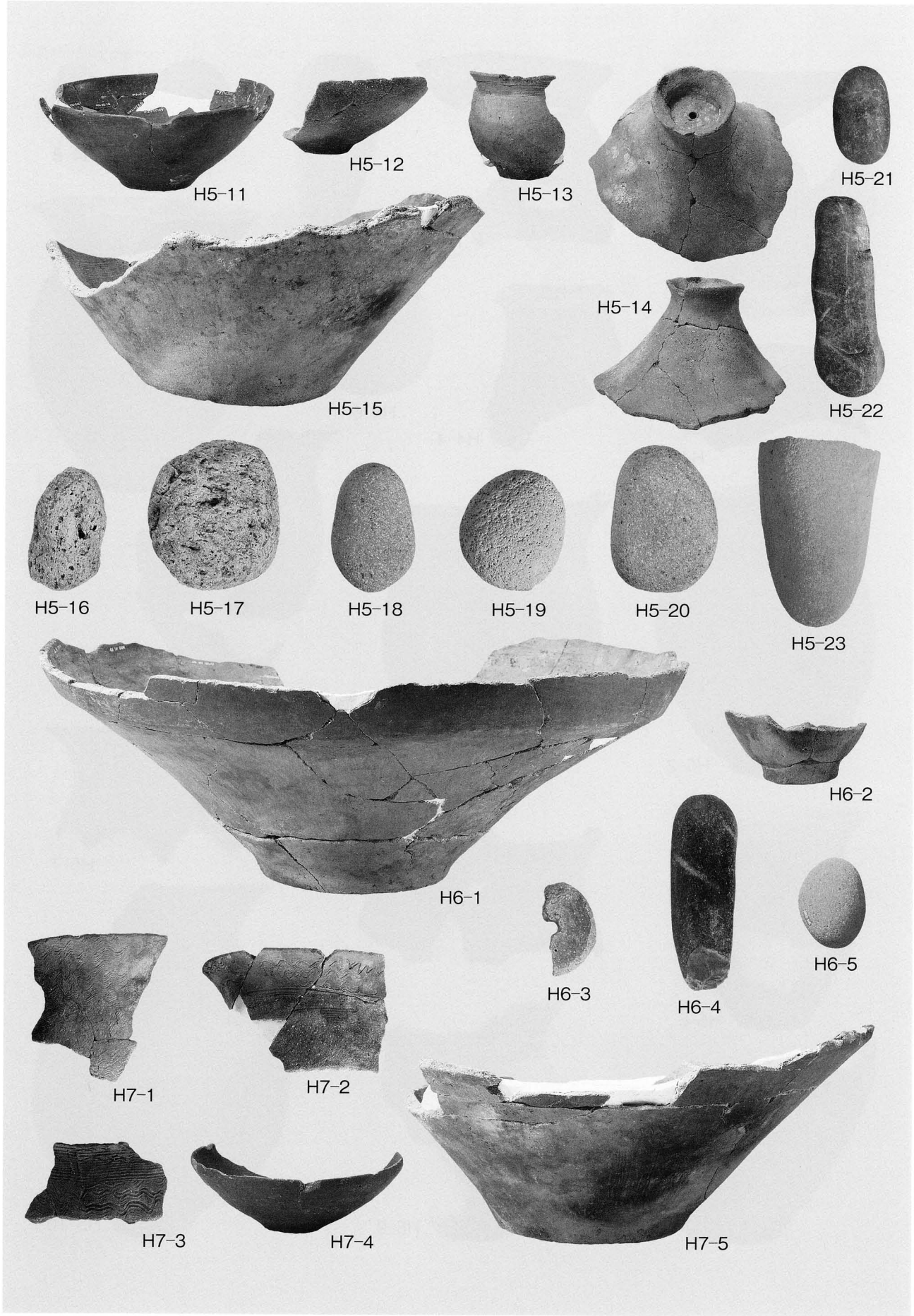
猫田遺跡群　井戸尻遺跡Ｃ区出土遺物



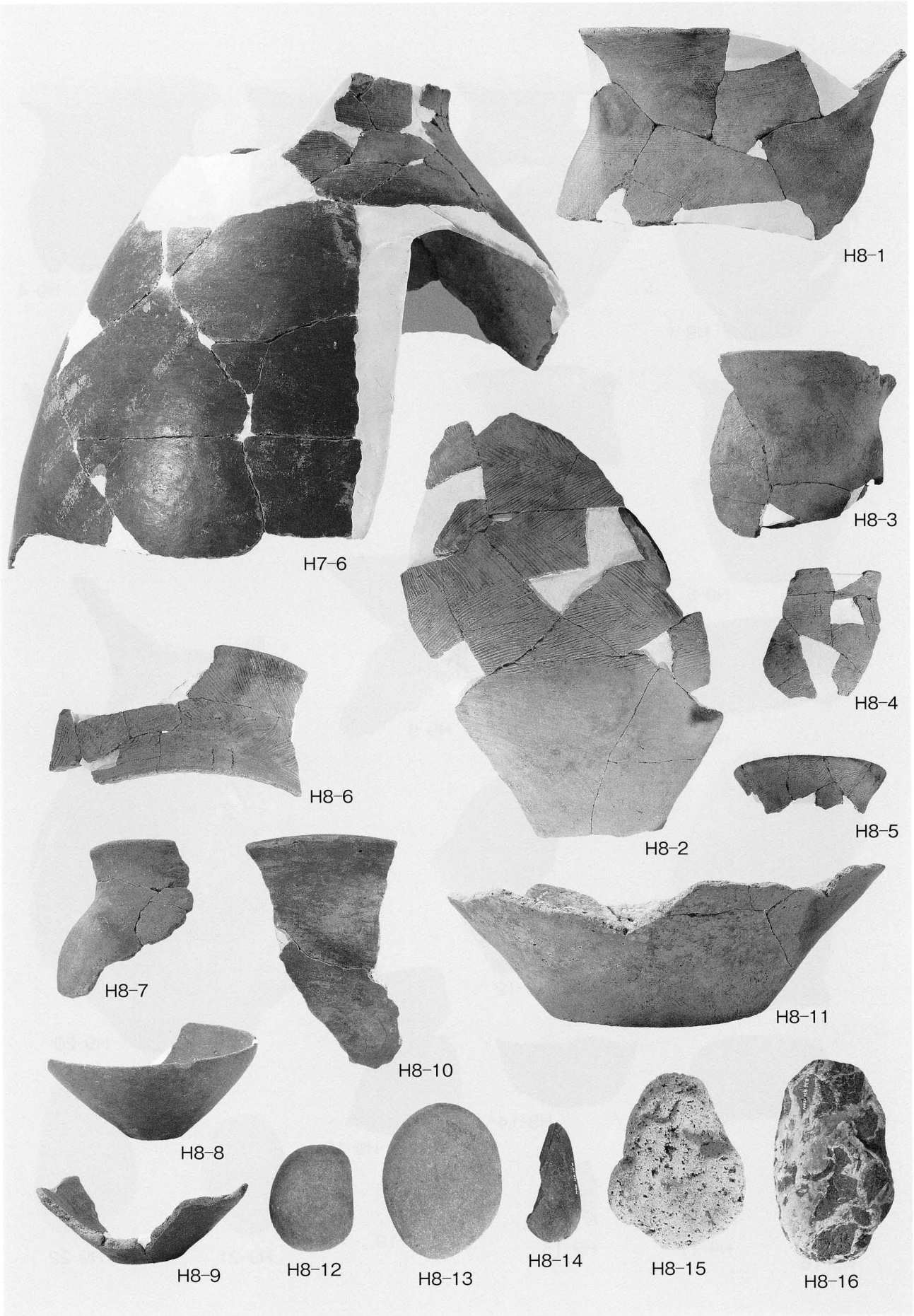
熊の堂遺跡Ｈ１・２号住居址出土遺物



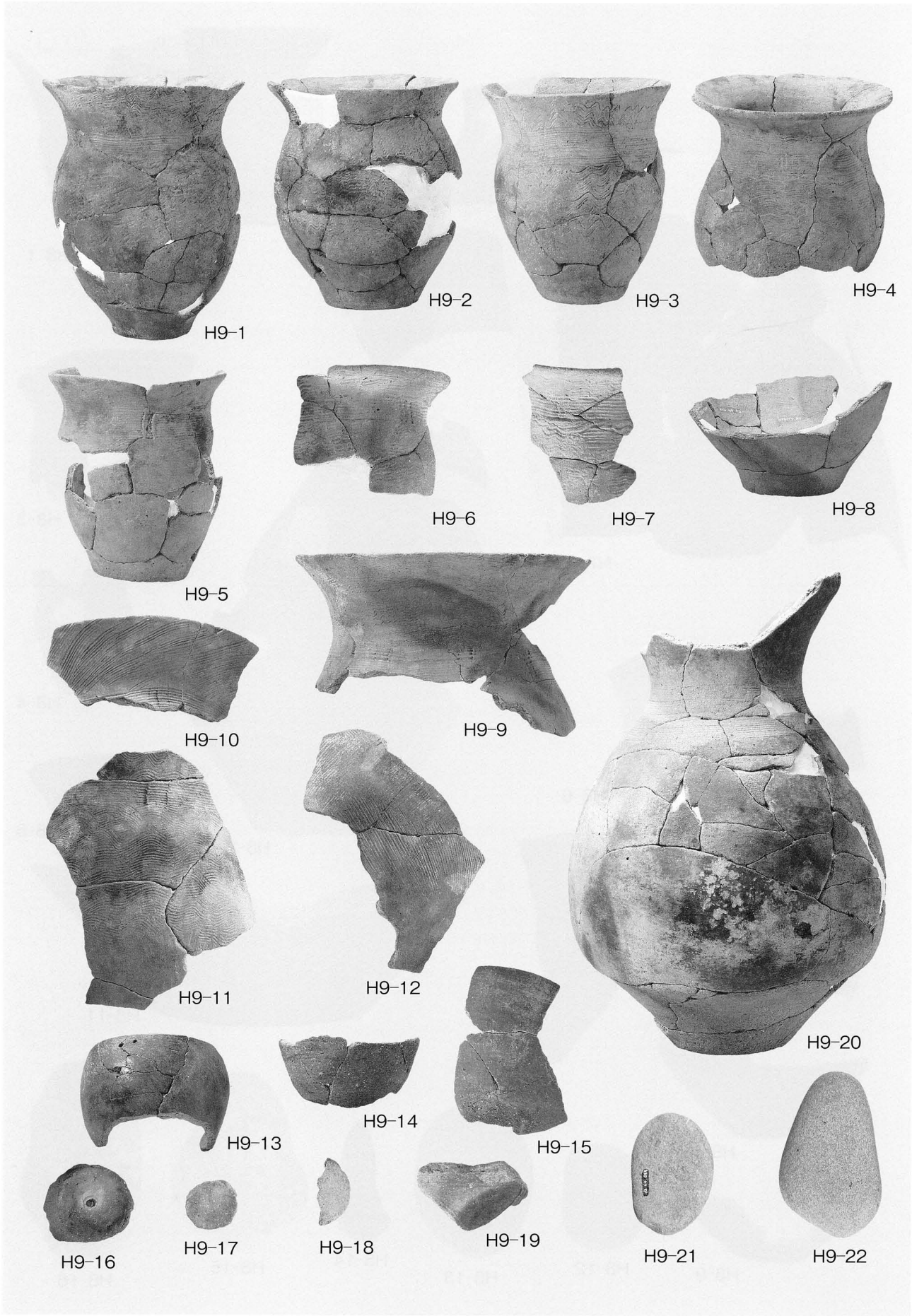
熊の堂遺跡Ｈ４・５号住居址出土遺物



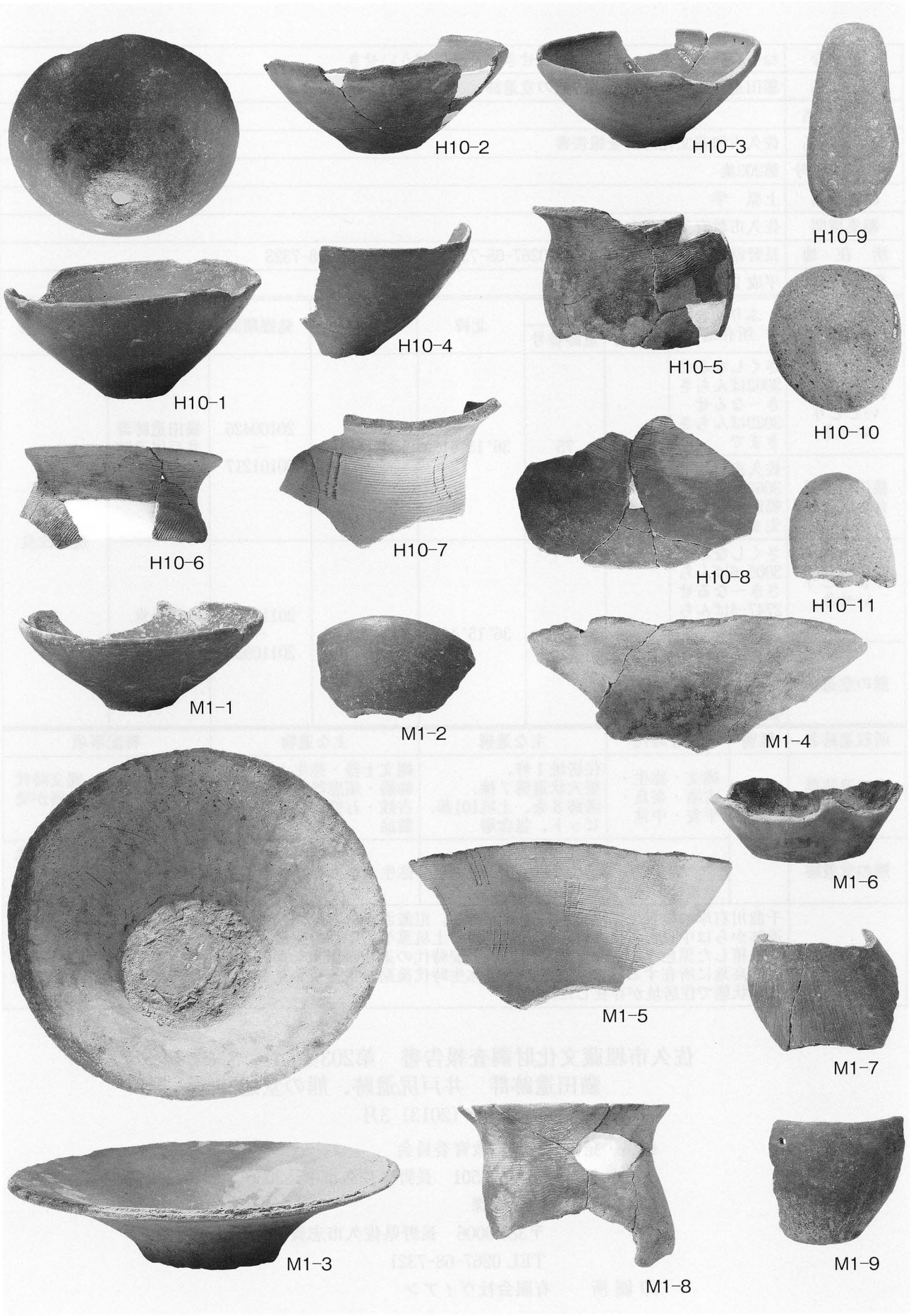
熊の堂遺跡Ｈ５・６・７号住居址出土遺物



熊の堂遺跡Ｈ７・８号住居址出土遺物



熊の堂遺跡Ｈ９号住居址出土遺物



熊の堂遺跡H10号住居址・M１号溝跡出土遺物

ふりがな	ねこたいせきぐん　いどじりいせき・くまのどういせき
書　　名	猫田遺跡群　井戸尻遺跡・熊の堂遺跡
副 書 名	—
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第203集
編著者名	上原　学
編集機関	佐久市教育委員会文化財課
所　在　地	長野県佐久市志賀5953　TEL 0267-68-7321　FAX 0267-68-7323
発行年月日	平成 25年（2013）3月

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	発掘期間	発掘面積㎡	発掘原因
ねこたいせきぐんいどじりいせき	さくしなるせ3062ばんちさき～なるせ3029ばんちさきまで	20217	75	36°15′41″	138°25′18″	20100426～20101217	猫田遺跡群井戸尻遺跡 4,955	道路改良
猫田遺跡群井戸尻遺跡	佐久市鳴瀬3062番地先～鳴瀬3029番地先まで							
くまのどういせき	さくしなるせ3005-6ばんちさき～なるせ2747-4ばんちさきまで		78	36°15′44″	138°25′27″	20110801～20110922	熊の堂遺跡 1,235	
熊の堂遺跡	佐久市鳴瀬3005-6番地先～鳴瀬2747-4番地先まで							

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
猫田遺跡群井戸尻遺跡	集落	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世	住居址１軒、竪穴状遺構７棟、溝跡８条、土坑101基、ピット、包含層	縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・陶磁器・古銭・石器・石製品・鉄製品	中世の集落跡・縄文時代～平安時代の包含層が発見された。
熊の堂遺跡		弥生	竪穴住居址10軒、土坑２基、溝跡１条、包含層	弥生土器・石器・土製品	東西方向に整然と並ぶ弥生時代後期の集落及び溝跡が発見された。

要　約	千曲川右岸の段丘上に展開する遺跡である。氾濫源となる第一段丘上に位置する猫田遺跡群井戸尻遺跡からは中世と考えられる竪穴状遺構、土坑墓等、中世の生活痕が認められ、中世面下層の谷状に堆積した黒色土中からは縄文時代～平安時代の遺物が出土した。また、一段上段の第二段丘端部の微高地に所在する熊の堂遺跡からは弥生時代後期の集落が発見され、一定の間隔を持ち、整然と並ぶ状態で住居址が存在した。

佐久市埋蔵文化財調査報告書　第203集

猫田遺跡群　井戸尻遺跡、熊の堂遺跡

平成25年（2013）3月

編集・発行　佐久市教育委員会

〒385-8501　長野県佐久市中込3056

文化財課

〒385-0006　長野県佐久市志賀5953

TEL 0267-68-7321

印 刷 所　　有限会社ヴィアン